図版番号	種別	計測値				材質	特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第127図 6	管玉	2.0	1.0	0.2	1.6	土製	円柱状，ナデ	雲母・長石 にぶい褐色	DP40002 100% PL220

図版番号	種別	計測値				材質	特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第127図 7	紡錘車	[4.2]	2.3	[0.9]	(14.3)	土製	無文，ナデ，黒色処理	砂粒・長石・赤色粒子，にぶい黄褐色	DP40003 30% PL220

第1106号住居跡（第128図）

位置　調査4区の北東部，H11c9区。

重複関係　南東部を第721号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　北部が調査区域外に位置し，南東部を第721号土坑に掘り込まれているために，全容は不明である。確認できた規模は，東西軸2.53m，南北軸2.79mだけである。南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

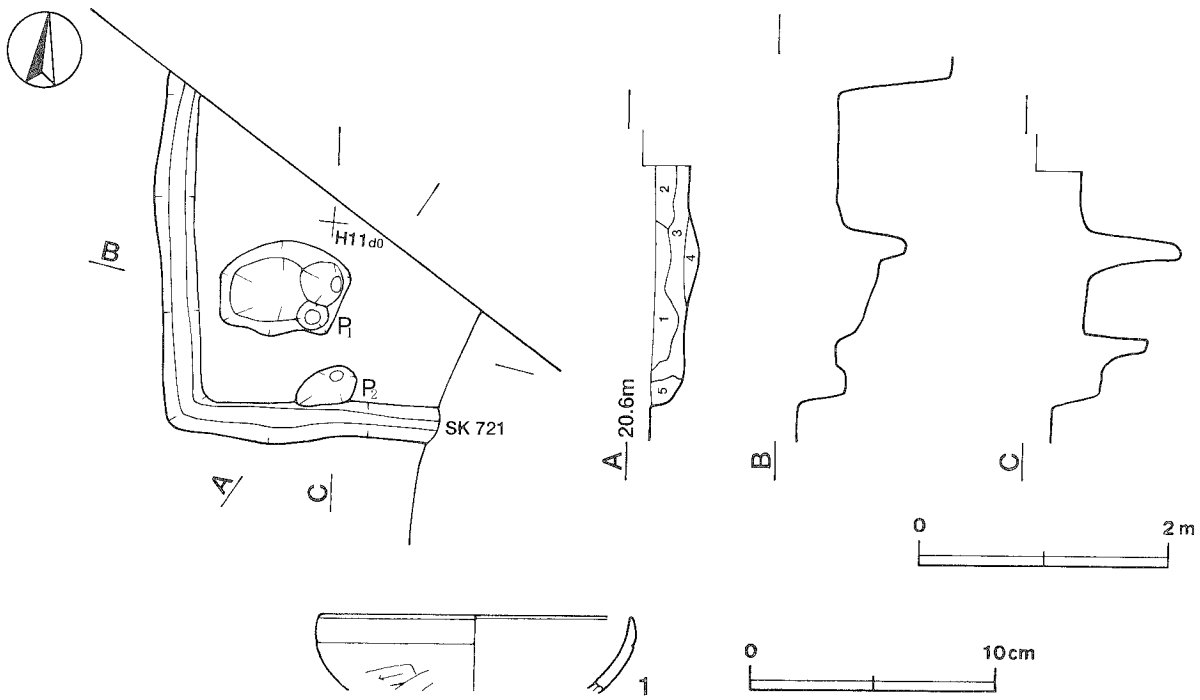
主軸方向　竈や出入り口施設が検出されなかったため，主軸方向は不明である。南壁の直交方向は，N－10°－Wを指している。

壁　壁高は23～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁際を巡っている。上幅20～23cm，下幅9～15cm，深さ10cmで，断面形は「V」である。

床　ほぼ平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

ピット　2か所（P1・P2）。P1は長径98cm，短径73cmの楕円形，深さ76cmで，南西コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P2は長径49cm，短径31cmの楕円形，深さ56cmで，P1の南側75cmの距離に位置していることから，補助柱穴と考えられる。



第128図　第1106号住居跡・出土遺物実測図

覆土　5層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片32点，須恵器片4点が出土している。第128図1の土師器坏の口縁部片は，覆土中から出土している。口縁部の形態から7世紀代に比定され，同時期の遺構と重複していないことから，本跡に伴う可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から，7世紀代と考えられる。

第1106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第128図 1	坏 土師器	A［12.6］ B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40029 5％

第1110号住居跡（第129～132図）

位置　調査4区の北東部，H11j2区。

規模と平面形　長軸6.46m，短軸6.32mの方形である。南壁中央部に，長軸1.38m，短軸1.10mの，東西に長い長方形の張り出しが付設されている。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は49～53cmで，ほぼ直立する。

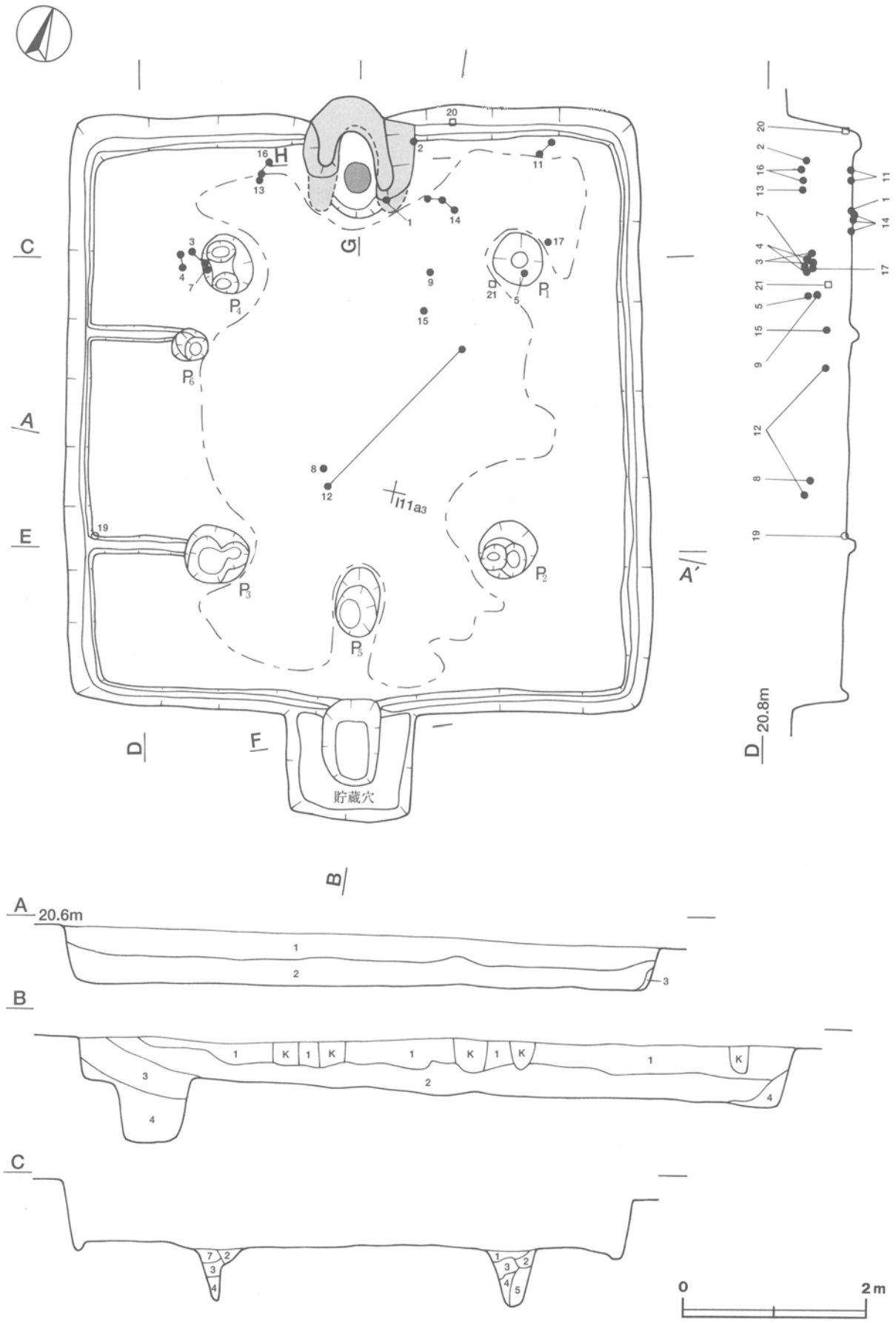
壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅12～18cm，下幅8～10cm，深さ6～8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，ピットの内側がよく踏み固められている。張り出し部の底面は平坦で，床面と同じ高さである。硬化した面は確認されなかった。また，西壁からP3にかけて，長さ98cm，上幅19cm，下幅9cm，深さ8cmの溝と，西壁からP6にかけて，長さ93cm，上幅17cm，下幅8cm，深さ7cmの溝が確認された。いずれも，断面はU字形を呈している。

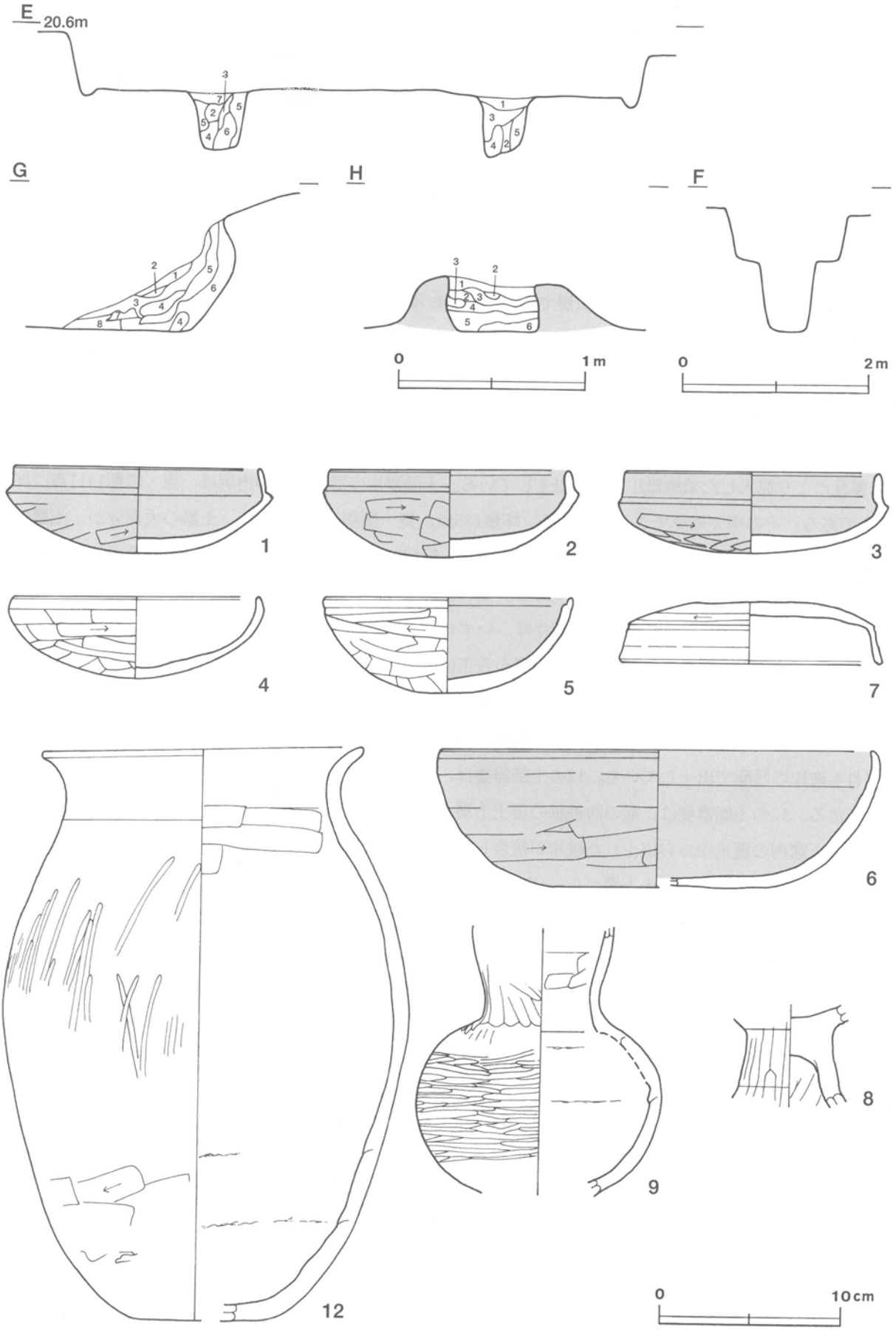
竈　北壁中央部を壁外へ22cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで96cm，両袖部幅118cmである。天井部は崩落している。上層断面では，明確に崩落土をとらえることはできなかった。袖部は良好に遺存しており，両袖とも内側が火熱を受けて赤変し，固く締まっている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受け，赤変している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
2　にぶい褐色　ローム粒子・砂粒中量
3　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量
5　暗赤褐色　焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は，径56～62cmのほぼ円形，深さ57～73cmである。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P5は，長径73cm，短径48cmの南北に長い楕円形で，深さ46cmで，張り出し部分の北側に位置している。竈と対する位置にあることから，出入り口施設に伴うピット



第129図　第1110号住居跡実測図



第130図　第1110号住居跡・出土遺物実測図（1）

と考えられる。Ｐ６は，径38cmの円形，深さ25cmで，Ｐ３とＰ４の中間に位置することから，補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子微量

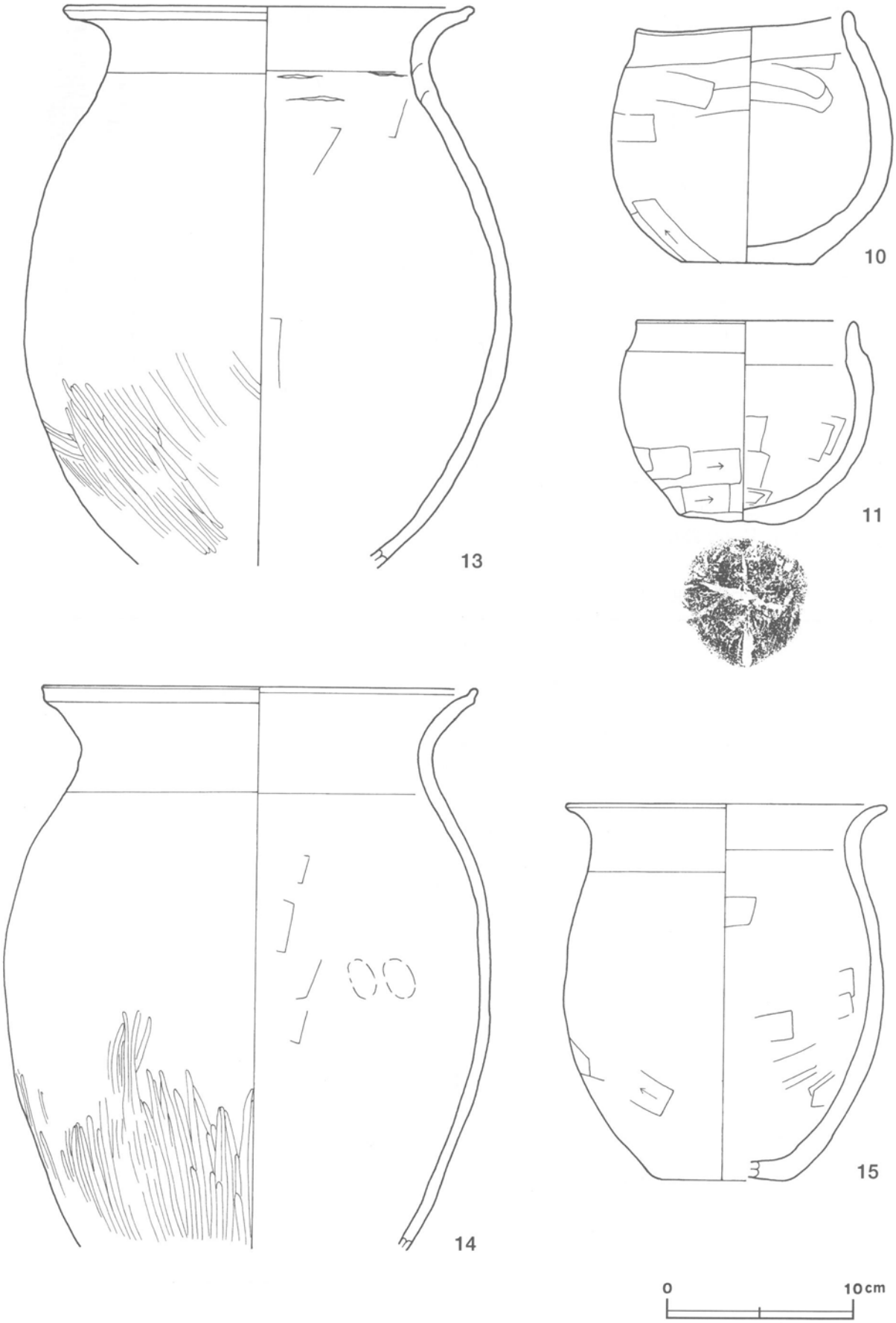
貯蔵穴　南部の張り出し部分に設けられている。長軸92cm，短軸60cmの長軸方向を住居の主軸と同じくする隅丸長方形である。深さは52cmで，壁は直立する。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。南部の張り出し部分及び貯蔵穴の覆土は，住居の覆土と連続した土層であり，同時に堆積したと考えられる。

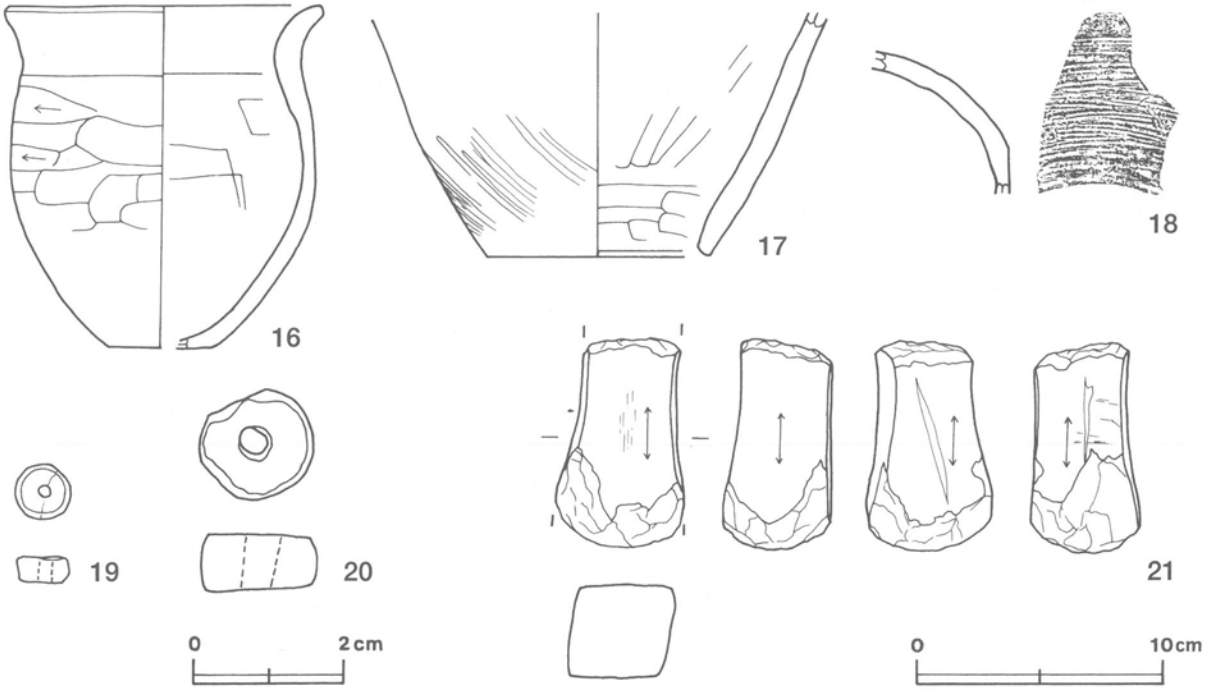
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片2030点，須恵器片２点，土製品１点（臼玉），石器・石製品２点（砥石１・臼玉１），炭化米１点，撹乱により混入した須恵器片７点が出土している。土師器片の器種ごとの内訳は，甕・甑類1411点，坏類621点である。その中で確認できた個体数は，坏類135点，甕・甑類126点であり，土器の大部分が，土層断面図中の第１層の下部である覆土中層から出土している。第130～132図１の土師器坏は，竈手前の床面と竈内の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の土師器坏は，竈の東袖脇の覆土中層から正位で出土している。３・４の土師器坏，７の須恵器坏蓋片は，いずれも北西コーナー寄りの覆土中層から破片の状態で出土している。５の土師器坏は，北東部の覆土中層から正位で出土している。６の土師器鉢は，北西部の覆土中から破片の状態で出土している。８の土師器高坏の脚部片は，中央部の覆土中層から出土している。９の土師器壺は中央部の覆土中層から，10の土師器甕は北西部の覆土中から，11の土師器甕は北東コーナー部の床面から，いずれも破片の状態で出土している。12の土師器甕は，中央部の覆土中層と上層から出土した破片が接合したものである。13の土師器甕は，竈の西袖脇の覆土上層から逆位で出土している。14の土師器甕は，竈の東袖手前の床面と竈内の覆土中から出土した破片が接合したものである。15の土師器甕は中央部の覆土中層から，16の土師器甕は竈の西袖脇の覆土上層から，17の土師器甑は北東部の覆土中層から，いずれも破片の状態で出土している。18の須恵器提瓶片は，北西部の覆土中から出土している。19の土玉は西壁際の床面から，20の臼玉は竈の東袖脇の床面から，21の砥石は北東部の覆土中層から，それぞれ出土している。炭化米は９の壺の中から検出されている。覆土中層から出土した土器と床面から出土した土器に，時期差はほとんど見られない。

所見　本跡は，南壁中央部に付設された長方形の張り出し内に貯蔵穴を有する特徴を持っており，当遺跡においては，他に類例がない。他遺跡の類例として，ひたちなか市の三反田下高井遺跡から同様の形態をもつ古墳時代中期から後期にかけての住居跡が確認されている。谷和原村の前田村遺跡からは，張り出し部分はないものの，出入り口施設に伴うピットと壁の間に貯蔵穴を有する住居跡が確認されている。また，本跡から確認された土器のほとんどは，覆土中層から破片の状態で出土している。これらの土器は，その多くが土層断面図中の第１層の下部から出土したものであることや遺物の総数，確認できる個体数が極めて多いこと，床面から出土した土器と覆土中層から出土した土器に時期差がほとんど見られないことなどから，本跡が廃絶された後，第２～４層が堆積し，まだ埋没しきっていない段階で，一括投棄された可能性が考えられる。時期は，床面から出土した土器の形状から，７世紀前半と考えられる。



第131図　第1110号住居跡出土遺物実測図（2）



第132図　第1110号住居跡出土遺物実測図（3）

第1110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第130図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色，普通	P40037 95% PL213
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P40038 90% PL214
3	坏 土師器	A 13.8 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後ナデ，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40039 90% PL213
4	坏 土師器	A 13.4 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P40040 65%
5	坏 土師器	A [13.4] B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。端部内面に沈線1条が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P40041 45%
6	鉢 土師器	A [23.6] B 7.4 C [12.8]	底部から口縁部にかけての破片。大形の坏。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐灰色 普通	P40043 40% PL215
7	坏蓋 須恵器	A 14.2 B 3.3	天井部・口縁部一部欠損。天井部はわずかに丸みを帯び，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外方に開く。	口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラ削り，内面ロクロナデ。	砂粒・長石 黄灰色 良好	P40042 70% PL213
8	高坏 土師器	B (5.4)	脚部の破片。脚部は中空で，裾部にかけてラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラナデ，内面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	P40044 20%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 9	壺 土師器	B (14.4)	底部・口縁部欠損。体部は球形を呈し，頸部で屈曲して，口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラ削り後ナデ。体部外面横位のヘラ磨き，内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P40045 80% PL214
第131図 10	甕 土師器	A 11.4 B 13.5 C 7.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色，普通	P40050 90% PL213
11	甕 土師器	A [11.8] B 10.8 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ヘラナデ，下位横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P40051 60% PL213
第130図 12	甕 土師器	A [17.2] B 31.0 C [7.2]	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ磨き，下位横位のヘラ削り，内面輪積み痕を残す横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P40046 80% PL213
第131図 13	甕 土師器	A 21.8 B (30.0)	底部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部上半ナデ，下半斜位のヘラ磨き，内面輪積み痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40047 60% PL213
14	甕 土師器	A 23.2 B (30.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き，内面指頭痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色 普通	P40048 30% PL214
15	甕 土師器	A 17.2 B 20.0 C [7.0]	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。底部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40049 70% PL214
第132図 16	甕 土師器	A 12.6 B 13.6 C 4.1	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40052 70% PL214
17	甑 土師器	B (9.7) C [8.9]	体部の破片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色，普通	P40053 30%
18	提瓶 須恵器	B (5.6)	体部の破片。体部は内彎し，背面は平坦である。	体部外面カキ目調整，内面ロクロナデ。	砂粒・長石 黄灰色，良好	P40277 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第132図19	土玉	0.7	0.4	0.2	0.2	扁平な円柱状，ナデ	赤色粒子，黒褐色	DP40004 100%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第132図20	臼玉	1.5	0.8	0.5	2.0	滑石	扁平な円柱状，剥離面無調整，灰色	Q40005 100% PL222

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第132図21	砥石	(8.4)	(5.2)	(4.4)	(269.2)	凝灰岩	両端部欠損，砥面4面。中央部が薄い。	Q40006 PL222

第1115号住居跡（第133・134図）

位置　調査4区の北東部，H11c5区。

重複関係　北部を第737号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.83m，短軸4.77mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は43～77cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡っている。上幅12～15cm，下幅４～６cm，深さ５～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁際の床面に粘土粒子や砂粒が散見されることから，第737号土坑に掘り込まれている北壁の中央部に構築されていたと推定される。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は，径40～48cmのほぼ円形，深さ53～72cmである。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は径40cmの円形，深さ35cmで，南壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
5　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

貯蔵穴　北壁際の東寄りに付設されている。長軸72cm，短軸53cmの東西に長い隅丸長方形である。深さは28cmで，断面は逆台形である。

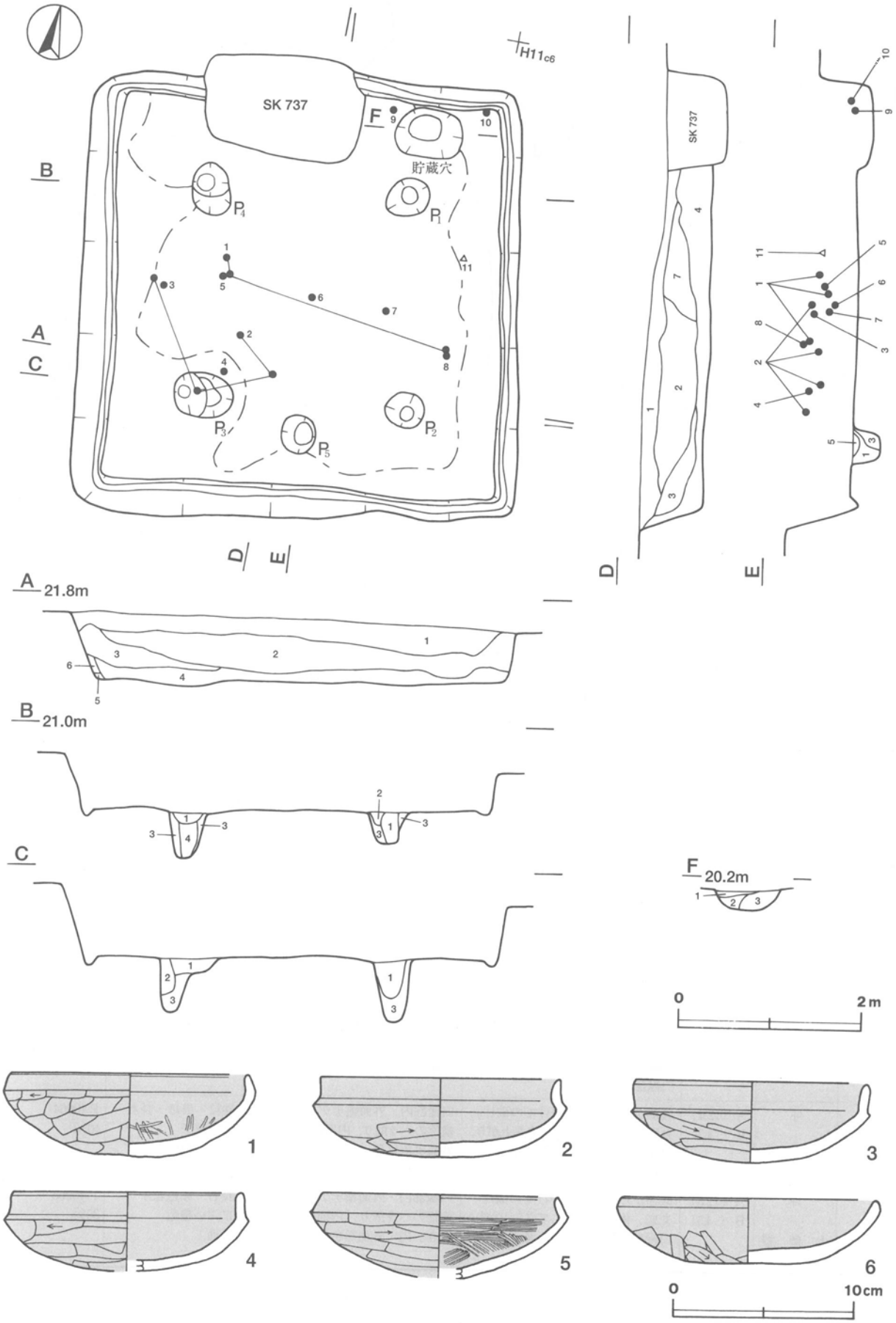
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

覆土　７層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第６層は，竈から流出したと考えられる焼土や砂粒を含んでいる。

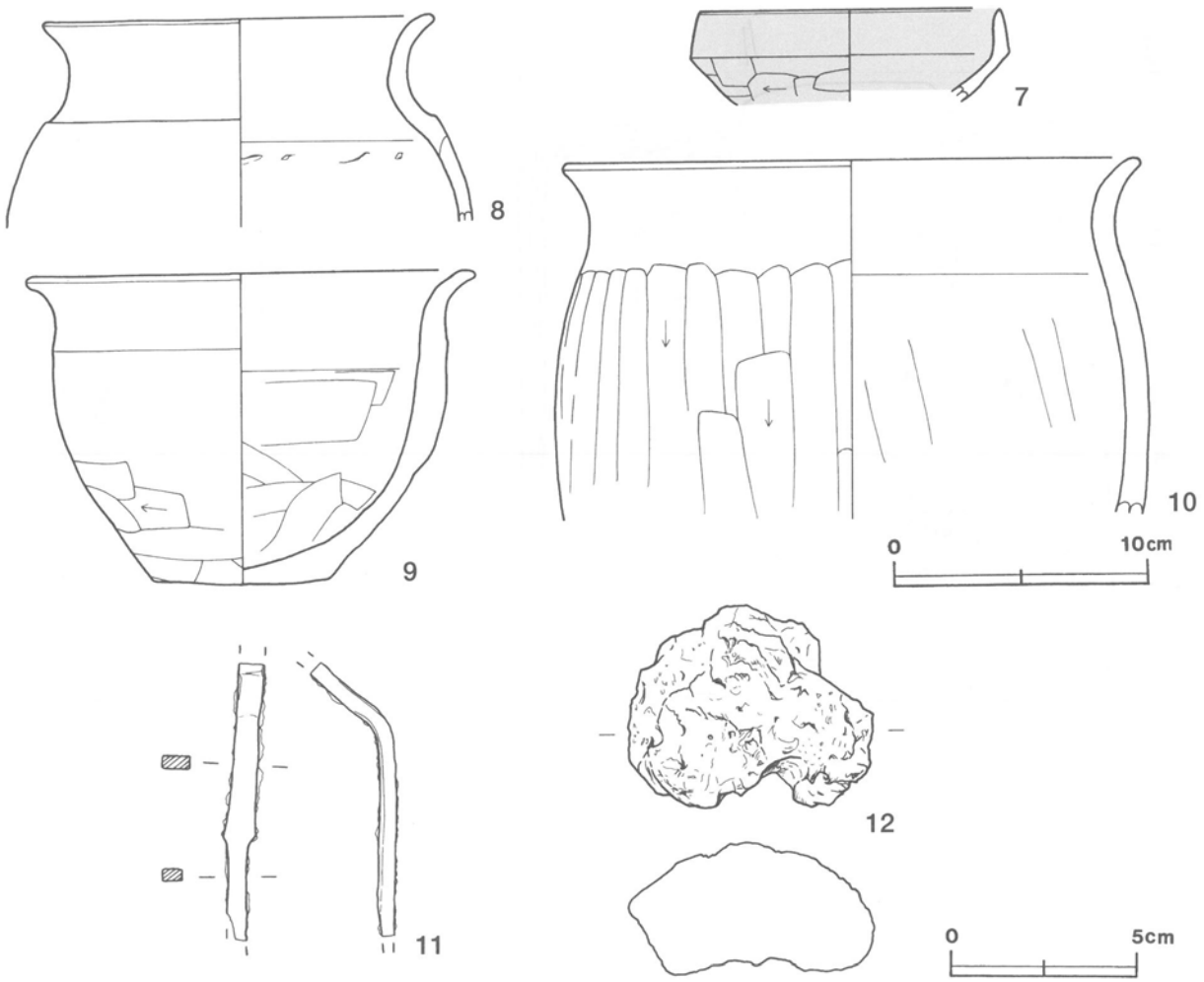
土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5　黒 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片895点，鉄器１点（鏃），鉄滓１点，撹乱により混入した須恵器片11点，陶器片１点が出土している。土師器片の内訳は，坏類263点，甕・甑類602点で，その中で確認できた個体数は，坏類95点，甕・甑類38点である。これらの土器の大部分は覆土中層及び上層から出土しており，本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。第133・134図１の土師器坏は，中央部西寄りの覆土中層と上層から出土した破片が接合したものである。２の土師器坏は，中央部の覆土上層と南部の覆土中層，南西部の覆土上層，西壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。３の土師器坏片は西部の覆土中層から，４の土師器坏片は南西部の覆土上層から，５の土師器坏片は中央部の覆土中層から，６の土師器坏片は中央部の覆土中層から，７の土師器坏片は中央部東寄りの覆土中層から，それぞれ出土している。８の土師器甕片は，東部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。９の土師器甕は，北壁際の床面から逆位で出土している。10の土師器甑片は，北東コーナー部の床面から出土している。11の鉄鏃は，東壁際の覆土中層から出土している。12の鉄滓は，覆土中から出土している。覆土中から出土した土器と床面から出土した土器に，時期差はほとんど認められない。

所見　本跡から出土した900点近くの土器片の中で，確認できた個体数は130点を超えており，１軒の住居跡から出土した個体数としては極めて多い。そのほとんどが覆土中層及び上層から破片の状態で出土しており，床面から出土した土器と時期差がほとんど見られないことから，住居廃絶後それほど時間をおかずに投棄されたと考えられる。本跡の時期は，出土土器から，６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第133図　第1115号住居跡・出土遺物実測図



第134図　第1115号住居跡出土遺物実測図

第1115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第133図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.5	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40061 90% PL215
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後ナデ，内面剥離が著しく調整不明。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40062 80% PL215
3	坏 土師器	A [12.6] B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40063 40%
4	坏 土師器	A [12.4] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40064 40%
5	坏 土師器	A [12.8] B (4.5)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横位のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40065 30%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 6	坏 土師器	A [14.0] B 3.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40066 30%
第134図 7	坏 土師器	A [12.2] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40067 10%
8	甕 土師器	A [15.8] B (8.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P40068 10% PL214
9	甕 土師器	A [18.0] B 12.5 C 7.1	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P40069 60% PL214
10	甑 土師器	A [23.2] B (14.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40070 15% PL215

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第134図11	鏃	(8.2)	(5.6)	0.6	(2.6)	0.5	0.3	(7.1)	鉄	台状関，箆被部屈曲	M40008 PL221

図版番号	器種	計測値				特徴	備考
		長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第134図12	鉄滓	6.7	5.4	3.5	189.4	表面全体に径1～2㎜の気孔が密に認められる。	M40009 PL221

第1119号住居跡（第135・136図）

位置　調査4区の北部，H10g8区。

重複関係　北部を第1056号住居に，南東部を第1144号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.84m，短軸3.68mの方形である。

主軸方向　N－19°－W

壁　壁高は40～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁際を巡っている。上幅12～16cm，下幅8～10cm，深さ8～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に，砂質粘土で構築されている。竈の北部を第1056号住居に掘り込まれているために，壁外への掘り込みや煙道部の形態は不明である。規模は，両袖部幅98cmで，焚口部から火床部まで77cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第3層が粘土粒子や砂粒を含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，両袖とも内側が火熱を受けて赤変している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は，径44～58cmのほぼ円形で，深さ40～51cmである。それぞれ，北東コーナー寄り，南西コーナー寄り，北西コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P4は

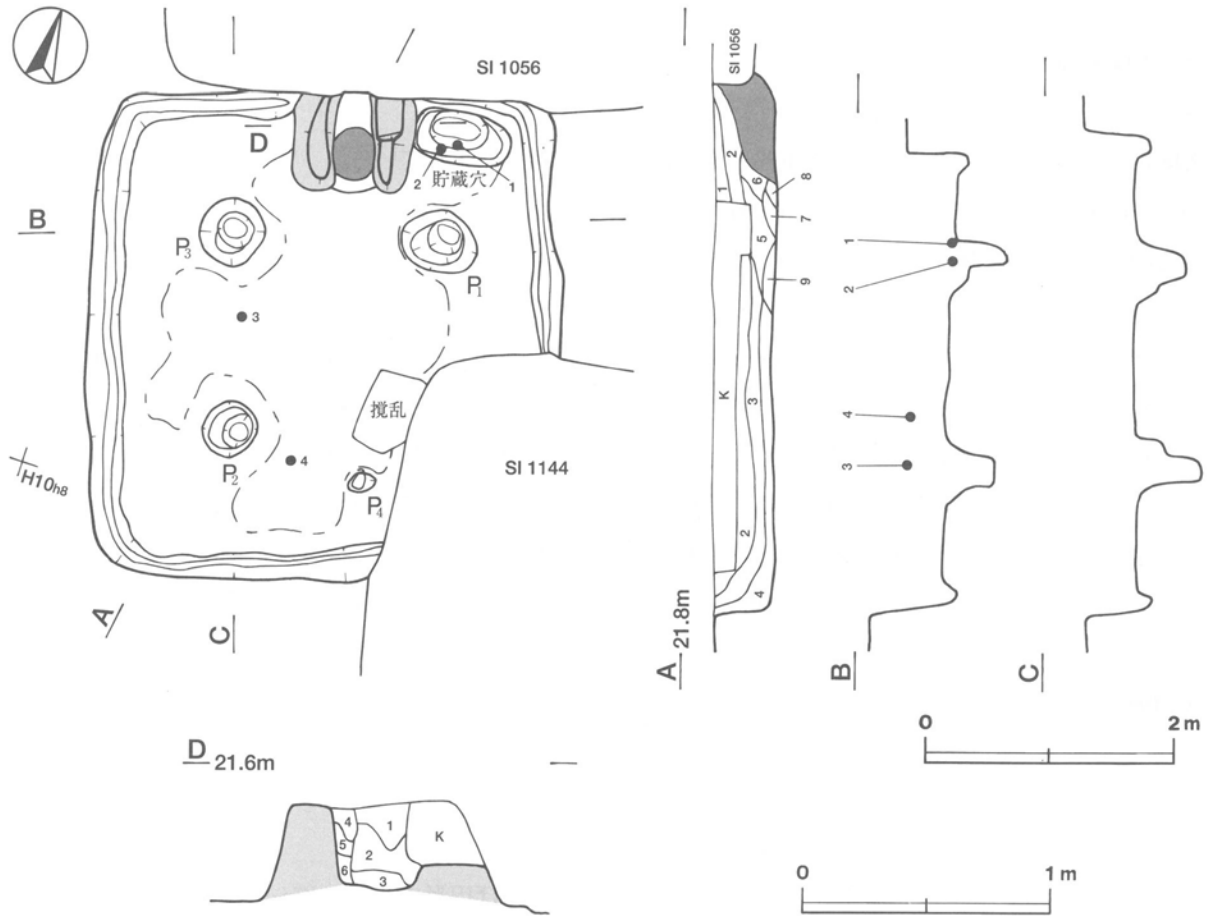
径20cmほどの円形，深さ22cmで，南壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。南東コーナー寄りに存在したと考えられる主柱穴は，第1144号住居に掘り込まれたと考えられ，確認できなかった。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長径48cm，短径29cmの東西に長い楕円形である。深さは22cmで，断面は逆台形である。

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第5～8層は，竈から流出したと考えられる焼土や砂粒を含んでいる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
5　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
7　明赤褐色　ローム粒子・砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
8　赤 褐 色　ローム粒子・砂粒多量，焼土粒子中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

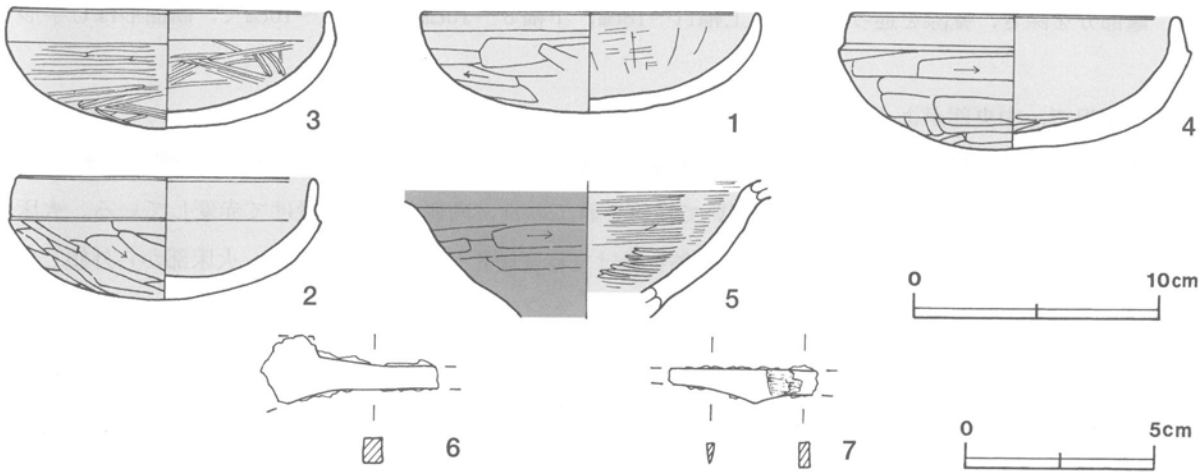
遺物　土師器片109点，鉄製品1点（鏃），撹乱により混入した須恵器片12点が出土している。第136図1と2はいずれも土師器坏で，ともに貯蔵穴内の覆土下層から正位で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。3の土師器坏は，中央部西寄りの覆土中層から正位で出土している。4の土師器坏は，南西部の覆土中層から正位で出土している。5の土師器高坏の坏部片は，北西部と北東部の覆土中から出土した破片が接合したもの



第135図　第1119号住居跡実測図

である。6の刀子は，北東部の覆土中層から出土している。これらの遺物は，出土位置から，本跡の廃絶後に投棄されたと考えられる。貯蔵穴内から出土した土器と覆土中層から出土した土器に，時期差はほとんど見られない。7の刀子は，北東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，7世紀前半と考えられる。



第136図　第1119号住居跡出土遺物実測図

第1119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横位のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40072 90% PL215
2	坏 土師器	A 11.9 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰褐色 普通	P40074 85% PL215
3	坏 土師器	A 12.9 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40071 95% PL215
4	坏 土師器	A 13.4 B 5.2	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 浅黄色 普通	P40073 85% PL215
5	高坏 土師器	B (5.4)	坏部の破片。口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り後ナデ，内面横位のヘラ磨き。外面赤彩，内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P40075 25%

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第136図6	刀子	(4.8)	(1.5)	(1.8)	0.5	(3.3)	(8.1)	鉄	刃部から茎部の破片。刃関残存。	M40010　PL221
7	刀子	(4.0)	(2.6)	(1.0)	0.2	(1.4)	(2.5)	鉄	茎部に木質付着。刃部は研ぎ減り。	M40029　PL221

第1121号住居跡（第137・138図）

位置　調査４区の北部，H10d4区。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸5.49mの長方形である。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は12～19cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅11～18cm，下幅８～10cm，深さ４～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北西壁の中央部に付設されている。壁外へ46cmほど掘り込んでおり，規模は，焚口部から煙道部まで84cm，両袖部幅123cmである。袖部は砂質粘土を用いて構築されており，内側が火熱を受けて赤変している。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかな後，急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量
4　明 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　明赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は，径60～79cmのほぼ円形で，深さ47～60cmである。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は径36cmの円形，深さ22cmで，南東壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。径74cmほどの円形で，深さは41cmである。断面は，逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

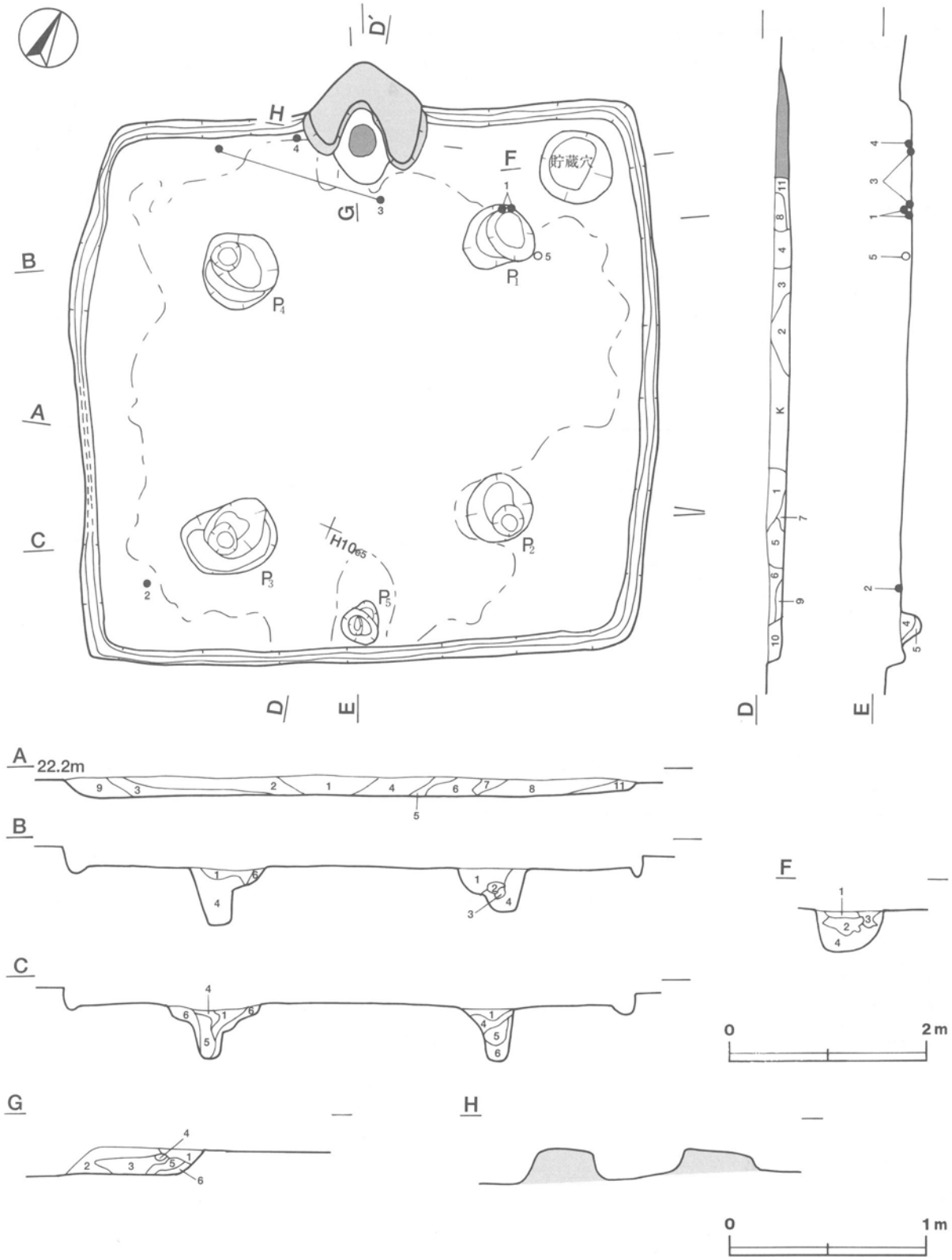
覆土　11層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
9　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

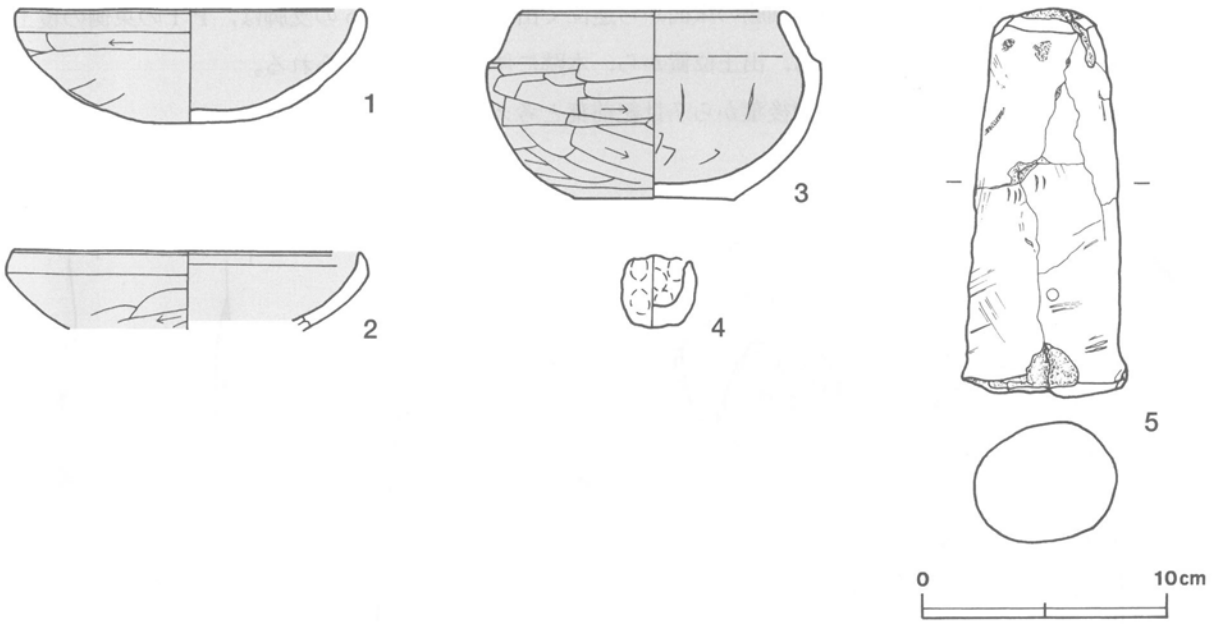
遺物　土師器片128点，土製品１点（支脚），撹乱により混入した須恵器片２点，陶器片１点が出土している。第138図１の土師器坏は，Ｐ１の北側の床面から出土した破片２点が接合したものである。２の土師器坏片は，南コーナー部の床面から出土している。３の土師器椀は，北西壁際と竈手前の床面から出土した破片が接合し

たものである。4の手捏土器は，竈西袖脇の床面から逆位で出土している。5の支脚は，P 1の東側の覆土下層から横位で出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第137図　第1121号住居跡実測図



第138図　第1121号住居跡出土遺物実測図

第1121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第138図 1	坏 土師器	A［13.8］ B　4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40079 25%
2	坏 土師器	A［14.0］ B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P40080 5%
3	椀 土師器	A［10.6］ B　7.4 C　6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 灰黄褐色 普通	P40081 50% PL215
4	手捏土器 土師器	A［2.7］ B　2.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面指ナデ。	雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40082 60%

図版番号	器　種	計測値			特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第138図5	支　脚	15.4	6.6	(452.2)	裾部がわずかに広がる円柱状，ナデ	砂粒・長石・石英，にぶい橙色	DP40005　90%　PL220

第1122号住居跡（第139～141図）

位置　調査4区の北部，H10c6区。

重複関係　北西部を第1116号住居に，北東部を第1123・1125号住居に，東部を第1124号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.70m，短軸8.34mの方形である。

主軸方向　N－6°－E

壁　壁高は28～42cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅16～18cm，下幅7～9cm，深さ6～16cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，全体がよく踏み固められている。また，ピットと壁をつなぐように溝４条が付設されている。Ｐ２から東壁にかけて１条，Ｐ３から西壁にかけて１条，Ｐ４から西壁にかけて１条，Ｐ８から西壁にかけて１条が走っている。規模は，長さ132～158cm，上幅23～30cm，下幅９～15cm，深さ10～14cmで，断面形はＵ字形である。

竈　北壁の中央部を壁外に32cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで138cm，両袖部幅118cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第７層が砂粒や粘土粒子を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，両袖部とも内側が赤変している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2	暗 赤 褐 色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
4	褐　　色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
5	褐　　色	ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量
7	灰　褐　色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
8	暗 赤 褐 色	焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
9	褐　　色	ローム粒子多量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
10	褐　　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
11	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
12	極 暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
13	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　９か所（Ｐ１～Ｐ９）。Ｐ１～Ｐ４は，径50～73cmのほぼ円形，深さ42～80cmである。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は径41cmの円形，深さ34cmで，Ｐ６は径48cmの円形，深さ32cmである。いずれも南壁中央部の壁際に位置し，竈に対して一直線上に並ぶことから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ９は，径47～59cmのほぼ円形，深さ28～34cmである。それぞれ，Ｐ２とＰ３，Ｐ３とＰ４，Ｐ４とＰ１の中間に位置することから，補助柱穴と考えられる。

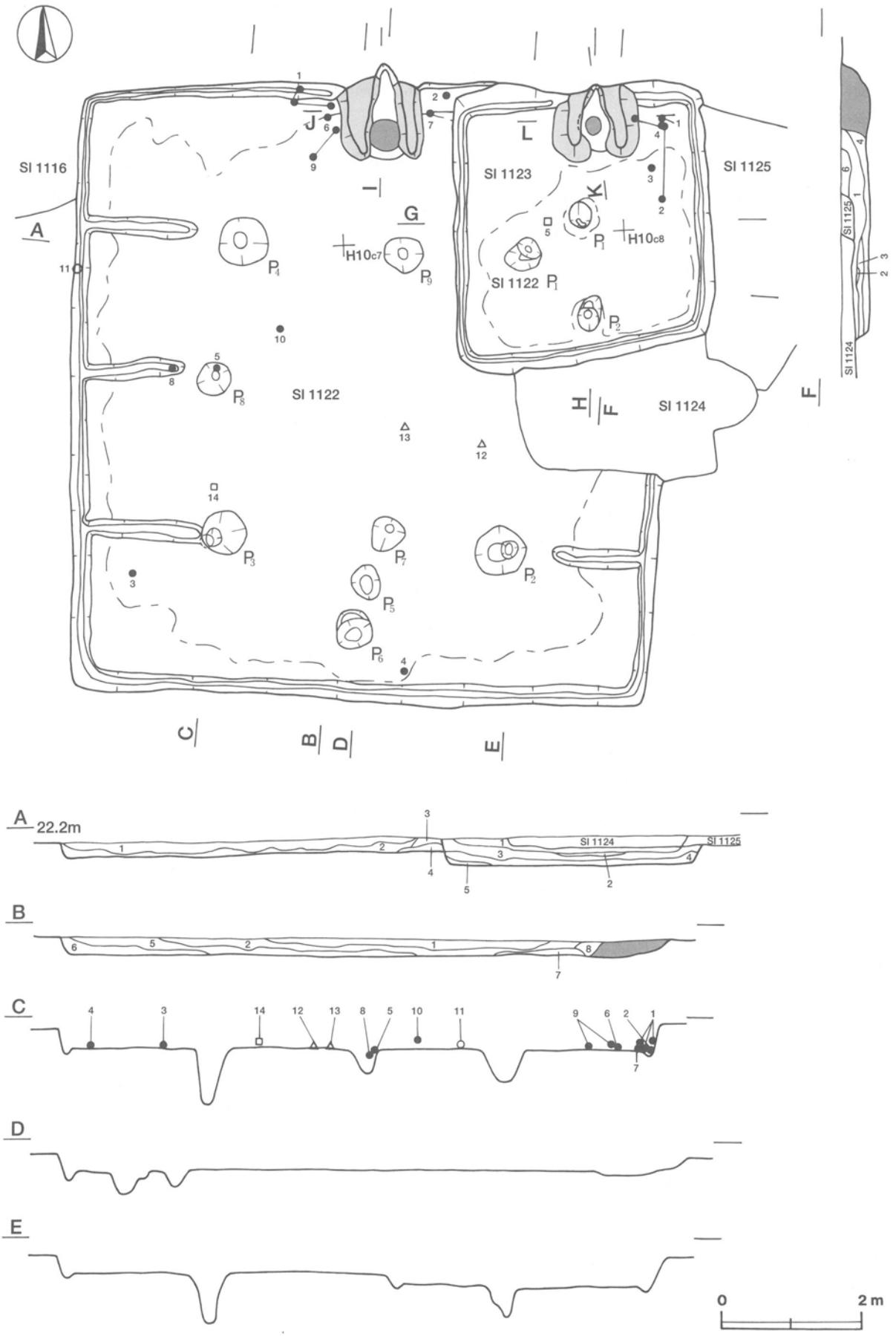
覆土　８層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

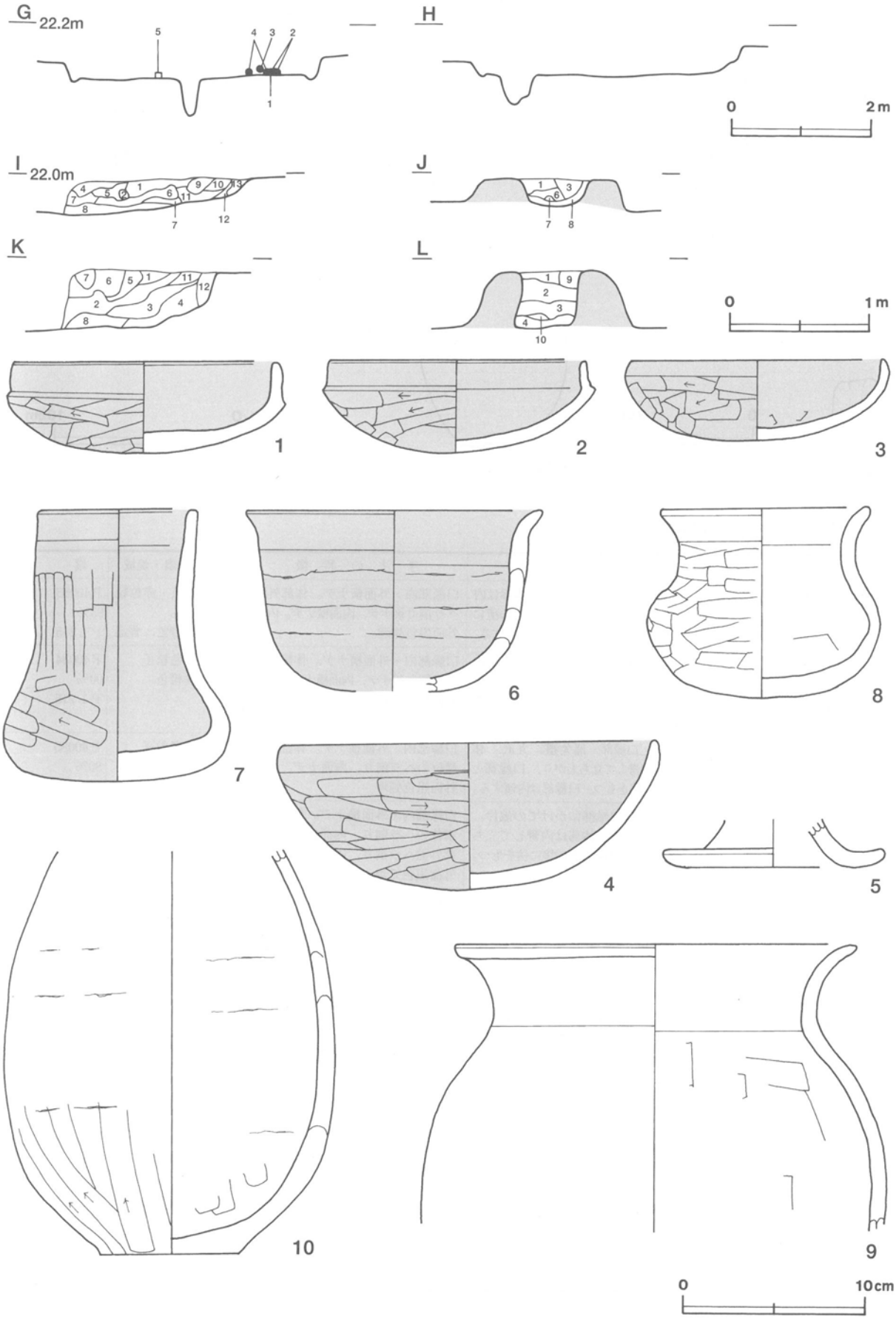
1	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
8	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片457点，土製品１点（臼玉），磨石１点，鉄器２点（鏃），撹乱により混入した須恵器片８点が出土している。図示した遺物は，いずれも出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。第140・141図１の土師器坏は，竈西袖脇の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。２の土師器坏は，竈東袖脇の床面から二つに割れた状態で出土している。３の土師器坏は，南西コーナー部の床面から正位で出土している。４の土師器大形坏は，南壁際の床面から逆位で出土している。５の土師器高坏の脚部片は，Ｐ７内の覆土上層から出土している。６の土師器鉢は，竈西袖脇の床面から正位で出土している。７の土師器壺は竈東袖脇の床面から正位で，８の土師器壺はＰ８と西壁を結ぶ溝の覆土中から斜位で出土している。９の土師器甕は，竈西袖脇の床面と竈内の覆土中から出土した破片が接合したものである。10の土師器甕片は，中央部西寄りの覆土下層から出土している。11の土玉は西壁際の壁溝内から，12の不明鉄製品は中央部東寄りの床面から，13の不明鉄製品は中央部の床面から，14の磨石はＰ３の北側の覆土下層からそれぞれ出土している。

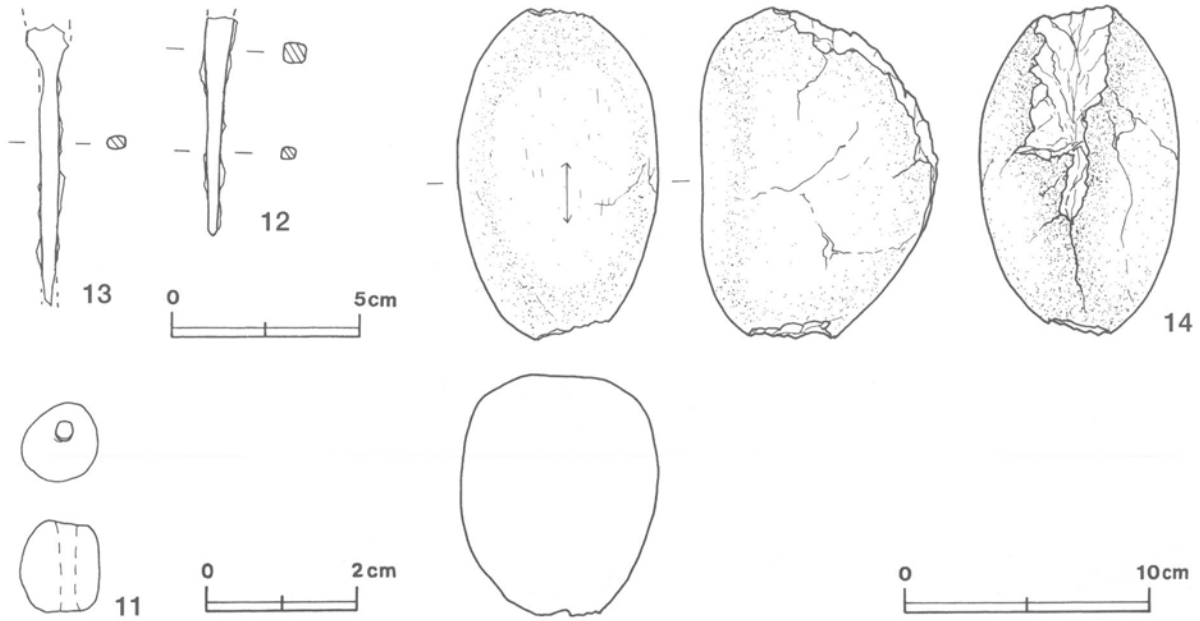
所見　時期は，出土土器から，６世紀後半と考えられる。



第139図　第1122・1123号住居跡実測図



第140図　第1122・1123号住居跡実測図，第1122号住居跡出土遺物実測図



第141図　第1122号住居跡出土遺物実測図

第1122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第140図 1	坏 土師器	A 14.2 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40083 95% PL215
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40084 90% PL215
3	坏 土師器	A 13.8 B 4.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40085 80% PL215
4	坏 土師器	A [20.2] B 7.7	底部から口縁部にかけての破片。大形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。底部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰褐色 普通	P80087 50% PL216
5	高坏 土師器	B (2.5) D [12.2]	脚部の破片。脚部は中空で，ラッパ状に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色，普通	P80086 20%
6	鉢 土師器	A 15.9 B 9.7 C [7.3]	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残すナデ，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P40088 70% PL215
7	壺 土師器	A 8.4 B 14.5 C 11.3	体部一部欠損。平底。体部はフラスコ状を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は長く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ，内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40089 90% PL215
8	壺 土師器	A 11.2 B 10.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は扁平な球体で，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40090 90% PL215
9	甕 土師器	A [21.8] B (15.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40091 20% PL215
10	甕 土師器	B (21.7) C 7.5	底部から体部にかけての破片。平底。体部は長胴形を呈し，下位に最大径をもつ。	体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ。内・外面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P40092 30% PL215

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第141図11	土玉	1.0	1.2	0.2	1.2	やや扁平な球体，ナデ。	雲母・長石・赤色粒子，にぶい黄褐色	DP40006 100%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第141図12	不明	(5.7)	0.8	0.6	(4.2)	鉄	一方が細る棒状，鏃の箆被部から茎部片か。	M40011 PL221
13	不明	(7.5)	0.4	0.4	(6.0)	鉄	一端に関と考えられる突出有り。鏃の茎部片か。	M40012 PL221

図版番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第141図14	磨石	(13.1)	9.3	7.9	(1310.5)		炭化物付着，両端部欠損。	Q40012

第1123号住居跡（第139・140・142図）

位置　調査4区の北部，H10b7区。

重複関係　西部で第1122号住居跡を掘り込んでいる。南部を第1124号住居に，東部を第1125号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.70mの方形である。

主軸方向　N－4°－E

壁　壁高は18～24cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅10～14cm，下幅6～8cm，深さ4～8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に，砂質粘土で構築されている。壁外への掘り込みはない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ98cm，両袖部幅104cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第2層と第3層が砂粒や粘土粒子を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。特に，第2層の下部から検出された第3層は，火熱を受けて赤変していることから，天井部の内側の部分と考えられる。袖部は良好に遺存しており，両袖部とも内側が赤変している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに，その後垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
6　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
10　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
11　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
12　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

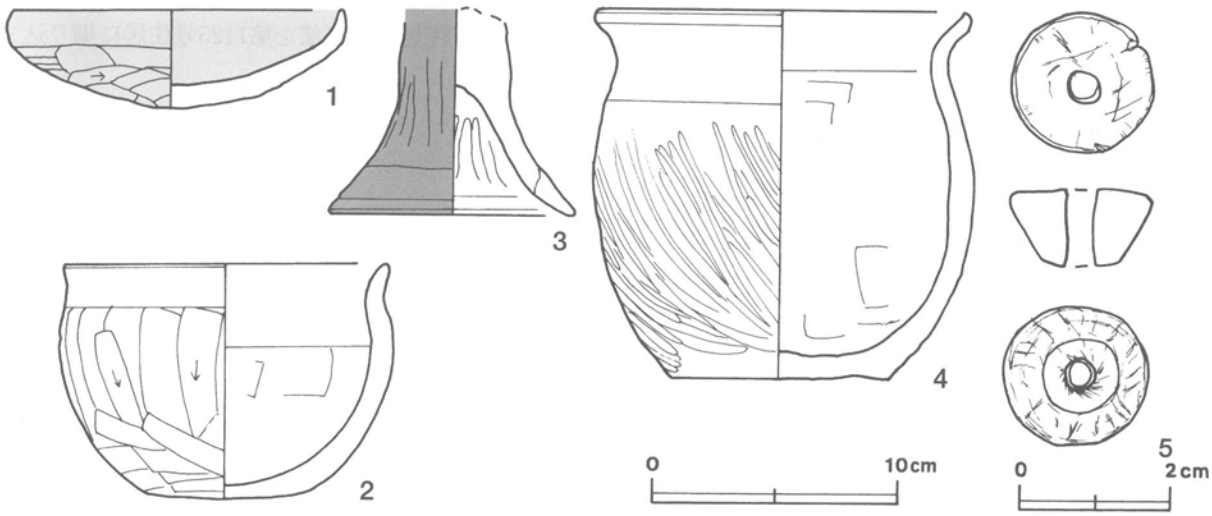
ピット　2か所（P1・P2）。P1は，径33cmのほぼ円形，深さ56cmで，住居のほぼ中央に位置している。規模から，主柱穴の可能性がある。P2は，長径50cm，短径33cmの楕円形，深さ45cmで，南壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物　土師器片245点，石製品1点（紡錘車），撹乱により混入した須恵器片31点，陶器片1点が出土している。図示した遺物は，出土位置から，いずれも本跡に伴うものと考えられる。第144図1の土師器坏は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。2の土師器椀は，北東コーナー部の床面と東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の土師器高坏の脚部片は，北東コーナー寄りの覆土下層から出土している。4の土師器甕は，竈東袖脇の床面と北東部の床面から出土した破片が接合したものである。5の紡錘車は，中央部の床面から出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第142図　第1123号住居跡出土遺物実測図

第1123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	坏 土師器	A 13.2 B 3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P40093 75% PL215
2	椀 土師器	A 12.8 B 9.3 C [6.9]	底部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，下端横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40094 50%
3	高坏 土師器	B (8.3) D [9.4]	脚部の破片。脚部は中空で，ラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ，内面ヘラ削り後ナデ。端部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40095 20%
4	甕 土師器	A 14.4 B 14.5 C 8.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色，普通	P40096 90% PL216

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第142図5	紡錘車	3.8	2.0	0.8	36.9	ホルンフェルス	側面に縦位の線刻20条	Q40007　PL222

第1133号住居跡（第143・144図）

位置　調査４区の北部，H10f9区。

重複関係　北部を第1130号住居に，南部を第1134号住居に，東部を第1141号住居に，南西部を第58号掘立柱建物のＰ８に，南西コーナー部を第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　南部を第1134号住居に掘り込まれているために，全容は不明である。東西軸は3.34mで，南北軸は1.94mだけが確認できた。北西コーナー及び北東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は25～35cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，確認された壁際を巡っている。上幅16～18cm，下幅６～８cm，深さ６～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に25cmほど掘り込んで，白色粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで97cm，両袖部幅108cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第３層と第５層が粘土粒子を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。特に，第３層の下部から確認された第５層は火熱を受けた痕跡があり，天井部の内側の部分と考えられる。袖部は良好に遺存しており，西袖は床面と同じ高さの地山面に白色粘土を用いて構築され，東袖は床面から20cmほど掘りくぼめられた部分に，ローム土と白色粘土を用いて床面と同じ高さまで充填した後，白色粘土を用いて構築されている。土層断面図中の第８層が，充填した部分の土層である。火床面は，床面から18cmほど掘りくぼめられて，皿状を呈している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。袖部の内側，火床面，煙道口部は，火熱を受けて赤変し，固くしまっている。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	暗　褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
3	灰　褐　色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4	褐　灰　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
5	灰　赤　色	粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
8	暗　褐　色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

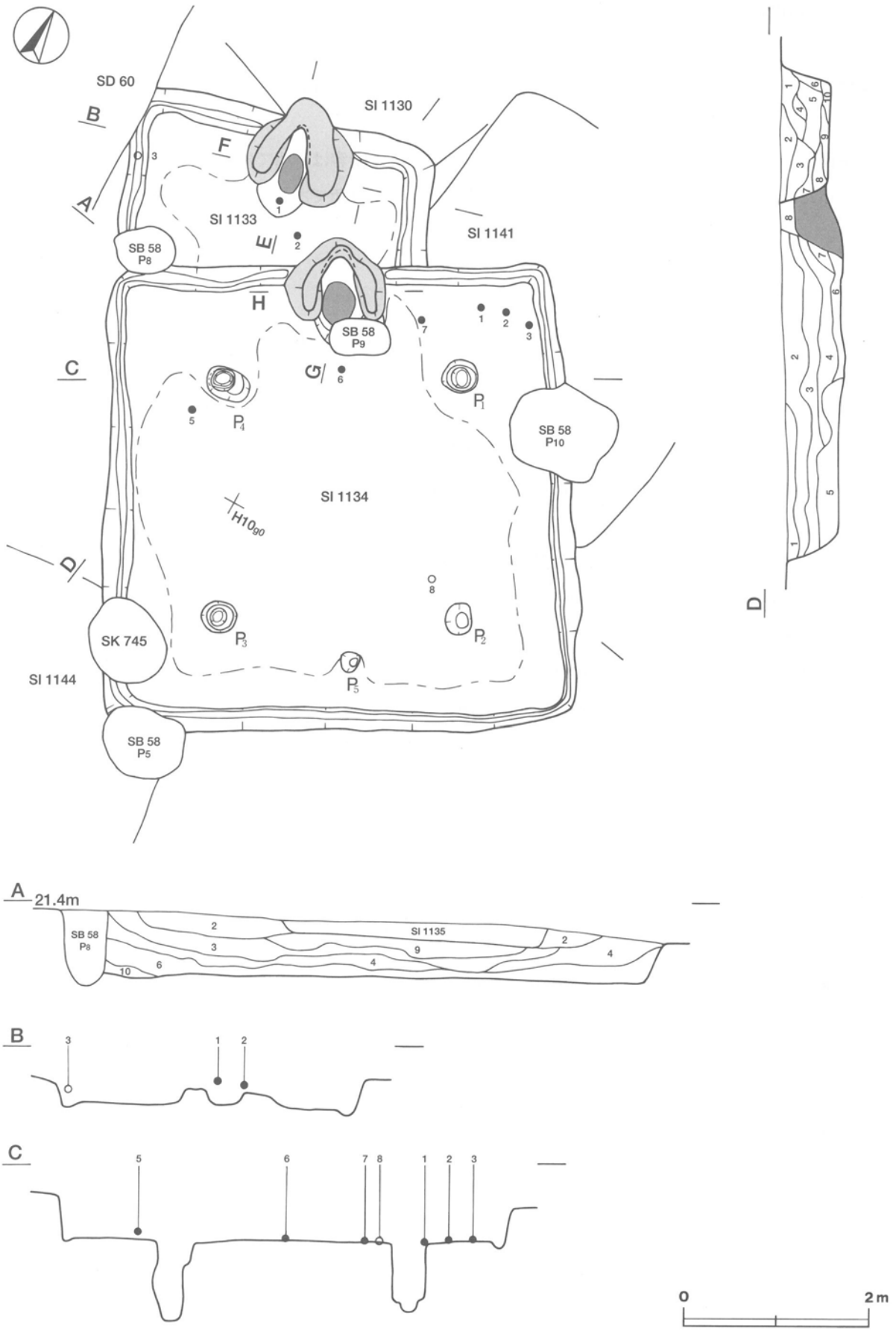
覆土　10層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

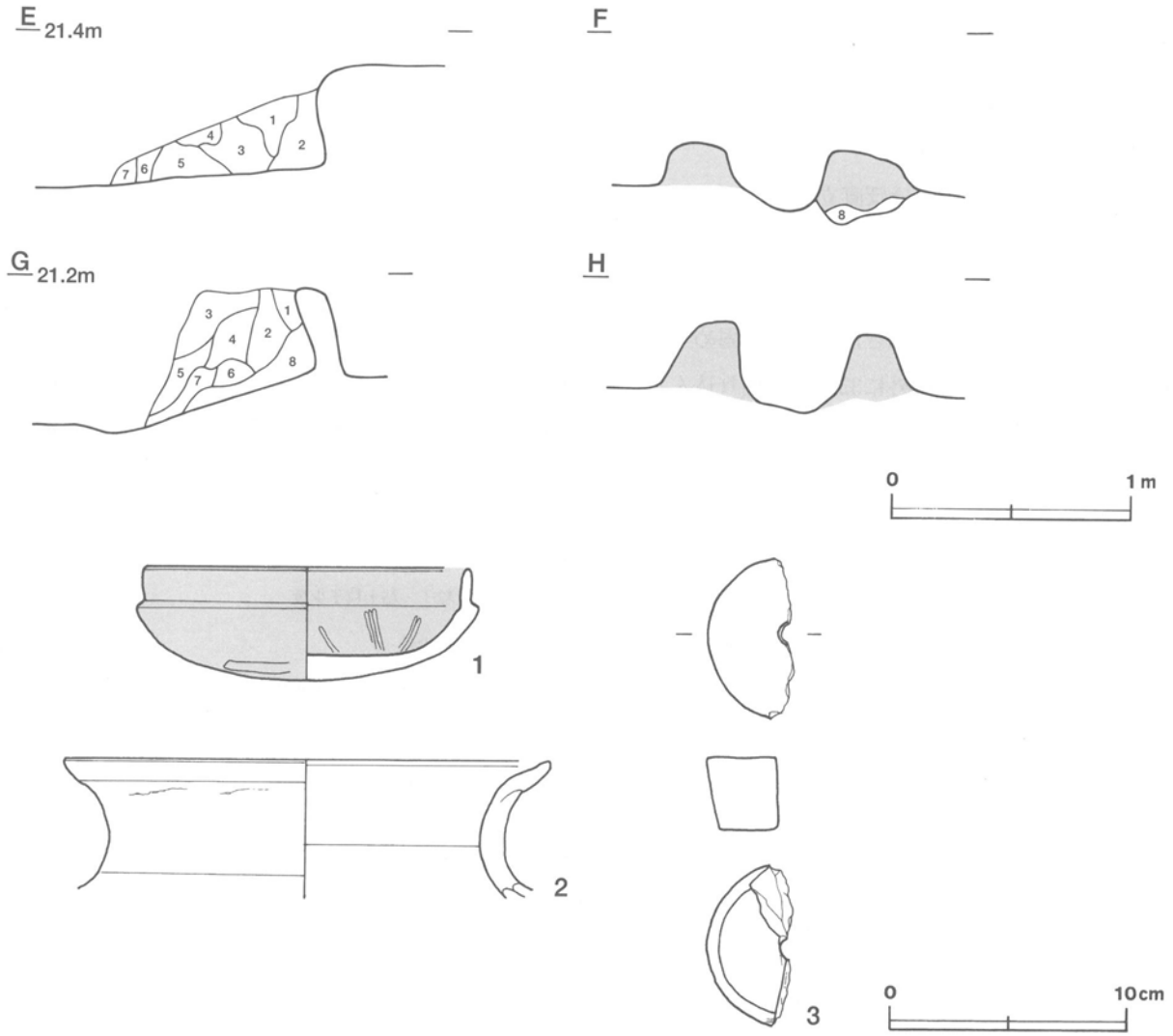
1	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
3	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
5	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6	褐　　色	ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
7	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
8	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片109点，土製品１点（紡錘車），撹乱により混入した須恵器片７点，陶器片１点が出土している。第144図１の土師器坏片は，竈の覆土上層から出土している。２の土師器甕片は，竈手前の覆土中層から出土している。３の紡錘車は，西壁際の覆土上層から出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，６世紀後半と考えられる。



第143図　第1133・1134号住居跡実測図



第144図　第1133・1134号住居跡実測図，第1133号住居跡出土遺物実測図

第1133号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第144図 1	坏 土師器	A［13.4］ B　4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ，一部ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40115 40% PL216
2	甕 土師器	A［20.2］ B（5.7）	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40116 5%

図版番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	胎土・色調	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第144図3	紡錘車	［6.6］	3.1	［0.8］	(73.5)	土製	無文，丁寧なナデ	長石・石英，橙色	DP40007 40% PL220

第1134号住居跡（第143～145図）

位置　調査4区の北部，H10f0区。

重複関係　北西部で第1133号住居跡を掘り込んでいる。中央部を第1135号住居に，北部を第1141号住居に，南

部を第1144号住居，第745号土坑，第58号掘立柱建物のＰ５に，北部を第58号掘立柱建物のＰ８～Ｐ10に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.98m，短軸4.89mの方形である。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は18～59cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅12～16cm，下幅６～10cm，深さ５～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　北西壁の中央部を壁外に32cmほど掘り込んで，白色粘土と砂粒で構築されている。焚口部を第58号掘立柱建物に掘り込まれているために，全容は不明である。規模は，火床部から煙道部までの長さ69cm，両袖部幅102cmである。火床面は，床面から10cmほど掘りくぼめられ，浅い皿状を呈している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。袖部の内側，火床面，煙道は，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
2	褐色	ローム粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
3	極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4	暗褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
6	褐色	ローム粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は，径30～38cmのほぼ円形，深さ79～99cmで，いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は，径22cmの円形，深さ32cmで，南東壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

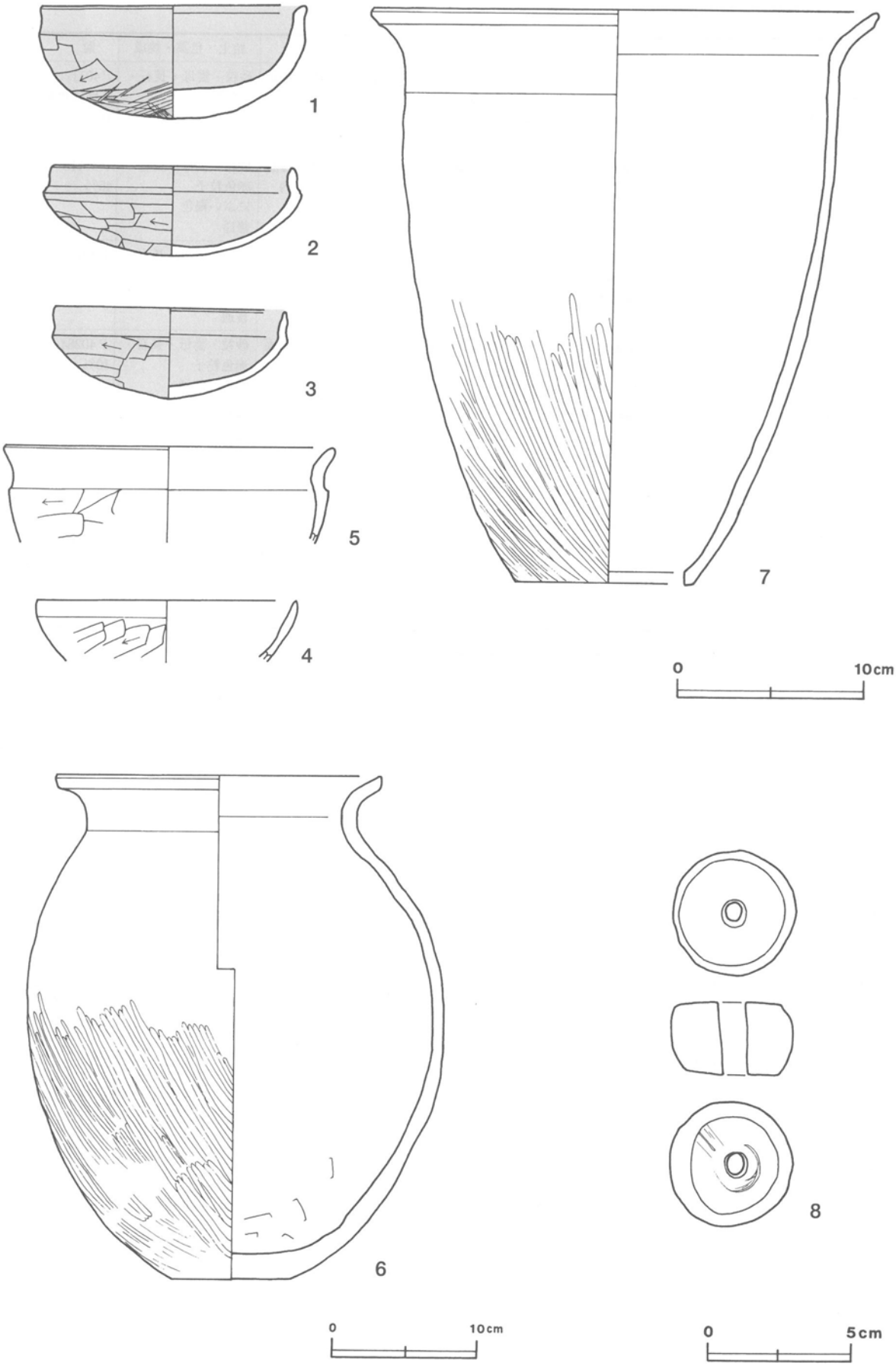
覆土　10層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片241点，土製品１点（紡錘車），撹乱により混入した須恵器片36点が出土している。第145図１と２の土師器坏は，いずれも北コーナー寄りの床面から逆位で出土している。３の土師器坏は，北コーナー部の床面から逆位で出土している。４の土師器坏片は，覆土中から出土している。５の土師器鉢片は，北西部の覆土下層から出土している。６の土師器甕は竈手前の床面から土圧でつぶれた状態で，７の土師器甑は竈の北東袖脇の床面から破片の状態で出土している。８の土製紡錘車は，中央部東寄りの床面から出土している。４は他の土器と時期差がないことから，それ以外の遺物は出土位置から，いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見　本跡及び本跡と重複関係にある第1133号住居跡の竈は，白色粘土を用いて構築されている。付近から，同じような竈材を使用した住居跡は，確認されていない。時期は，重複関係及び出土土器から，７世紀前半と考えられる。



第145図　第1134号住居跡出土遺物実測図

第1134号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P40117，75% 底部に数条の線刻有り，砥石に転用ヵ
2	坏 土師器	A [12.6] B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P40118 45%
3	坏 土師器	A [12.2] B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40119 35%
4	坏 土師器	A [13.7] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40284 10%
5	鉢 土師器	A [17.2] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 赤褐色 普通	P40269 5%
6	甕 土師器	A [22.8] B 34.8 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，中位以下縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40120 70% PL216
7	甑 土師器	A 26.6 B 29.8 C 9.4	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ，下半縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40121 50% PL216

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第145図 8	紡錘車	4.3	2.5	0.9	56.8	土製	無文。ヘラナデ。側面が膨らむ円板状。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい黄褐色	DP40008 100% PL220

第1139号住居跡（第146・147図）

位置　調査4区の北部，H10h5区。

重複関係　北西部を第1131号住居に，北東部を第1136号住居・第726号土坑に，北部を第1138号住居に，南西部を第725・745号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.50m，短軸8.40mの方形である。

主軸方向　N－7°－W

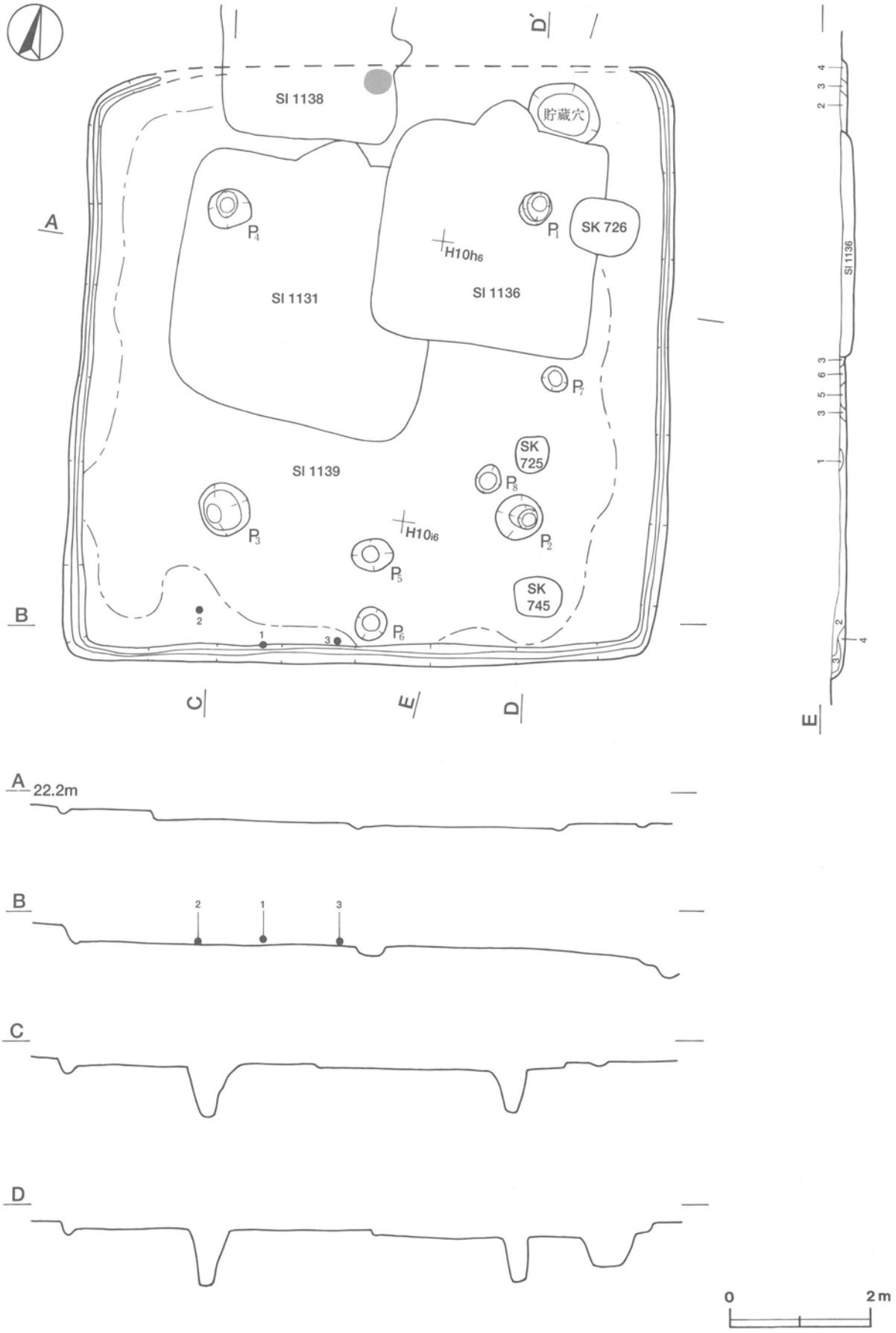
壁　壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅14～18cm，下幅8～10cm，深さ6～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　遺存状態が悪く，北壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。付近の床面に粘土粒子や砂粒が散在していることから，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は，径40cmほどの円形で，床面と同じ高さの平坦面を使用している。

ピット　8か所（P1～P8）。P1～P4は，径48～58cmの円形で，深さ68～84cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。P5は長径60cm，短径47cmの楕円形，深さ25cmで，P6は径46cmの円形，深さ20cmである。いずれも南壁中央部の壁際に位置し，住居の主軸と同じ方向に並ぶこ



第146図　第1139号住居跡実測図

とから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７は，径34cmの円形，深さ46cmで，Ｐ１とＰ２のほぼ中間に位置していることから，補助柱穴と考えられる。Ｐ８は，径40cmの円形，深さ23cmで，Ｐ２の北西側20cmの距離に位置しており，性格は不明である。

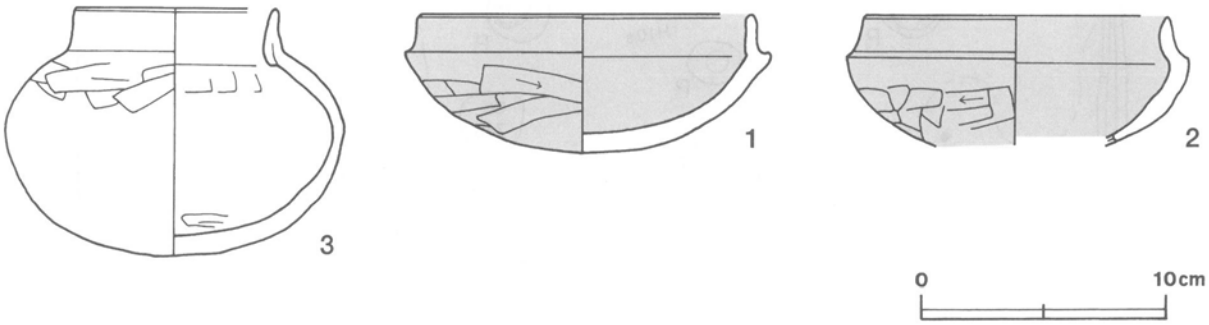
貯蔵穴　竈と東壁の間で確認された。長径101cm，短径84cmの楕円形で，深さ49cmである。

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片51点，撹乱により混入した須恵器片２点，陶器片２点が出土している。第147図１の土師器坏は，南壁際の壁溝から正位で出土している。２の土師器坏は，南西コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。３の土師器壺は，南壁際中央の床面から正位で出土している。

所見　時期は，住居の形態や出土土器から，６世紀後半と考えられる。



第147図　第1139号住居跡出土遺物実測図

第1139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第147図 1	坏 土師器	A　13.3 B　5.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40133 90% ＰＬ216
2	坏 土師器	A［12.2］ B（5.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40134 60%
3	壺 土師器	A［8.1］ B　9.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部はやや扁平な球形を呈し，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40135 50% ＰＬ216

第1144号住居跡（第148～150図）

位置　調査４区の北部，H10h9区。

重複関係　北西部で第1119号住居跡を，北東部で第1134号住居跡を掘り込んでいる。北東部を第58号掘立柱建物に，北東部の覆土を第1135号住居に，南西部を第1140・1142号住居，第747号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.05m，短軸5.70mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は28～72cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅14～20cm，下幅８～12cm，深さ６～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に22cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ118cm，両袖部幅106cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第３層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，内側が火熱を受けて赤変している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　灰 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　灰 褐 色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
9　黒 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量

ピット　８か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１は長径78cm，短径59cmの楕円形，深さ67cmで，Ｐ２～Ｐ４は径58～69cmのほぼ円形，深さ60～70cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径51cm，短径34cmの楕円形，深さ23cmで，Ｐ６は径40cmの円形，深さ19cmである。いずれも南壁中央部の壁際に位置し，竈に対して一直線上に並ぶことから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７は径26cmの円形，深さ20cmで，Ｐ８は径32cmの円形，深さ13cmである。それぞれ，Ｐ１とＰ２の中間，Ｐ２とＰ３の中間に位置することから，補助柱穴の可能性がある。

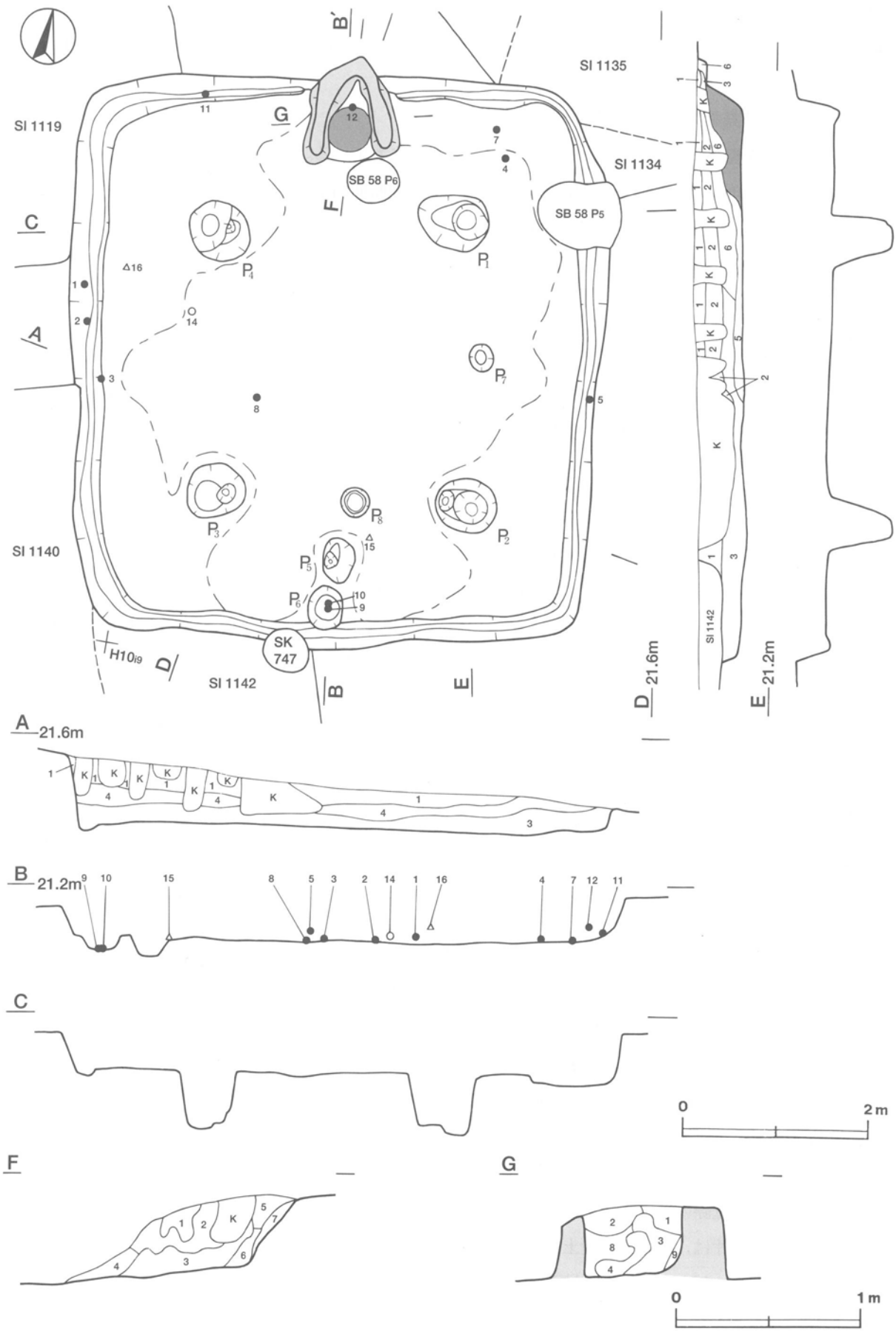
覆土　６層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

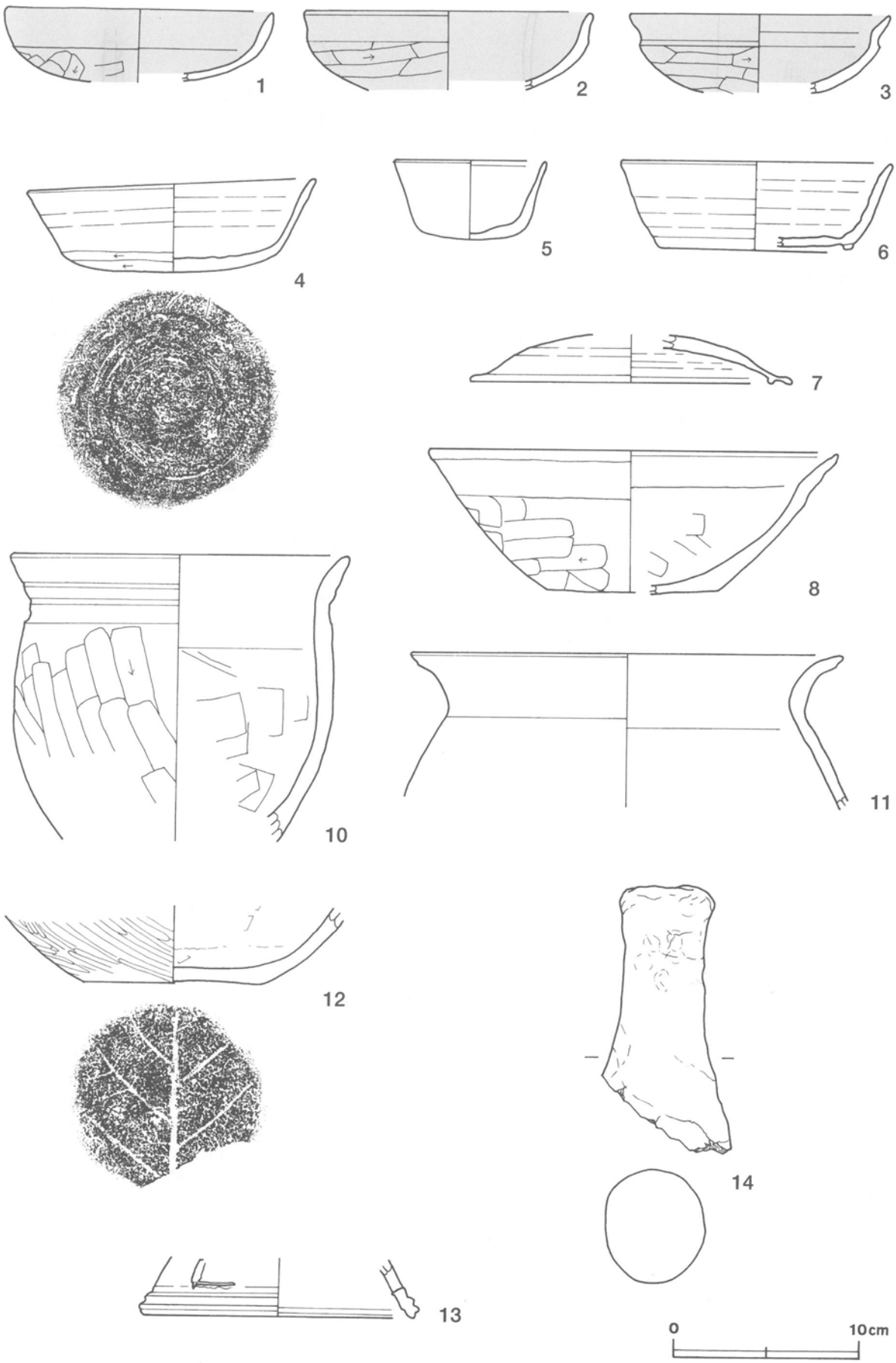
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片663点，須恵器片76点，鉄器２点（不明），土製品１点（支脚），撹乱により混入した磁器片１点が出土している。出土した土器のほとんどは覆土中層や上層から出土しており，本跡の廃絶後に投棄されたか，混入したものと考えられる。第149・150図１の土師器坏片は，西壁際の覆土下層から出土している。２と３の土師器坏片は，いずれも西壁際の床面から出土している。４の須恵器坏は北東コーナー部の床面から正位で，５の須恵器坏は東壁際の覆土下層から横位で出土している。６の須恵器高台付坏片は覆土中から，７の須恵器蓋片は北東コーナー部の床面から出土している。８の土師器鉢は，中央部の床面と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。９と10の土師器甕は，いずれもＰ６の底面から破片の状態で出土している。11の土師器甕片は北壁際の覆土下層から，12の土師器甕片は竈の覆土中層からそれぞれ出土している。13の須恵器円面硯の脚台部片は，北西部の覆土中から出土している。14の支脚は西部の覆土下層から，15の不明鉄製品は南部の床面から，16の不明鉄製品は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

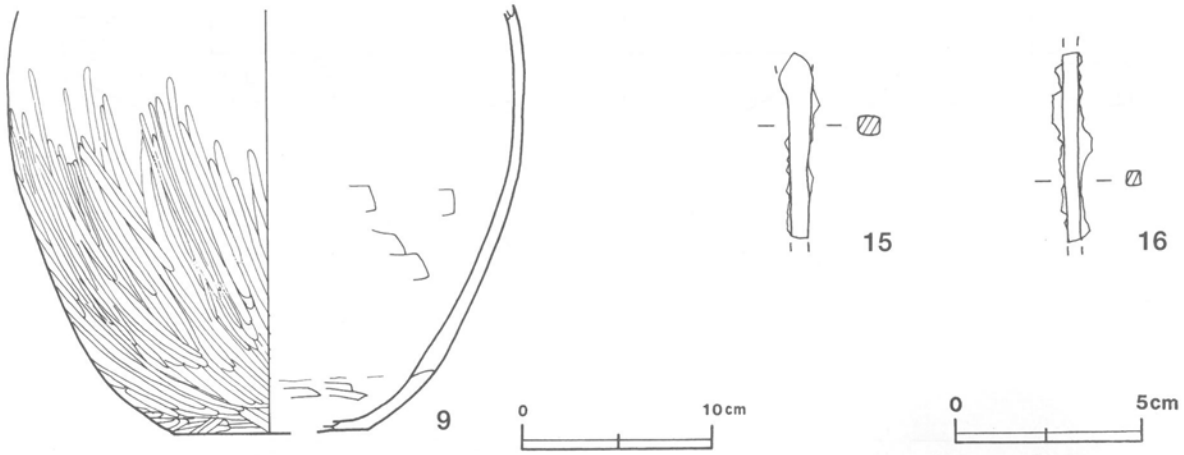
所見　時期は，出土土器から，７世紀末葉から８世紀初頭と考えられる。



第148図　第1144号住居跡実測図



第149図　第1144号住居跡出土遺物実測図（1）



第150図　第1144号住居跡出土遺物実測図（2）

第1144号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	坏 土師器	A［14.3］ B（3.8）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40148 40%
2	坏 土師器	A［15.2］ B（4.1）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	P40149 25%
3	坏 土師器	A［13.8］ B（4.2）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40150 20%
4	坏 須恵器	A 15.2 B 5.0 C 9.4	完形。丸みをもつ平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色，普通	P40151 100% PL216
5	坏 須恵器	A 8.0 B 4.1 C 5.2	完形。丸みをもつ平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P40152 100% PL216
6	高台付坏 須恵器	A［14.4］ B 4.6 D［10.4］ E 0.5	高台部から口縁部にかけての破片。平底。断面方形の短い高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	緻密 灰白色 良好	P40153 40% PL216
7	蓋 須恵器	A［17.0］ B（2.5）	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で，口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P40154 40% PL217
8	鉢 土師器	A 21.8 B 7.5 C 9.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	P40155 60% PL216
第150図 9	甕 土師器	B（22.4） C［10.4］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は倒卵形を呈する。	体部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40156 30%
第149図 10	甕 土師器	A 17.9 B（15.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40157 50% PL217
11	甕 土師器	A［23.0］ B（8.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P40158 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 12	甕 土師器	B (4.1) C 9.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き，内面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P40159 10%
13	円面硯 須恵器	B (3.1) C [14.4]	脚台部の破片。中位に方形または長方形と思われる透かし孔有り。下端外面に沈線1条を伴う隆帯が巡り，内面に沈線1条が巡る。	脚台部内・外面ロクロナデ。透かし孔はヘラ切り。	雲母・長石・石英 灰白色 普通	P40160 5% PL216

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	重量(g)			
第149図14	支脚	(14.0)	(7.0)	(401.0)	下端がラッパ状に広がる円柱状，ナデ	砂粒・長石・石英，黄橙色	DP40009 PL219

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第150図15	不明	(4.9)	0.5	0.5	(3.6)	鉄	一端が肥厚する棒状，鏃の茎部か	M40018 PL221
16	不明	(4.9)	0.4	0.4	(3.7)	鉄	断面方形の棒状，鏃の茎部又は紡錘の軸か	M40019 PL221

第1145号住居跡（第151～153図）

位置　調査4区の北部，H11d1区。

規模と平面形　長軸8.60m，短軸8.50mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は56～80cmで，ほぼ直立する。

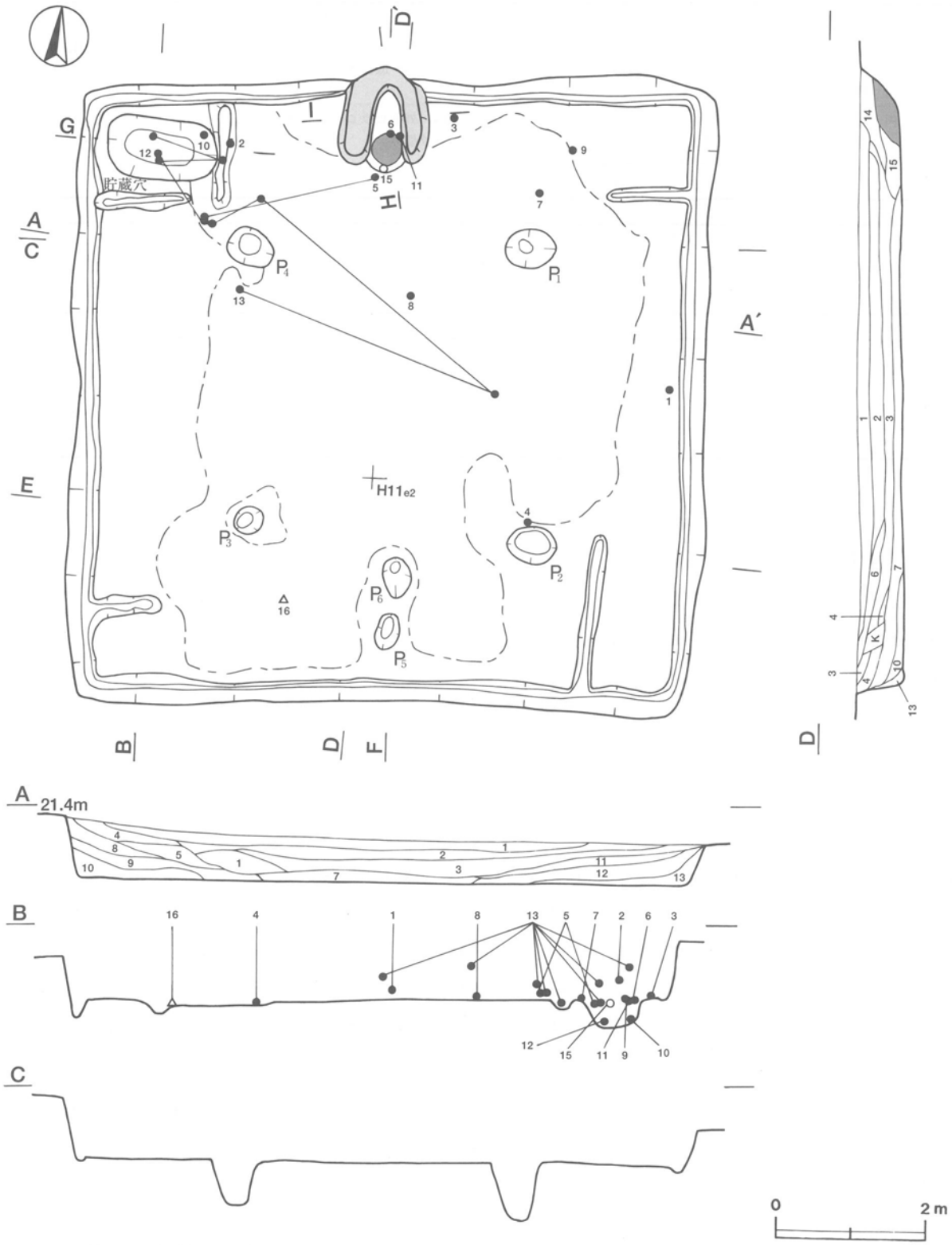
壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅12～20cm，下幅8～10cm，深さ8～22cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁際から中央部にかけて，溝4条が確認された。南壁から1条，西壁から2条，東壁から1条で，長さ98～210cm，上幅16～18cm，下幅8～10cm，深さ10～12cmで，断面形はU字形をしている。また，北西コーナー部に付設された貯蔵穴の東側には，長さ140cm，上幅8～16cm，下幅23～32cmの，住居の主軸と同じ方向に延びる帯状の高まりがあり，上面が硬化している。

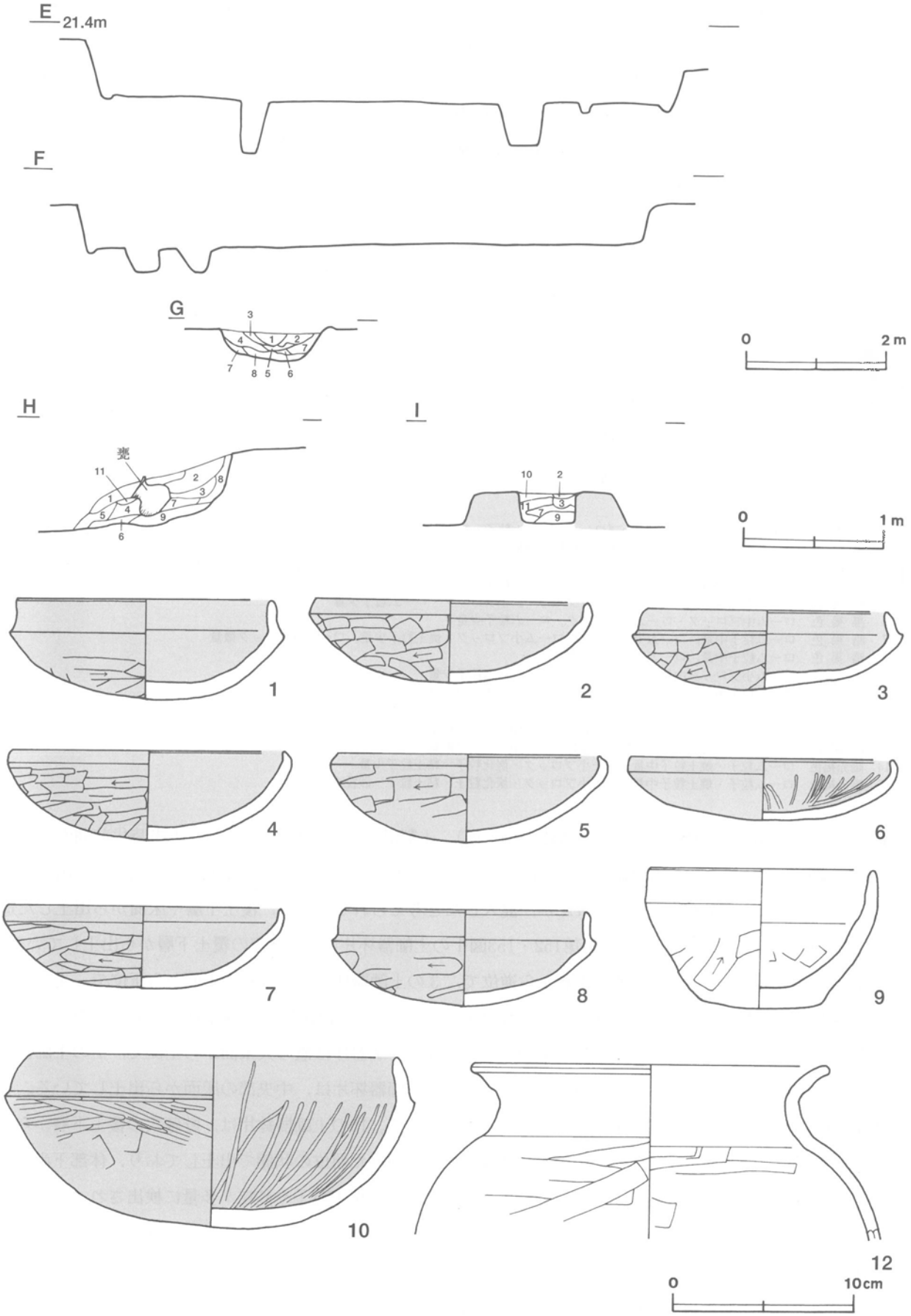
竈　北壁の中央部を壁外に16cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ142cm，両袖部幅122cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第4層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，内側が火熱を受けて赤変している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　灰黄褐色　粘土粒子・砂粒多量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂粒少量
8　灰褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
10　暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量，焼土大ブロック微量



第151図　第1145号住居跡実測図



第152図　第1145号住居跡・出土遺物実測図

ピット　6か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１は長径67cm，短径52cmの楕円形，深さ78cm，Ｐ２は長径69cm，短径50cmの楕円形，深さ62cm，Ｐ３は径40cmのほぼ円形，深さ76cm，Ｐ４は長径63cm，短径51cmの楕円形，深さ63cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径58cm，短径38cmの楕円形，深さ39cmで，Ｐ６は長径50cm，短径29cmの楕円形，深さ37cmである。いずれも南壁中央部の壁際に位置し，竈に対して一直線上に並ぶことから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北西コーナー部に付設されている。長軸144cm，短軸78cmの東西に長い隅丸長方形で，深さは44cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
8　灰 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量

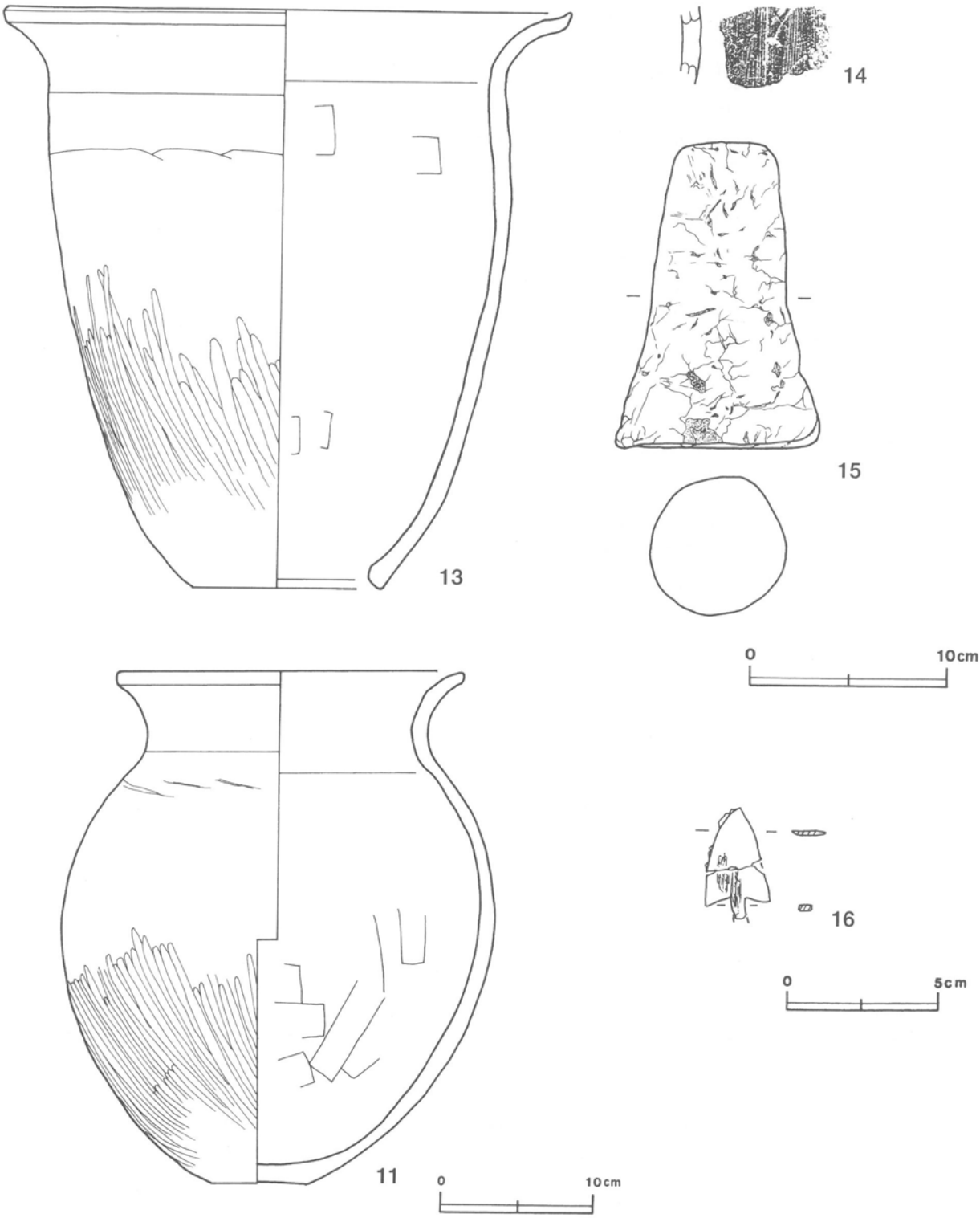
覆土　15層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第14・15層は，竈から流出したと考えられる粘土粒子や砂粒を含んでいる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
10　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
11　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
13　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
14　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
15　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物　土師器片1014点，須恵器片１点，鉄器１点（鏃），土製品１点（支脚），混入した古墳時代前期の土師器片19点，撹乱により混入した須恵器片９点が出土している。土器のほとんどが，覆土中層や上層から出土しており，それらは本跡の廃絶後に投棄されたか，混入したと考えられる。一方，覆土下層や床面から出土した遺物は，竈や貯蔵穴付近に集中している。第152・153図１の土師器坏片は，東壁際の覆土下層から出土している。２の土師器坏は北西コーナー部の覆土中層から逆位で，３の土師器坏は竈東袖脇の床面から正位で，４の土師器坏は中央部南東寄りの床面から正位でそれぞれ出土している。５の土師器坏は，竈手前の床面と北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。６の土師器坏は竈の火床面から正位で，７の土師器坏は北東コーナー寄りの床面から正位で出土している。８の土師器坏片は，中央部の床面から出土している。９の土師器椀は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。10の土師器鉢片は，貯蔵穴の覆土下層から出土している。11の土師器甕は，竈の火床面から口縁部を南に向けた斜位の状態で出土しており，体部下半に炭化物が付着している。11の周囲から天井部の崩落土と考えられる粘土粒子や砂粒が多量に検出され，その南側から支脚が出土していることから，竈に据えられていた甕が天井部の崩落とともに落下したと考えられる。12の土師器甕片は，貯蔵穴の覆土下層から出土している。13の土師器甑は，中央部の覆土中層と北西部の覆土下層及び床面から出土した破片が接合したものである。14の須恵器提瓶片は北西部の覆土中から，15の支脚は竈手前の床面から横位で，16の鉄鏃は中央部南寄りの床面から出土している。

所見　本跡の竈や貯蔵穴の周辺から土器が集中して出土していることや床面を仕切るように溝が確認されていることから，生活空間を使い分けていたことが想定される。時期は，出土土器から，6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第153図　第1145号住居跡出土遺物実測図

第1145号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.5	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40161 100% PL216
2	坏 土師器	A 14.8 B 4.4	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄褐色，普通	P40162 100% PL216
3	坏 土師器	A 13.0 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	P40163 90% PL216
4	坏 土師器	A 14.8 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40164 90% PL216
5	坏 土師器	A 14.2 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40165 90% PL216
6	坏 土師器	A 14.3 B 3.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40166 90% PL217
7	坏 土師器	A 14.9 B 4.4	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40167 90% PL217
8	坏 土師器	A 13.2 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40168 80% PL217
9	椀 土師器	A [12.2] B 7.5 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P40169 60% PL217
10	鉢 土師器	A 19.8 B 9.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半横位のヘラ磨き，下半横位のヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P40170 80% PL217
第153図 11	甕 土師器	A [22.6] B 33.5 C 6.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 暗灰黄色，普通	P40171 95% PL217
第152図 12	甕 土師器	A [19.0] B (9.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P40172 10%
第153図 13	甑 土師器	A 27.8 B 28.6 C 9.3	底部・体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，上半はほぼ直立する。口縁部は外反し，端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ，下半縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P40173 70% PL217
14	提瓶 須恵器	B (3.9)	体部の破片。体部は内彎する。	体部外面カキ目調整，内面ロクロナデ。	砂粒・長石 黄灰色，良好	TP40003 5%

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第153図15	支脚	15.2	9.1	846.1	下端がラッパ状に広がる円柱状，ナデ	砂粒・長石・石英，にぶい橙色	DP40010 PL220

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身部長(cm)	鏃幅部幅(cm)	篦被部長(cm)	篦被部幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第153図16	鏃	(3.7)	(3.3)	(2.1)	(0.7)	0.5	0.2	(2.9)	鉄	三角形鏃。鏃身部に木質付着。	M40020 PL221

第1154号住居跡（第154・155図）

位置　調査４区の北部，H10a1区。

重複関係　南東部を第1152号住居に，南部を第1153号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.32m，短軸4.30mの方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は10～32cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅11～14cm，下幅４～６cm，深さ５～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に44cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ78cm，両袖部幅100cmである。火床面は，床面からわずかに掘りくぼめられて浅い皿状を呈しており，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　褐　　色　粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は，径31～42cmのほぼ円形で，深さ40～66cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は，長径42cm，短径31cmの楕円形で，深さ32cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

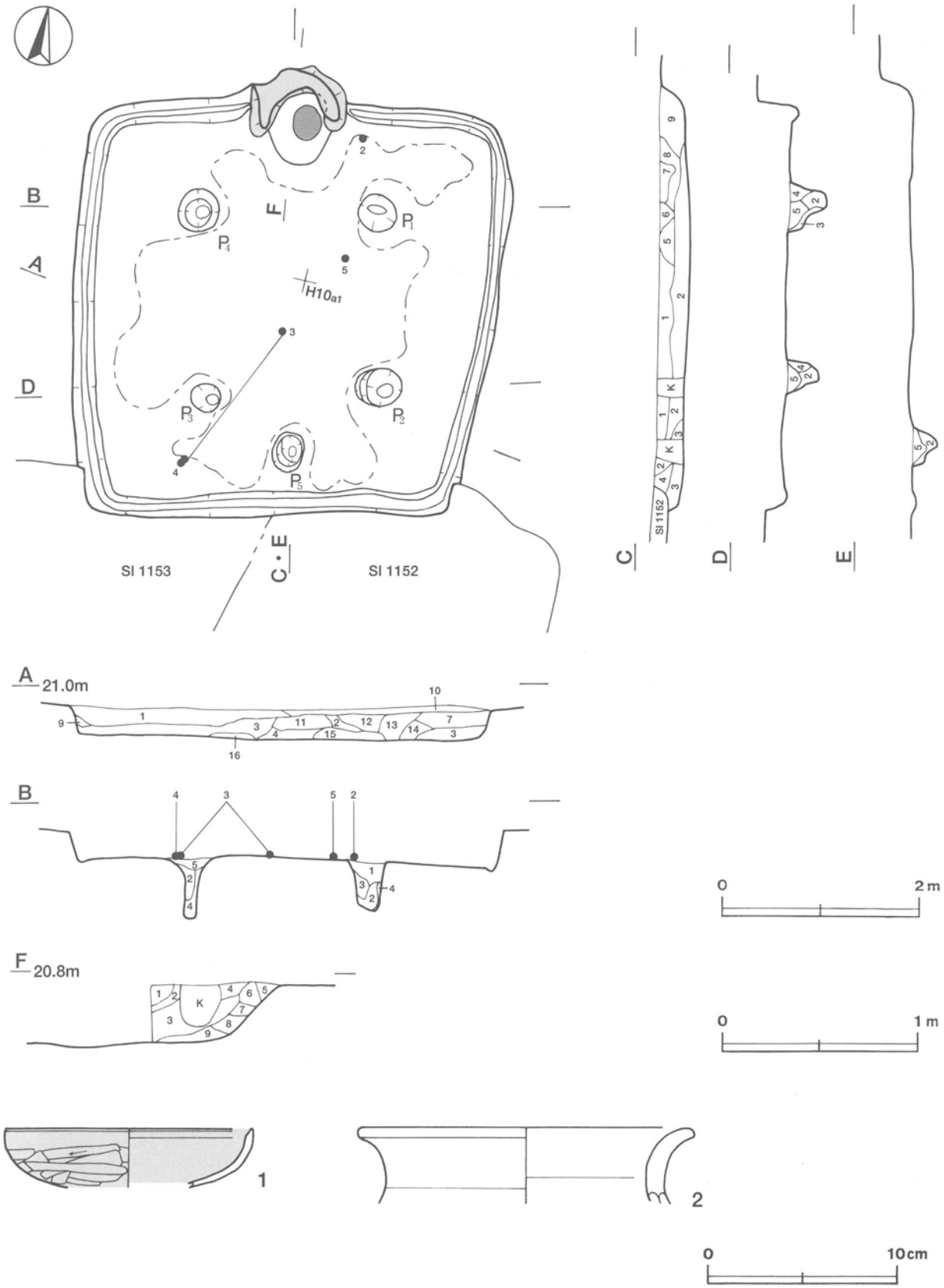
ピット土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

覆土　16層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

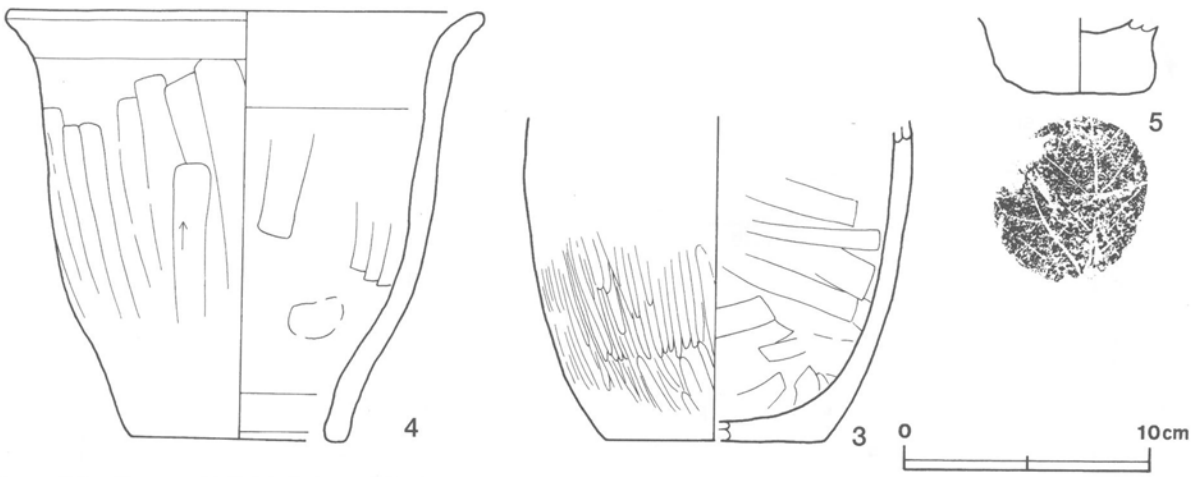
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
12　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　黒褐色　ローム粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
15　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
16　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片145点が出土している。第154・155図１の土師器坏片は南東部の覆土中から，２の土師器甕片は北壁際の床面から出土している。３の土師器甕片は，南壁際の床面と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。４の土師器甑片は南壁際の床面から，５の手捏土器片は中央部の床面から出土している。

所見　時期は，重複関係と出土土器から，７世紀前半と考えられる。



第154図　第1154号住居跡・出土遺物実測図



第155図　第1154号住居跡出土遺物実測図

第1154号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第154図 1	坏 土師器	A［12.7］ B（3.0）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。端部はやや尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40213 20%
2	甕 土師器	A［17.0］ B（3.9）	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明褐色，普通	P40214 10%
第155図 3	甕 土師器	B（12.8） C［8.7］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色，普通	P40215 25%
4	甑 土師器	A［18.7］ B 17.0 C 8.5	体部・口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面指頭痕を残す縦位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明褐色，普通	P40216 70% PL216
5	手捏土器 土師器	B（2.9） C 5.7	底部から体部下端にかけての破片。平底。	体部下端ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色，普通	P40267 10%

第1155号住居跡（第156・157図）

位置　調査4区の北部，H10i9区。

重複関係　北西部を第1142号住居に，南部を第1151号住居に，東部を第1153号住居に，西部を第1156号住居に，北部を第23号地下式壙に，南西コーナー部から北壁中央部にかけてを第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.65m，短軸5.62mの方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は5～24cmで，外傾して立ち上がる。

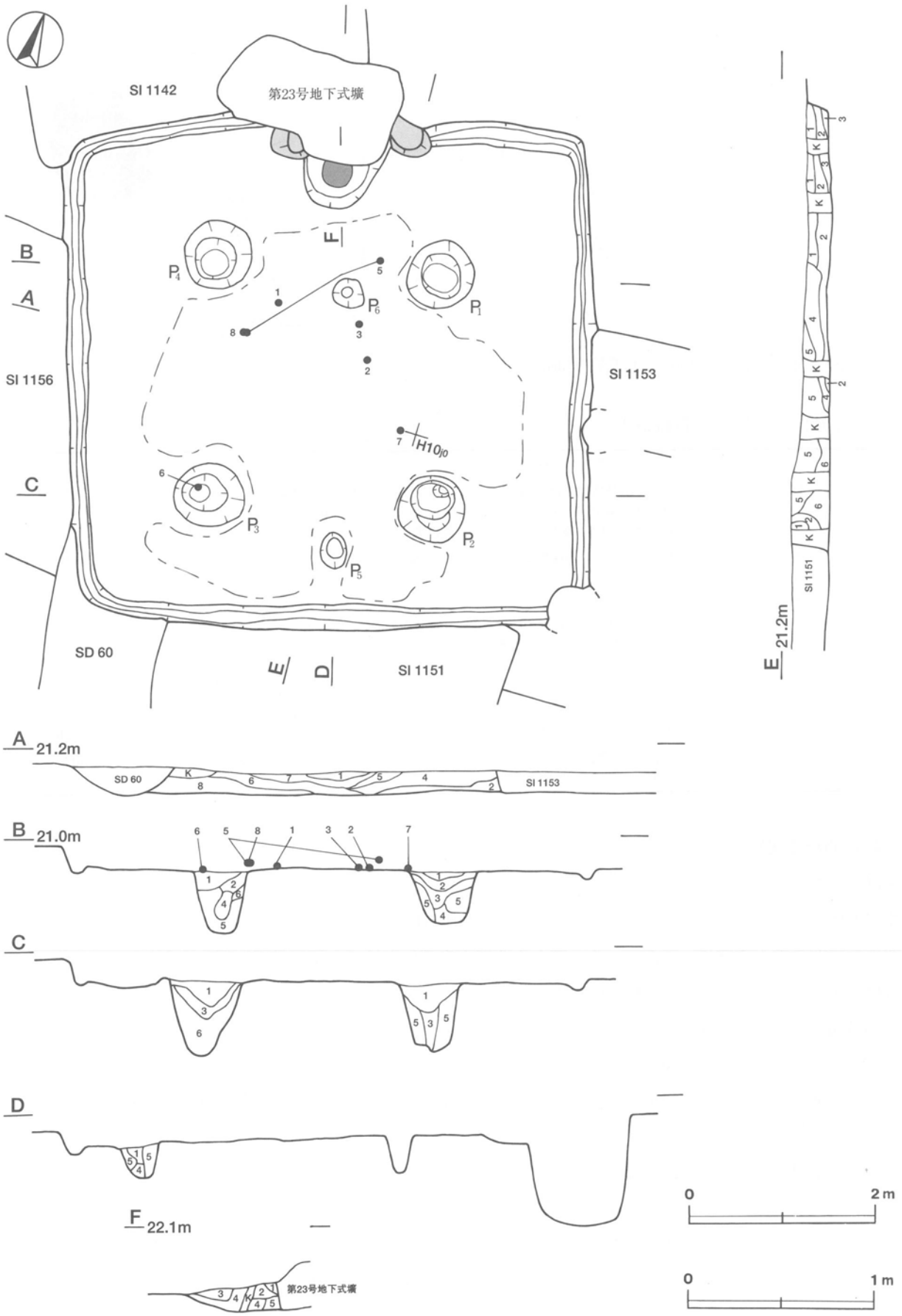
壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅16～21cm，下幅8～10cm，深さ7～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に，砂質粘土で構築されている。北部を第23号地下式壙に掘り込まれているために，全容は不明である。確認できた規模は，焚口部から火床部までの長さ52cm，両袖部幅171cmである。火床面は，床面から20cmほど掘りくぼめられて皿状を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量



第156図　第1155号住居跡実測図

3　褐　　色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　褐　　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は，径72～75cmのほぼ円形で，深さ60～84cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。P5は，長径40cm，短径28cmの楕円形で，深さ40cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は，径30cmの円形，深さ45cmで，P1とP4の中間に位置していることから，補助柱穴と考えられる。

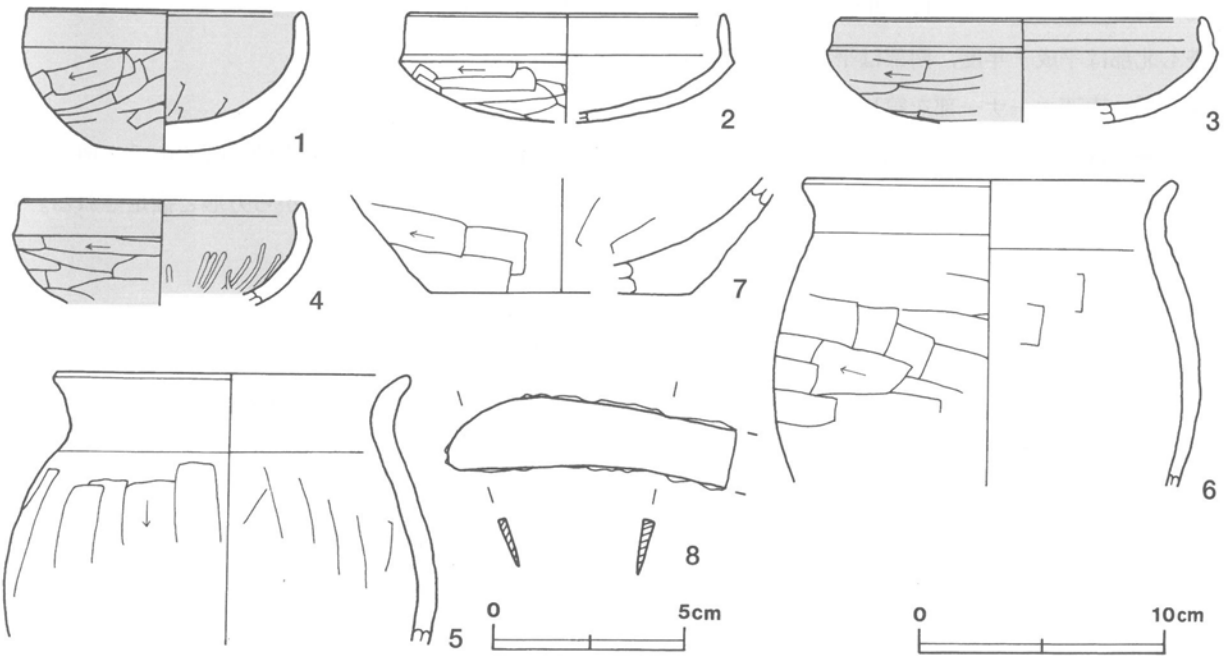
ピット土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
6　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物　土師器片223点，鉄器1点（鎌），撹乱により混入した須恵器片12点，陶磁器片4点が出土している。第157図1の土師器坏は中央部の床面から逆位で，2の土師器坏は中央部の床面から正位で出土している。3の土師器坏片は中央部の床面から，4の土師器坏片は竈の覆土中から出土している。5の土師器甕片は，竈手前の覆土下層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。6の土師器甕片はP3の確認面上から，7の土師器甕片は中央部の床面から出土している。8の鎌は，中央部の覆土下層から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，重複関係と出土土器から，6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第157図　第1155号住居跡出土遺物実測図

第1155号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	坏 土師器	A [11.0] B 5.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P40217 45%
2	坏 土師器	A [12.6] B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P40218 30%
3	坏 土師器	A [14.6] B (4.1)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P40219 10%
4	坏 土師器	A [11.2] B (4.1)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40220 10%
5	甕 土師器	A [14.0] B (10.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色，普通	P40221 20%
6	甕 土師器	A [14.6] B (12.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P40222 10%
7	甕 土師器	B (4.5) C [10.2]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部下端横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 赤褐色，普通	P40223 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第157図8	鎌	(7.7)	(1.9)	(0.3)	(12.0)	鉄	曲刃鎌，刃部の破片	M40027 PL221

第1159号住居跡（第158・159図）

位置　調査4区の中央部，I10f2区。平成7年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も北部は平成7年度，南部は平成10年度と両年度にまたがった。

重複関係　南西コーナー部を第1157号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　平成7年度の調査区域は撹乱を受けており，全容は不明である。東西軸は6.90mで，南北軸は7.10mだけが確認できた。南東・南西コーナー部が直角であることやピットの配置から方形と推定される。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は8～22cmで，外傾して立ち上がる。

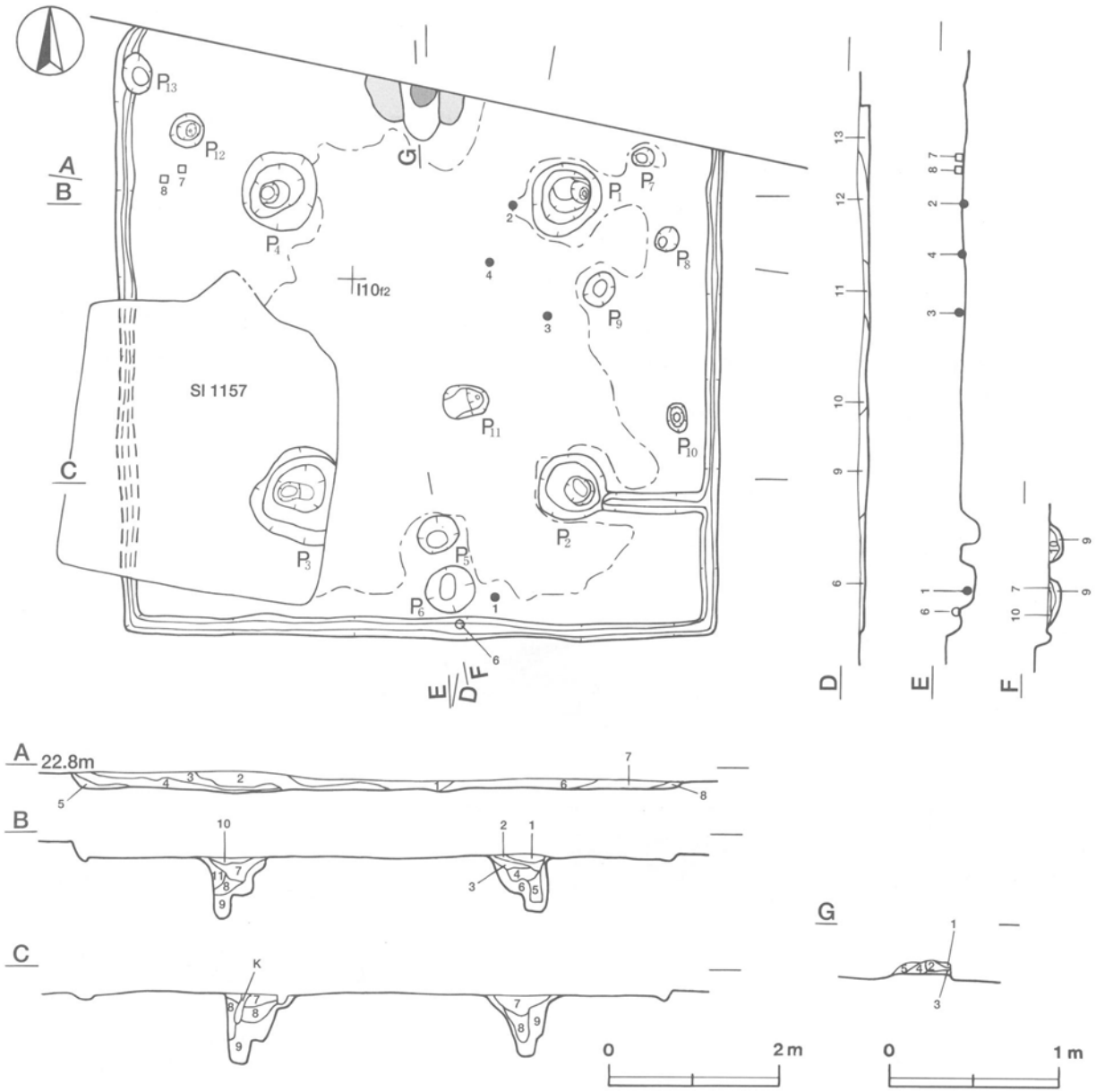
壁溝　全周している。規模は上幅14～22cm，下幅5～14cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。東壁下からP2に延びる溝が確認された。長さ130cm，上幅20～25cm，下幅7～10cm，深さ約8cmで，断面形はU字形をしている。性格は不明である。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。北部が調査区域外のため全容は不明であるが，竈の袖部構築材と思われる粘土が検出された。規模は，両袖部幅が115cmである。土層断面図中，第3層は焼土ブロックや焼土粒子を中量含み，下面が赤変硬化していることから，下面が火床面と考えられる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量
3　暗 褐 色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　赤 褐 色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　13か所（Ｐ１～Ｐ13）。Ｐ１～Ｐ４は各コーナーから中央部寄りに位置し，径78～110cmの円形で，深さ72～79cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は南壁際の中央部に位置している。Ｐ５は長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さ24cmである。Ｐ６は径54cmの円形で，深さ25cmである。Ｐ５・Ｐ６は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ13は，径20～50cmの円形で，深さ19～56cmである。性格は不明である。



第158図　第1159号住居跡実測図

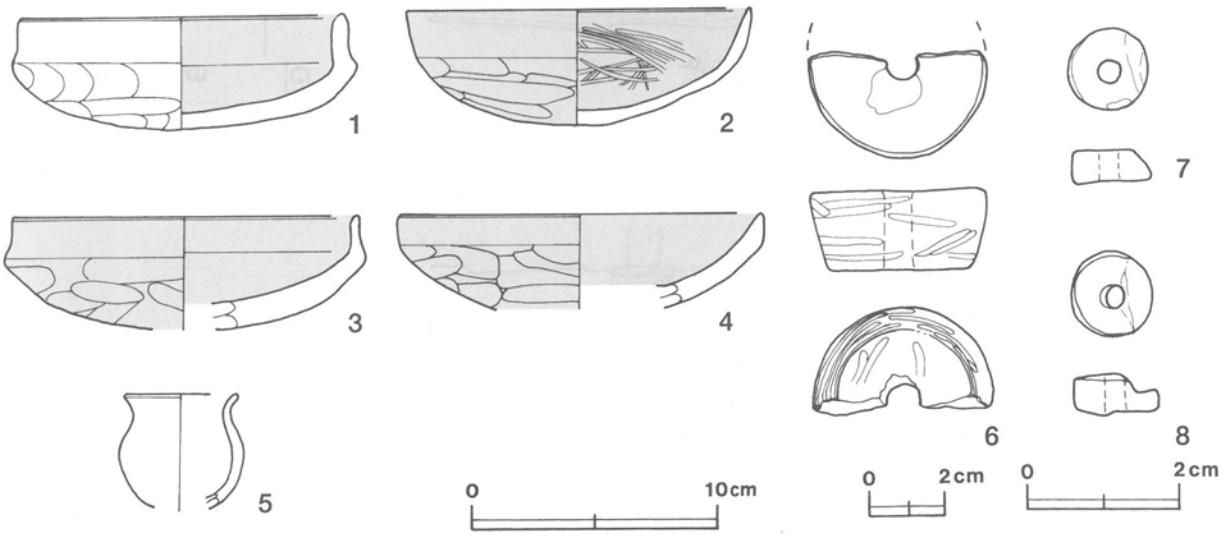
P1～P6土層解説
1　黒　褐　色　炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
10　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量

覆土　13層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
12　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
13　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片122点，土製品1点（紡錘車），石製模造品2点（臼玉），撹乱により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。第159図に示した土器はすべて土師器である。1の坏は南壁際の床面から正位で，2の坏は中央部から北東部寄りの床面から正位で出土している。3の坏は，中央部の覆土下層から出土した破片2点と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。4の坏は，中央部の覆土下層から出土している。5のミニチュア土器は，南西部の覆土中から出土している。6の紡錘車は，南壁際の覆土下層から出土している。7・8の臼玉は，北西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第159図　第1159号住居跡出土遺物実測図

第1159号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P40579 99% PL217
2	坏 土師器	A 13.7 B 4.6	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40580 70% PL217
3	坏 土師器	A [13.6] B (4.4)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40581 45% PL217
4	坏 土師器	A [14.4] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P40582 20% PL217
5	ミニチュア土器 土師器	A [4.6] B (4.5)	甕形。体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	内・外面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P40583 40% PL217

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第159図 6	紡錘車	4.7	2.1	0.9	(29.3)	土製	断面逆台形。外面ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英，橙色	DP40506 50% PL220

図版番号	器種	計測値				材質	色調	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第159図 7	臼玉	1.1	0.4	0.3	0.75	滑石	灰色	片面研磨。側面に刻み目状の調整痕有り。	Q40504 PL222
8	臼玉	1.1	0.5	0.3	0.66	滑石	灰色	側面に刻み目状の調整痕有り。	Q40505 PL222

第1163号住居跡（第160～162図）

位置　調査4区の北東部，I10g5区。

重複関係　西部を第57号掘立柱建物と第832・833号土坑に，南西コーナー部を第63号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.20m，短軸8.00mの方形である。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は10～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は上幅18～25cm，下幅5～12cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。南東壁から中央部寄りに，幅18～30cm，高さ約5cmの馬の背状の高まりが見られる。出入り口施設の可能性が考えられる。北東壁下からP7に延びる溝a，南西壁下からP4に延びる溝b，P5・P6を囲むように馬蹄形を呈する溝cの3条が確認された。いずれも長さ96～230cm，上幅10～20cm，下幅3～7cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。性格は不明である。

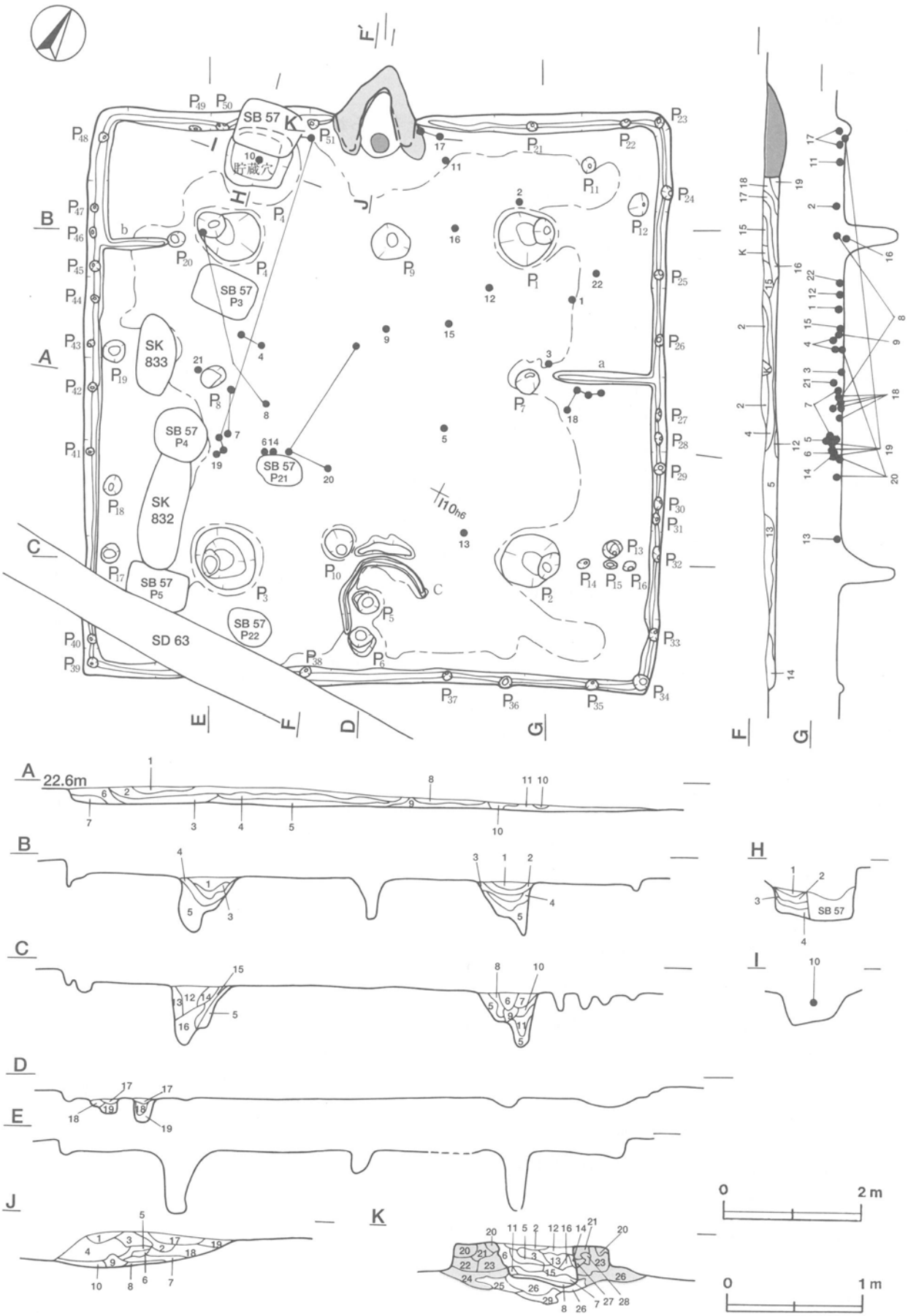
竈　北西壁の中央部を壁外に70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで133cm，両袖部幅123cmである。袖部は粘土粒子を多量に含んだ砂質粘土で構築されており，内側は赤変硬化している。天井部は崩落しており，土層断面図中，第2・3・5層が粘土粒子を多く含むことから崩落土層と考えられる。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめた後，暗褐色土と暗赤褐色土を貼り，造られている。火床面は火熱を受け，赤変硬化している。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3　褐　色　ローム粒子多量，粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　灰　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　暗　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
9　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
13　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
14　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
15　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
16　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
17　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
18　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
19　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
20　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
21　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
22　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
23　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
24　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
25　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
26　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
27　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
28　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量
29　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量

ピット　51か所（Ｐ１～Ｐ51）。Ｐ１～Ｐ４は各コーナーからやや中央部寄りに位置し，径80～95cmのほぼ円形で，深さ78～85cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は南壁際の中央部に位置している。それぞれ長径40cm・45cm，短径32cm・37cmの楕円形で，深さ38cm・23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７・Ｐ８はそれぞれ径35cm・30cmの円形で，深さ23cm・31cmである。いずれも規模と配置から補助柱穴と考えられる。Ｐ９～Ｐ20は長径15～54cm，短径14～45cmの円形または楕円形で，深さ９～60cmである。性格は不明である。Ｐ21～Ｐ51は壁溝沿いに位置しており，径10～23cmの円形で，深さ８～30cmである。位置的に壁柱穴の可能性が考えられる。

Ｐ１～Ｐ６土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
11　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
12　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
13　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
14　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
15　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
16　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
17　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
18　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
19　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

貯蔵穴　竈と西壁の中間で確認された。北部が第57号掘立柱建物のＰ２に掘り込まれているため，全容は不明だが，東西軸が90cmで，南北軸は85cmと推定される。深さは48cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。



第160図　第1163号住居跡実測図

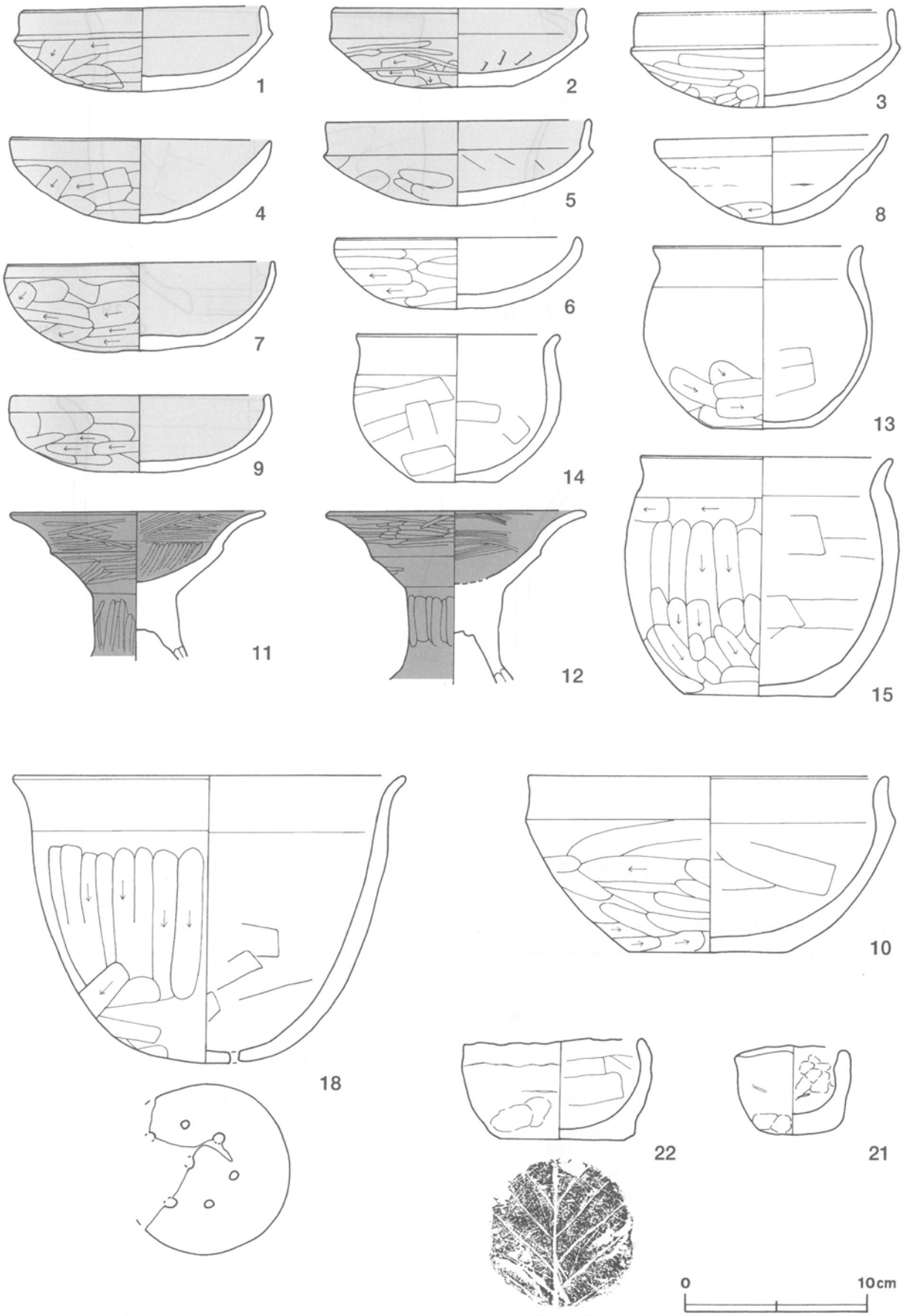
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

覆土　19層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

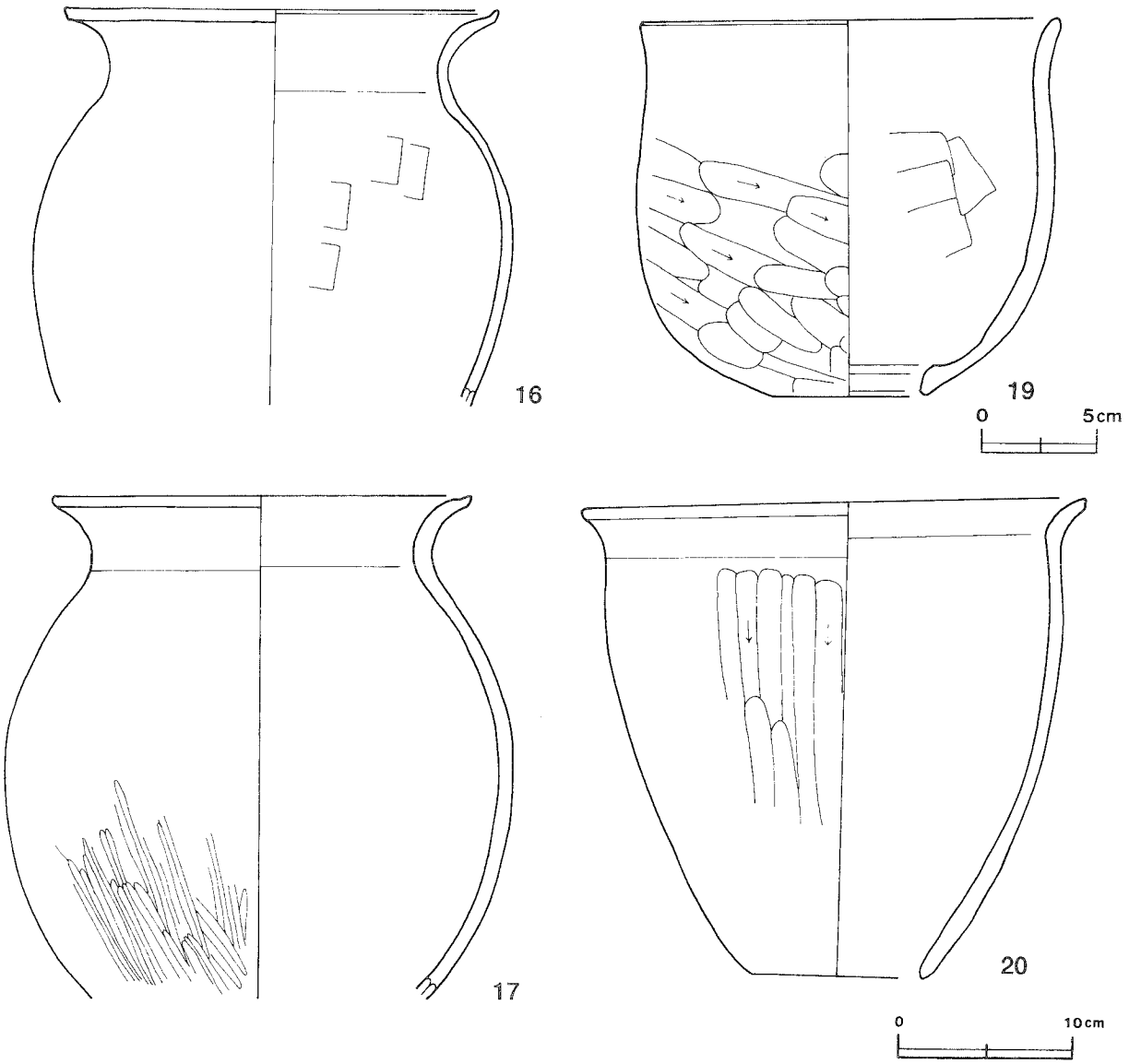
土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
7　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
9　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
14　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
15　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
16　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
17　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
18　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
19　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片1170点，撹乱により混入したとみられる須恵器片３点が出土している。第161・162図で示した土器はすべて土師器である。１の坏は東部の覆土下層から正位で，２の坏は北東部の覆土下層から正位で，３の坏は東部の床面から正位でそれぞれ出土している。４の坏は，中央部の覆土下層から出土した２片と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。５の坏は中央部の覆土下層から正位で，６の坏は中央部から西寄りの覆土下層から逆位で出土している。７の坏は，中央部から西寄りの床面から正位で出土した破片と中央部から西寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。８の坏は，北西部の覆土下層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。９の坏は，中央部の床面から逆位で出土している。10の椀は，貯蔵穴の覆土上層から逆位で出土している。11の高坏は，竈東袖部際の床面から出土した２片が接合したものである。12の高坏は，中央部から北東寄りの覆土下層から逆位で出土している。13の甕は，中央部から南東部寄りの床面から横位で出土している。14の甕は，中央部の覆土下層から横位で出土している。15の甕は，中央部の床面から正位で出土している。16の甕は，北東部の床面から出土した破片が接合したものである。17の甕は，竈東袖部際の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものである。18の甑は，東部の床面から出土した破片数点が接合したものである。19の甑は，北部の床面と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。20の甑は，中央部の床面と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。21の手捏土器は，西部の覆土中層から正位で出土している。22の手捏土器は，東部の覆土下層から出土している。

所見　本跡からは，出入り口施設に伴うピットと考えられるＰ５・Ｐ６を囲むように断面Ｕ字状の溝が，さらにその外側に馬の背状の高まりが検出された。これらは，配置から，出入り口施設に伴う一連の施設と考えられる。主軸方向がほぼ同一である第991号住居跡からも同様の床面の高まりが確認されており，他の住居跡と様相を異にする特徴を持っている。また，本跡から出土した鉢形を呈する甑は，多孔式であり，当遺跡においては類例がない。本跡の時期は，出土土器から，６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第161図　第1163号住居跡出土遺物実測図（1）



第162図　第1163号住居跡出土遺物実測図（2）

第1163号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	坏 土師器	A 12.9 B 4.6	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40584 100% PL217
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40585 95% PL217
3	坏 土師器	A [13.4] B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40586 75% PL218
4	坏 土師器	A 13.9 B 4.5	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 浅黄橙色 普通	P40587 80% PL218
5	坏 土師器	A 14.0 B 4.7	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P40588 70% PL218

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 6	坏 土師器	A 12.8 B 3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40589 70% PL218
7	坏 土師器	A [14.2] B 4.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40590 50% PL218
8	坏 土師器	A 12.4 B 4.6	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，輪積み痕を残すナデ。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40591 60% PL218
9	坏 土師器	A 13.6 B 4.1	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	P40592 40% PL218
10	椀 土師器	A 19.0 B 9.5 C 8.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40593 90% PL219
11	高坏 土師器	A 13.4 B (7.9)	脚部上位から口縁部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部，坏部内・外面ヘラ磨き。脚部ヘラ削り後，縦位のヘラ磨き。坏部内・外面，脚部外面赤彩。	砂粒・石英・赤色粒子 赤色 普通	P40594 40% PL218
12	高坏 土師器	A [13.4] B (9.1)	脚部上位から口縁部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部，坏部内・外面ヘラ磨き。脚部ヘラ削り後，ナデ。坏部内・外面，脚部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40595 35% PL218
13	甕 土師器	A 11.0 B 9.8 C 5.5	底部から口縁部の破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40596 50% PL218
14	甕 土師器	A [10.6] B 7.9 C 4.2	底部から口縁部の破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40597 50% PL218
15	甕 土師器	A 13.4 B 12.8 C 8.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 浅黄橙色，普通	P40598 90% PL217
第162図 16	甕 土師器	A 24.4 B (22.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反し，端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩滅により調整不明。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40599 40% PL217
17	甕 土師器	A [23.2] B (28.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は緩やかに外反し，端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以下斜位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40600 30% PL218
第161図 18	甑 土師器	A [20.8] B 15.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。底部中央部に1カ所，周囲に6か所の小孔有り。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P40601 50% PL218
第162図 19	甑 土師器	A 17.7 B 16.4 C [6.6]	底部から口縁部の破片。単孔式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・小礫 にぶい褐色，普通	P40602 70% PL219
20	甑 土師器	A 28.0 B 27.4 C 9.4	体部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P40603 70% PL219
第161図 21	手捏土器 土師器	A 5.7 B 4.9 C 3.8	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。中位から上位指頭押圧。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・石英 浅黄橙色 普通	P40604 100% PL218
22	手捏土器 土師器	A 9.4 B 5.4 C 7.2	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面指頭押圧。内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英 にぶい黄橙色 普通	P40605 100% PL219

第1165号住居跡（第163・164図）

位置　調査４区の中央部，I10i7区。

重複関係　中央部から東部を第1166号住居に，北部を第63号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第1166号住居に掘り込まれているため，全容は不明である。規模は，南北が5.10mで，東西は2.60mだけが確認できた。南西・北西コーナー部が直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は７～11cmで，外傾して立ち上がる。

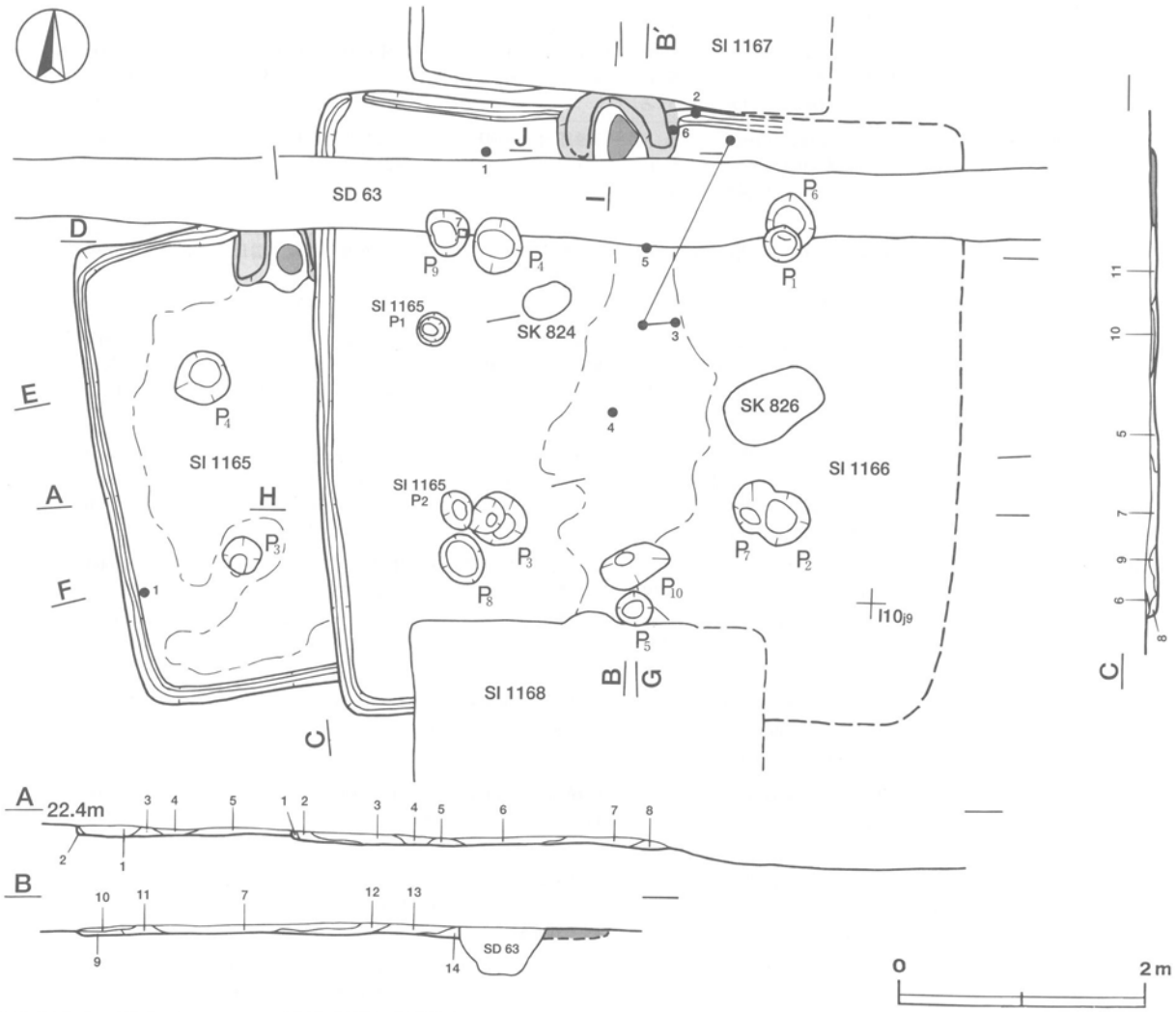
壁溝　第1166号住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。規模は上幅10～19cm，下幅４～８cm，深さ約７cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，壁際を除き踏み固められている。

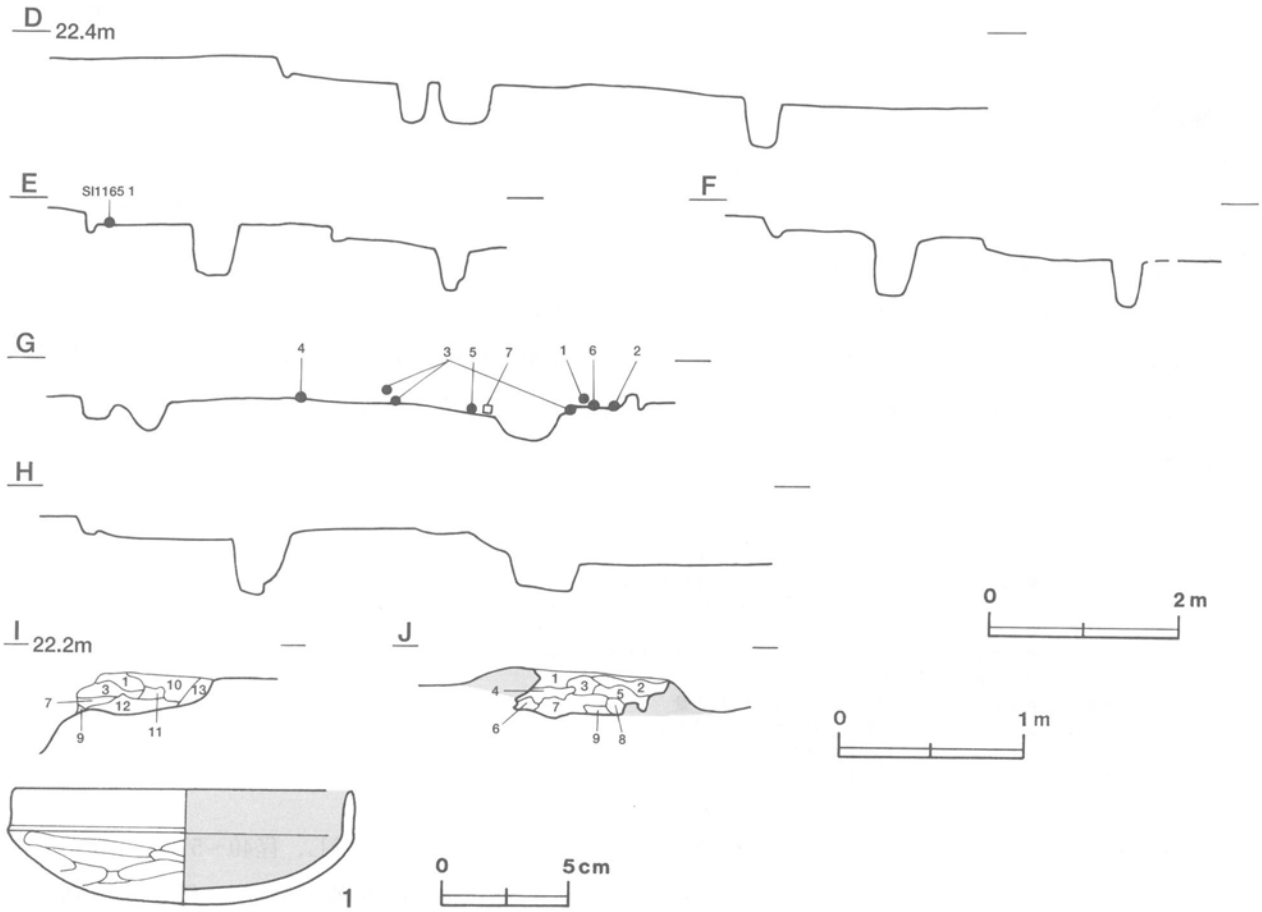
竈　北壁の中央部に付設されている。北部を第63号溝に，東袖の大部分を第1166号住居に掘り込まれているため遺存状況は悪い。袖部は砂質粘土で構築されており，火床面は赤変している。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ４は各コーナーから中央部寄りに位置し，径40～58cmの円形で，深さ45～65cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　５層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。



第163図　第1165・1166号住居跡実測図



第164図　第1165・1166号住居跡実測図，第1165号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
10　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片115点，撹乱により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。第164図1の土師器坏は，西部壁際の床面から正位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。

第1165号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第164図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面横ナデ，内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P40606 70% PL218

第1166号住居跡（第163～165図）

位置　調査4区の中央部，I10j8区。

重複関係　西部で第1165号住居跡を掘り込み，竈の北部を第1167号住居に，中央部からやや北部寄りを第63号溝に，中央部を第824・826号土坑に，南部を第1168号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　傾斜地に立地しており，東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は6.75mで，東

西軸は4.50mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの配置から，方形と推定される。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は9～15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を巡っている。規模は上幅15～20cm，下幅5～10cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

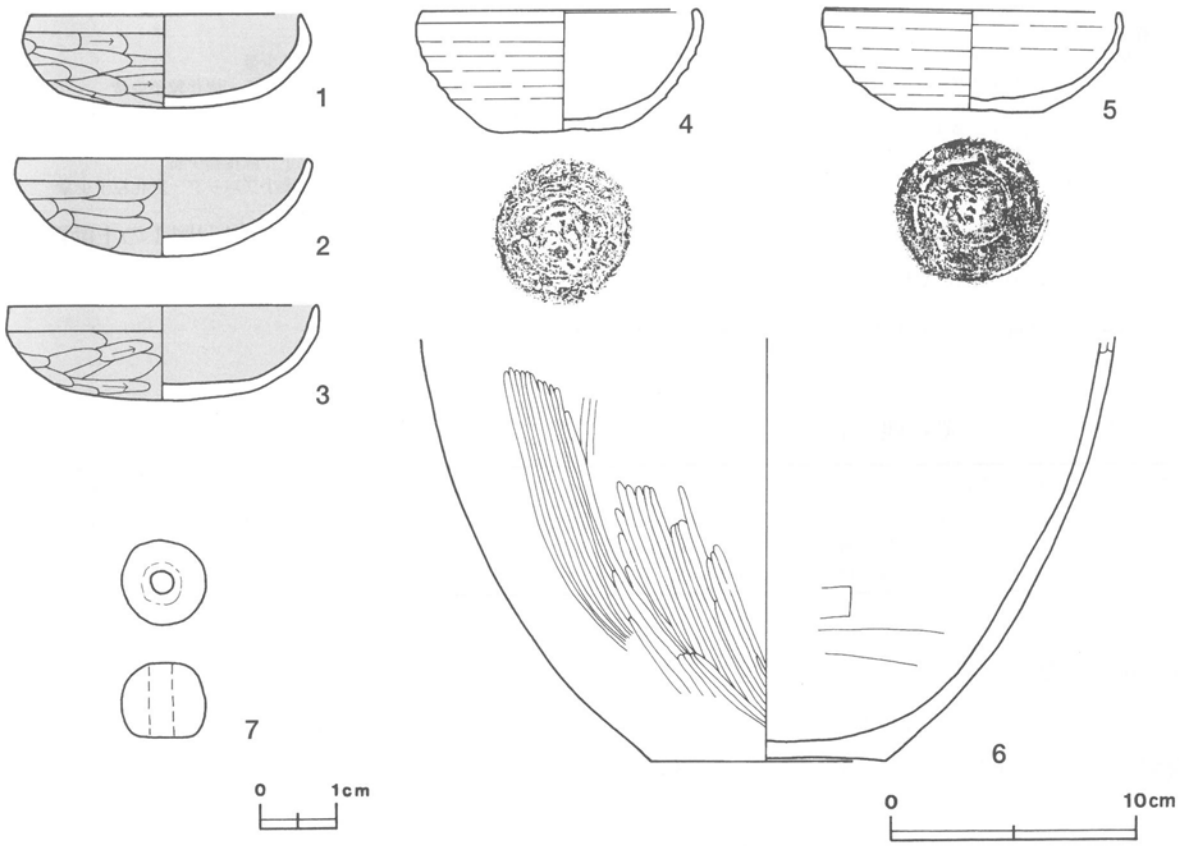
床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。北部が第1167号住居に，南部が第63号溝に掘り込まれているため遺存状況は悪い。規模は，両袖部幅が130cmである。土層断面図中，第7・12層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み，下面が赤変硬化していることから，下面が火床面と考えられる。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子・砂粒少量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
12　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量
13　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量

ピット　10か所（P1～P10）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，径40～57cmの円形で，深さ27～61cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し，径37cmの円形で，



第165図　第1166号住居跡出土遺物実測図

深さ19cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ９はＰ１～Ｐ４に隣接して位置し，径48～55cmの円形で，深さ36～61cmである。位置的に補助柱穴の可能性が考えられる。Ｐ10は，長径75cm，短径45cmの楕円形で，深さ30cmである。性格は不明である。

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
6　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
8　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
9　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
10　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
14　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

遺物　土師器片438点，須恵器片25点，石製品１点（丸玉），撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第165図１の土師器坏は北西部の床面から逆位で，２の土師器坏は竈東袖部際の覆土下層から出土している。３の土師器坏は，北部の覆土下層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。４の須恵器坏は，中央部の床面から正位で出土している。５の須恵器坏は，中央部の床面から出土した破片数点が接合したものである。６の土師器甕は，竈東袖部際の床面から斜位で出土している。７の丸玉は，北西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀中葉と考えられる。

第1166号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 土師器	A 10.8 B 3.7	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P40607 100% PL219
2	坏 土師器	A 11.4 B 3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40608 80% PL219
3	坏 土師器	A [12.3] B 3.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40609 40% PL219
4	坏 須恵器	A [10.8] B 4.8 C 5.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。外面ロクロ目は強い。底部回転ヘラ切り後，雑なナデ。	砂粒・石英・黒色粒子 灰白色，普通	P40611 40% PL219
5	坏 須恵器	A [11.8] B 4.0 C 5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，雑なナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 灰白色，普通	P40503 50% PL218
6	甕 土師器	B (16.8) C 9.4	底部から体部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40610 30% PL218

図版番号	器種	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
第165図 7	丸玉	1.0	1.1	0.3	1.88	蛇紋岩	やや扁平な球状。上・下部が面取りされている。	Q40507 PL222

第1456号住居跡（第166図）

位置　調査４区の北部，H9i0区。

規模と平面形　西部が調査区域外に延びているために，全容は不明である。南北軸は3.21mで，東西軸は2.69mだけが確認できた。南東コーナー及び北東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は４cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

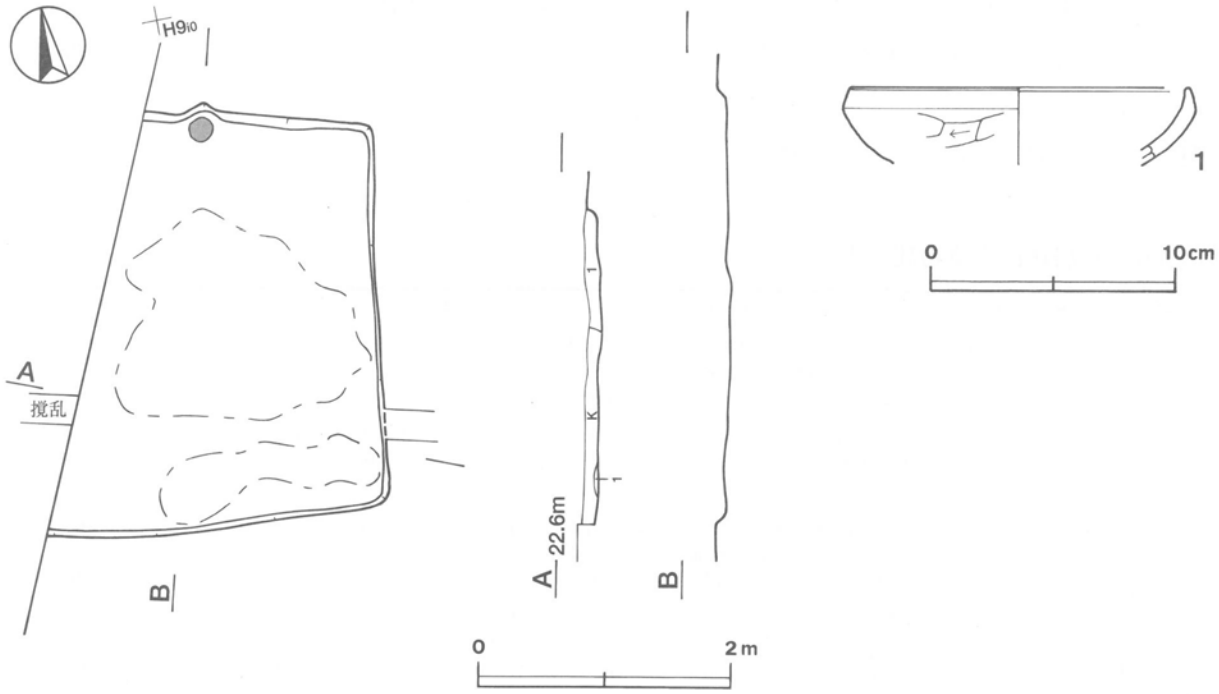
竈　北壁を壁外に８cmほど掘り込んで構築されている。両袖とも遺存していない。北壁際の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており，竈材の一部と考えられる。火床面は径18cmの円形で，火熱を受けて赤変している。

覆土　単一層である。含有物にロームブロックをほとんど含まないことから，自然堆積の可能性が高い。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片24点が出土している。第166図１の土師器坏片は，北東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，７世紀代と考えられる。



第166図　第1456号住居跡・出土遺物実測図

第1456号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第166図 1	坏 土師器	A［13.4］ B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P40229 5％

第1463号住居跡（第167・168図）

位置　調査４区の北部，H10j5区。

規模と平面形　長軸3.38m，短軸3.14mの方形である。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は６～11cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北西壁の中央部を壁外に21cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ97cm，両袖部幅111cmである。火床面は，床面からわずかに掘りくぼめられて浅い皿状を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

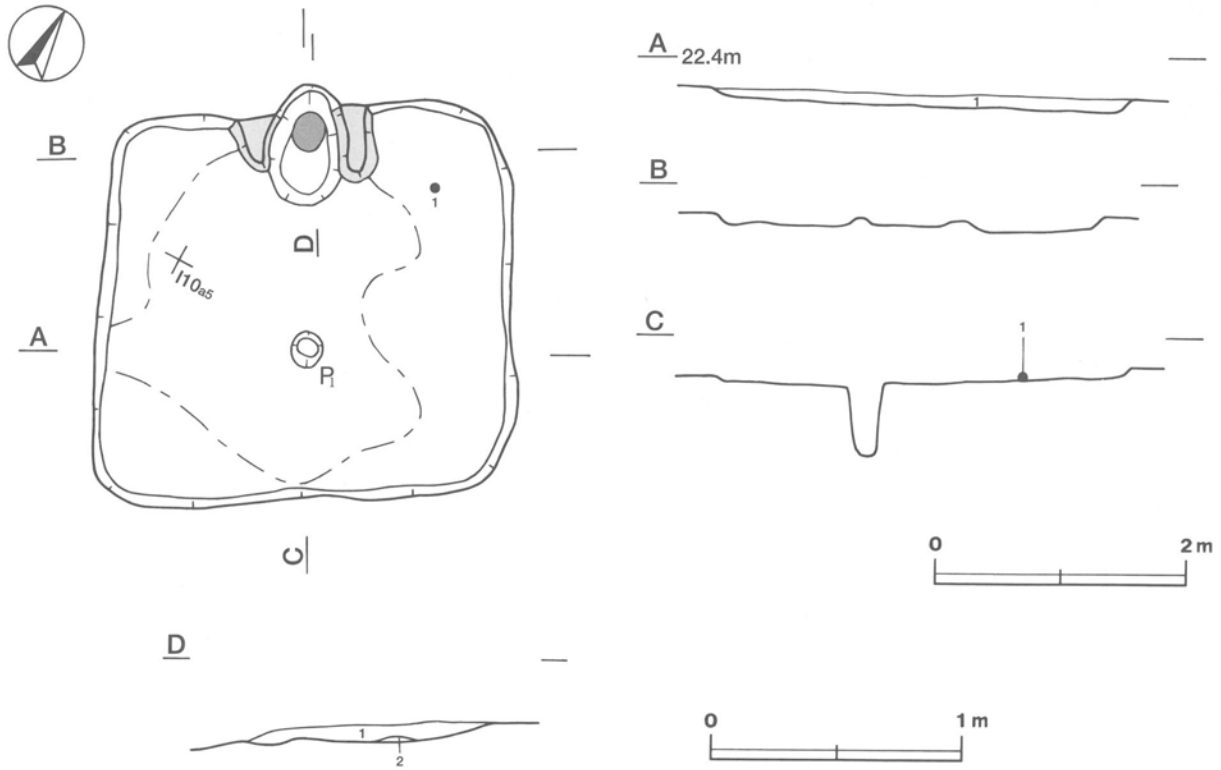
ピット　１か所。Ｐ１は，径24cmのほぼ円形で，深さ58cmである。中央部に位置し，規模から主柱穴の可能性がある。

覆土　単一層である。ローム大ブロックを含んでいることから，人為堆積の可能性がある。

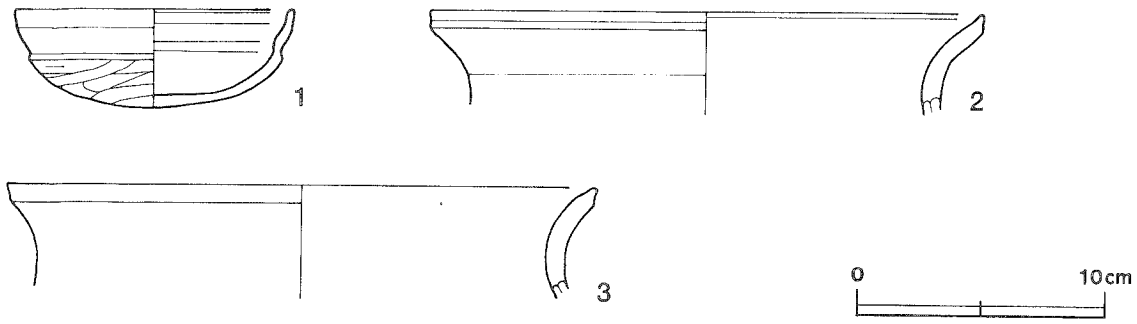
土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片128点，須恵器片４点，撹乱により混入した陶器片２点が出土している。第168図１の土師器坏は，北コーナー付近の床面から正位で出土している。２の土師器甕片は北部の覆土中から，３の土師器甕片は西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から，７世紀後半と考えられる。



第167図　第1463号住居跡実測図



第168図　第1463号住居跡出土遺物実測図

第1463号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第168図 1	坏 土師器	A [11.2] B 3.9	底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P40235 40% PL219
2	甕 土師器	A [22.0] B (4.0)	口縁部の破片。口縁部は外反する。端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40236 5%
3	甕 土師器	A [23.4] B (4.4)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英，褐色，普通	P40237 5%

第1465号住居跡（第169・170図）

位置　調査4区の北部，H10j6区。

重複関係　北東部を第1147号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.28m，短軸3.71mの長方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は12～29cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅8～10cm，下幅4～6cm，深さ6～8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に54cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。袖部や焚口部は，トレンチャーによる撹乱を受けているために，遺存していない。規模は，壁外に掘り込んだ部分の燃焼部幅58cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第2層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。また，第4層から灰が検出され，下面が赤変硬化していることから，第4層の下面が火床面と考えられる。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒・灰少量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

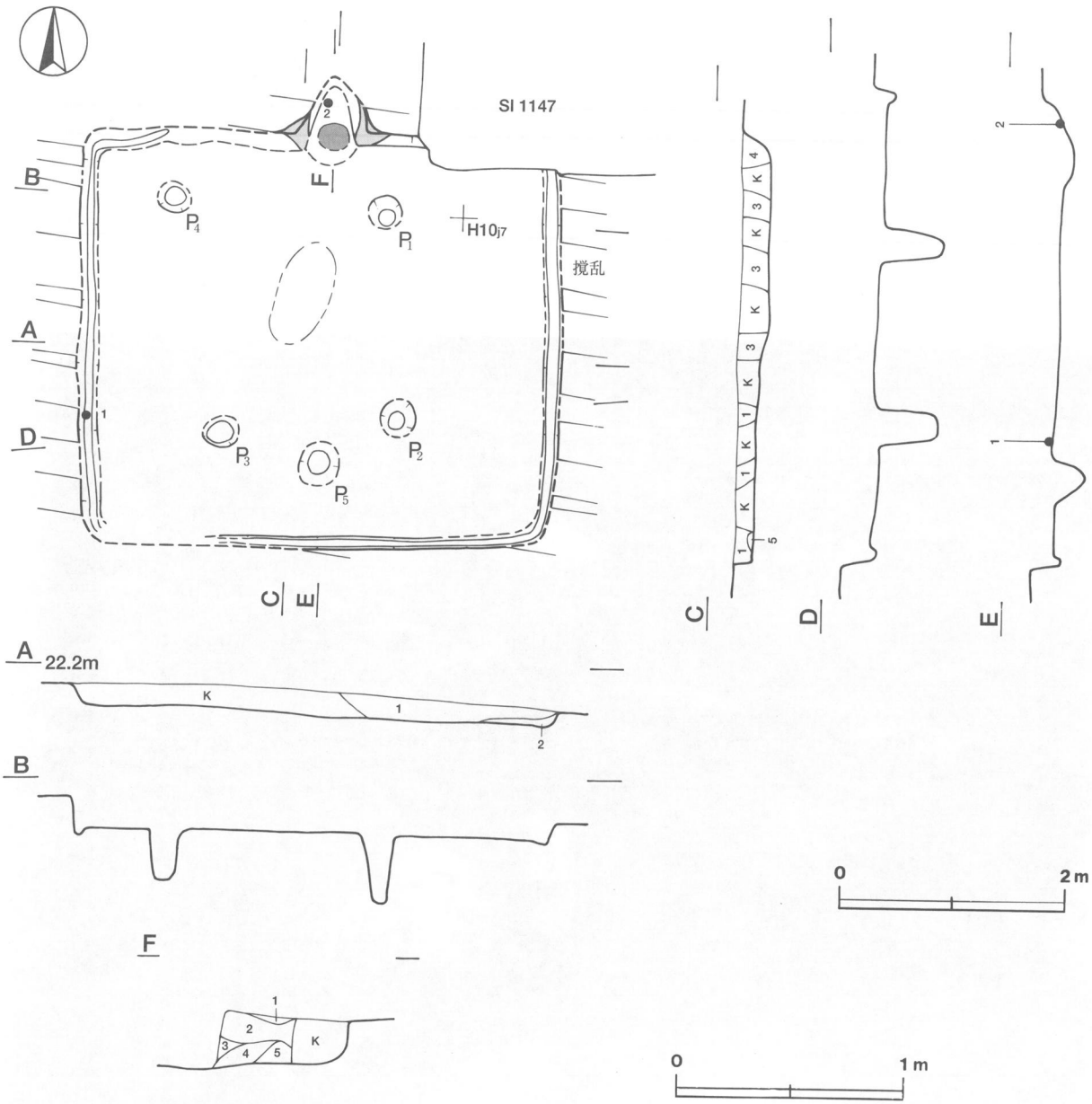
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，径30～34cmのほぼ円形で，深さ46～62cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。P5は，径35cmの円形で，深さ30cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。土層断面図中，第4層は，竈から流出したと考えられる粘土粒子や砂粒を含んでいる。

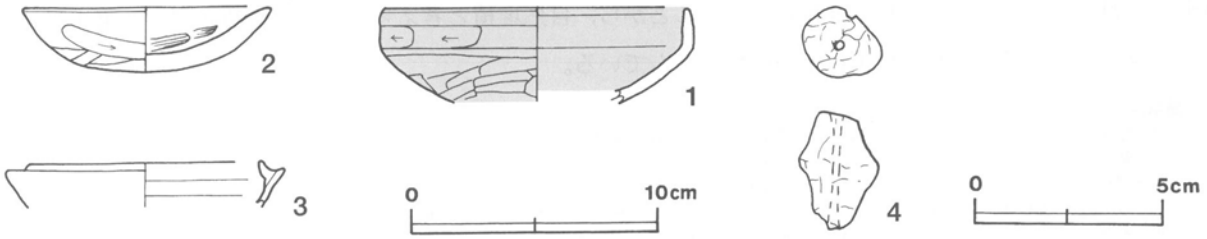
土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　灰 褐 色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片174点，須恵器片1点，土製品1点（管状土錘），撹乱により混入した須恵器片26点が出土している。第170図1の土師器坏片は，西壁際の壁溝から出土している。2の土師器坏は，竈の煙道から正位で出土している。二次焼成を受けた痕跡はない。3の須恵器坏身片は南西部の覆土中から，4の管玉は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から，7世紀中頃と考えられる。



第169図　第1465号住居跡実測図



第170図　第1465号住居跡出土遺物実測図

第 1465 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第170図 1	坏 土師器	A [12.0] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 40242 10%
2	坏 土師器	A 9.8 B 2.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P 40244 90% P L 219
3	坏身 須恵器	A [11.2] B (1.7)	体部から受け部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，受け部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。	長石 黄灰色 普通	P 40243 5 %

図版番号	器　種	計測値				特　徴	胎土・色調	備　考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第170図 4	管　玉	2.1	3.0	0.3	3.2	棗玉状を呈する。雑な指ナデ。	長石・石英，にぶい橙色	D P 40013 90% P L 220

② 奈良・平安時代

第23号住居跡（第171図）

位置 調査４区の南部，K11b1区。

重複関係 本跡が第21・22号住居跡を掘り込み，北東部を第1069号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.16m，短軸3.92mの方形である。

主軸方向 N－14°－W

壁 壁高は16～18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナーを除き，全周している。上幅20～32cm，下幅４～16cm，深さ約10cmで，断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ22cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。東袖部は，第1069号住居に掘り込まれているため，袖の部材の砂質粘土がわずかに残存するだけである。規模は，焚口部から煙道部まで114cm，両袖部は不明である。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第３・４・８・９層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第10層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
3 灰褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
6 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
8 灰褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
9 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
10 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック・砂粒微量
11 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

ピット ４か所（Ｐ１～Ｐ４）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径24～33cmのほぼ円形で，深さ35～63cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

Ｐ１～Ｐ４土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量

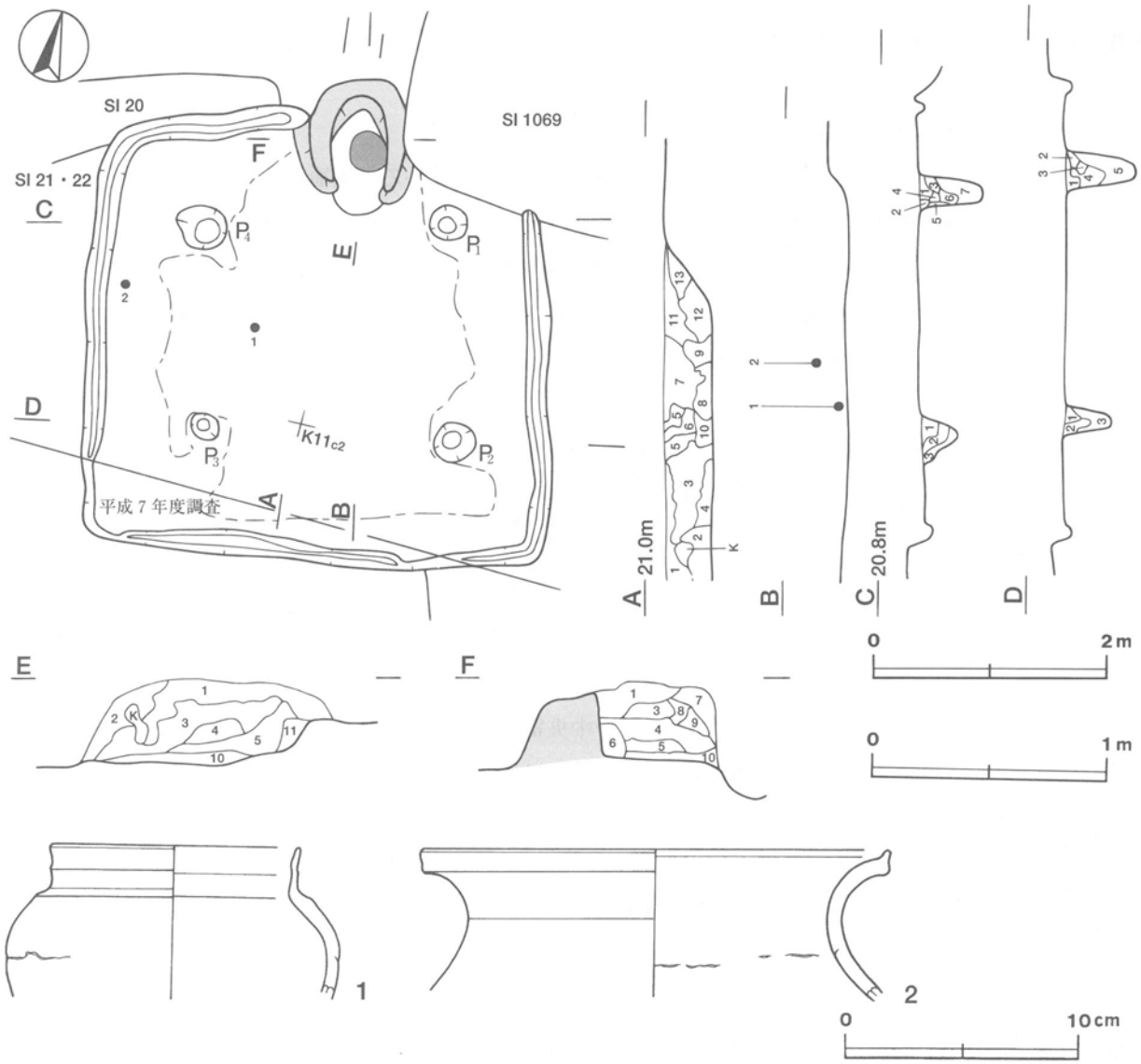
覆土 13層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
7 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
11 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
12 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量

遺物　土師器片662点，須恵器片15点，土製品１点（支脚片）が出土している。第171図１の須恵器短頸壺片は，中央部の覆土下層から出土している。２の土師器甕片は，西壁際の中央部の覆土中層から出土している。出土した土器片は細片が多く，覆土上層から中層にかけて住居跡全体に広がって出土している。本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第171図　第23号住居跡・出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	短頸壺 須恵器	A［10.5］ B（6.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 暗灰黄色 普通	P41013 5%
2	甕 土師器	A［19.8］ B（6.4）	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられ，外面に沈線１条が巡らされている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P41012 5%

第129号住居跡（第172図）

位置　調査４区の北部，I10a9区。平成７年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南部は平成７年度，北部は平成10年度と両年度にまたがった。

重複関係　東部で第130号住居跡を掘り込んでいる。南東部から北東部にかけて第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.01m，短軸3.96mの長方形である。

主軸方向　N－２°－E

壁　壁高は48～55cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の西袖脇から西壁中央部の壁際にかけて検出されている。上幅16～19cm，下幅８～12cm，深さ４～６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，竈の手前から北西部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ52cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで126cm，両袖部幅106cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第２層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。東袖の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。西袖は遺存状態が悪く，袖部の痕跡が残存しているだけである。また，第５層の下面が赤変し，焼土ブロックが多く検出されていることから，火床面と考えられる。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　灰 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
12　褐　　色　ローム粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量
13　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
15　灰 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１・Ｐ２はいずれも径24cmほどの円形，深さ48cmである。それぞれ北東コーナー寄り，北西コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。４本柱を想定した場合のＰ１・Ｐ２に対応するピットは，平成７年度の調査区からは検出されていない。

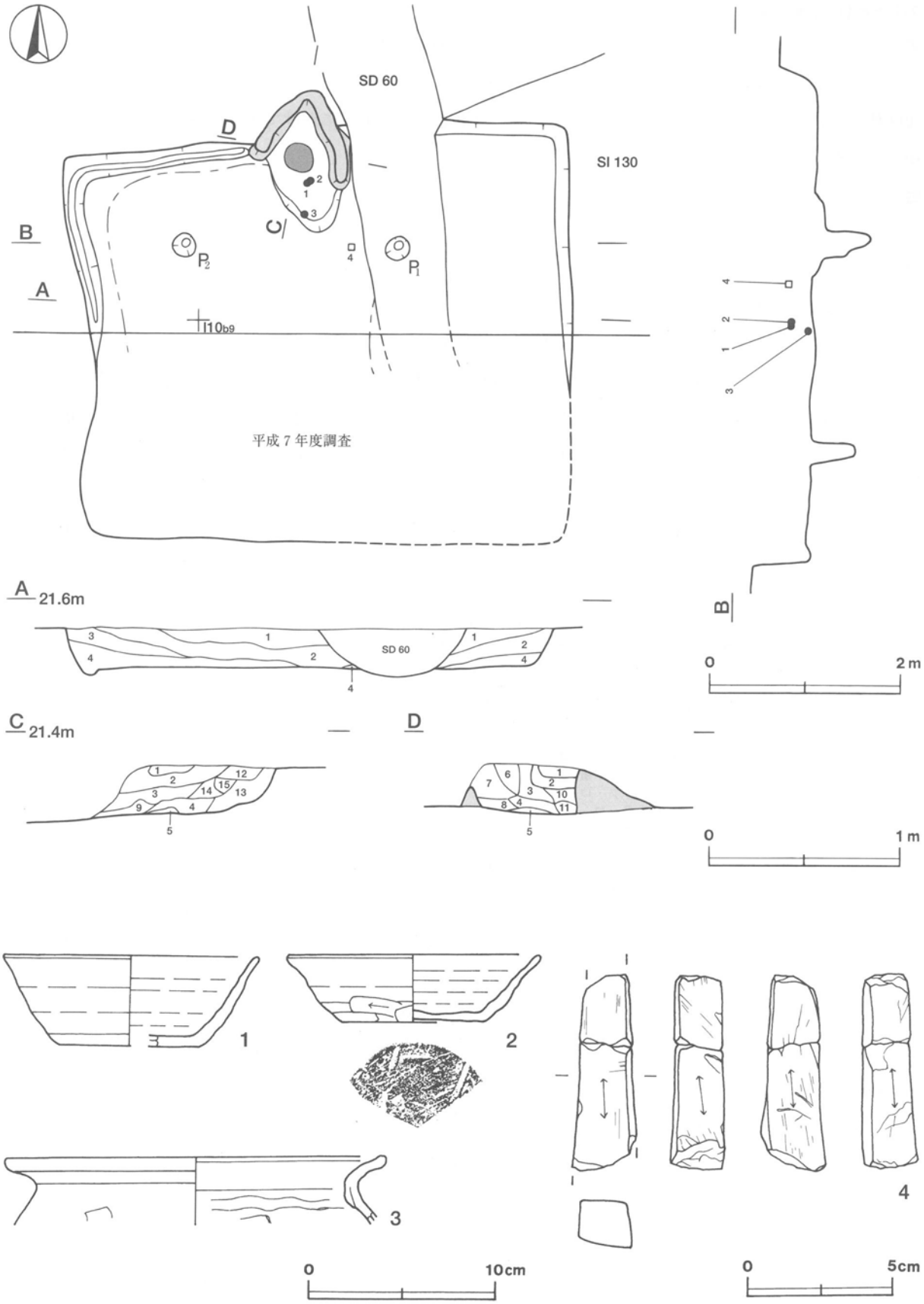
覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　今回の調査で，土師器片124点，須恵器片27点，石器１点（砥石）が出土している。第172図１の須恵器坏片と２の須恵器坏片は，いずれも竈内の覆土中層から出土している。３の土師器甕の口縁部片は，竈内の火床部から出土している。図示した土器はいずれも竈内から出土したものであり，本跡に伴うものと考えられる。４の砥石は竈手前の覆土中層から出土しており，本跡に伴う可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から，８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。



第172図　第129号住居跡・出土遺物実測図

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	坏 須恵器	A [13.4] B 4.7 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P40001 50%
2	坏 須恵器	A [13.0] B 3.5 C [7.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P40002 20%
3	甕 土師器	A [20.0] B (3.6)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は緩やかに屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。頸部内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40003 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第172図 4	砥石	(6.8)	2.1	1.9	(37.2)	凝灰岩	直方体。側面4面を砥面とする。	Q40001 PL239

第954号住居跡（第173・174図）

位置　調査4区の西部，J9h6区。

重複関係　本跡が第956号住居跡の南東部を掘り込み，北西部を第758号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.73m，短軸3.29mの長方形である。

主軸方向　N－93°－E

壁　壁高は20～29cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅20～32cm，下幅4～16cm，深さ4～8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，竈の前から出入り口部にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁の中央部からやや南部寄りを壁外へ60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築している。規模は，焚口部から煙道部まで115cm，両袖部幅145cmである。竈土層断面図中，第5層は焼土粒子を多量に含み，下部が赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　灰　褐　色　ローム粒子・砂質粘土中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子・砂質粘土中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
6　灰　褐　色　ローム粒子・砂質粘土中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

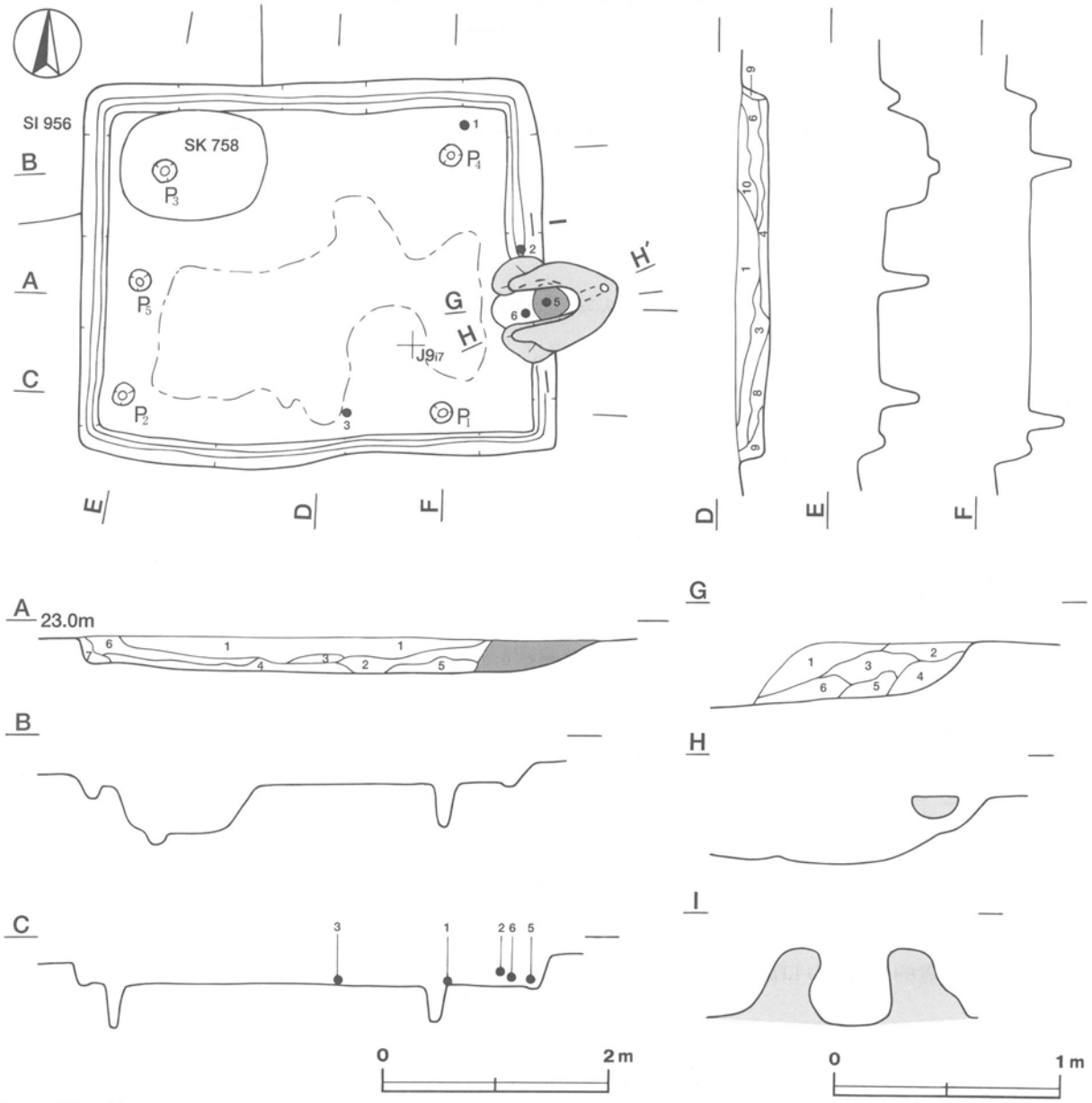
ピット　5か所（P1～P5）。各コーナー部寄りに位置するP1～P4は，径18～21cmの円形で，深さ32～48cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。西壁際の中央部に位置するP5は，径20cmの円形で，深さ44cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。なお，P3は，第758号土坑の下層から検出されている。

覆土　10層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

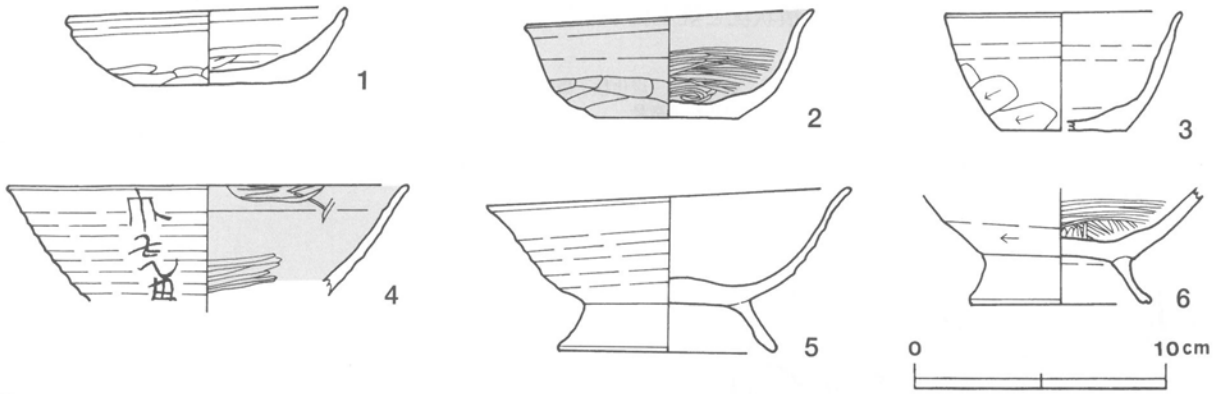
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子中量
8　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片207点，須恵器片26点，陶器片１点が出土している。第174図１の土師器坏は，北東コーナー部の覆土下層から正位で出土している。２の土師器坏は，竈北側壁際の覆土中層から正位で出土している。３の土師器坏は，南壁際の床面から逆位で出土している。北東部の覆土中から出土した４の土師器坏は，体部外面に「ホ之〜田ヵ」と墨書されている。５・６の土師器高台付坏は，竈内から出土している。陶器片は，撹乱によって混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀前葉から中葉と考えられる。



第173図　第954号住居跡実測図



第174図　第954号住居跡出土遺物実測図

第954号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第174図 1	坏 土師器	A 11.0 B 3.1 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P41014 95% PL223
2	坏 土師器	A 11.2 B 4.4 C 5.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41015 70% PL223
3	坏 土師器	A 9.2 B 4.8 C 4.9	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P41016 55% PL223
4	坏 土師器	A [17.6] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部外面ロクナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41019　5% 体部外面に墨書 「巾ヒヘ田」カ
5	高台付坏 土師器	A 14.3 B 6.7 D 8.5 E 2.1	体部・口縁部一部欠損。高台は足高で，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41017 65% PL223
6	高台付坏 土師器	B (4.6) D 7.2 E 2.0	体部一部・口縁部欠損。高台付足高で，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 良好	P41018 40% PL223

第955号住居跡（第175・176図）

位置　調査4区の西部，J9g6区。

重複関係　第956・977号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.63m，短軸2.00mの長方形である。

主軸方向　N－25°－E

壁　壁高は16～24cmで，外傾して立ち上がる。

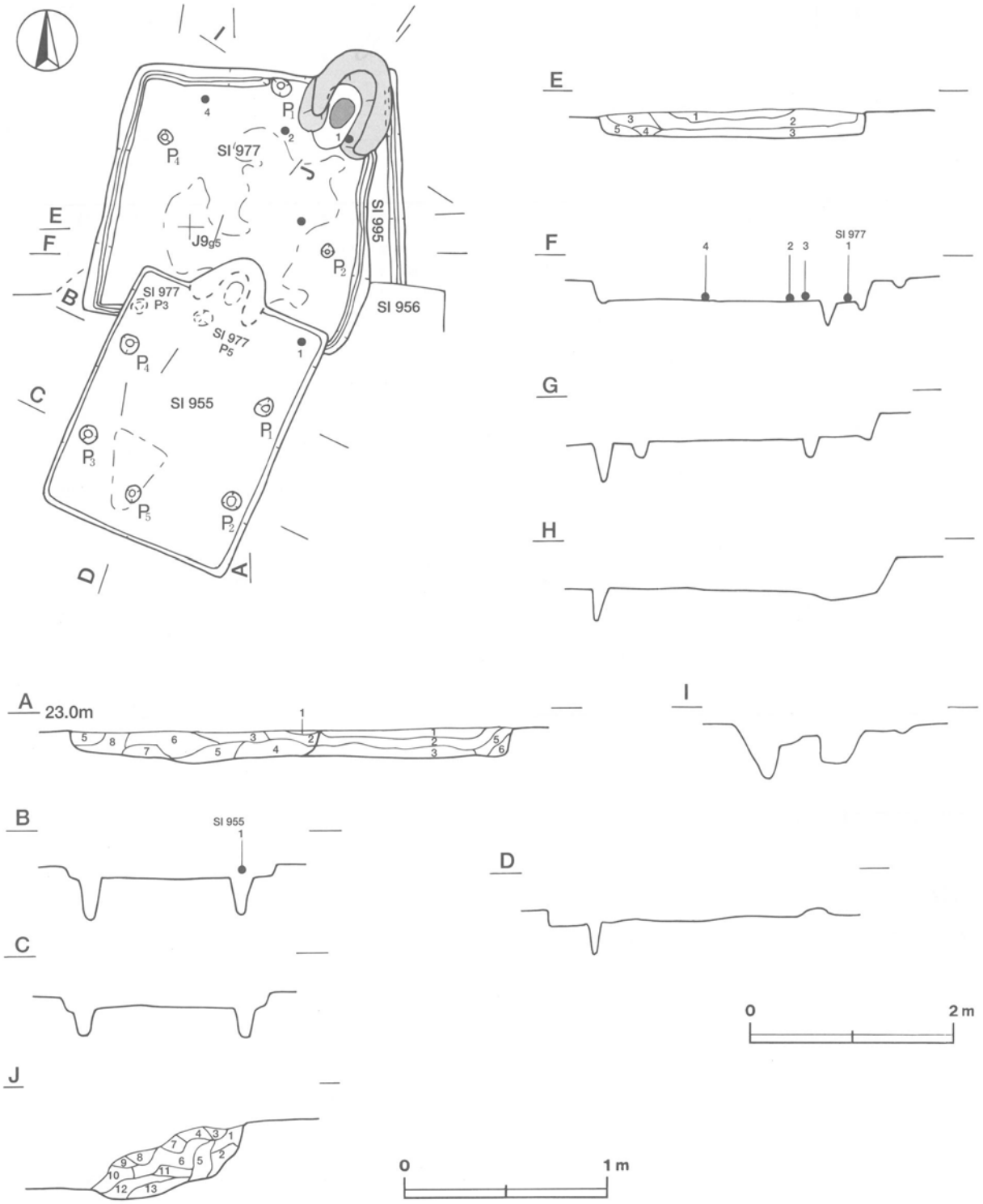
床　ほぼ平坦であり，出入り口施設と考えられるP5付近が踏み固められている。

竈　耕作による撹乱のため，北壁の中央部から袖部の構築材の一部と，火床部のわずかな痕跡が検出されただけである。

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径18～20cmの円形で，深さ25～40cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径17cmのほぼ円形で，深さ24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況と焼土粒子・炭化粒子の含有状況から，人為堆積と考えられる。

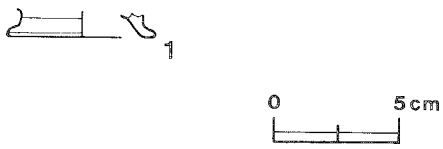
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第175図　第955・977・995号住居跡実測図

6　暗　褐　色　ローム粒子少量・ローム小ブロック微量
7　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片５点が，出土している。出土している土師器片は，いずれも細片である。そのなかから取り上げた第176図の土師器高台付坏の高台部は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。



第176図　第955号住居跡
出土遺物実測図

所見　覆土の堆積状況は確認されたものの，竈については袖部の基部と火床部を確認できたのみであることから，住居廃絶時に竈も壊された可能性が考えられる。本跡の時期は，出土土器が少ないため断定することは困難であるが，10世紀後半以降と考えられる第977号住居跡を掘り込んでいることや須恵器片が全く出土していないこと，土師器坏の高台が小振りなこと等から，10世紀後半以降でもより新しい段階と考えられる。

第955号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第176図 1	高台付坏 土師器	D　5.9 E　1.0	高台部の破片。高台は「ハ」の字状に開く。	高台貼り付け後，内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41020 10%

第965号住居跡（第177・178図）

位置　調査４区の西部，K8a0区。

重複関係　第959・960・966・974・992号住居跡，第54号掘立柱建物跡のＰ４を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.91m，短軸3.62mの長方形である。

主軸方向　N－103°－E

壁　壁高は10～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は，上幅15～26cm，下幅４～８cm，深さ５～７cmで，断面形はU字形である。

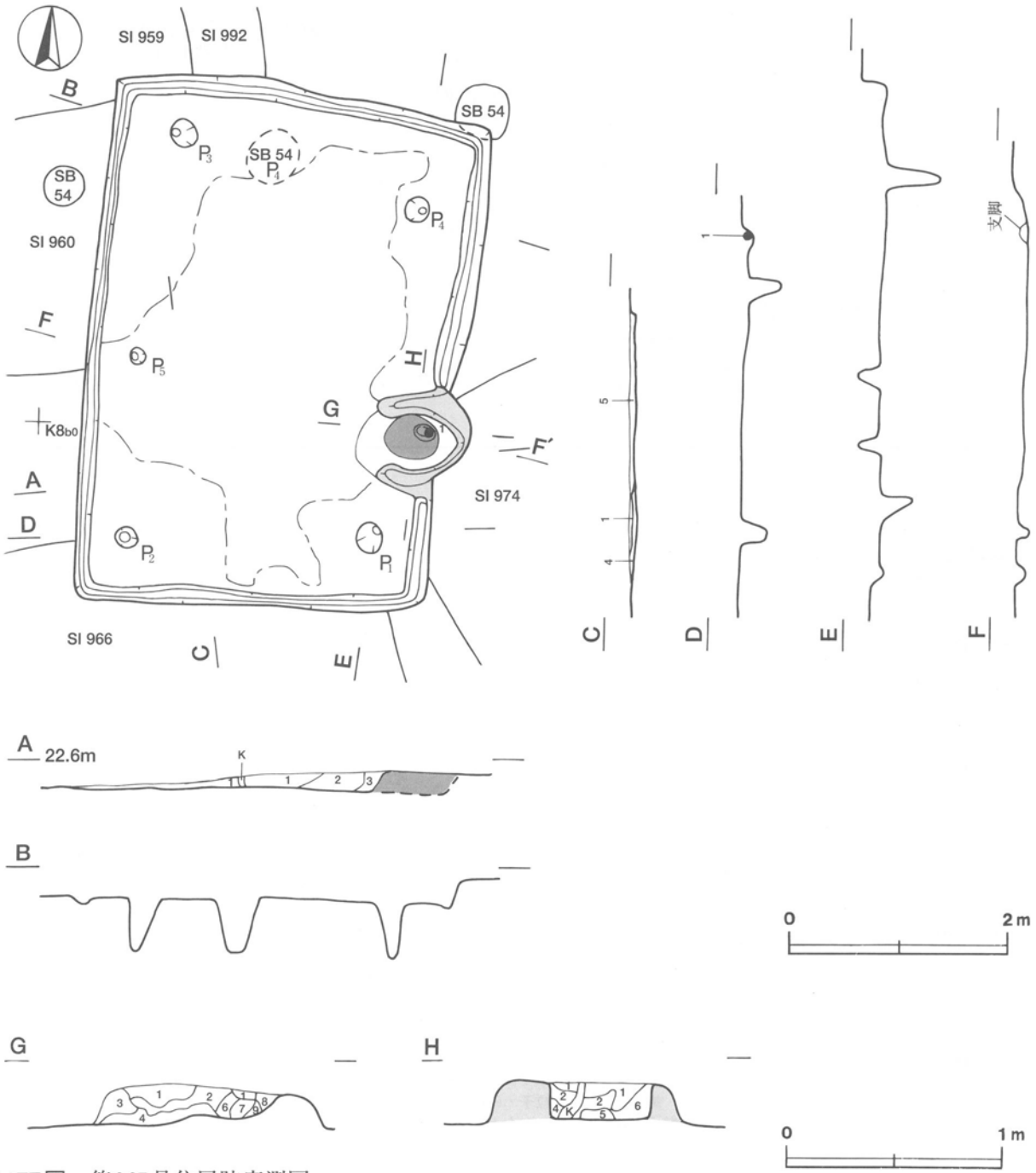
床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　東壁の南東コーナー寄りに，白色の砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，両袖部幅91cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１～３層が砂粒と粘土粒子を比較的多く含んでいることから，天井部の崩落土層と考えられる。第５層は焼土粒子を多量に含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　灰　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
3　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
4　明赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化物・砂粒少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子微量
5　明赤褐色　焼土粒子多量，焼土大・中ブロック微量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土粒子・炭化物・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナー寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径20㎝～25㎝の円形で，深さ27㎝～55㎝である。規模と配置から主柱穴と考えられる。西壁際の中央部に位置するＰ５は，径15㎝の円形で，深さは15㎝である。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

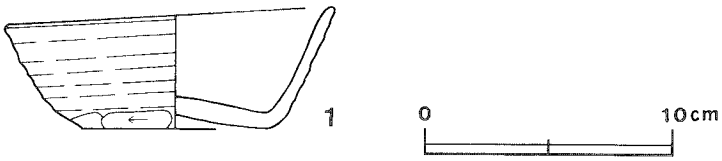


第177図　第965号住居跡実測図

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片56点，須恵器片４点，鉄滓１点が出土している。第178図１の須恵器坏は，竈火床面の直上から逆位で，つぶれた状態で出土している。二次焼成を受けており，支脚に転用されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第178図　第965号住居跡出土遺物実測図

第965号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第178図 1	坏 須恵器	A 13.1 B 4.9 C 7.6	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。底部作り雑。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P41047　40% PL223 二次焼成

第967号住居跡（第179図）

位置　調査４区の西部，K9b6区。

規模と平面形　長軸3.75m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向　N－18°－E

壁　耕作による削平のため，壁の遺存状況が悪い。確認された壁高は最大５cmである。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅６～９cm，深さ５～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前面を中心に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されていたと考えられる。規模は，焚口部から煙道部まで76cm，両袖部幅約85cmと推定される。耕作による削平のため，遺構確認面で火床部と考えられる赤変硬化した焼土と砂質粘土が確認できた。第２層が焼土粒子を多量に含み赤変硬化していることから，火床部と考えられる。

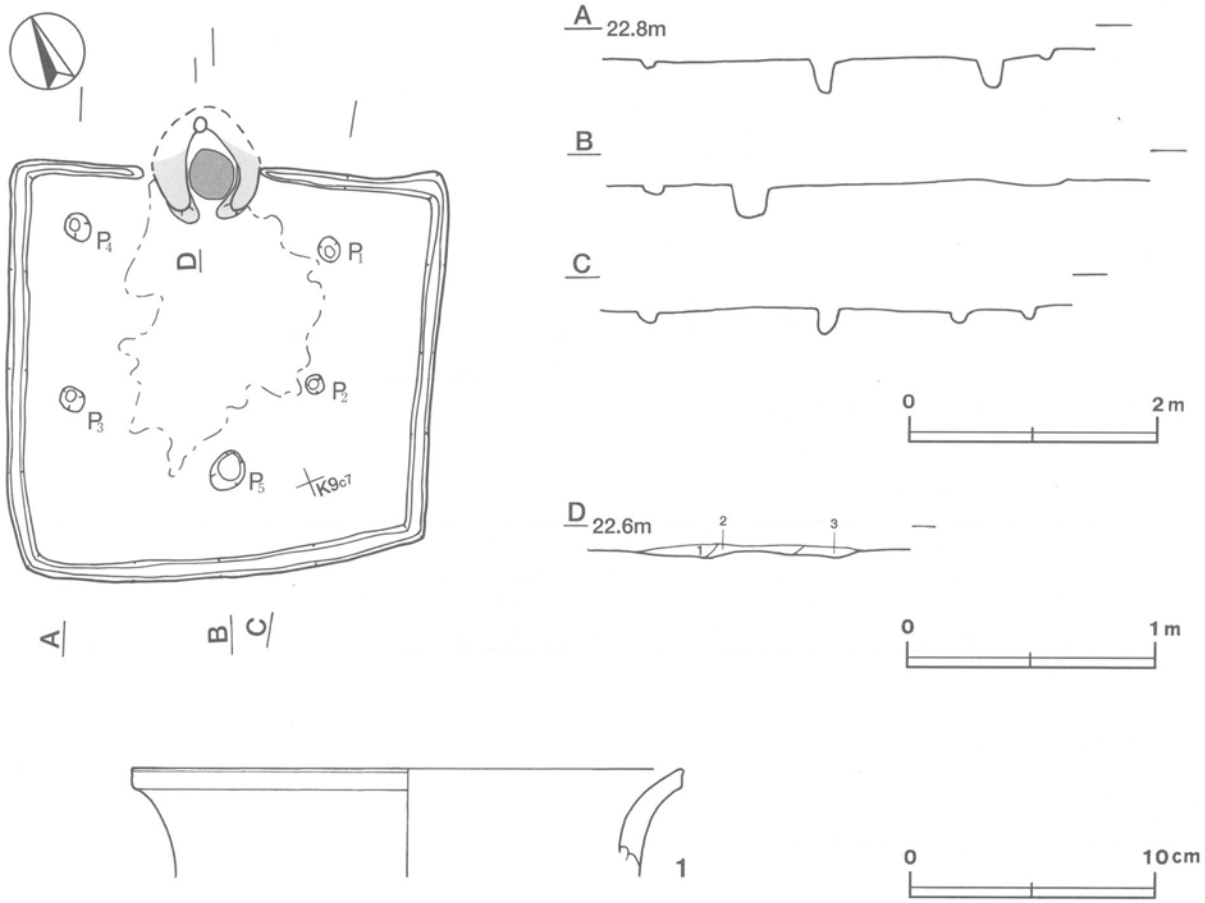
竈土層解説
1　極暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央部寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径16～21cmの円形で，深さ12～30cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁からやや中央部寄りに位置するＰ５は，径29cmのほぼ円形で，深さ27cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物　土師器片18点，土製品１点（支脚）が出土している。第179図１の土師器甕片は，覆土中から出土している。支脚は，小片である。

所見　本跡は床面の一部が露出した状況で検出されたため，覆土の堆積状況は確認できなかった。時期は，出

土土器が小片のため判断は難しい。出土土器に内面黒色処理された土師器片が存在しないことや，当遺跡における住居跡の形状の傾向から8世紀代と推定される。



第179図　第967号住居跡・出土遺物実測図

第967号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第179図 1	甕 土師器	A［22.0］ B（4.3）	口縁部の破片。口縁部は外反し，端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色，普通	P41049 5%

第976号住居跡（第180図）

位置　調査4区の西部，J9g7区。

規模と平面形　長軸4.01m，短軸3.30mの長方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は20～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下の中央部から西壁下を巡り，北壁下と東壁下の一部で確認されている。上幅16～30cm，下幅5～6cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。床面で粘土が2か所確認されている。1か所は，中央部の床面で確認され，平面形が長径約70cm，短径約45cmの不定形で，厚さ約4cmである。もう1か所は，北東部

で確認され，平面形が長径25cm，短径15cmの楕円形で，厚さ約10cmである。

竈　北東コーナー部の北壁を壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，両袖部幅104cmである。竈土層断面図中，第１～３層が，竈材を含む覆土と考えられる。第４・10層は，粘土粒子と砂粒を多量に含んでいることから，崩落土層と考えられる。第12層は焼土を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに外傾し，その後ほぼ直立する。

竈土層解説
1　灰　褐　色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　灰　褐　色　砂粒多量，炭化粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
9　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
10　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化物微量
11　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
12　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。北西コーナー部に位置するＰ１は，長径76cm，短径54cmの楕円形で，深さ27cmである。竈とＰ１の間に位置するＰ２は，長径80cm，短径56cmの楕円形で，深さ14cmである。南壁際で竈の正面に位置するＰ３は，長径74cm，短径56cmの楕円形で，深さ22cmである。Ｐ１～Ｐ３は，ともに形状が似ている。Ｐ３は，位置的に出入り口施設に伴うピットの可能性がある。Ｐ１・Ｐ２は，主柱穴の可能性も考えられるが，性格は不明である。

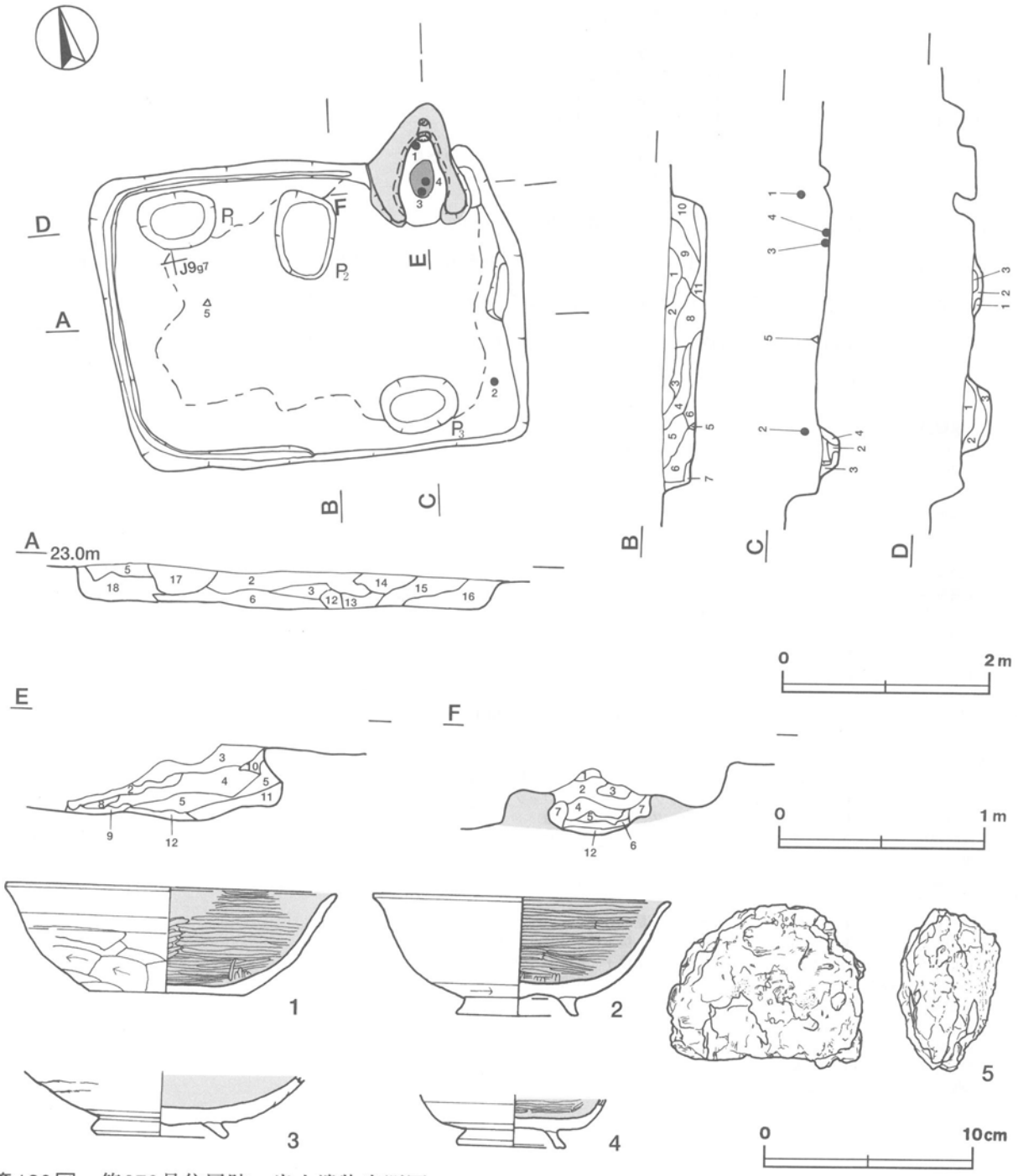
Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
Ｐ２土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
Ｐ３土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量

覆土　18層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量
8　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
12　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
13　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
14　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
15　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
16　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
17　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
18　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片163点，須恵器片56点，鉄滓１点，礫１点が出土している。第180図１の土師器坏は，竈内から逆位で出土している。２の土師器高台付坏は，南東コーナー部寄りの東壁際から出土している。３・４の土師器高台付坏は，竈内から正位で出土している。５の鉄滓は，北西部の床面から出土している。礫は雲母片岩で，長径約20cm，短径約８cm，厚さ5.7cmほどの大きさで，南東部の床面から出土している。

所見　床面で粘土が確認されているが，出土した鉄滓や礫，ピットとの関係は不明である。なお，焼土の塊等は，出土していない。時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第180図　第976号住居跡・出土遺物実測図

第976号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 1	坏 土師器	A [15.8] B 5.0 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部外面上半ロクロナデ。体部外面下半手持ちヘラ削り，内面丁寧なヘラ磨き。底部2方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41072 30% PL223
2	高台付坏 土師器	A [14.2] B 5.6 D 5.8 E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部から内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41073 45% PL223
3	高台付坏 土師器	B (3.1) D 6.2 E 0.8	高台部から体部下位にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部下位は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，下端ヘラ削り。内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P41074 30% PL223 外面剥離
4	高台付坏 土師器	B (2.5) D 5.0 E 0.8	高台部から体部下端にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部下端は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り，内面丁寧な横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P41075 30% PL223 外面剥離

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第180図5	鉄滓	9.4	7.7	4.9	415.0	鉄	錆により赤変。焼土付着。	M41005 100% PL238

第977号住居跡（第175・181図）

位置　調査4区の西部，J9f6区。

重複関係　本跡が第956・995号住居跡を掘り込み，南部を第955号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.16m，短軸2.82mの長方形である。

主軸方向　N－14°－E

壁　南東コーナー部から南西コーナー部までは，第955号住居に掘り込まれているため確認されなかった。確認された壁高は18～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下を巡っている。上幅11～18cm，下幅4～6cm，深さ5～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，ピット5の付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北東コーナー部の北壁を壁外へ34cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで115cm，両袖部幅90cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3・5・6・9層が砂粒・粘土粒子を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第2・7・8層は，焼土粒子・炭化粒子・砂粒を比較的多く含むことから，煙道部の崩落土と推測されれる。第12層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。火床部は，床面から7cmほど皿状に掘り込まれている。煙道は，火床面から外傾して立ち上あがる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
3　灰褐色　焼土粒子・砂粒中量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
5　灰褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　灰褐色　粘土粒子・砂粒・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9　灰褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量

11　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量
12　極 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子中量
13　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

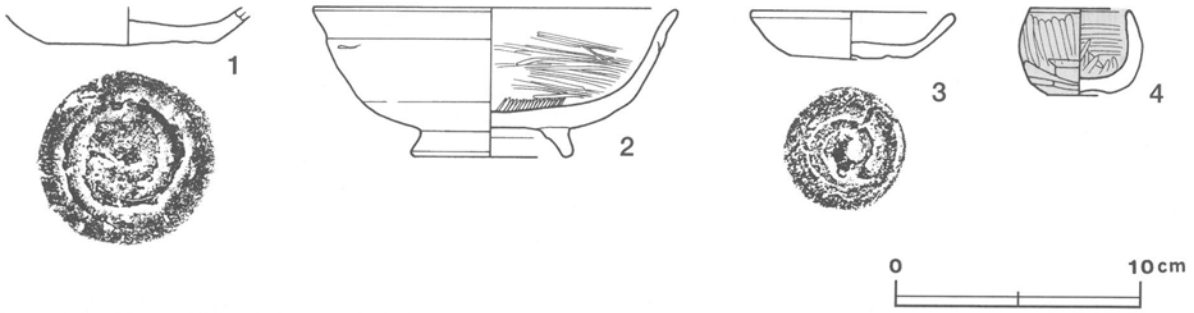
ピット　5か所（P 1～P 5）。竈西側の北壁際に位置するP 1は，径20cmの円形で，深さ25cmである。東壁際の中央部に位置するP 2は，径14cmの円形で，深さ26cmである。南西コーナーからやや中央部寄りに位置するP 3は，径14cmの円形で，深さ25cmである。北西コーナーからやや中央部寄りに位置するP 4は，径15cmの円形で，深さ27cmである。P 1～P 4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP 5は，径16cmのほぼ円形で，深さは31cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化材微量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片62点，須恵器片6点，灰釉陶器1点が出土している。第181図1の土師器坏は，竈東袖端部の床面から逆位で出土している。2の土師器高台付坏は，竈西側の床面から出土した破片と北東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器小皿は，南東部の覆土下層から逆位で出土している。4のミニチュア土器は，北西部の北壁寄りの床面から正位で出土したものである。須恵器片は坏の細片で，混入したものと考えられる。覆土中から出土した灰釉陶器は，瓶類の体部の破片と推定される。細片のため図示は困難である。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第181図　第977号住居跡出土遺物実測図

第977号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第181図 1	坏 土師器	B（1.5） C　6.9	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P41077 20% PL223
2	高台付坏 土師器	A［14.7］ B　5.9 D　6.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41078 30% PL223
3	皿 土師器	A　8.1 B　1.9 C　4.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰色，普通	P41079 30% PL223

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第181図 4	ミニチュア土器 土師器	A 4.1 B 3.4 C 2.5	椀形のミニチュア。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面丁寧なヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 良好	P 41080 100% P L 223

第982号住居跡（第182図）

位置　調査４区の西部，K9c1区。

規模と平面形　南東コーナー部から北西コーナー部まで，全体の約２分の１が調査区域外である。確認された北東コーナー部からの規模は，東西軸4.14m，南北軸3.56mである。方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は12～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下を巡っている。上幅17～24cm，下幅６～８cm，深さ４～６で，断面形はU字形である。

床　確認された範囲はほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ10cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，両袖部幅115cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第４・６・７層が崩落土層と考えられる。第８層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量
2　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
4　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，砂粒微量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量

ピット　１か所。Ｐ１は北東コーナーからやや中央寄りに位置し，径54cmのほぼ円形で，深さ50cmである。規模と配置から主柱穴の一つと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部で検出された。径95cmのほぼ円形で，深さ31cmである。断面形は，「∪」状である。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
6　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量

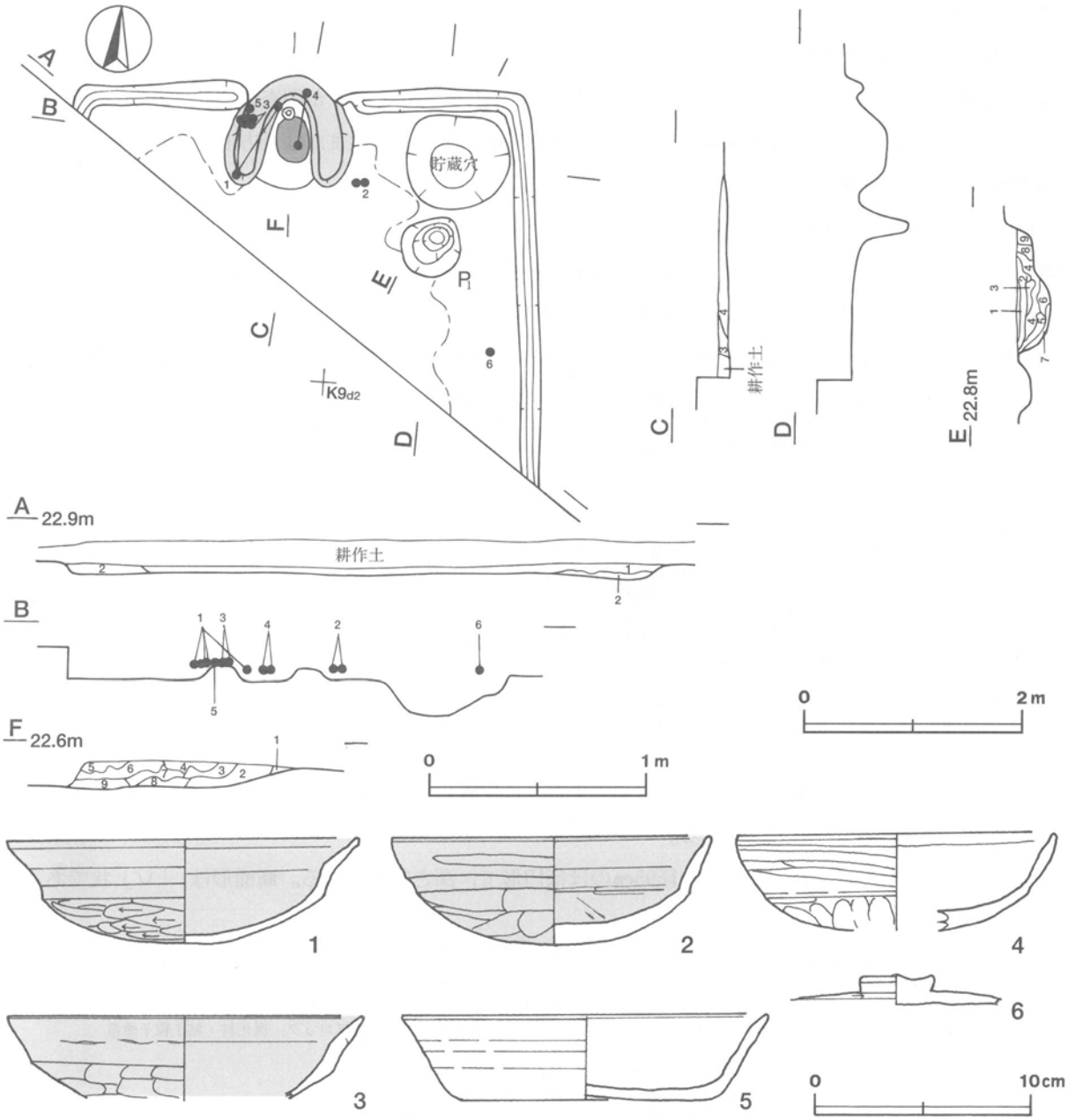
覆土　４層からなる。覆土が薄く，堆積状況が判断できない。第３・４層は竈材の流れの層である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　灰褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　砂粒多量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片179点，須恵器片２点，土製品１点（支脚），陶器片１点が出土している。第182図１～４はすべて土師器坏である。１は，竈の覆土中層から出土した破片が接合したものである。２は，竈の東袖端部の覆土下層から正位で出土している。３の土師器坏と５の須恵器坏は，竈の覆土中層からまとまって出土している。

4は，竈内の煙道部付近から出土した破片である。6の須恵器蓋は，南東部の覆土下層から破片で出土している。陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第182図　第982号住居跡・出土遺物実測図

第982号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第182図 1	坏 土師器	A 16.0 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P41093 95% PL223

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 2	坏 土師器	A 14.5 B 4.9	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に浅い1条の沈線を巡す。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41094 80% PL223
3	坏 土師器	A 16.2 B (3.8)	底部・体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 明赤褐色 普通	P41095 60% PL223
4	坏 土師器	A [14.6] B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	P41096 20% PL223
5	坏 須恵器	A [16.8] B 3.9 C 11.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・石英 暗灰黄色 普通	P41097 20% PL223
6	蓋 須恵器	B (1.4) F 3.2 G 0.9	頂部・つまみの破片。扁平なつまみを有し，頂部は平坦である。	つまみ，頂部内面ロクロナデ。頂部外面回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P41098 15%

第985号住居跡（第183・184図）

位置　調査4区の西部，J10d1区。

重複関係　第979号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径2.82m，短径2.76mの方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は24～28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～32cm，下幅4～8cm，深さ4～7cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで92cm，両袖部幅78cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1～10層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。特に，第6層は火熱を受け赤変し，焼土ブロックでゴツゴツしている。袖部の残存状況は比較的良好であり，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第14～21層が袖部の土層である。袖部の構築について土層断面でみると，第25層のハードロームの地山を掘り下げ，中央部を火床部として作り，両脇に粘土と山砂，ローム土を混ぜた土を重ねるように積み上げて袖を構築したと考えられる。第11・12層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は火床面から緩やかに外傾したのち，ほぼ直立する。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　灰褐色　粘土粒子・砂粒多量
4　灰褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量
7　灰褐色　砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　灰褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　灰褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
10　赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
12　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
13　にぶい赤褐色　砂粒多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
16　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

17　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
18　灰　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化材微量
19　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
20　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
21　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
22　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
23　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
24　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量（貼床）

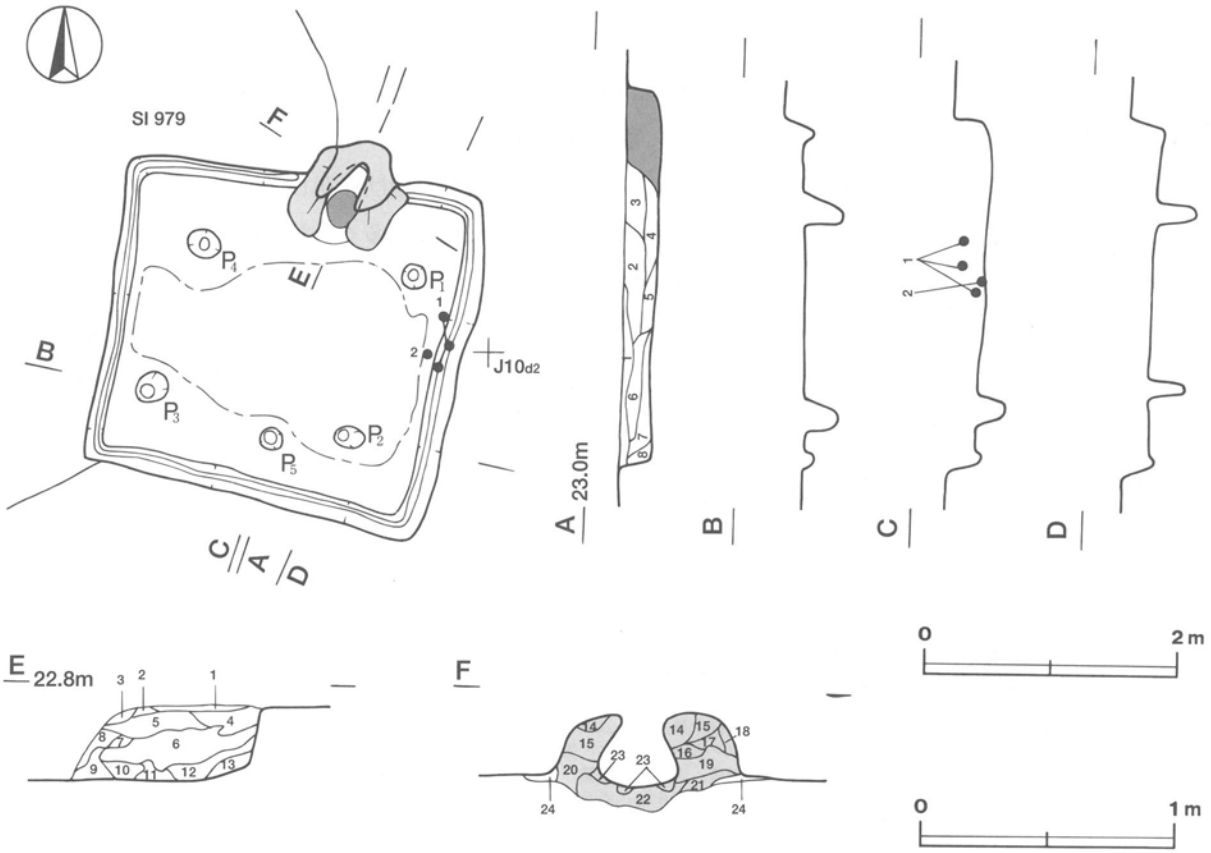
ピット　5か所（P 1～P 5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP 1～P 4は，径19～24cmのほぼ円形で，深さ30～32cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP 5は径18cmのほぼ円形で，深さ22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。第3層は竈材が流れて堆積した層である。

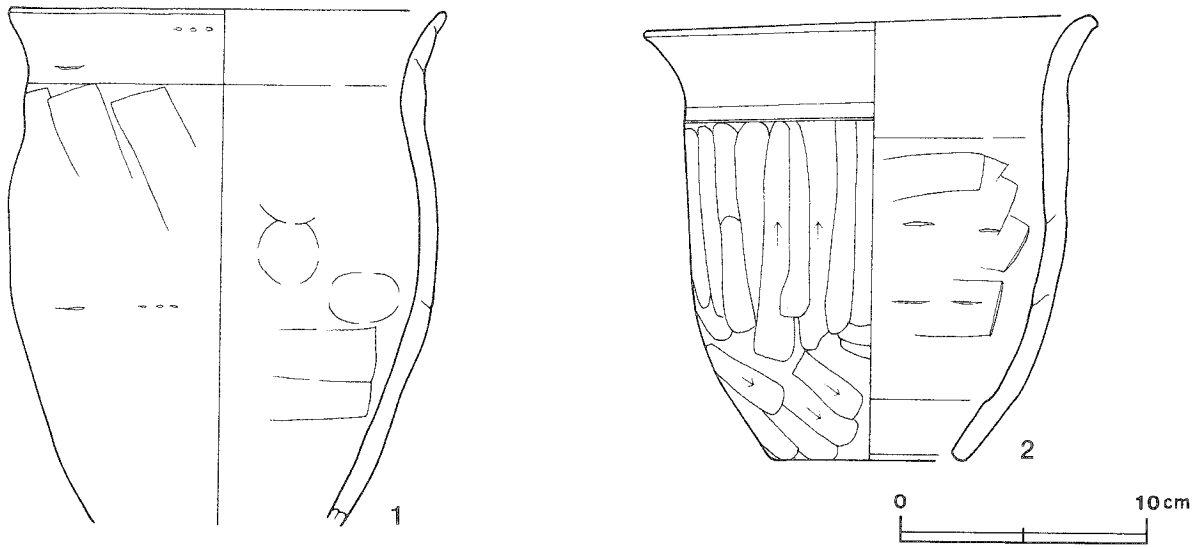
土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片46点，須恵器片2点が出土している。第182図1の土師器甕と2の土師器甑は，東壁際の中央部の床面から集中して出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から7世紀後葉から8世紀前葉と考えられる。



第183図　第985号住居跡実測図



第184図　第985号住居跡出土遺物実測図

第985号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第184図 1	甕 土師器	A [17.4] B (20.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ナデ。体部内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石・石英 橙色，普通	P41102 30%
2	甑 土師器	A 18.1 B 17.7 C 7.7	口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。下位斜位のヘラ削り。体部内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41103 95% PL224

第986号住居跡（第185図）

位置　調査4区の西部，J10i2区。

重複関係　本跡が第987号住居跡を掘り込み，竈から南西部にかけて第1005号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－76°－E

壁　壁高は29～38cmである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　東壁の中央部に煙道部の痕跡と考えられる砂質粘土と，火床部の焼土の一部が残存しているだけである。煙道の掘り方は，ほぼ直立する。

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナー寄りに位置するP1～P4は，径12～16cmの円形で，深さ30～48cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径33cmの円形で，深さは15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

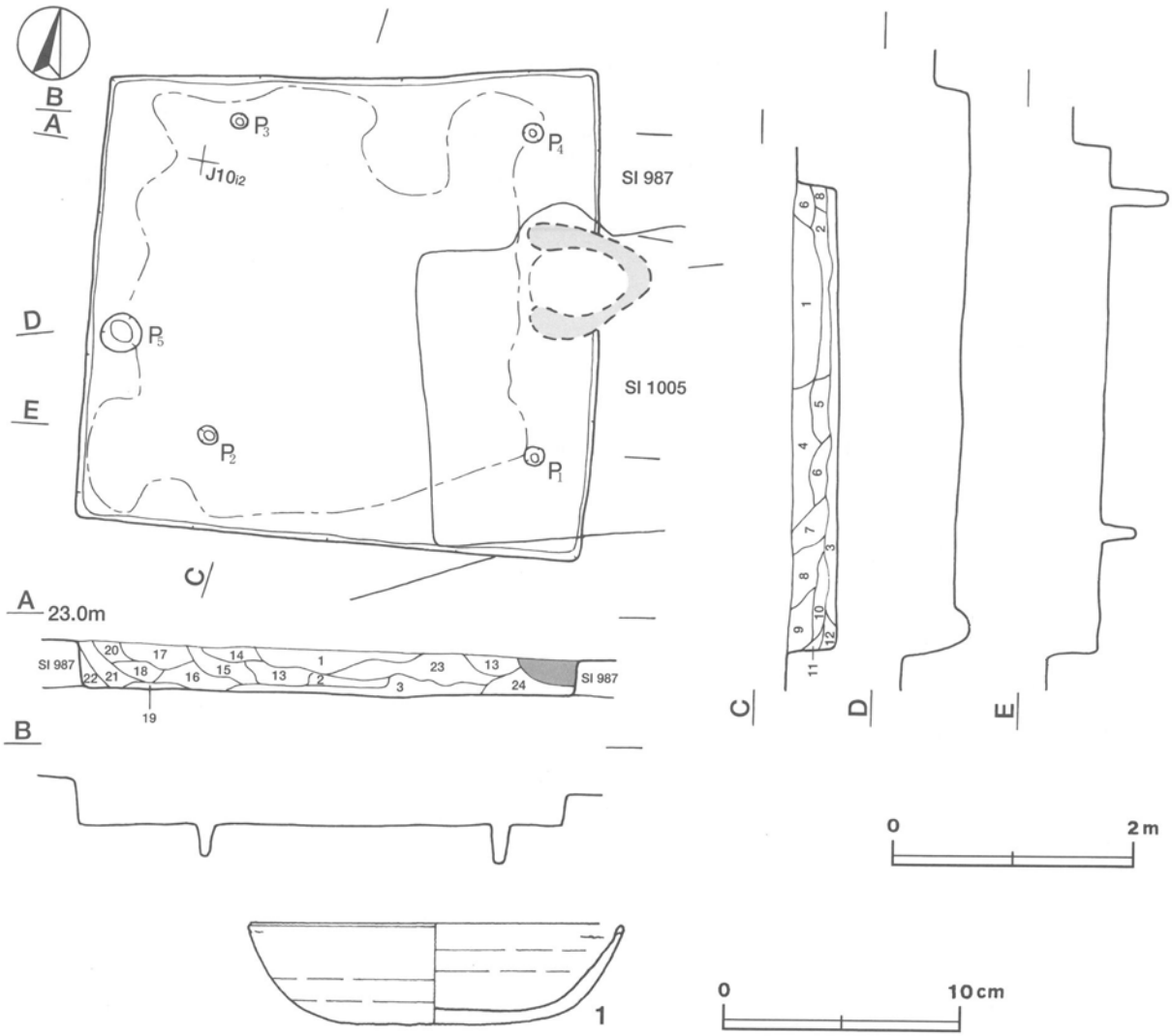
覆土　24層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

7　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
8　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
11　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
13　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，砂粒微量
16　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
17　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
18　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
20　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
21　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
22　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
23　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
24　極暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片７点，須恵器片８点が出土している。第185図の須恵器坏片は，南東部の覆土中から出土したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から８世紀前半と考えられる。



第185図　第986号住居跡・出土遺物実測図

第986号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第185図 1	坏 須恵器	A [15.2] B 4.1 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	P41104 20%

第988号住居跡（第186・187図）

位置　調査4区の西部，K10a2区。

重複関係　北東部から西壁にかけて二分するように，第59号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　東部が未調査区域に位置しているため全容は不明である。確認されたのは南北軸4.52m，東西軸3.55mである。方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－3°－W

壁　確認された壁の高さは20～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅15～28cm，下幅4～10cm，深さ5～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。一部は掘り込まれて確認できないものの，全体的に踏み固められている。

竈　焚口部と東袖の端部は，第59号溝に掘り込まれている。北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで約110cmと推定され，両袖部幅140cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂粒を比較的多く含む第1～4層が，崩落土層と考えられる。袖部は良好に遺存しており，土層断面でみると，第22層のハードロームの地山を基礎にして，粘土と砂，ローム土を混ぜた部材をブロック状に積み重ねて第17～21層の袖部を構築したと考えられる。第13層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　明赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物・粘土粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量
9　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量
14　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量
16　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，粘土粒子・灰微量
17　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
18　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
19　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
20　灰褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
21　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
22　褐色　ローム地山
23　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム大ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
24　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
25　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット　9か所（P1～P9）。南西コーナー寄りに位置するP1は，径68cmの円形で，深さ47cmである。規模と配置から主柱穴の一つと考えられる。南壁際の竈の正面に位置するP2は，径38cmの円形で，深さ35cmである。規模と位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3～P9は，径18～22cmのほぼ円形で，深

さ15～40cmである。壁溝中に並ぶように位置し，壁柱穴と推定される。

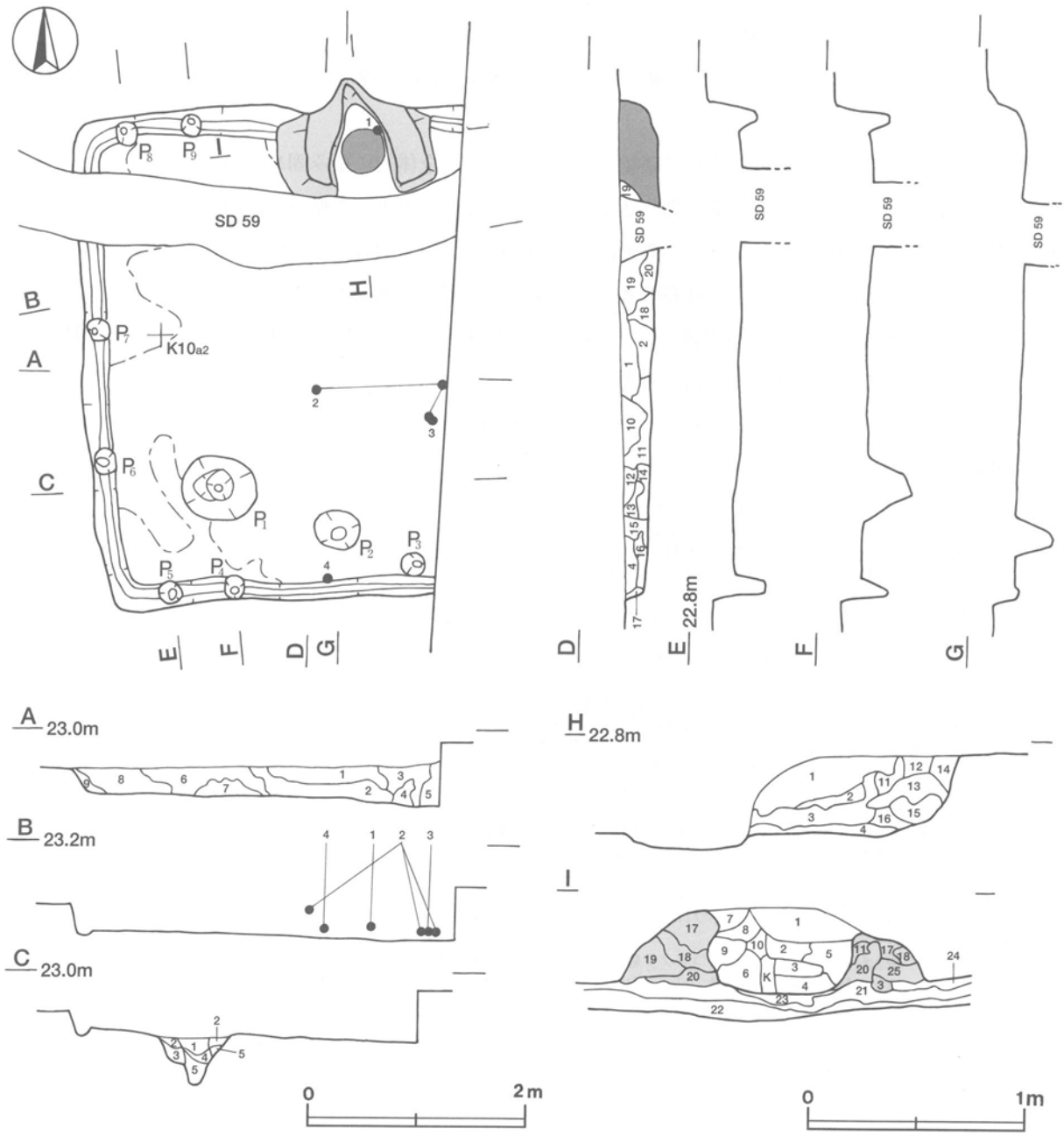
P 1 土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量

覆土　20層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

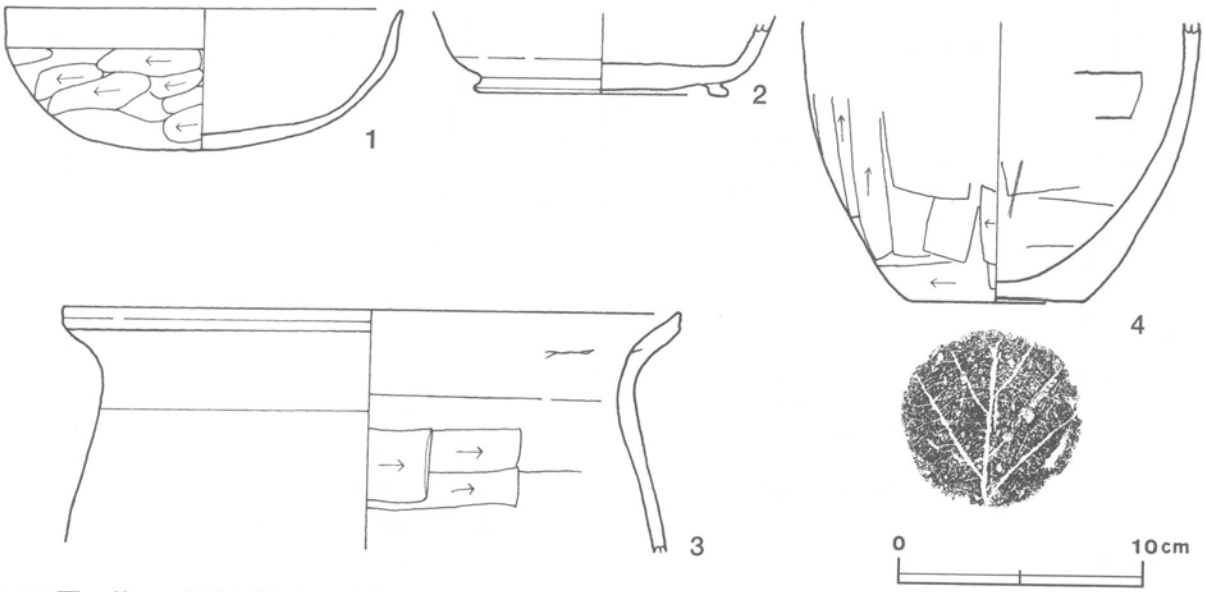


第186図　第988号住居跡実測図

6　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
13　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
14　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
15　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
16　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
17　褐　　色　ローム粒子多量
18　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
20　灰　褐　色　砂粒多量，ローム粒子少量

遺物　土師器片217点，須恵器片18点が出土している。第187図１の土師器坏は，竈の覆土から逆位で出土している。２の須恵器高台付坏は，中央部から南東部にかけての覆土中・下層から出土した破片が接合したものである。３の土師器甕は，南東部の覆土下層から出土している。４の土師器甕は，Ｐ５と南壁の間の覆土下層から正位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第187図　第988号住居跡出土遺物実測図

第988号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第187図 1	坏 土師器	A［16.0］ B　5.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P41122 30% PL224
2	高台付坏 須恵器	B（2.9） D［10.2］ E　0.6	高台部から体部下半にかけての破片。底部は平底で，ハの字状に開く低い高台が付く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P41125 10% PL224
3	甕 土師器	A［24.8］ B（9.5）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石 橙色 普通	P41123 20% PL224
4	甕 土師器	B（11.2） C　7.2	底部から体部下半にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り，下端横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41124 20% PL224

第989号住居跡（第188図）

位置　調査４区の西部，K10a1区。

重複関係　東壁の北東コーナー寄りから北壁の中央部にかけて，第59号溝に掘り込まれている。

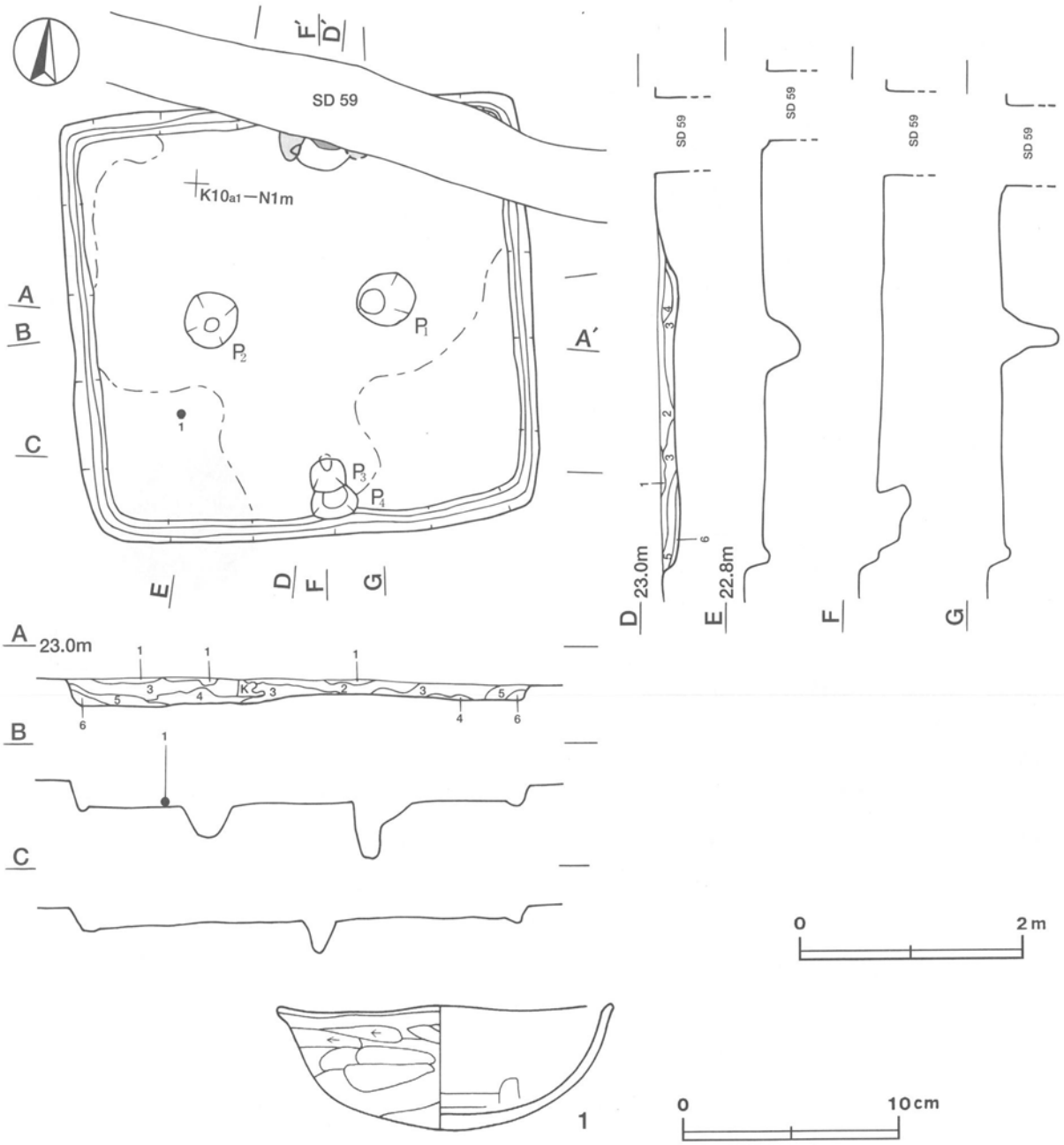
規模と平面形　長軸4.18m，短軸3.86mの長方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は10～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと推定される。上幅18～28cm，下幅４～９cm，深さ４～５cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。一部を掘り込まれているものの，南東・南西コーナー部を除いて全体的に踏み固められている。



第188図　第989号住居跡・出土遺物実測図

竈　第59号溝に掘り込まれているため，東袖の一部と火床部の焼土が残存しているだけである。袖の構築材は，砂質粘土である。

ピット　4か所（Ｐ１～Ｐ４）。中央部にほぼ東西に並んで位置するＰ１とＰ２は，それぞれ径50cmと径46cmの円形で，深さ52cmと32cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に南北に重複して位置するＰ３とＰ４は，それぞれ径29cmと径41cmのほぼ円形で，深さ31cmと23cmである。規模と位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片72点，須恵器片1点，炭化材3点が出土している。第188図1の土師器坏は，南西部の覆土下層から逆位で出土している。炭化材3点は，南壁際のＰ４付近の覆土中・下層から出土している。形状は，長さ15～22cm，幅7～11cm，厚さ5～10cmほどの棒状である。出入り口施設に伴うものかどうかは，不明である。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第989号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第188図 1	坏 土師器	A　15.2 B　6.2	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P41126 80% PL224

第993号住居跡（第189～191図）

位置　調査4区の西部，J9i0区。

重複関係　第987号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.60mの方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は32～38cmで，外傾して立ち上がる。

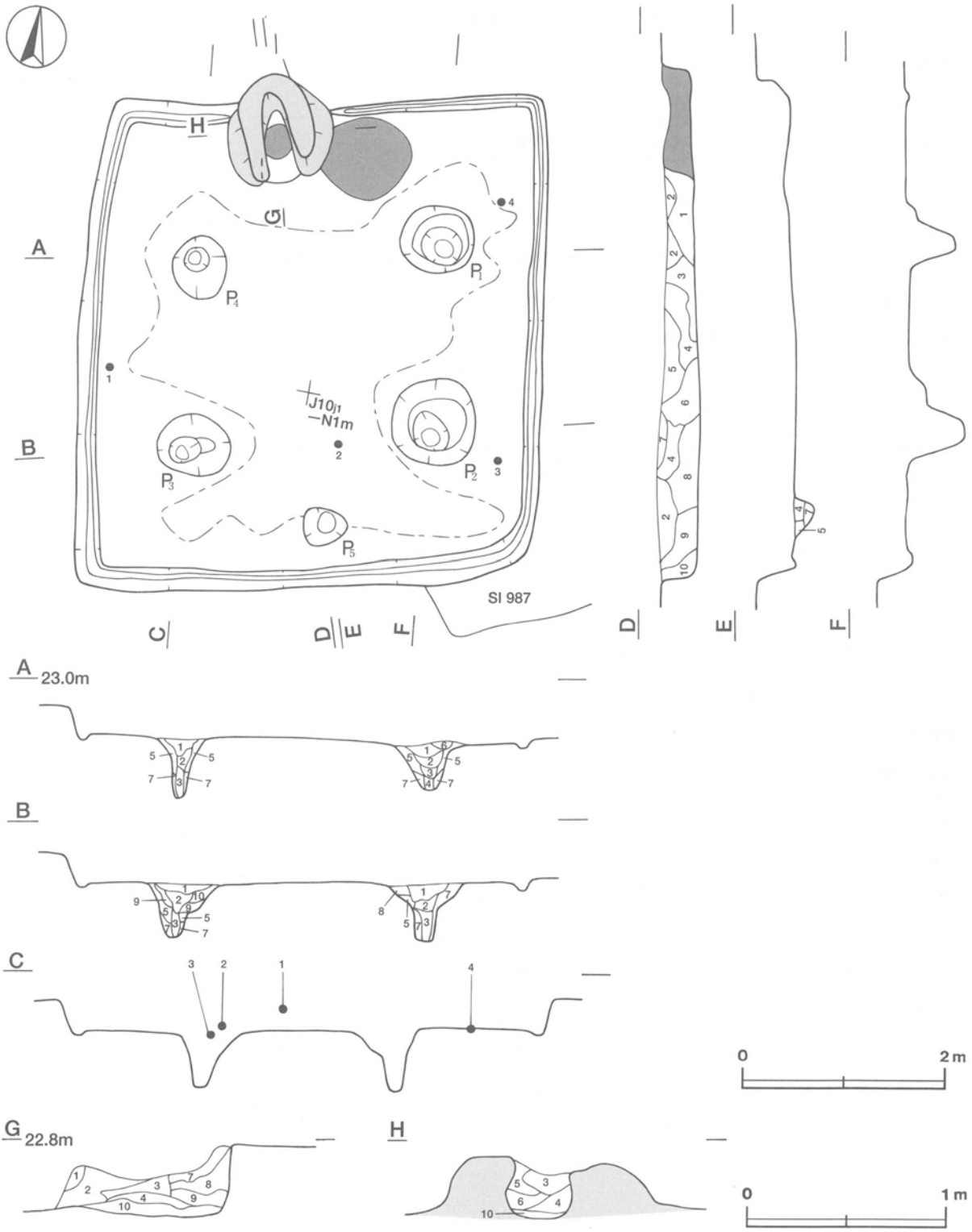
壁溝　全周している。上幅12～26cm，下幅4～8cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部を踏み固められている。竈の東側の床面上に径約70cmのほぼ円形で，厚さ約8cmほどの焼土の堆積が検出された。焼土は，板状に硬くしまっていたものの，性格は不明である。

竈　北壁の中央部からやや西寄りを壁外へ26cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで106cm，両袖部幅109cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2～4・7・8層が崩落土層と考えられる。特に，第3・4層は火熱を受け赤変し，焼土ブロックでゴツゴツしている。第10層は焼土小ブロック・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面からほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック微量

3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
4　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒少量・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材微量
7　灰　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量



第189図　第993号住居跡実測図

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径57～87cmのほぼ円形で，深さ51～61cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径38cmの円形で，深さ24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P5土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子多量
8　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
10　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

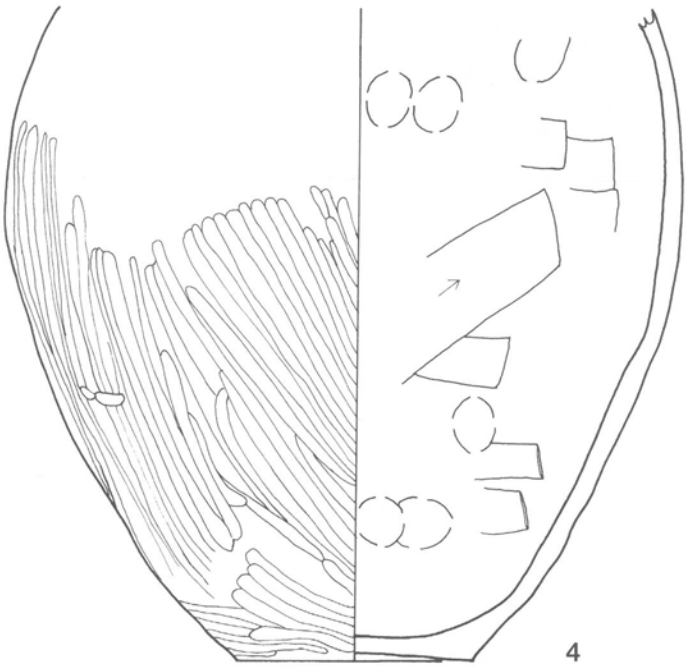
覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

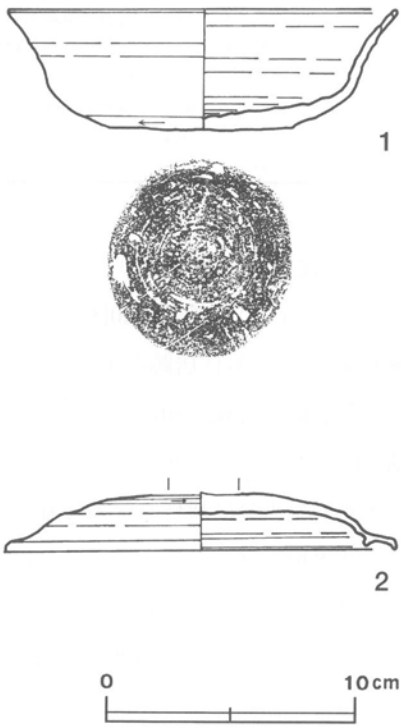
土層解説

1　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
9　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

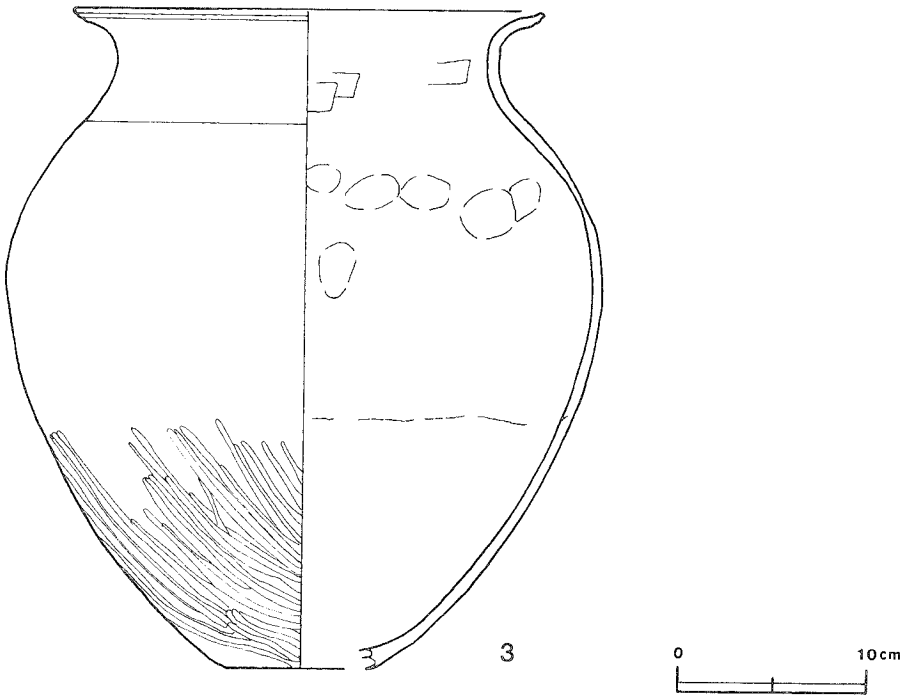
遺物　土師器片136点，須恵器片10点，不明鉄製品1点が出土している。第190・191図1の須恵器坏は，西壁際の中央部の覆土中層から逆位で出土している。2の須恵器蓋は，中央部やや南壁寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。3と4の土師器甕は，それぞれ南東部と北東部の東壁際の床面からつぶれた状態で出土している。鉄製品は，小片のため器種が不明である。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀末から8世紀前葉と考えられる。





第190図　第993号住居跡出土遺物実測図（1）



第191図　第993号住居跡出土遺物実測図（2）

第993号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第190図 1	坏 須恵器	A [15.6] B 4.8 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P41134 40% PL224
2	蓋 須恵器	A [15.8] B (2.3)	天井部の破片。天井部は笠形を呈している。口縁部内面に短いかえりが付く。	天井部外面回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P41135 60% PL224
第191図 3	甕 土師器	A [24.3] B 34.5 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半斜位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P41115 40% PL224
第190図 4	甕 土師器	B (26.1) C 9.4	底部から体部上位にかけての破片。体部は倒卵形を呈する。	体部外面上半ナデ，下半縦位と斜位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石・石英 灰黄褐色，普通	P41119 40% PL224

第996号住居跡（第192図）

位置　調査4区の西部，J9d0区。

重複関係　第979号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.80m，短軸2.70mの方形である。

主軸方向　N－6°－E

壁　東壁の南半分は耕作による撹乱のため確認されなかった。壁高は最大16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

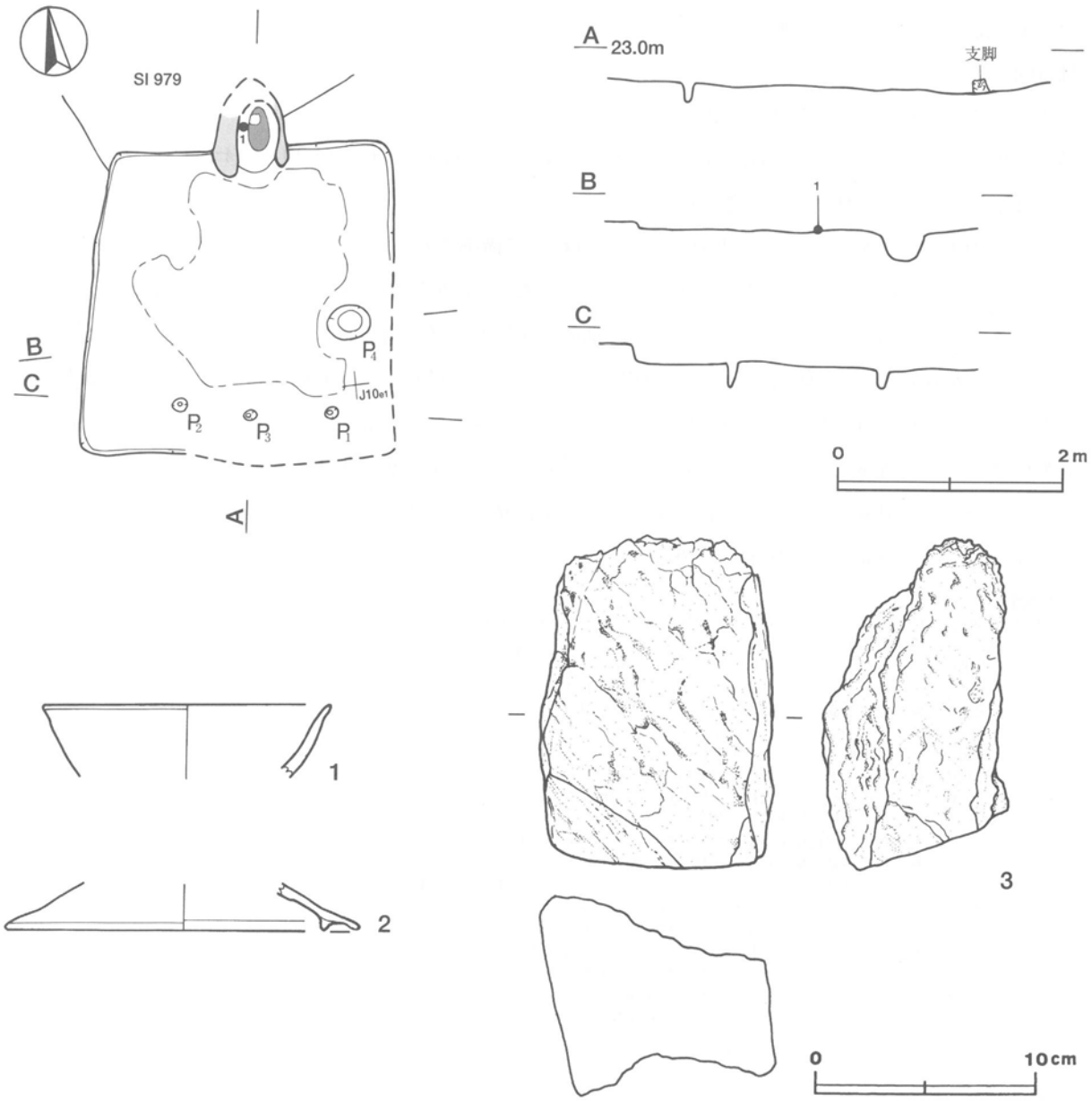
竈　北壁の中央部に，砂質粘土で構築されている。煙道部・両袖の端部は耕作による撹乱を受けおり，確認できなかった。規模は，両袖部幅65cmで，焚口部から煙道部までは76cmが確認されただけである。火床部は床面から2cmほど皿状に掘りくぼめられており，火床面は赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。火床部からは石製の支脚が使用されていたままの状態で出土している。

ピット　4か所（P 1～P 4）。南東コーナーからやや中央寄りに位置するP 1は，径11cmの円形で，深さ16cmである。南西コーナーからやや中央寄りに位置するP 2は，径11cmの円形で，深さ21cmである。P 1・P 2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP 3は，径12cmの円形で，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。東壁際にあるP 4は長径38cm，短径29cmの楕円形で，深さは24cmである。主柱穴の可能性も考えられるが，性格は不明である。

覆土　床面が部分的に露出した状態で検出されたため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片3点，須恵器片6点，石製品1点（支脚）が出土している。第192図1の土師器坏は，火床面から破片で出土している。2の須恵器蓋片は，北東部の覆土中から出土している。3の支脚は，火床面直上から立位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第192図　第996号住居跡・出土遺物実測図

第996号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第192図 1	坏 上師器	A [13.0] B (3.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色，普通	P41139 10%
2	蓋 須恵器	A [16.0] B (2.2)	口縁部の破片。口縁部内面に短いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色，普通	P41140 5%

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第192図3	支脚	14.7	10.5	8.9	1580	閃緑岩	わずかに赤変し，脆くなっている。	Q41011 95% PL239

第997号住居跡（第193～195図）

位置　調査4区の西部，J10h4区。

重複関係　第998号住居跡の北東部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸5.80mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は27～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～31cm，下幅4～6cm，深さ5～9cmで，断面形はU字形である。

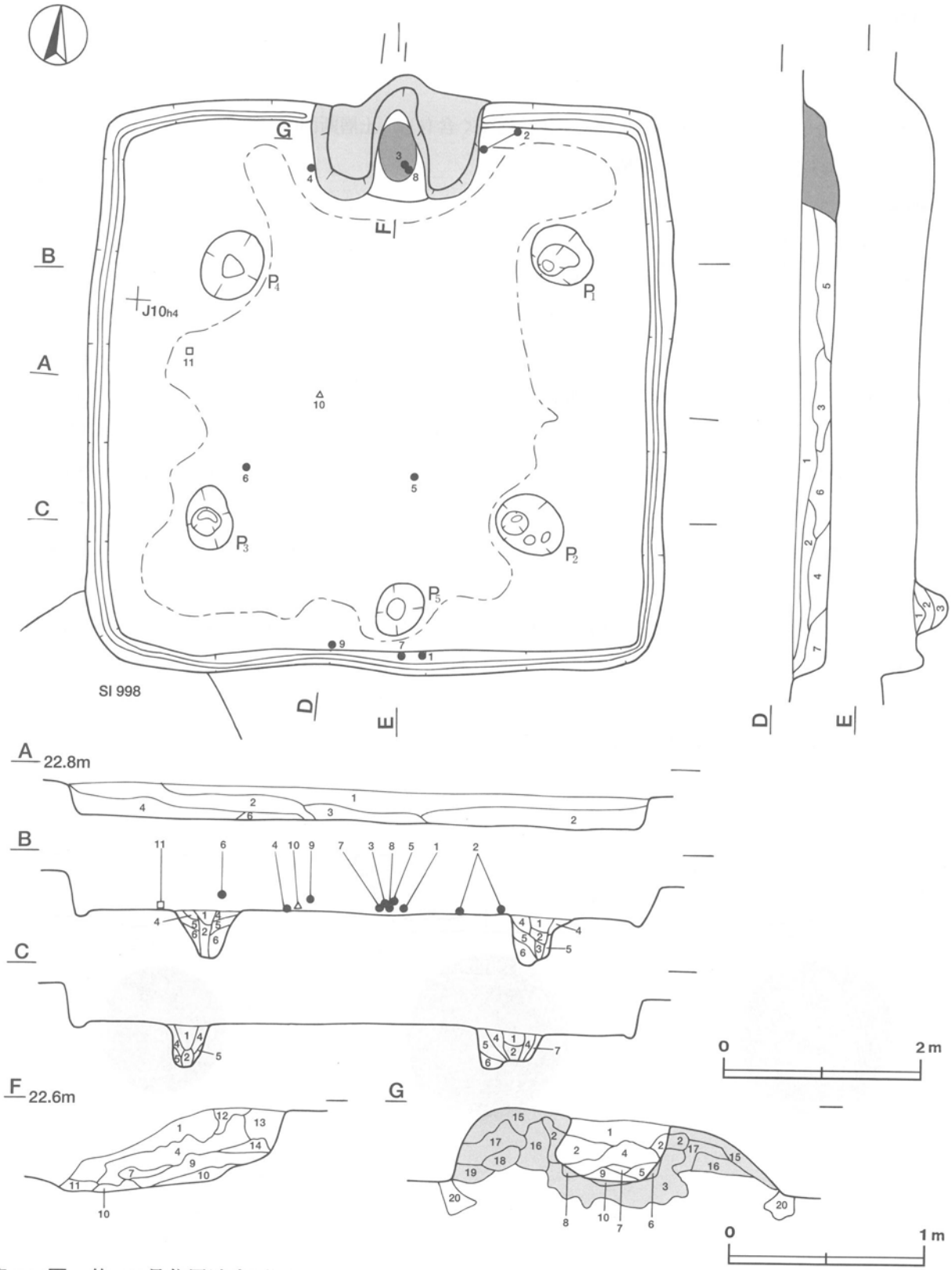
床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ27cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで125cm，両袖部幅157cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1・2・4・11・12層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，第15～19層が袖部の土層で，中心部（第16層）ほど，粘土と砂を多く使用している。竈の構築を土層断面からみると，火床部は，中央部を掘りくぼめた後で埋め戻して作り，床面から7cmほどの深さで火床面としている。第9・10層が焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられ，第7層は火床部に溜まった灰の層である。袖部はハードロームを基礎として台状に掘り残し，その上に粘土と山砂，ローム土を混ぜ合わせた部材を積み重ねて構築している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
4　赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，粘土大ブロック・粘土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
10　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
12　褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
15　赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
16　暗褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
17　暗褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
18　暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
19　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
20　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径60～72㎝のほぼ円形で，深さ47～60㎝である。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径55㎝のほぼ円形で，深さ37㎝である。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第193図　第997号住居跡実測図

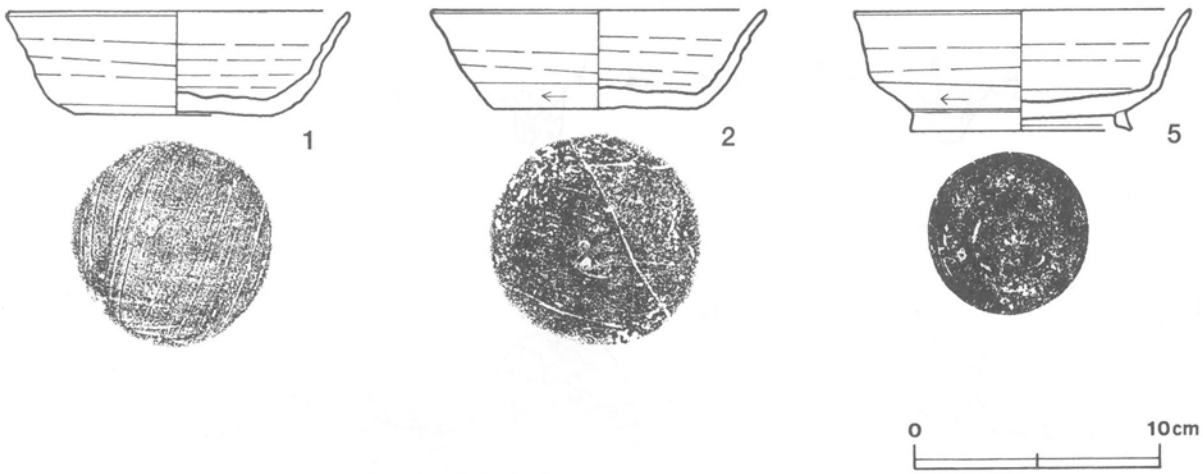
P 1～P 4 土層解説
1　極暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量
P 5 土層解説
1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　7層からなる。各層に焼土・炭化粒子を比較的多く含有し，土層断面図中第3～7層がブロック状の堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

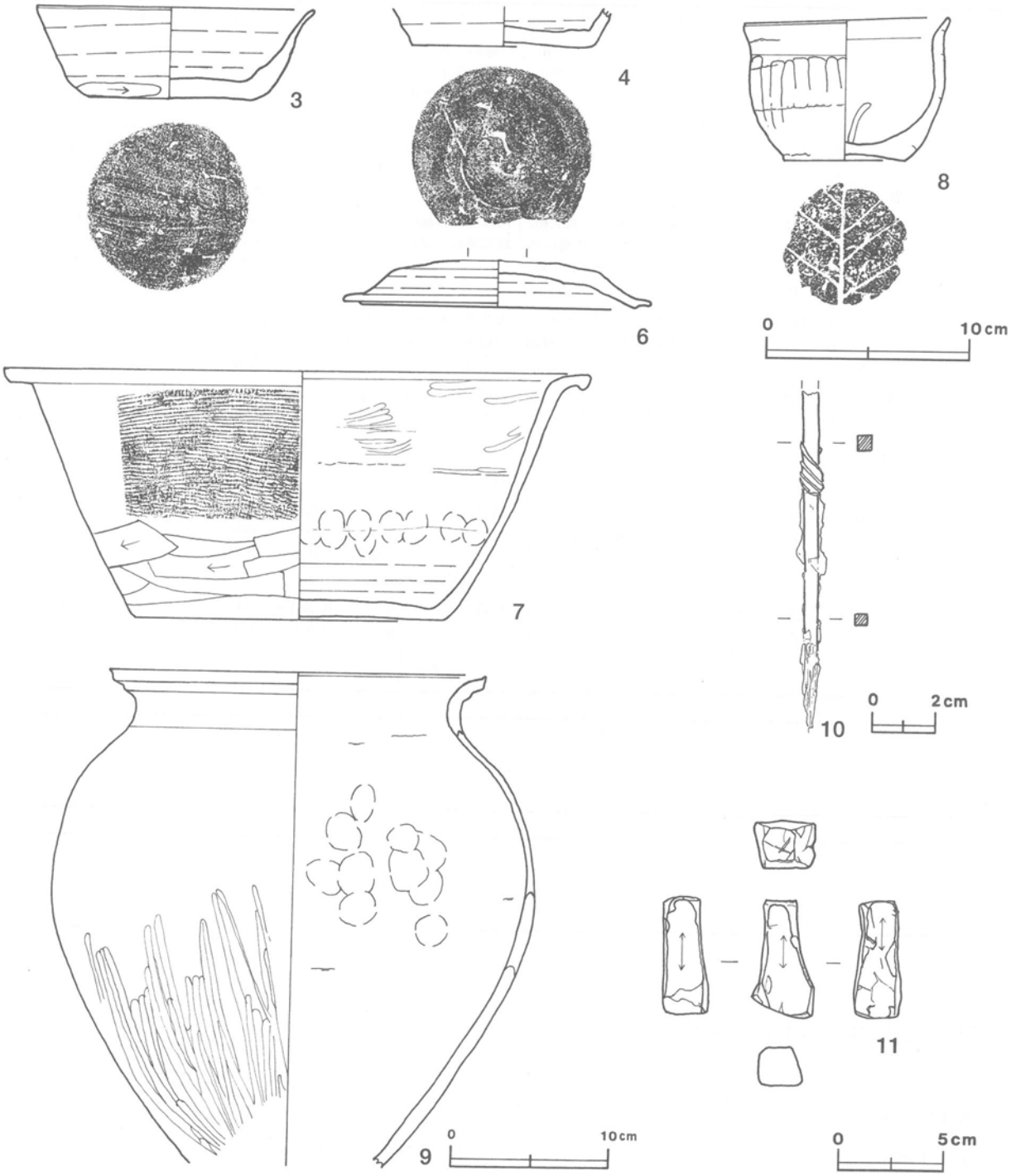
土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　極暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化材少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片1275点，須恵器片245点，灰釉陶器3点，土製品3点（支脚片），鉄製品2点（釘・不明），石器1点（砥石）が出土している。第194・195図1～7は須恵器，8・9は土師器である。1の坏は逆位で，7の鉢は正位で，南壁際の中央部の床面からまとまって出土している。2の坏は，竈東側の北壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の坏と8の小形鉢は，竈の焚口部からまとまって出土している。4の坏は，竈西側の床面から破片で出土している。5の高台付坏は，中央部の覆土下層から正位で出土している。6の蓋は，南西部の覆土中層から破片で出土している。9の甕は，南壁際の中央部の覆土下層から破片で出土している。10の鍵ヵは，中央部の覆土下層から出土している。11の砥石は，北西部の覆土下層から出土している。支脚片は，破損した同一個体の小片である。不明鉄製品は，覆土中から出土しており極小片である。灰釉陶器は細片であり，撹乱により混入したものと考えられる。出土土器の多くは細片であり，住居跡全体から散在するように出土している。本跡が廃棄されたおりに，埋土に混入していたものと推測される。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第194図　第997号住居跡出土遺物実測図（1）



第195図　第997号住居跡出土遺物実測図（2）

第997号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第194図 1	坏 須恵器	A 13.7 B 4.2 C 7.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	P41143 80% PL224
2	坏 須恵器	A 13.2 B 3.9 C 8.3	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P41144 80% PL224

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第195図 3	坏 須恵器	A 13.5 B 4.4 C 7.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P41145 70% PL224
4	坏 須恵器	B (1.9) C 8.8	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P41146 40% PL224
第194図 5	高台付坏 須恵器	A [13.4] B 4.8 D 8.9 E 0.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け。	砂粒・長石 灰色 良好	P41147 70% PL224
第195図 6	蓋 須恵器	A [15.0] B 2.1	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿形を呈し，口縁部内面に退化したかえりが付く。	天井部外面回転ヘラ削り。外周部・口縁部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P41148 30%
7	鉢 須恵器	A [36.8] B 15.8 C 19.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上横位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面中位以上ヘラナデ後，ナデ。下位指頭押圧痕を残すロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色 普通	P41149 60% PL224
8	小形鉢 土師器	A 9.8 B 6.9 C 5.7	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒 橙色 普通	P41141 100% PL224
9	甕 土師器	A 24.0 B (31.2)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41142 40% PL225

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第197図10	鍵カ	(11.6)	0.4～0.5	0.4	(11.6)	鉄	端部欠損。断面方形。木質付着	M41010 80% PL238

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第197図11	砥石	(5.6)	3.0	2.3	(45.3)	凝灰岩	砥面3面，中央部が薄くなっている。	Q41012 50% PL239

第999号住居跡（第196～198図）

位置　調査4区の西部，J10i5区。

重複関係　第998号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南半分が未調査区域に位置するため，正確な規模と平面形は確認できない。東西軸は4.72m，南北軸は北壁から未調査区域の境まで3.20mが確認されただけである。方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－7°－W

壁　確認された壁高は37～38cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅22～38cm，下幅6～11cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ43cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，両袖部幅121cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～7・9層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，第12～17層が袖部の土層

である。袖部の中心部は第12層で，粘土を多く用いている。竈の構築を土層断面からみると，中央部をほとんど掘り込まずに火床面とし，その両脇に粘土粒子・砂粒・ローム土を混ぜた部材で袖部を構築している。第8・18層が焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5　灰　褐　色　粘土大ブロック・砂粒少量
6　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
9　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
11　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12　灰　褐　色　粘土粒子中量，粘土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
14　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
16　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
18　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
19　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
20　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
21　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

ピット　2か所（P1・P2）。北東コーナーと北西コーナーからやや中央寄りに位置するP1・P2は，それぞれ径40cm・42cmのほぼ円形で，深さ14cm・24cmである。規模と配置から土柱穴と考えられる。

覆土　9層からなる。レンズ状に近い堆積状況を示すものの，焼土粒子・炭化粒子・炭化材の含有が目立ち，須恵器の大甕片が数多く投げ込まれたように出土しているため，人為堆積と考えられる。

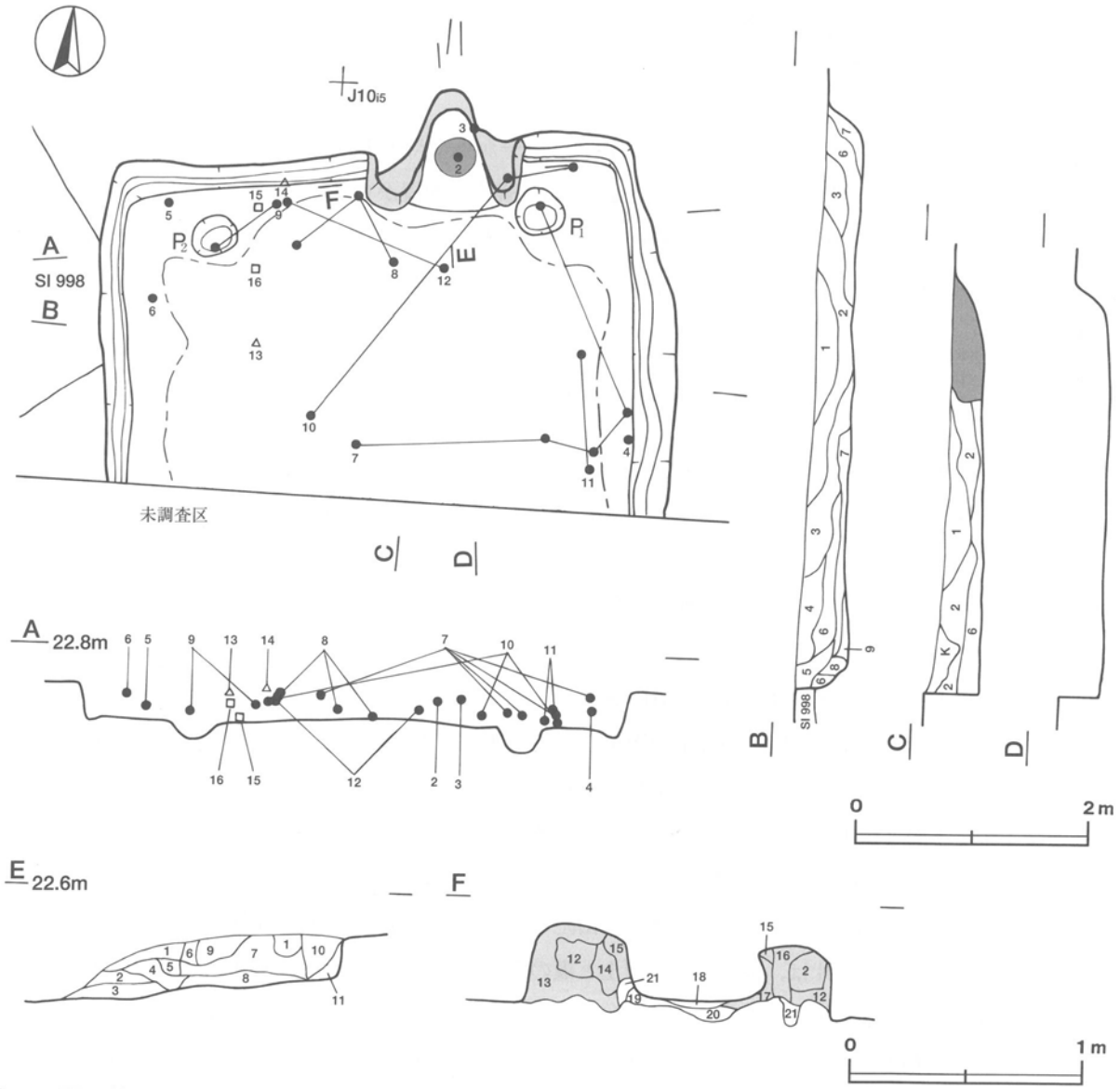
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化材微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化材少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量

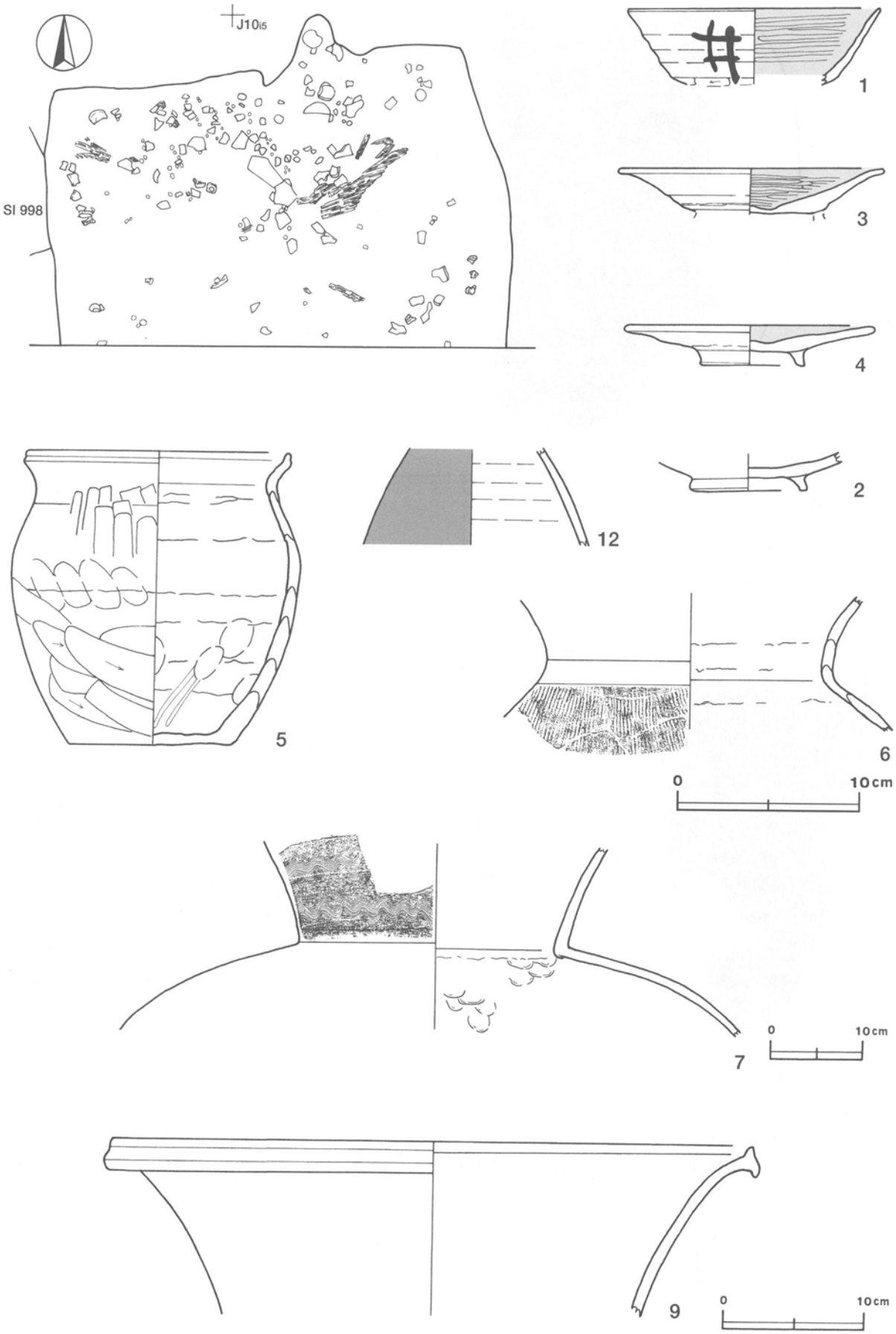
遺物　土師器片499点，須恵器片315点，灰釉陶器3点，土製品1点（支脚片），石器2点（砥石），不明鉄製品1点，鉄滓1点，棒状の炭化材が出土している。第197・198図1～5は土師器で，6～11は須恵器である。1の坏は南東部の覆土中から，2の高台付皿は竈内からそれぞれ破片で出土している。3の高台付皿は竈内の煙道部付近から，4の高台付皿は東壁際の覆土中層から，5の甕は，北西コーナー部の北壁際の覆土中層から，それぞれ正位で出土している。6の甕は，北西部の西壁際の覆土中層から破片で出土している。7の大甕片は，南東部の覆土中・下層と竈東側の覆土下層から出土した破片及び，第28号井戸から出土した破片が接合したものである。8の大甕片は，竈の南側と西側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。9の大甕片は，竈西側の北壁際から北西部にかけての覆土下層から出土した破片と，第28号井戸の下層から出土した破片が接合したものである。10の大甕片は，竈東袖部の覆土と竈の東側から中央部にかけての覆土下層から出土した破片と，第28号井戸の下層から出土した破片が接合したものである。11の甑は，南東部の覆土下層から破片で出土している。12の灰釉陶器は，竈南側の覆土中層からと竈西側の北壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。13の不明鉄製品は，北西部の覆土中層から出土している。14の鉄滓は，竈西側の北壁際の覆土

中層から出土している。15の砥石は，北西部の北壁際の床面から出土している。16の砥石は，北西部の覆土下層から出土している。支脚は，破損した小片である。出土している遺物は住居跡全体から散在し，大甕片を含め割れた破片が覆土上・中層から多く出土している。また，焼土粒子・炭化材も混在して出土していることから，遺物の多くは本跡を焼失させて廃絶したおりに，投棄したものと考えられる。

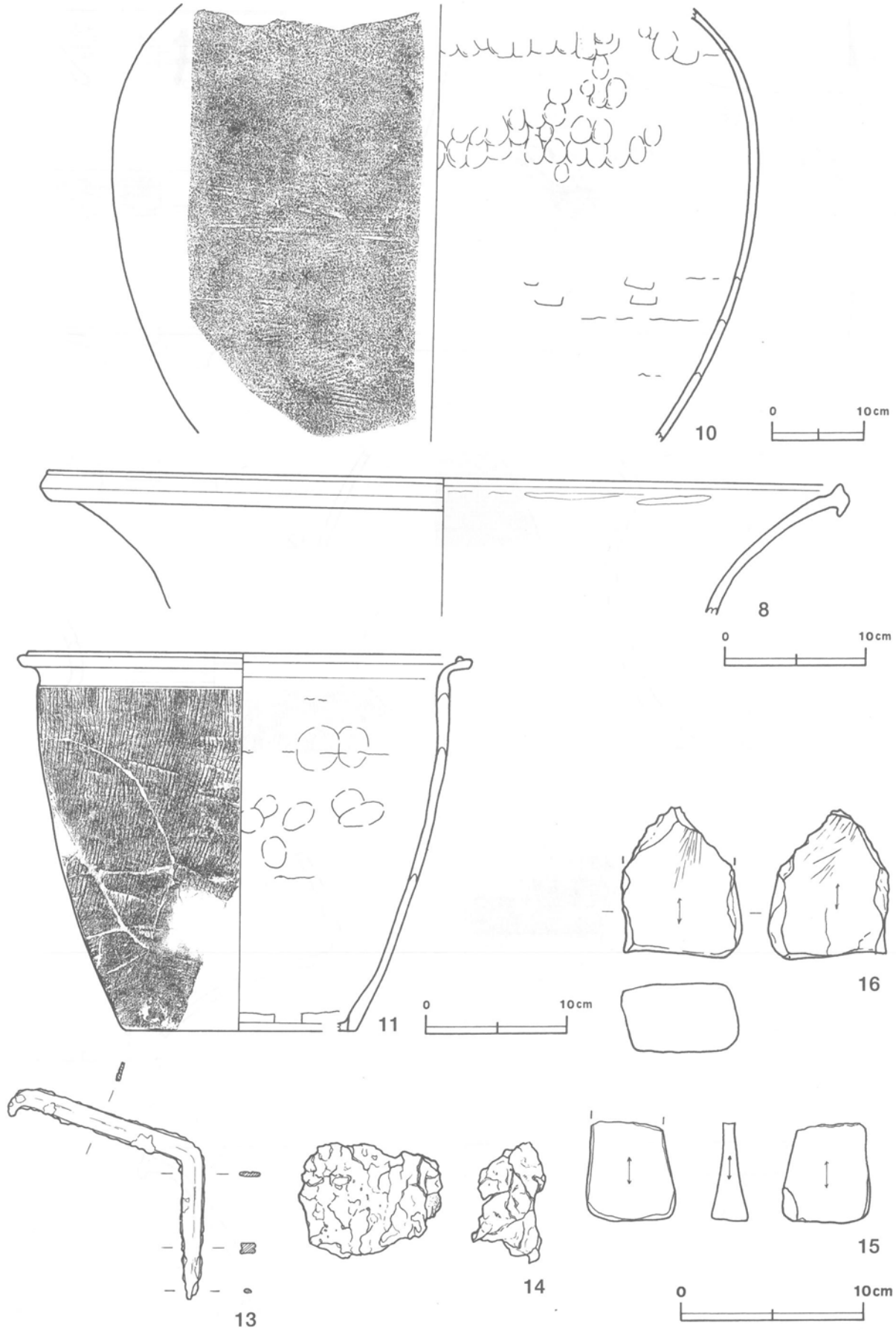
所見　本跡は覆土中に比較的多く焼土粒子を含む層があり，炭化材・炭化粒子もかたまって出土していることから，焼失家屋と考えられる。本跡からは，８世紀後葉から９世紀前葉と比定される須恵器大甕片が，143片出土している。本跡から出土した破片と，第1065号住居跡を掘り込んでいる第28号井戸から出土した大甕片とが３点ほど接合している。また，焼失住居跡である第1065号住居跡から大甕片３片が出土しており，第28号井戸から出土している大甕片は，本跡と第1065号住居跡とが同時期に廃絶されたと考えられることから，第1065号住居跡から第28号井戸へ混入した遺物ではないかと考えられる。大甕片は，口縁部・胎土から３個体分の大甕の破片ではないかと推測され，未調査区域に位置する南半分に，接合できる破片がある可能性も考えられる。本跡の時期は，出土土器から９世紀後半と考えられる。



第196図　第999号住居跡実測図



第197図　第999号住居跡遺物出土状況・出土遺物実測図



第198図　第999号住居跡出土遺物実測図

第999号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第197図 1	坏 土師器	A [13.6] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は，丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面丁寧な横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英 褐色 普通	P41151 10% PL225 体部外面墨書「井」
2	高台付皿 土師器	B (2.0) D 6.3 E 0.7	底部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は緩く開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P41152 40% PL225 外面剥離
3	高台付皿 土師器	A 14.5 B (2.7)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は緩く外傾して開き，口縁部に至る。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面丁寧な横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台部貼り，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41153 40% PL225
4	高台付皿 土師器	A 13.2 B 2.2 D 5.8 E 0.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は緩く外傾して開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41155 60% PL225 二次焼成
5	甕 土師器	A [14.2] B 15.7 C 8.8	底部から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ，下半斜位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41154 40% PL225
6	甕 須恵器	B (7.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。端部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位叩き目を残す横ナデ。体部縦位の平行叩き。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P41156 40% PL225
7	甕 須恵器	B (20.0)	体部上位から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。	頸部内面横ナデ。頸部外面11条2単位の櫛描波状文が施されている。体部外面ナデ，内面無文の当て具痕。頸部・体部外面自然釉。	砂粒・長石 褐灰色 良好	P41157 5% PL225
第198図 8	甕 須恵器	A [57.8] B (9.5)	口縁部の破片。口縁部は外反し，端部は上下に突出し，断面は菱形をしている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 黄灰色 良好	P41158 5% PL225
第197図 9	甕 須恵器	A [45.4] B (12.3)	口縁部の破片。口縁部は外反し，端部は上下に突出している。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・小石 灰色，良好	P41159 5% PL225
第198図 10	甕 須恵器	B (46.7)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き，内面無文の当て具痕。	砂粒・長石， 灰色，良好	P41160 30% PL225
11	甑 須恵器	A [32.8] B 27.0 C [16.6]	底部から口縁部にかけての破片。底部欠損。五孔式か。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は上方へ突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。指頭による押さえ痕有り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P41161 30% PL225
第197図 12	長頸瓶カ 灰釉陶器	B (5.3)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。釉は流し掛けか。	細砂粒（緻密） 灰白色 釉　灰オリーブ色 良好	P41162 5% PL225

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第198図13	不明	20.3	1.2	0.3	21.2	鉄	くの字状に屈曲し，端部は短く曲る。鍵カ	M41012 100% PL238

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第198図14	鉄滓	7.8	6.3	3.9	141.0	鉄	塊状で硬質。気泡痕が少ない。	M41013 100% PL238

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第198図15	砥石	(5.4)	4.8	2.0	(54.4)	凝灰岩	砥面2面，中央部が薄くなっている。	Q41013 40% PL239
16	砥石	(7.0)	6.5	3.6	(315.0)	砂岩	砥面2面，一部焼成を受け赤変している。	Q41014 40% PL239

第1000号住居跡（第199図）

位置　調査４区の西部，K10e1区。

重複関係　第1006号住居跡を掘り込み，南西コーナー部を第760号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　住居跡のおよそ東半分が未調査区域に位置しているため，全容は不明である。確認された規模は南北軸が3.55m，東西軸が2.15mで，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－８°－E

壁　確認された壁高は39～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅15～34cm，下幅５～10cm，深さ４～６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。竈の手前と西袖手前に焼土の広がりが確認されている。覆土土層断面図中，第５層が相当し，竈の焼土の流れと考えられる。

竈　竈の東半分は未調査区域に位置する。北壁の中央部と思われる付近を壁外へ18cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，幅は西袖端から確認できる火床面まで77cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂粒を比較的多く含む第１～４層が崩落土層と考えられる。第９層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物・粘土粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，炭化物・粘土粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
8	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
9	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒少量，炭化物・炭化粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
11	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子・砂粒微量

ピット　11か所（Ｐ１～Ｐ11）。中央部からやや西壁寄りに位置するＰ１は，長径48cm，短径35cmの楕円形で，深さ48cmである。規模と配置から主柱穴の一つと考えられる。ほぼ壁溝内に位置するＰ２～Ｐ11は，径10～20cmのほぼ円形で，深さ10～20cmである。規模と配置から，壁溝に伴う壁柱穴と考えられる。

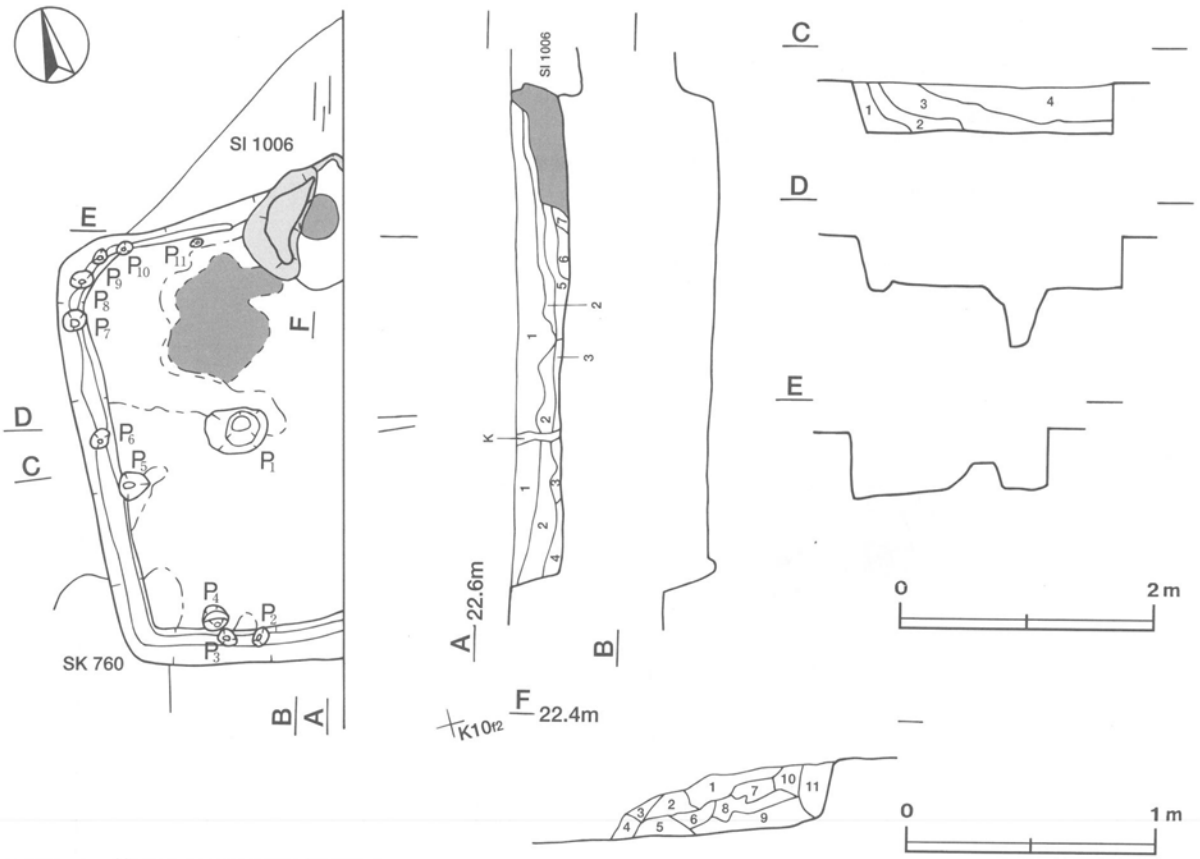
覆土　７層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量
4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
6	黒褐色	砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	灰褐色	粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片127点，須恵器片５点が出土している。

所見　時期を確定できるような遺物が出土していないものの，須恵器坏の細片が竈から出土していることや重複関係及び，隣接する８世紀前半の住居跡の形状と類似していることから８世紀代と考えられる。



第199図　第1000号住居跡実測図

第1003号住居跡（第200・201・202図）

位置　調査４区の西部，K9d9区。

重複関係　第1004号住居跡を掘り込んでおり，西壁を南北に第35Ａ号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　確認された規模は，南北軸が4.00m，東西軸が東壁と遺存する床面から3.70mである。方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－６°－Ｅ

壁　確認された壁の高さは16～32㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと推定される。上幅15～28㎝，下幅５～８㎝，深さ５～20㎝で，断面形はＵ字形である。南東コーナー部では，粘土の塊を掘り込んでいる。

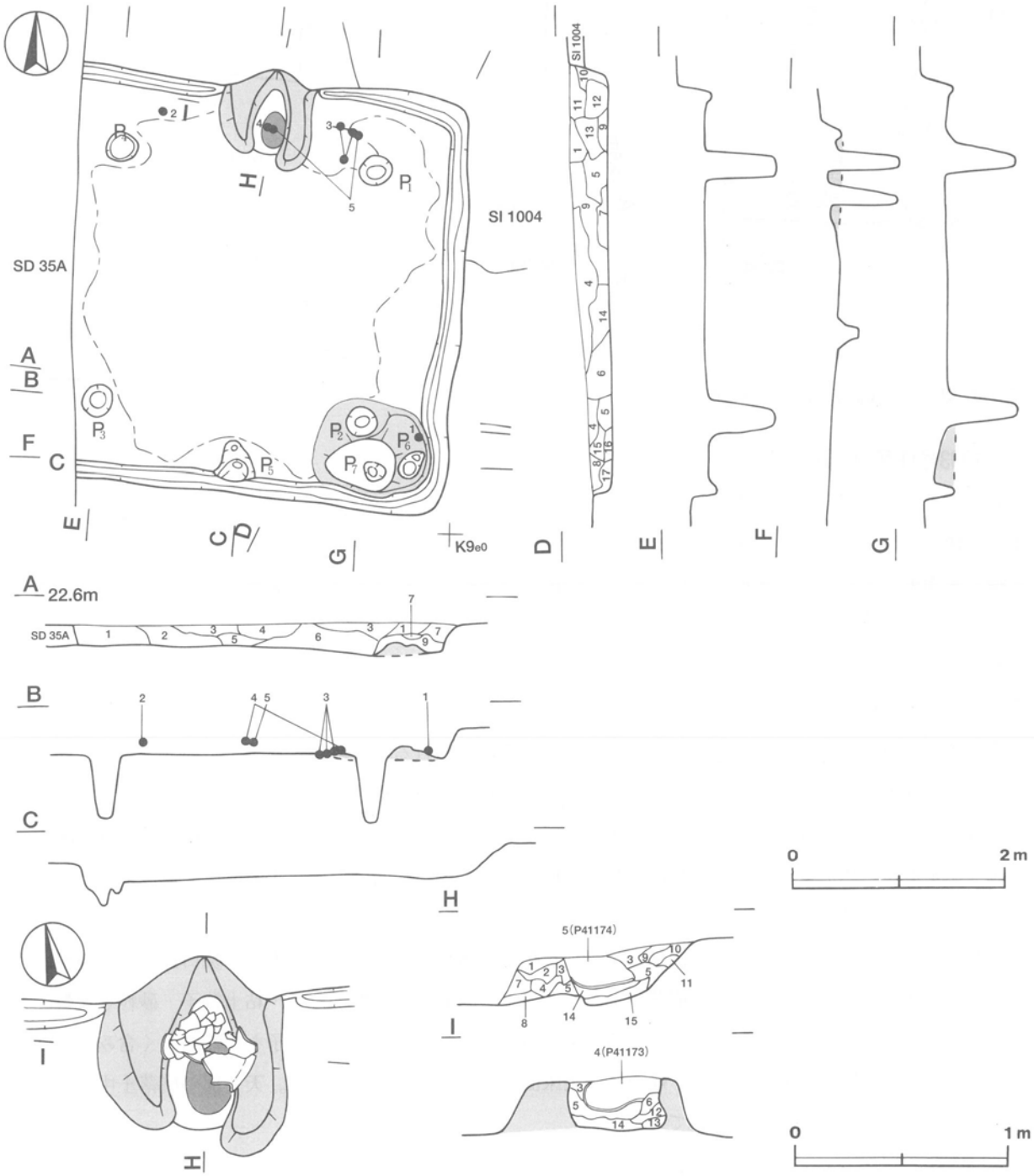
床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。南東コーナー部から白色粘土の塊が，長径110㎝，短径90㎝の不定形で，床面からの高さ約12㎝の範囲で検出されている。断面形は，床面に皿を逆位で伏せた形状をしている。粘土の塊の中には，Ｐ２・Ｐ６・Ｐ７が位置している。

竈　北壁の中央部を壁外へ20㎝ほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで85㎝，両袖部幅90㎝である。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～７・９層が崩落土層と考えられる。第14層は焼土ブロック・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。天井部の崩落土中から，土師器甕が横位でつぶれた状態で出土している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

3　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
9　褐　　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
13　褐　　色　粘土粒子多量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，粘土粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック微量



第200図　第1003号住居跡実測図

ピット　7か所（P 1～P 7）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP 1～P 4は，径26～29cmの円形で，深さ62～70cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP 5は長径38cm，短径32cmの楕円形で，中に深さ13cm，23cmの小ピットを南と北に有している。規模と位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。南東コーナー部に位置するP 6は，長径27cm，短径18cmの楕円形で，深さ70cmである。同じく南東コーナー部に位置するP 7は，長径21cm，短径17cmの楕円形で，深さ65cmである。P 6・P 7は，規模と配置からP 2の補助柱穴の可能性が考えられる。

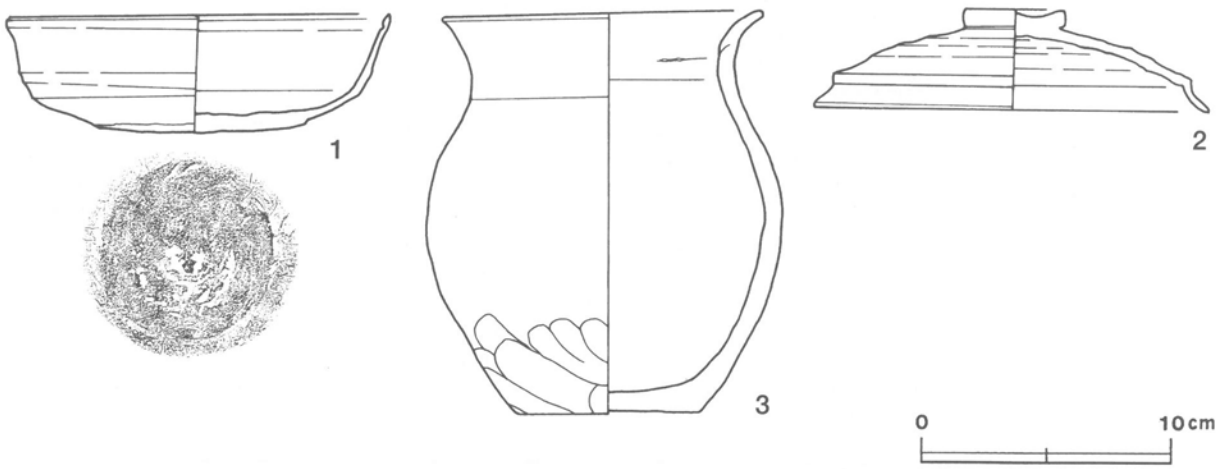
覆土　17層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

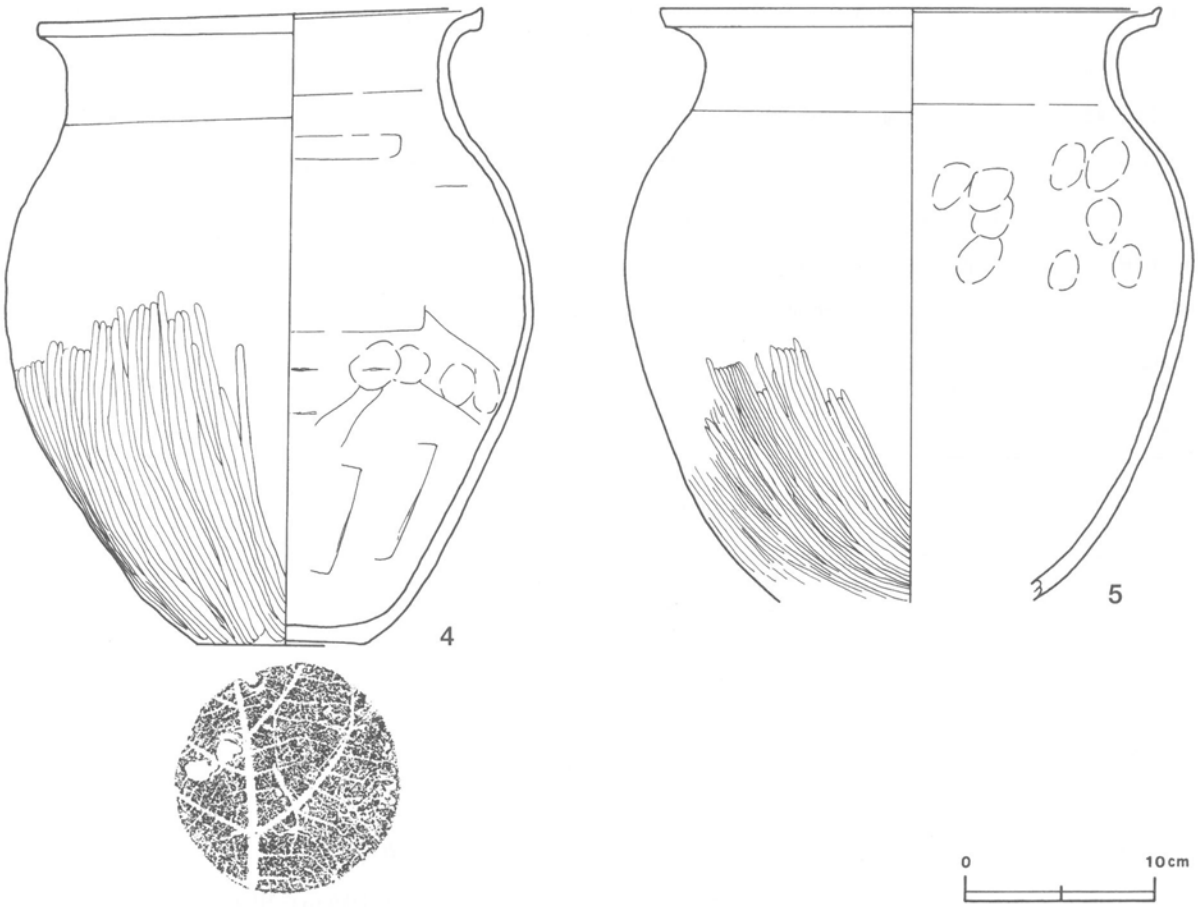
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子中量，粘土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
10　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
13　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
15　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
16　暗 褐 色　ローム粒子少量
17　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片106点，須恵器片5点が出土している。第201・202図1の須恵器坏は，南東コーナー部の東壁際の粘土の塊の上から正位で出土している。2の須恵器蓋は，北西部の覆土中層から出土している。3の土師器甕は，竈東側の北壁際の覆土下層からつぶれた状態で出土している。4の土師器甕は，竈の天井部の崩落土中から横位でつぶれた状態で出土している。5の土師器甕は，竈の天井部の崩落土中と北東部床面から出土した破片が接合したものである。

所見　南東コーナー部から検出された粘土塊は，粘土の貯蔵を考えて住居内に搬入したものではないかと推測される。本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第201図　第1003号住居跡出土遺物実測図（1）



第202図　第1003号住居跡出土遺物実測図（2）

第1003号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 1	坏 須恵器	A 15.1 B 4.9 C 6.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は開きながら立ち上がり，口縁部に至る。端部内面に1条の沈線を巡らす。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 良好	P41175 70% PL225
2	蓋 須恵器	A [15.8] B 4.0 F 4.1 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は笠形を呈し，ボタン状のつまみが付く。外周部と口縁部との境に稜をもち，口縁部は緩やかに垂下する。	天井部外面回転ヘラ削り。外周部・口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色 普通	P41176 30% PL226
3	甕 土師器	A 12.6 B 16.1 C 7.4	体部・口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ，下位斜位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。底部1方向のヘラ削り	砂粒・雲母・長石 赤橙色 普通	P41172　70% PL227 一部外面剥離 体部外面煤付着
第202図 4	甕 土師器	A 23.5 B 33.5 C 8.9	底部から体部上位にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，口縁部部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P41173 70% PL226 体部外面煤付着
5	甕 土師器	A [26.2] B (31.0)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41174 20% PL227 体部外面煤付着

第1005号住居跡（第203図）

位置　調査４区の西部，J10i2区。

重複関係　第986・987号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.47m，短軸2.43mの方形である。

主軸方向　N－６°－W

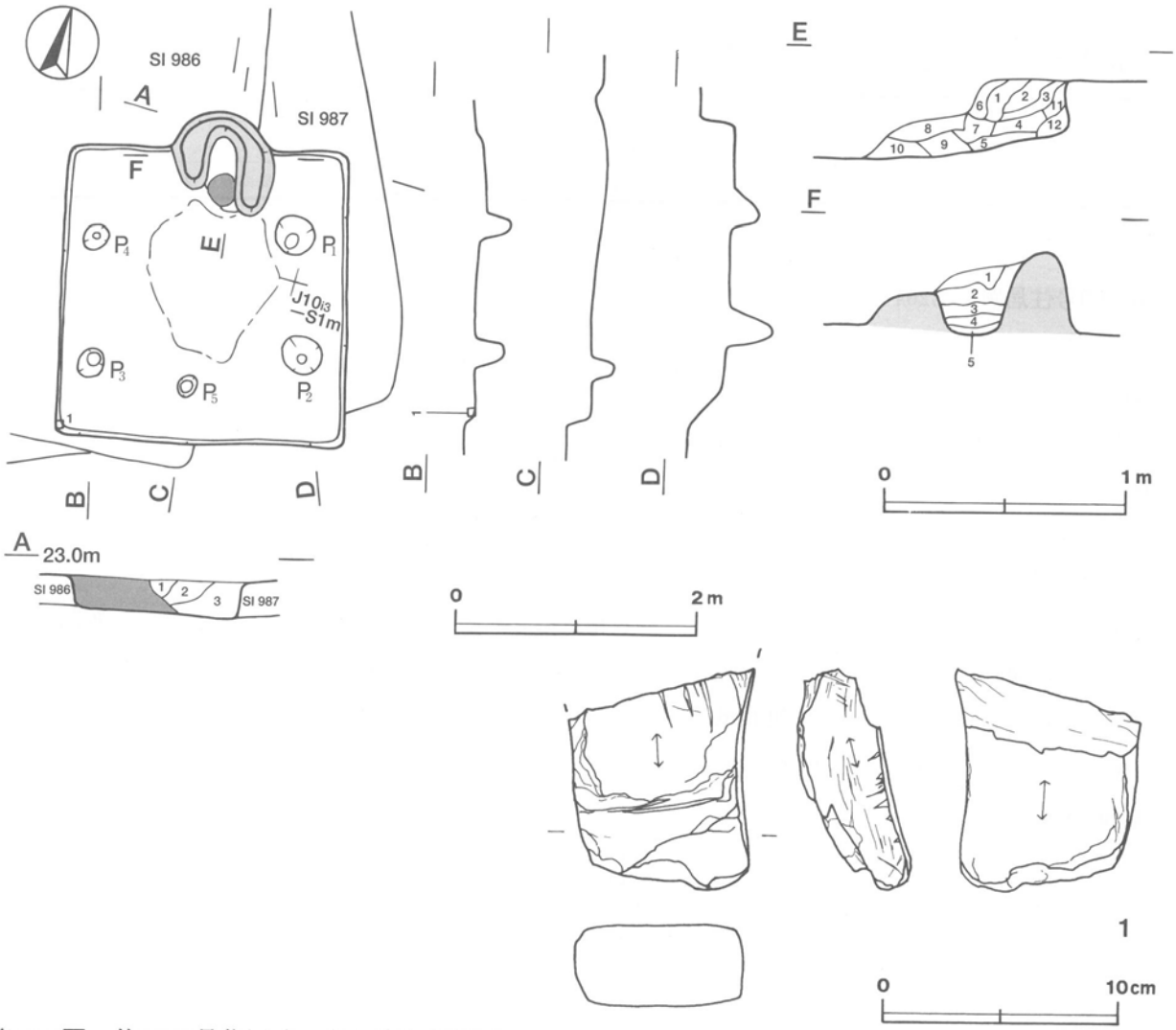
壁　壁高は最大28cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，竈の前を中心に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで85cm，両袖部幅86cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１～３・６～10層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第５層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面からほぼ直立する。

竈土層解説

1　にぶい褐色　灰白色粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・灰白色粘土粒子少量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量



第203図　第1005号住居跡・出土遺物実測図

6　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
10　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
11　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径20～31cmの円形で，深さ24～38cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は径18cmのほぼ円形で，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。壁際の三角堆積から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片9点，土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土している。第203図1の砥石は，南西コーナー部壁際の床面から出土している。支脚は，破損した小片である。

所見　本跡は覆土が薄く，時期の判定ができるような土器が出土していないものの，出土土器の傾向と重複関係から9世紀以降と考えられる。

第1005号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第203図1	砥　石	(9.1)	6.7	3.5	(333.0)	点紋粘板岩	砥面3面，中央部がわずかに薄くなっている。	Q41017　40%　PL239

第1009号住居跡（第204・205図）

位置　調査4区の西部，J10e4区。

重複関係　第1010号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.70m，短軸2.50mの方形である。

主軸方向　N－93°－E

壁　壁高は11～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，P6付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁の中央部を壁外に57cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，両袖部幅104cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～5層が崩落土層と考えられる。第6層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　灰　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径14～18cmのほぼ円

形で，深さ10～39cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。西壁際の中央部に位置するＰ５は，径21cmの円形で，深さ７cmである。Ｐ５と西壁の間に位置するＰ６は，径12cmの円形で，深さ14cmである。Ｐ５・Ｐ６は，ともに位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

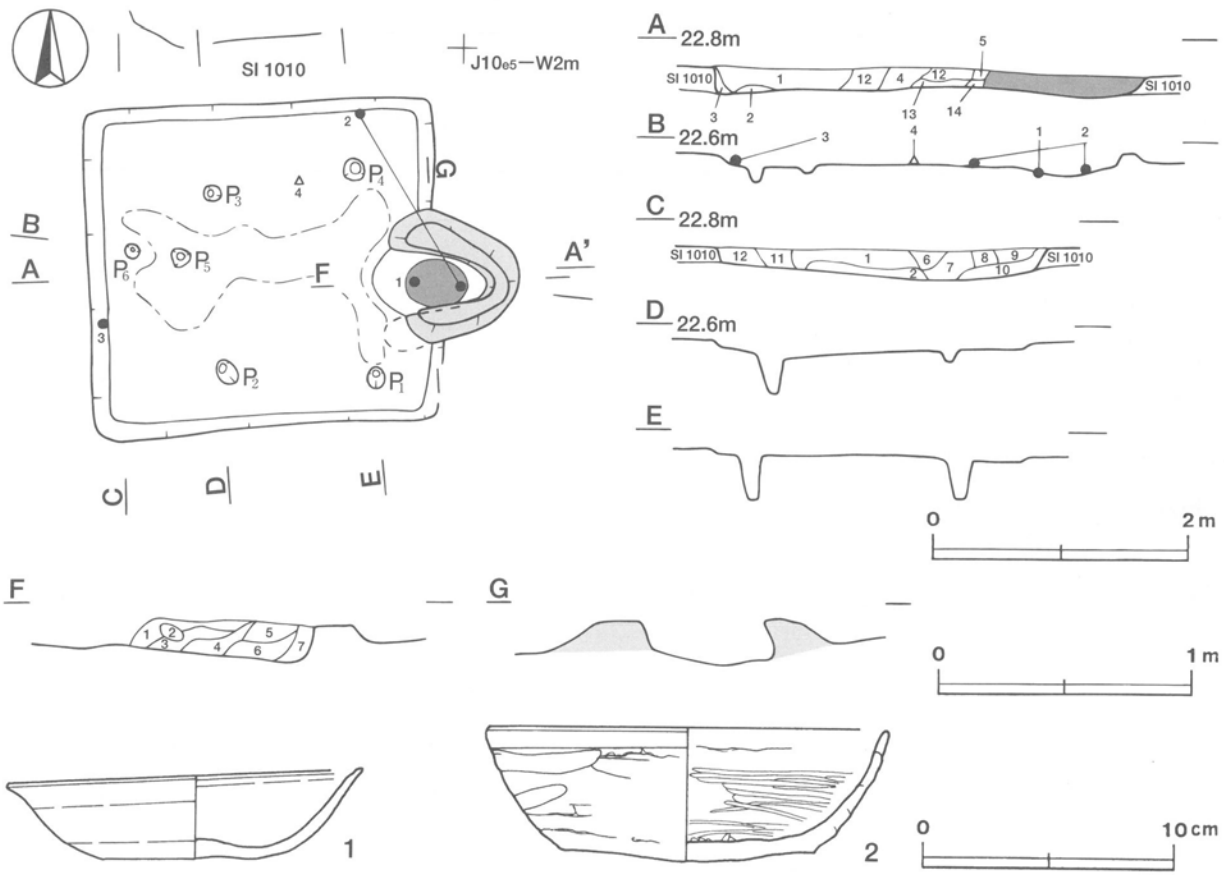
覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

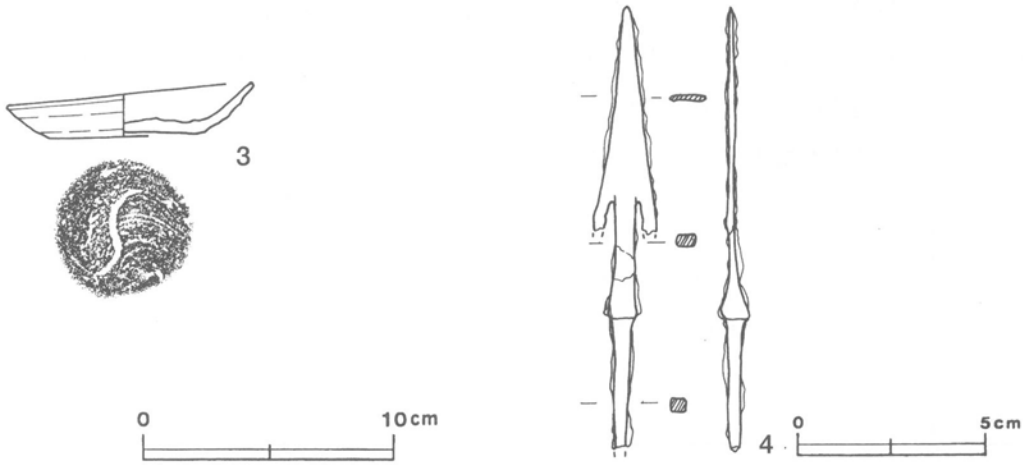
1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2	褐　　色	ローム粒子多量，焼土粒子微量
3	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
6	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
8	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
9	黒　褐　色	ローム粒子少量
10	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
13	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
14	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂粒少量

遺物　土師器片68点，須恵器片８点，土製品２点（支脚片），鉄器２点（刀子，鏃）が出土している。第204・205図１の土師器坏は，火床面直上から逆位でつぶれた状態で出土している。２の土師器坏は，北東部の北壁際の床面と竈の覆土から出土した破片が接合したものである。３の土師器皿は，南西部の床面から逆位で出土している。４の鏃は，中央部の北寄りの覆土下層から出土している。支脚片は，破損した小片である。須恵器片は，混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第204図　第1009号住居跡・出土遺物実測図



第205図　第1009号住居跡出土遺物実測図

第1009号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第204図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.7 C 7.2	底部・口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41178 80% PL226
2	坏 土師器	A［15.8］ B 5.3 C［10.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残す横位のヘラ磨き。底部ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41181 20% PL226
第205図 3	皿 土師器	A 9.7 B 2.0 C 5.8	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部・体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41182 100% PL226

図版番号	器　種	計測値								材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第205図 4	鏃	(11.8)	6.0	2.4	0.5～0.7	(3.4)	0.3～0.6	0.2	(12.1)	鉄	茎部一部欠損。 三角形鏃	M41016　95%　PL237

第1013号住居跡（第206図）

位置　調査4区の南部，K10h6区。

重複関係　第29・1014号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.30m，短軸が3.25mの方形である。

主軸方向　N－114°－E

壁　壁高は最大12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西壁と南西壁の壁下を巡っている。上幅14～20cm，下幅6～10cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　南東壁の中央部を壁外へ12cmほど掘り込み，付設されている。耕作による攪乱を受け，南東壁際の中央部に赤変硬化した火床面と袖部の一部が確認されているだけである。規模は，推定される焚口部から煙道部まで92cm，両袖幅は遺存する焼土と袖部の一部から推定して66cmである。袖の構築材は，砂質粘土とローム土である。

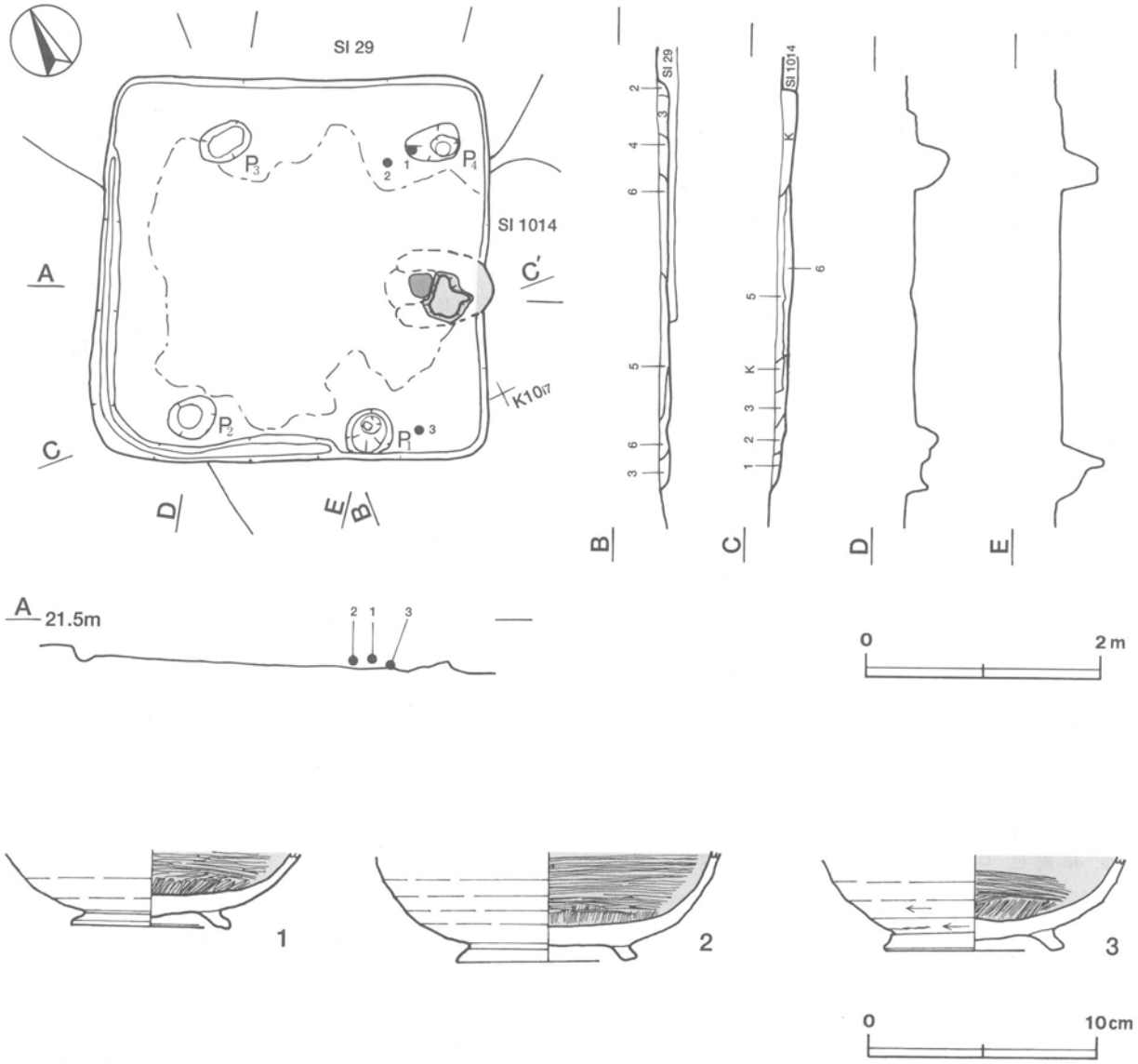
ピット　4か所（Ｐ１～Ｐ４）。南西壁際の南コーナー寄りに位置するＰ１，南西壁際の西コーナー寄りに位置するＰ２，北コーナー寄りに位置するＰ３，東コーナー寄りに位置するＰ４は，径32～42cmのほぼ円形で，深さ23～37cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状堆積から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片113点が出土している。第206図の１～３は，すべて土師器坏である。１は，東コーナー部の床面から逆位で出土している。２は，東部の床面から出土したものである。３は，南コーナー部の南西壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第206図　第1013号住居跡・出土遺物実測図

第1013号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 1	高台付坏 土師器	B (3.3) C 6.9 E 0.8	高台部から体部かけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 黄褐色 普通	P41199 20% PL226
2	高台付坏 土師器	B (4.7) D 7.7 E 0.7	高台部から体部にかけての破片。高台部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41200 30% PL226
3	高台付坏 土師器	B (4.1) D 7.6 E 1.0	底部から体部下位にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，下端ヘラ削り。内面丁寧な横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 灰黄褐色 普通	P41201 20% PL226

第1014号住居跡（第207図）

位置　調査4区の南部，K10i6区。

重複関係　第29号住居跡の南部コーナー部を掘り込み，中央部から北部にかけて第1013号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　北部は第1013号住居に掘り込まれ，南東部は斜面のため壁が確認されなかった。検出された壁と壁溝から規模と平面形を推定した。長軸4.06m，短軸3.64mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　確認された壁高は最大12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東部は検出されなかった。確認された壁際を巡っている。上幅12～20cm，下幅8～12cm，深さ3～12cmで，断面形はU字形である。

床　緩斜面の南東部を除き，ほぼ平坦であり，中央部から竈の手前及び東部にかけてよく踏み固められている。

竈　第1013号住居に掘り込まれているため，北壁の中央部に火床面と考えられる赤変硬化した焼土と構築材の一部と考えられるわずかな砂質粘土を確認しただけである。規模は残存する砂質粘土から推定して，焚口部から煙道部まで約76cm，両袖部幅約85cmである。

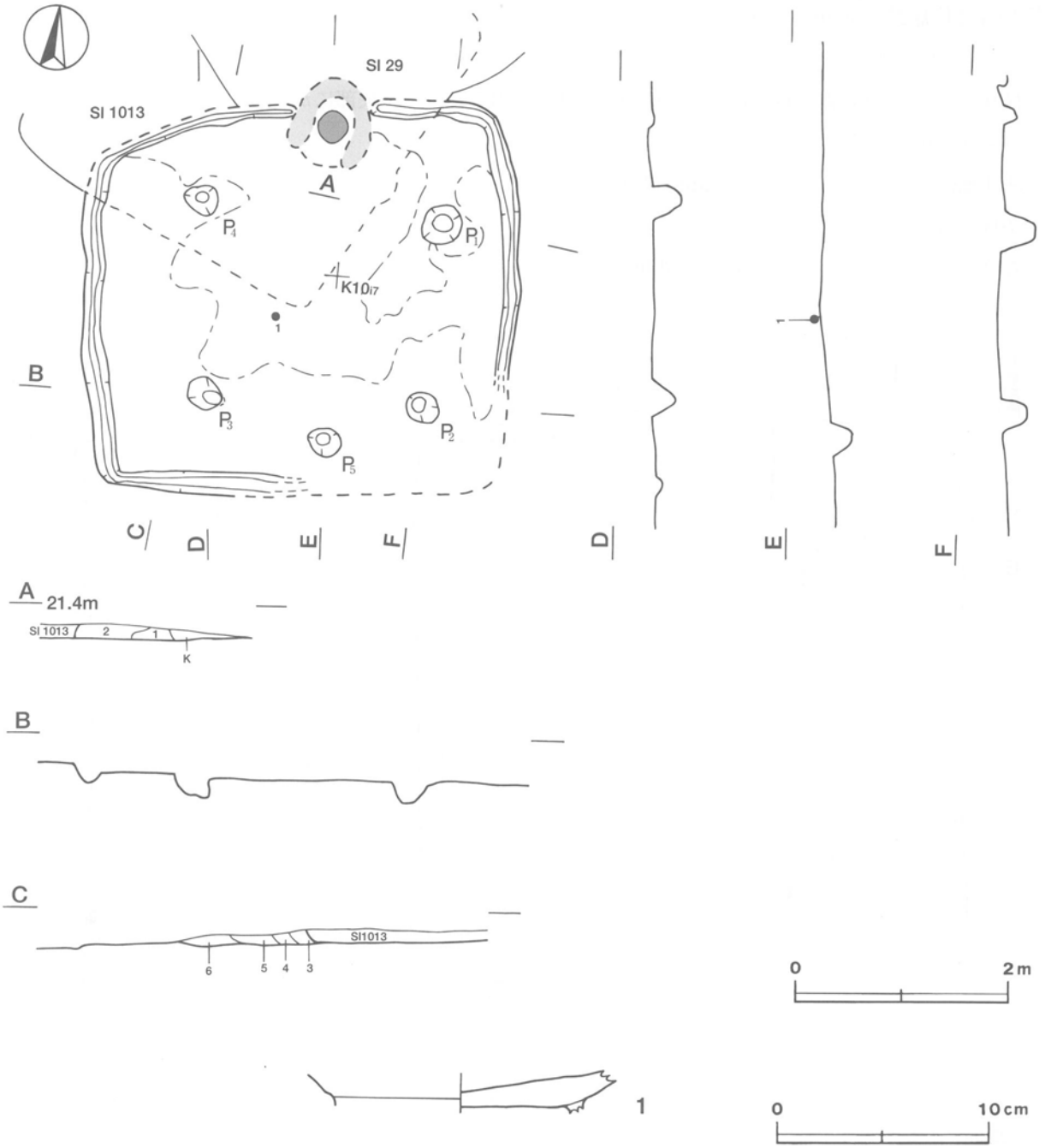
ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径32～36cmのほぼ円形で，深さ23～29cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径30cmのほぼ円形で，深さ20cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　全体的に覆土は薄く，0～12cmほどで6層からなる。特に緩斜する南東部は薄く，部分的に床面が露出した状況で確認された。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片96点，須恵器片7点が出土している。第207図1の須恵器高台付盤は，中央部の床面から破片で出土している。図示しなかった土器片の大部分は，覆土中から出土した甕または甑の体部及び底部の細片である。

所見　出土土器が細片のため時期判断は難しいが，本跡の時期は，出土土器の傾向と重複関係から8世紀後半と考えられる。



第207図　第1014号住居跡・出土遺物実測図

第 1014 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第207図 1	高台付盤 須恵器	B（1.9） E（0.6）	底部の破片。平底に高台が付く。高台端部欠損。	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラナデ。底部高台貼り付け後,ナデ。	砂粒 灰黄褐色 普通	P41203 20% PL226

第1017号住居跡（第208・209図）

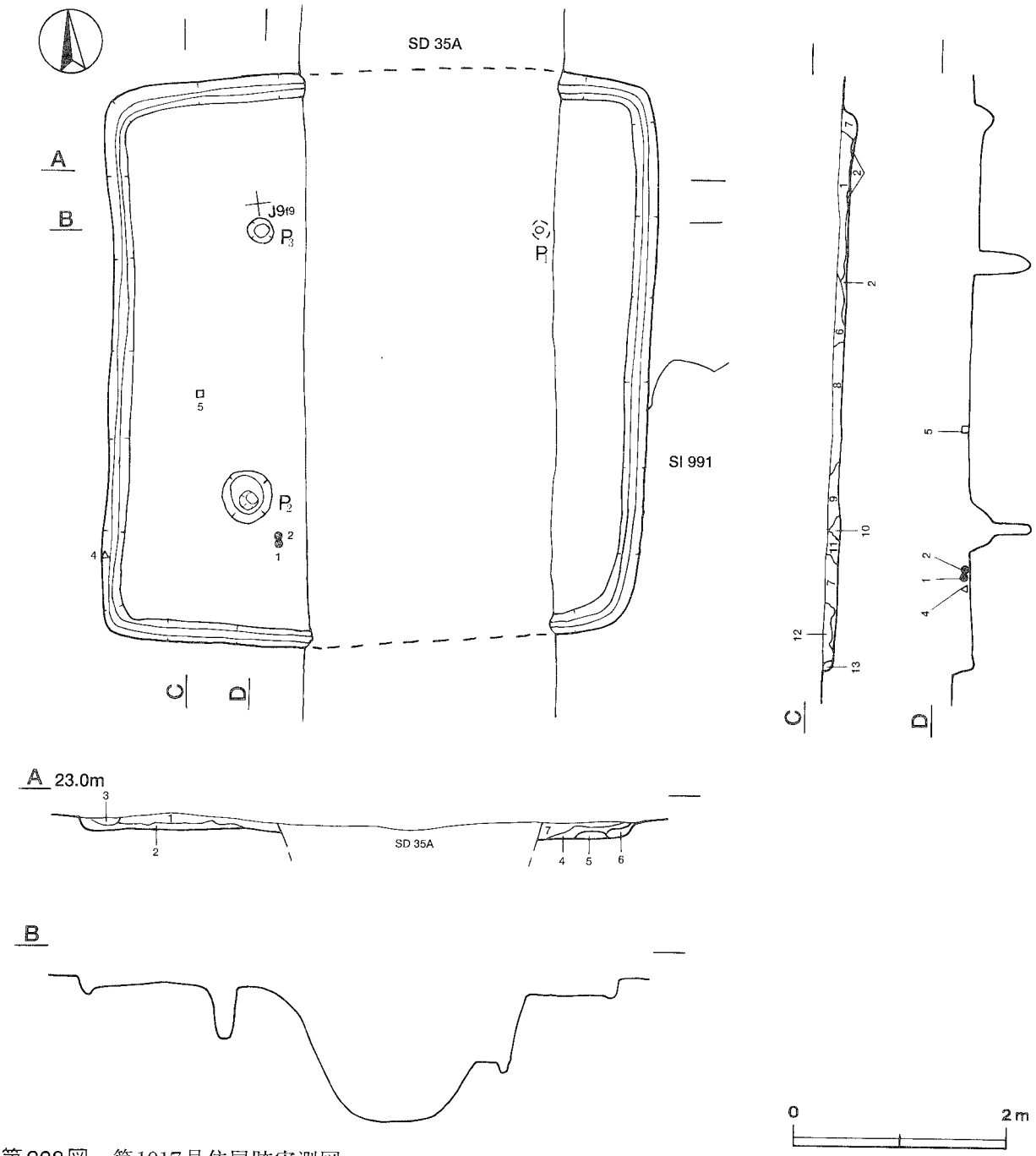
位置　調査４区の西部，J9f9区。

重複関係　第991号住居跡を掘り込み，北壁の中央部から南壁のほぼ中央部にかけて，本跡を二分するように第35Ａ号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.45m，短軸5.13mの方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｅ

壁　確認された壁の高さは12～16cmで，外傾して立ち上がる。



第208図　第1017号住居跡実測図

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと考えられる。上幅15～24cm，下幅４～７cm，深さ５～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。北東コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１は，第35Ａ号溝に掘り込まれ上部は確認できなかったものの円形で，深さは76cmである。南西コーナーからやや中央寄りに位置するＰ２は，径47cmの円形で，深さ60cmである。北西コーナーからやや中央寄りに位置するＰ３は，径26cmの円形で，深さ49cmである。Ｐ１～Ｐ３は，規模と配置から主柱穴と考えられる。

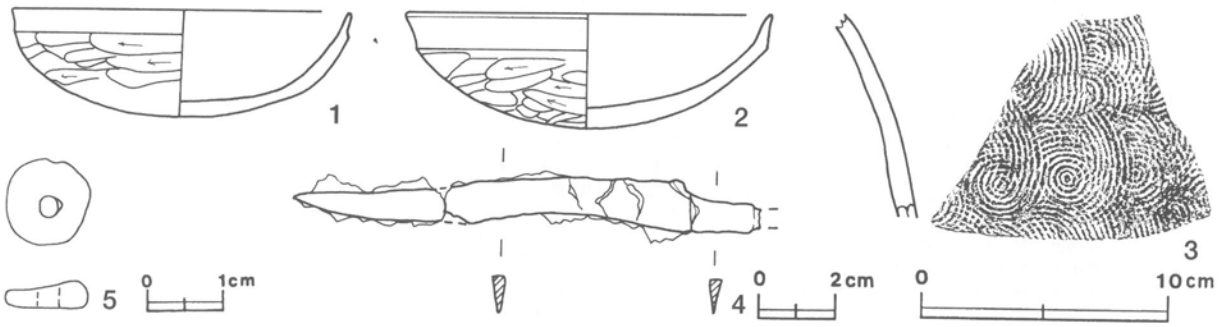
覆土　13層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片128点，須恵器片12点，鉄器２点（刀子），石製品１点（臼玉），鉄滓１点が出土している。第209図１の土師器坏は，南西部の覆土下層と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の土師器坏は，南西部の覆土下層から正位で出土している。３の須恵器甕片は覆土中から，４の刀子は，Ｐ３の覆土中と南西コーナーの西壁際の覆土下層から出土している。５の臼玉は，混入と思われるが南西部の西壁寄り，の床面から出土している。鉄滓は覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から８世紀前葉と考えられる。



第209図　第1017号住居跡出土遺物実測図

第1017号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第209図 1	坏 土師器	A　13.4 B　4.3	体部，口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41205 85% ＰＬ226
2	坏 土師器	A　14.5 B　4.5	体部，口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41206 90% ＰＬ226

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第209図3	甕 須恵器	B（7.8）	体部の破片。体部は内彎する。	体部外面同心円状の叩き目，内面ナデ。	砂粒・長石 黄灰色，普通	TP41009　5% PL226

図版番号	器　種	計測値						材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第209図4	刀　子	(12.4)	10.5	1.0	0.4	(1.9)	(12.4)	鉄	茎部一部欠損。棟区有り。	M41017　85%　PL236

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第209図5	臼　玉	1.1	0.4	0.3	0.56	滑石	扁平な円筒形。オリーブ黄色	Q41042　100%　PL239

第1019号住居跡（第210・211図）

位置　調査4区の中央部，K10a7区。

重複関係　第1020号住居跡を掘り込み，東壁の中央部を第786号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　住居跡の西側の半分が未調査区域に位置しているため，規模が確定できない。南北軸は4.58mで，東西軸は2.14mが確認されただけである。平面形は，方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は35～38cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　西袖部は，調査区域外に位置している。北壁の中央部を壁外へ39cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで115cm，火床面の西端から東袖部までの幅は101cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1～6層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第5・6層は火熱を受けた天井面と考えられ，赤変し焼土ブロックでゴツゴツしている。第9層は灰・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・礫微量
2　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土大ブロック・粘土大ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
4　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，炭化材・灰少量，砂粒微量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・灰少量，砂粒微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒・灰中量，ローム粒子・炭化物・焼土小ブロック微量
9　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・小動物骨細片微量

ピット　1か所。南壁際に位置するP1は，径29cmの円形で，深さ31cmある。南壁際から斜めに掘り込んであり，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

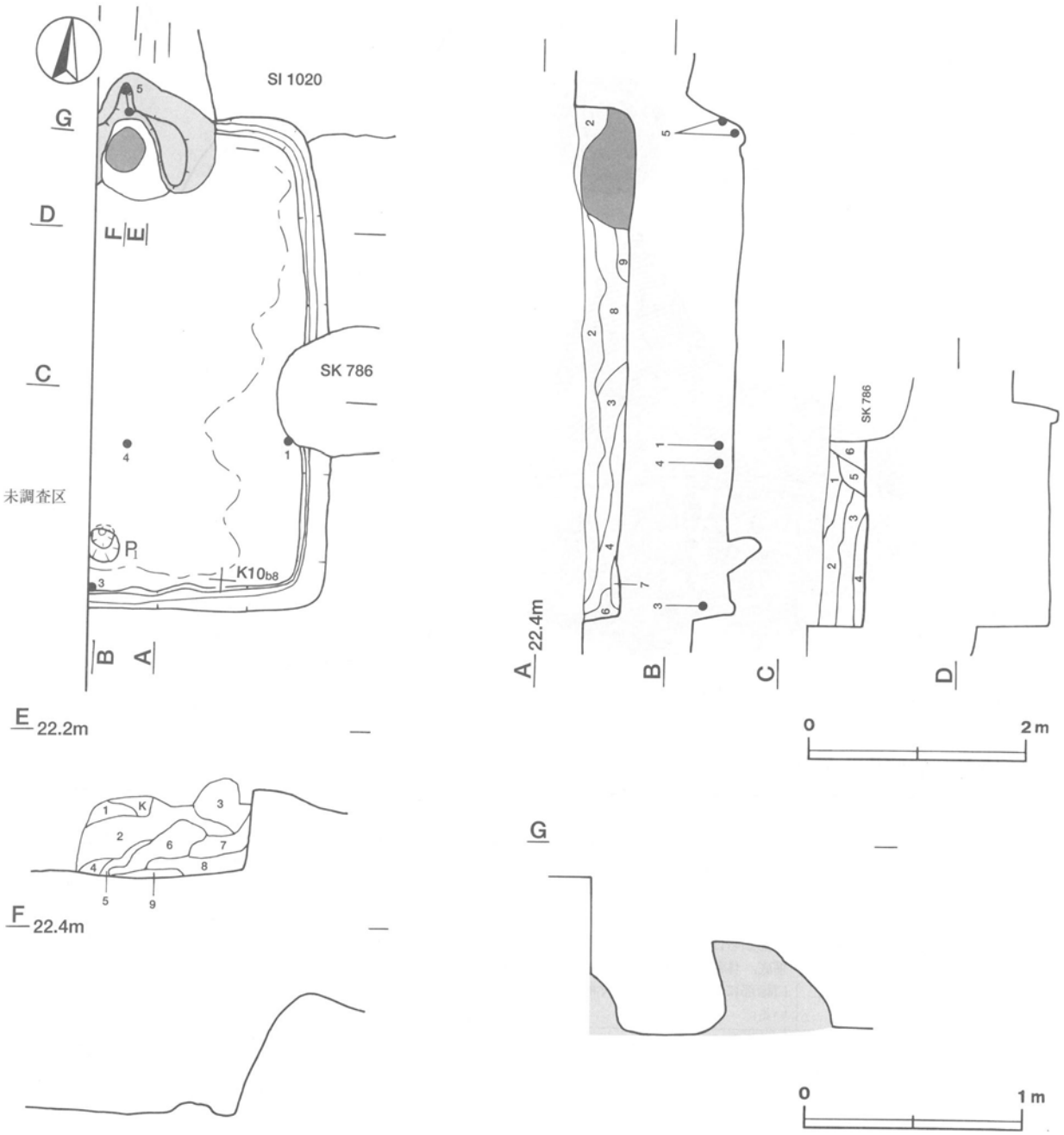
覆土　9層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。土層断面図中，第8・9層は，竈材が流れて堆積した層である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　コーム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

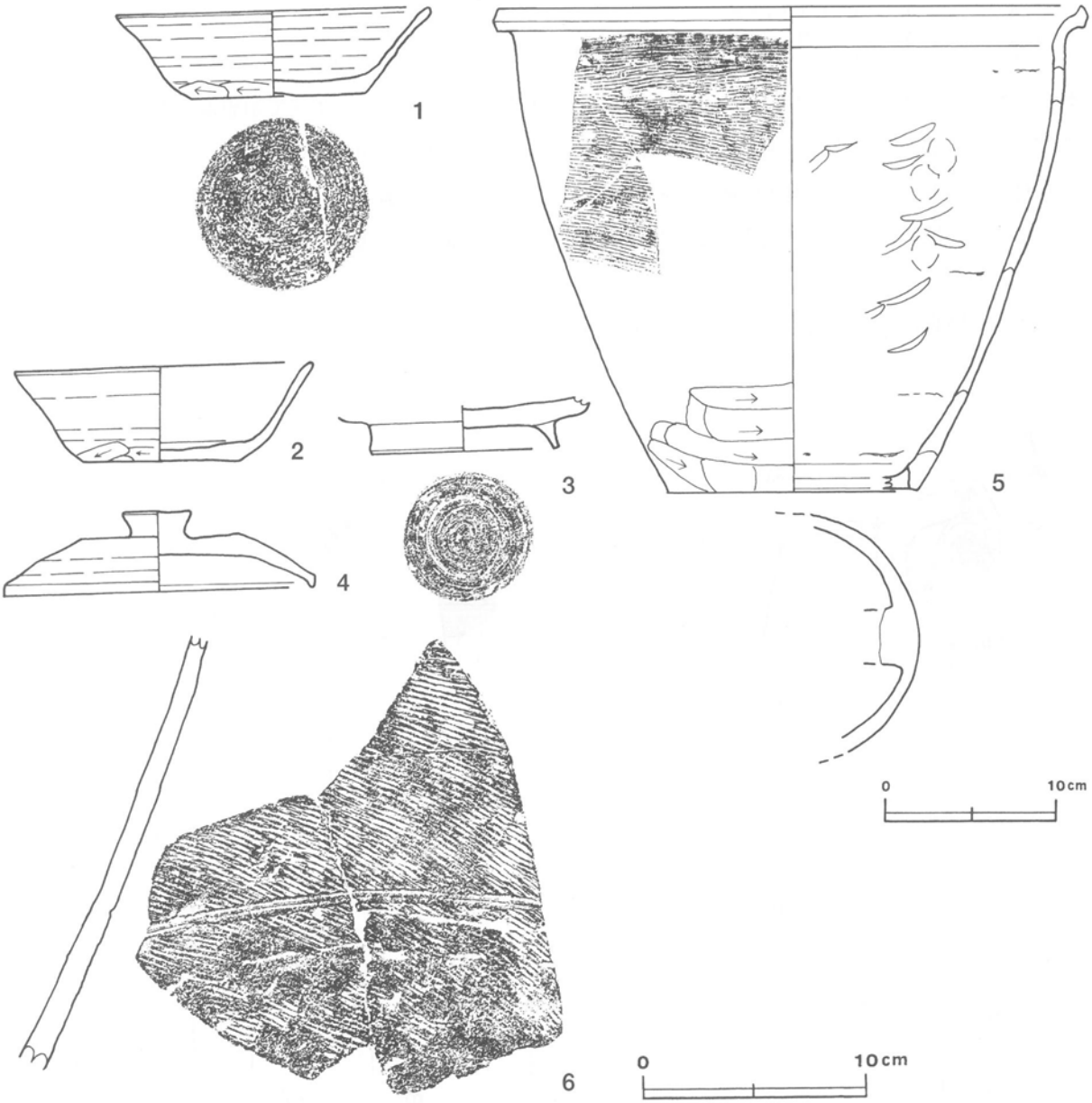
7　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
9　黒 褐 色　ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片71点，須恵器片61点が出土している。第211図の１～５は，すべて須恵器である。１の坏は，東壁際の覆土下層から逆位でつぶれた状態で出土している。２の坏は，南東部の覆土中から出土している。３の高台付坏は，Ｐ１の付近の覆土中層から斜位で出土している。４の蓋は，中央部の覆土下層から逆位で出土している。５の甑片は，竈の中央部の覆土から出土している。竈の前の覆土下層から出土した６は須恵器甑の体部片で，斜位の平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から８世紀後葉と考えられる。



第210図　第1019号住居跡実測図



第211図　第1019号住居跡出土遺物実測図

第1019号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第211図 1	坏 須恵器	A 13.9 B 3.8 C 7.7	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P41207 60% PL226
2	坏 須恵器	A 13.0 B 4.3 C 7.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	P41202 50% PL226
3	高台付坏 須恵器	B (2.3) D 8.3 E 1.3	高台部から底部にかけての破片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P41208 20% PL226
4	蓋 須恵器	A 13.7 B 3.6 F 3.1 G 1.1	天井部から口縁部にかけて一部欠損。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高の擬宝珠状。	天井部外面回転ヘラ削り。外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石 灰色 普通	P41209 90% PL226

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第211図 5	甑 須恵器	A［33.8］ B　28.2 C［14.6］	底部から口縁部にかけての破片。五孔式か。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は上下に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上横位の平行叩き。下位横位のヘラ削り。内面無文の当て具痕と指頭押圧痕を残す。	砂粒・長石 黄灰色 良好	P41210 15% PL226
6	甑 須恵器	B（20.5）	体部の破片。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き，内面指頭押圧痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英，灰褐色，普通	TP41011 5%

第1020号住居跡（第212図）

位置　調査4区の中央部，J10j8区。

重複関係　南西コーナー部を第1019号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.50mの長方形である。

主軸方向　N－76°－E

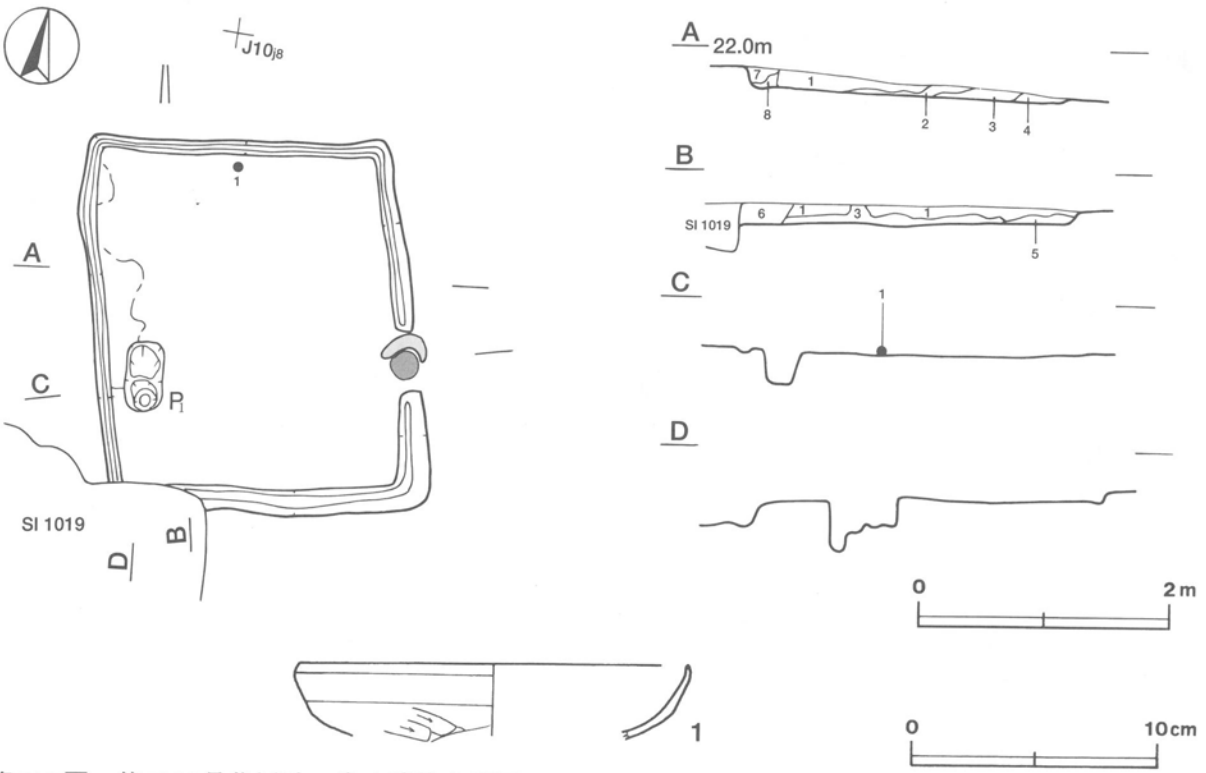
壁　壁高は2～6cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。全周していたと考えられる。規模は，上幅13～21cm，下幅3～10cm，深さ2～5cmで，断面形はU字形である。

床　中央部から東部にかけて耕作による撹乱を受け，床面が削平されている。北西部の壁際が踏み固められている。

竈　東壁の南東コーナー寄りに，火床面のわずかな焼土と北袖部の一部と考えられる砂質粘土が残存しているだけである。

ピット　1か所。P1は長軸52cm，短軸30cmの隅丸長方形で，深さ43cmである。中に径16cmほどの円形の小ピットを有している。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第212図　第1020号住居跡・出土遺物実測図

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物　土師器片81点，須恵器片7点が出土している。第212図1の土師器坏片は，北壁際の中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

第1020号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第212図 1	坏 土師器	A［14.5］ B（3.1）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P41211 5%

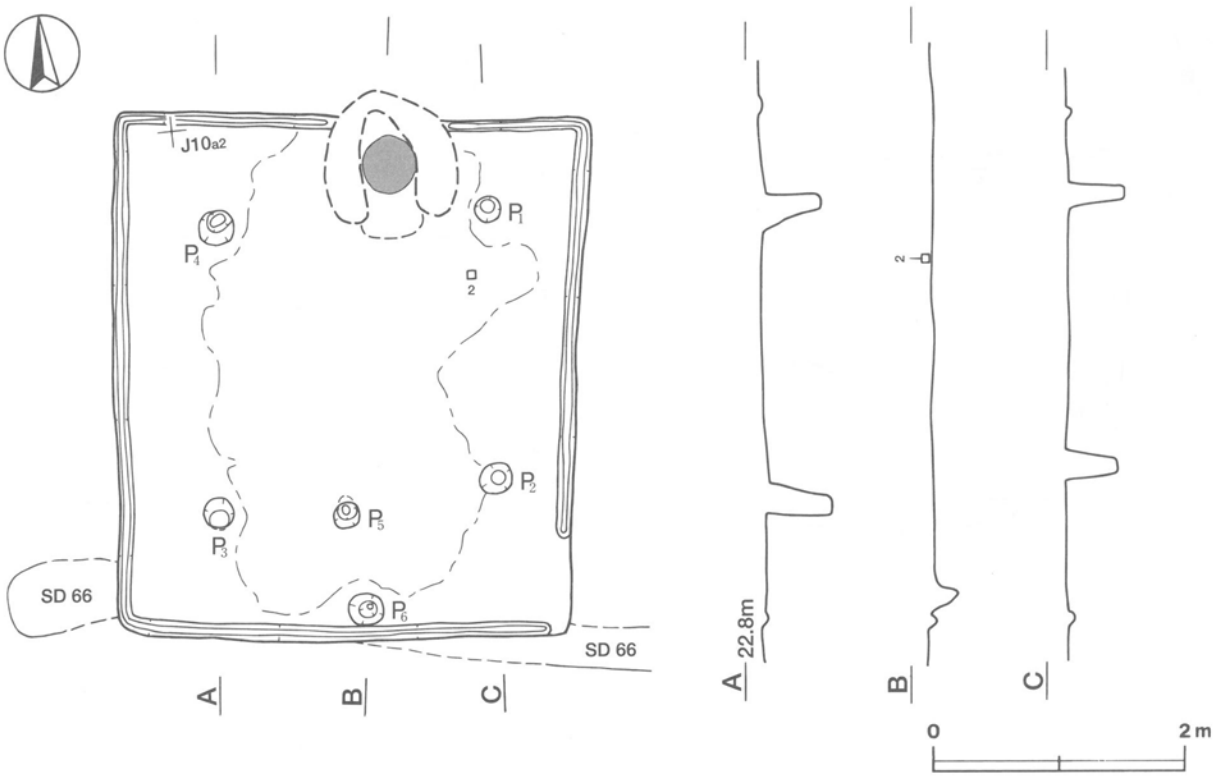
第1023号住居跡（第213・214図）

位置　調査4区の中央部，J10a2区。

重複関係　第66号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　壁溝とピットの配置から，長軸4.17m，短軸3.58mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－6°－E



第213図　第1023号住居跡実測図

壁溝　南東コーナー部を除き，巡っている。規模は上幅10～15cm，下幅４～７cm，深さ約６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

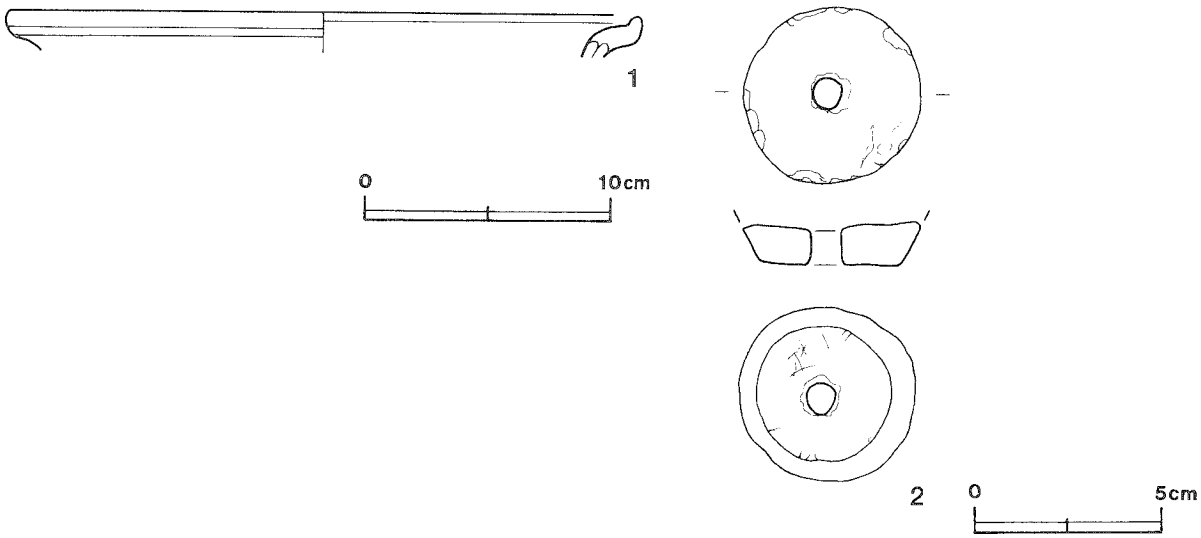
竈　粘土と焼土粒子・炭化粒子の分布が北壁の中央部で検出された。火床部の痕跡で，火床面は赤変している。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は各コーナーから中央部寄りに位置し，径22～32cmの円形で，深さ41～56cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は南壁際の中央部に位置し，それぞれ径25cm・27cmの円形で，深さは40cm・22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片12点，須恵器片１点，土製品１点（紡錘車）が出土している。第214図１の土師器甕は，Ｐ６の覆土中から出土している。２の紡錘車は，北東部の床面から出土している。

所見　出土土器の多くが細片で時期を限定することは困難であるが，出土した土師器甕の形状や，隣接する８世紀後葉と考えられる第1157号住居跡と軸線がほぼ同じであることから，本跡の時期は８世紀と考えられる。



第214図　第1023号住居跡出土遺物実測図

第1023号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 1	甕 土師器	A［25.0］ B（1.6）	口縁部片。口縁部は外反し，端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色，普通	P40520 5％

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径（cm）	厚さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第214図 2	紡錘車	(4.7)	(1.2)	0.8	(31.0)	粘板岩	無文，断面逆台形，上半部欠損。	Q40502，50％

第1027号住居跡（第215・216図）

位置　調査４区の中央部，I11j1区。

重複関係　南東部で第1029号住居跡を掘り込み，東部を第1028号住居に，南東コーナー部を第787号土坑に，北東コーナー部を第914号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　東部を第1028号住居に掘り込まれているため全容は不明である。南北軸は2.86mで，東西軸は2.66mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの配置から，方形と推定される。

主軸方向　N－3°－E

壁　遺存している壁高は12～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部から南部にかけて巡っている。規模は上幅10～15cm，下幅3～5cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで83cmで，中央部から東袖部が第1028号住居に掘り込まれているが，両袖部幅は82cmと推定される。火床面は，火熱を受けて赤変している。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

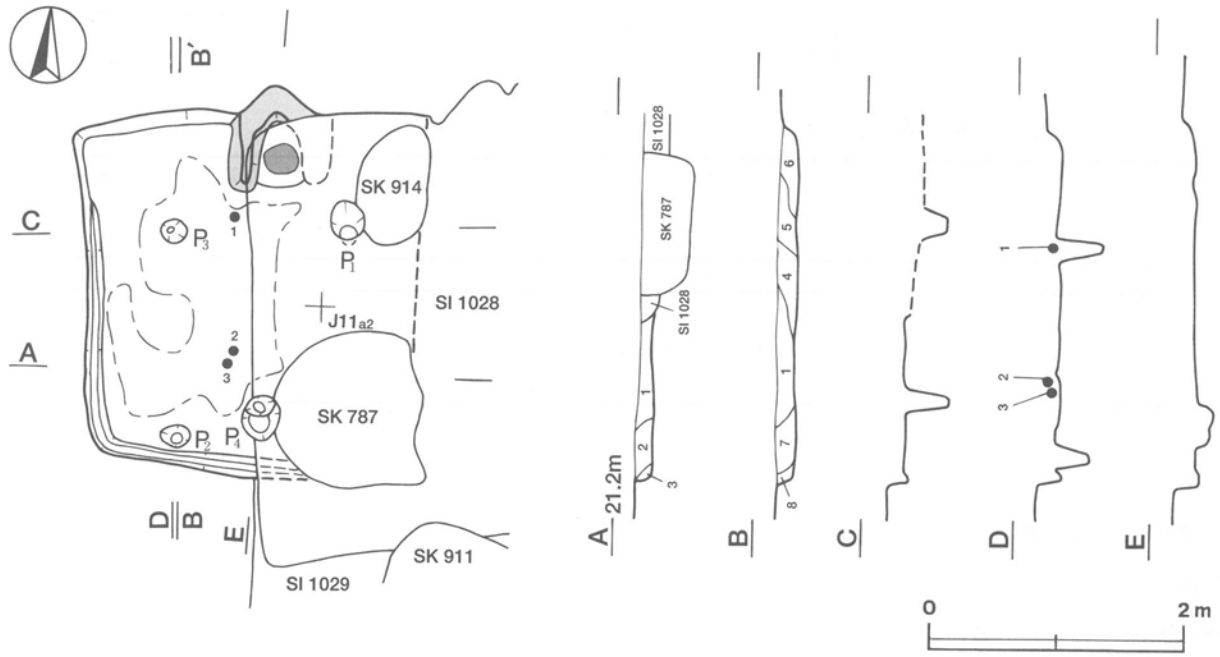
ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は各コーナーからやや中央部寄りに位置し，径20～27cmのほぼ円形で，深さ29～38cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。P4は南壁際の中央部に位置し，長径34cm，短径24cmの楕円形で，深さ15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

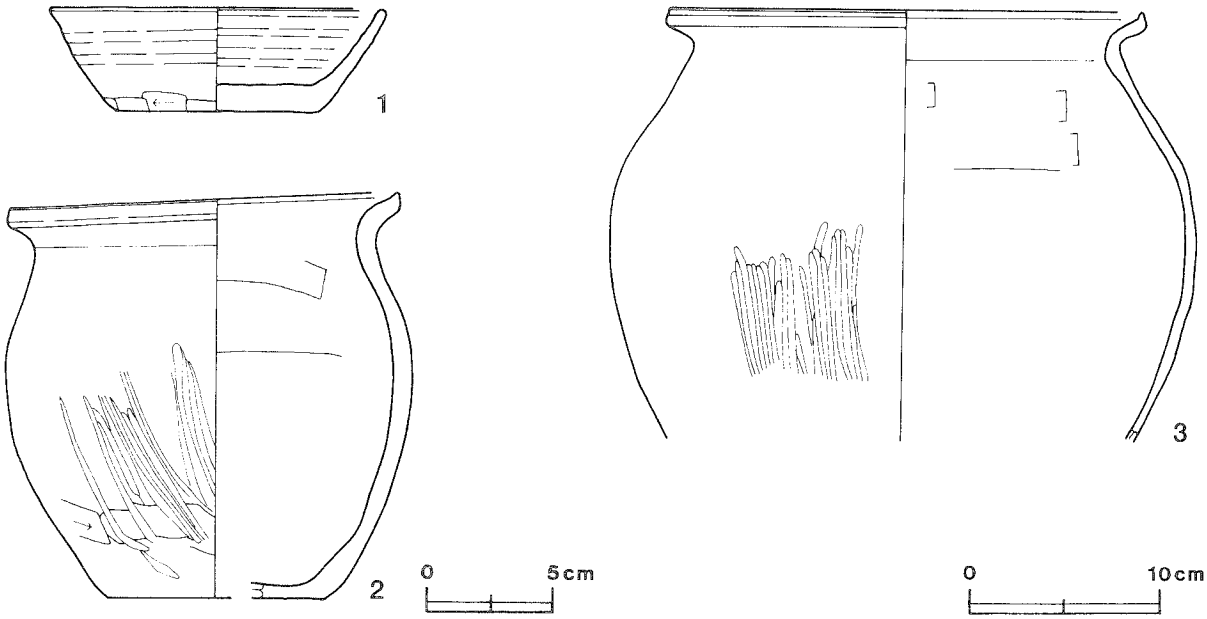
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物　土師器片130点，須恵器片7点が出土している。第216図1の須恵器坏は，北西コーナーから中央部寄りの床面から逆位で出土している。2・3の土師器甕は，南西コーナーから中央部寄りの床面から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第215図　第1027号住居跡実測図



第216図　第1027号住居跡出土遺物実測図

第1027号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第216図 1	坏 須恵器	A 13.1 B 4.2 C 8.0	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P40524 100% PL226
2	甕 土師器	A 15.3 B 16.1 C [8.6]	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は長胴形を呈し，頸部でくびれ口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，中位から下位ヘラ削り後ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P40522 60% PL227
3	甕 土師器	A [24.6] B (22.5)	体部からの口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，中位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P40523 30% PL227

第1028号住居跡（第217・218図）

位置　調査4区の中央部，J11a2区。

重複関係　西部で第1027号住居跡を，中央部から南部で第1029号住居跡を掘り込んでいる。また，南西部を第787号土坑に，北東部を第910号土坑に，南部を第911号土坑に，北西部を第914号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は7～19cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東部から南部にかけて巡っている。規模は上幅9～15cm，下幅3～6cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に26cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで，東袖部の一部が第910号土坑に掘り込まれているが，両袖部幅は90cmと推定される。天井部は崩落してお

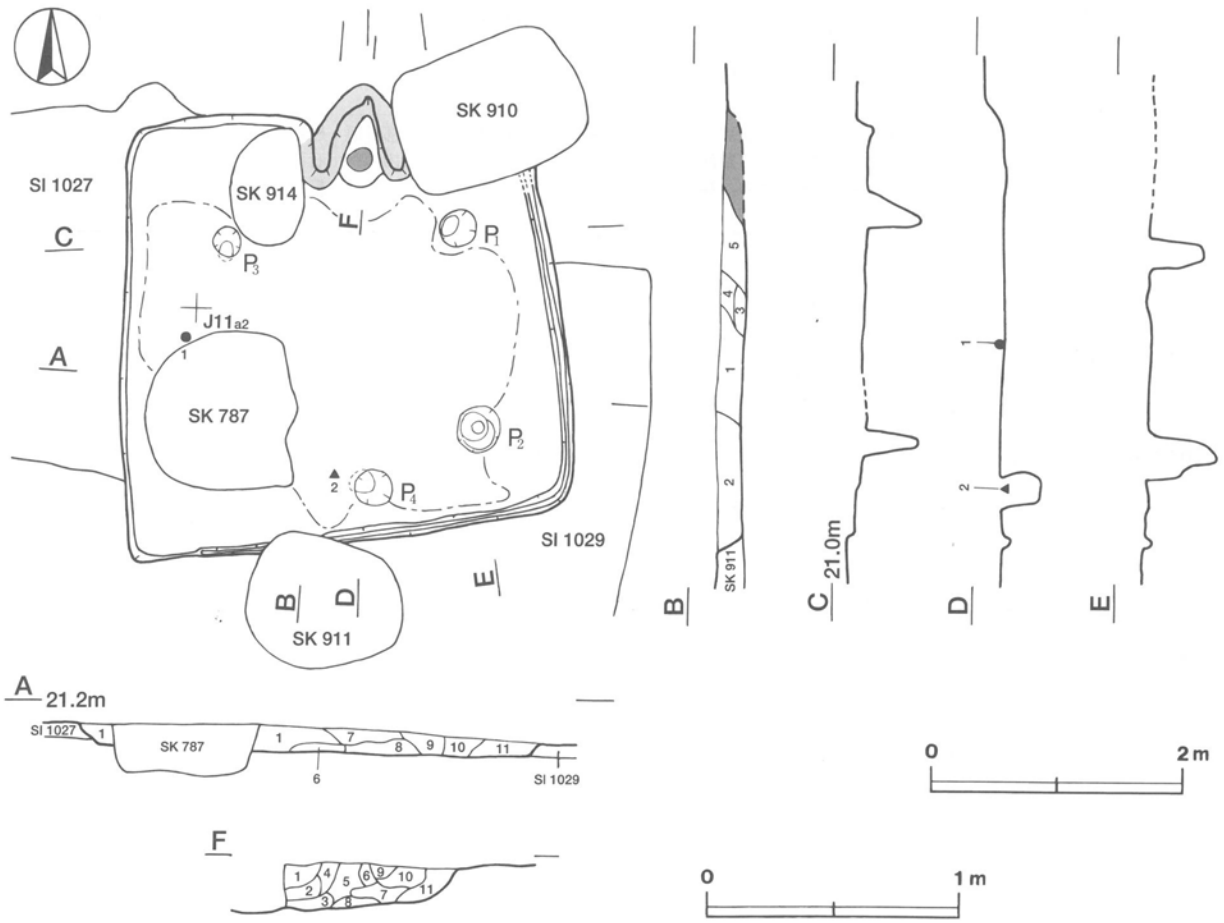
り，土層断面図中，第５・10層が砂粒を中量含むことから，崩落土層と考えられる。第８層は焼土小ブロックや焼土粒子を含み，下面が赤変していることから，下面が火床面と考えられる。煙道は，外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
9　極暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗赤褐色　砂粒・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ３は南西コーナーを除く各コーナーからやや中央部寄りに位置し，径20～35cmのほぼ円形で，深さ44～54cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。Ｐ４は南壁際の中央部に位置し，径30cmの円形で，深さ35cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐色　ローム粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

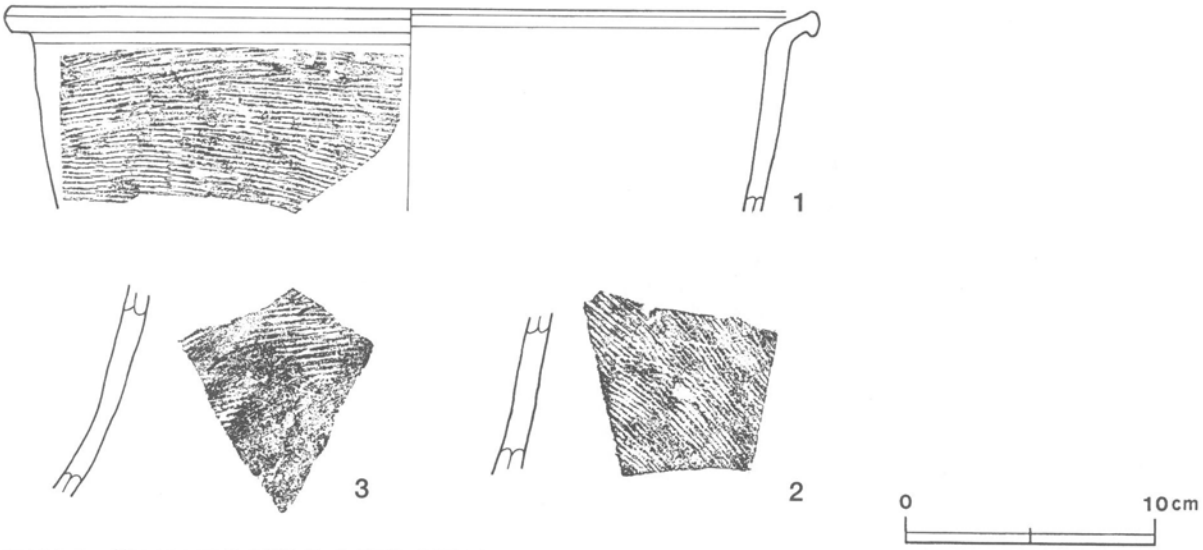


第217図　第1028号住居跡実測図

7　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量

遺物　土師器片161点，須恵器片32点，撹乱により混入したとみられる陶器片２点が出土している。第218図１の須恵器鉢片は西壁際の床面から，２の須恵器鉢体部片は南部の床面から，３の須恵器鉢体部片は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　出土土器が細片で時期を限定することは難しいが，８世紀中葉と考えられる第1027号住居跡を掘り込んでいることや，出土した須恵器の形状から８世紀後半と考えられる。



第218図　第1028号住居跡出土遺物実測図

第 1028 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第218図 1	鉢 須恵器	A［31.8］ B（8.0）	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P40525 5％ PL227
2	鉢 須恵器	B（6.3）	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色，普通	TP40501 5％
3	鉢 須恵器	B（8.5）	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き，下位斜位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色，普通	TP40502 5％

第1030号住居跡（第219・220図）

位置　調査４区の中央部，J10i6区。

重複関係　第1032号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部の約５分の３が未調査区域に位置するため，正確な規模と平面形は確認できない。確認された東西軸は5.15mで，南北軸は北壁から未調査区域との境界まで確認されただけで，3.15mである。平面形は，方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－22°－W

壁　確認された壁高は24～35cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ58cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで163cm，両袖部幅154cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１～７・９層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第17～21・25層が袖部の土層である。第23・24層が火床部の下の埋土と考えられる。第16・22層が灰・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　灰褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　にぶい赤褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土中ブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
10　灰褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
13　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，炭化材微量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
16　浅黄橙色　灰多量，ローム粒子・焼土粒子微量
17　にぶい褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
18　赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・粘土小ブロック微量
19　灰褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
20　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
21　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック微量
22　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
23　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
24　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・炭化物・粘土粒子微量
25　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。北西コーナー部の壁際に位置するＰ１・Ｐ２は，それぞれ径21cm・25cmのほぼ円形で，深さ20cm・18cmである。規模と配置から壁柱穴の可能性が考えられる。

覆土　16層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

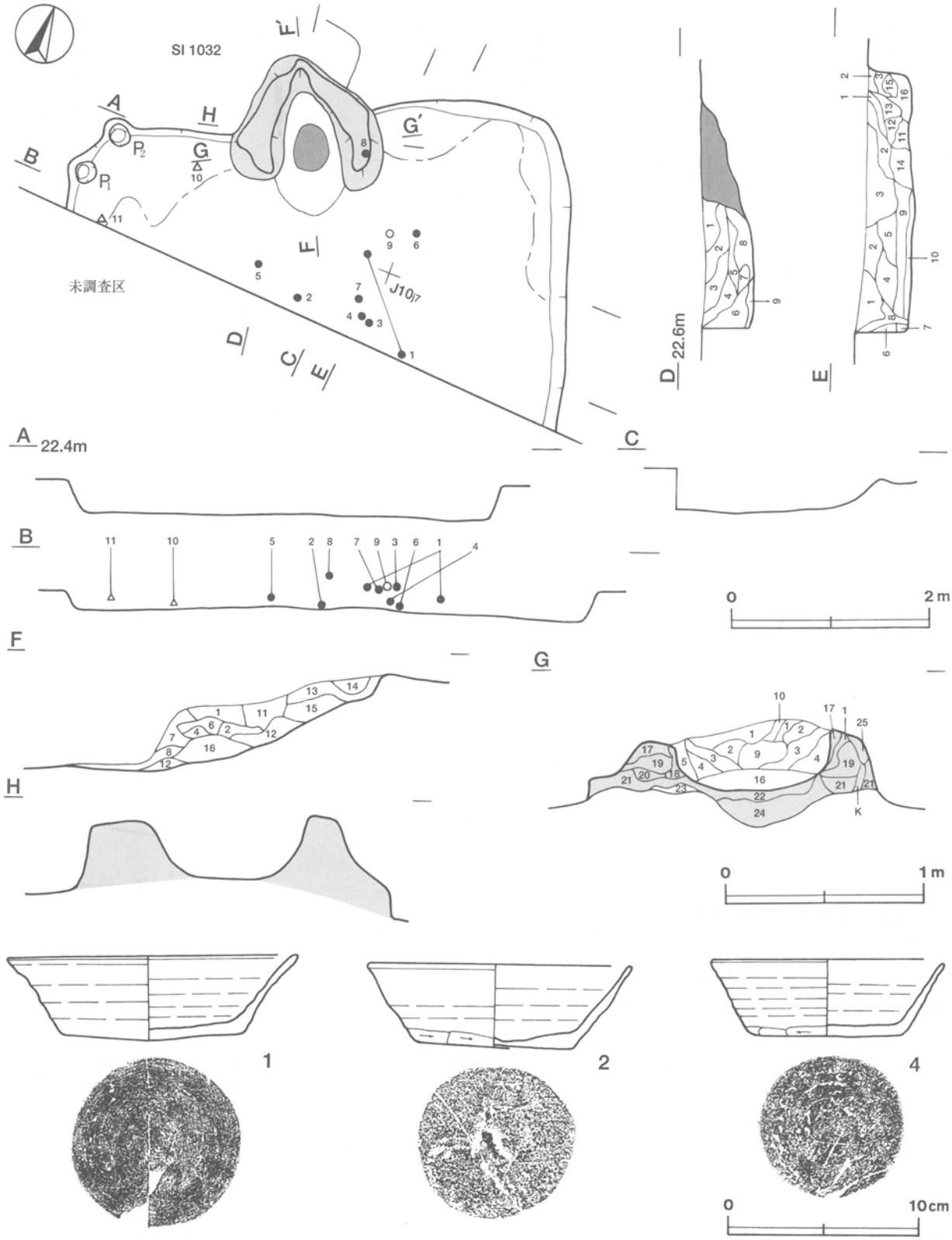
土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化粒子微量
10　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
11　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
12　灰褐色　ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
16　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土粒子微量

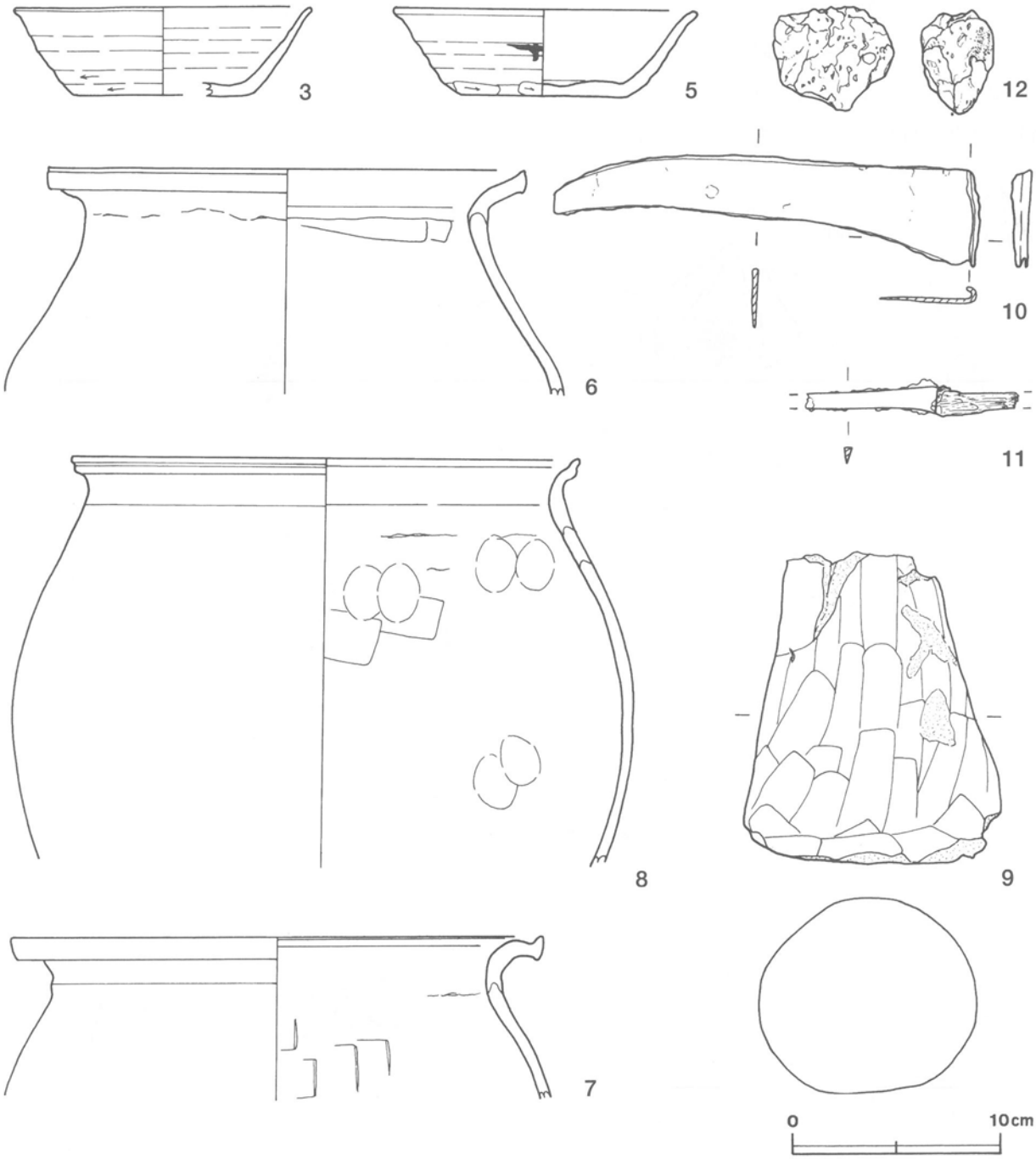
遺物　土師器片601点，須恵器片119点，土製品１点（支脚），鉄器２点（鎌，刀子），鉄滓１点が出土している。第219・220図１～５は須恵器，６～８は土師器である。１の坏は，北東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。２と５の坏は，北西部の覆土中層から破片で出土している。３の坏と７の甕は，中央部の覆土下層から破片で出土している。４の坏は中央部の床面から，６の甕は竈東側の床面から，それぞれ破片で出土している。８の甕は竈袖部上から破片で出土している。９の支脚は，北東部の覆土下層から横位で出土している。10の鎌は，竈西側の床面からまとまって出土している。11の刀子は，北西部の覆土下層から出土してい

る。12の鉄滓は，覆土中から出土している。覆土下層から取り上げた１・３の須恵器坏も，覆土中層から取り上げた２・５の須恵器坏も時期的にほぼ同時期のものと考えられ，覆土中から出土した大部分の土師器・須恵器の細片及び鉄滓は，本跡を廃絶したおりに投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後半と考えられる。



第219図　第1030号住居跡・出土遺物実測図



第220図　第1030号住居跡出土遺物実測図

第 1030 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第219図 1	坏 須恵器	A 14.8 B 4.5 C 9.1	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P 41216 70% P L 227
2	坏 須恵器	A [13.4] B 4.3 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P 41217 50% P L 227
第220図 3	坏 須恵器	A [14.2] B 4.1 C [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部1方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P 41218 30% P L 227

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第219図 4	坏 須恵器	A [12.0] B 3.9 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P41219 40% PL227
第220図 5	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P41220 30% PL227 墨痕有り
6	甕 土師器	A [22.4] B (10.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41213 15% PL227
7	甕 土師器	A [25.0] B (7.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は強く外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41214 5% PL227
8	甕 土師器	A [24.0] B (19.2)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41215 30% PL228

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第220図 9	土製支脚	(14.5)	12.11	(1450.0)	上半部欠損。裾部が開く円柱状。	砂粒・長石・赤色粒子，にぶい橙色	DP41013 60% PL236

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第220図10	鎌	(19.9)	0.3	2.6	(68.7)	鉄	着柄部一部欠損。着柄部全面が折り返されている。	M41019 98% PL237

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第220図11	刀子	(10.0)	(6.1)	0.8	0.3	3.9	(11.7)	鉄	刃先欠損。茎部の木質一部残存	M41020 80% PL237

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第220図12	鉄滓	5.7	4.8	3.5	127.9	鉄	塊状で硬質。気泡痕少ない。	M41021 PL238

第1031号住居跡（第221・222図）

位置　調査4区の中央部，J10e7区。

重複関係　第1040・1054号住居跡を掘り込み，北部を第1035号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.22m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向　N－39°－E

壁　壁高は2～8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北東壁の中央部を壁外へ57cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，両袖部幅98cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1・2層が崩落土層と考えられる。第5層は焼土ブロック・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量

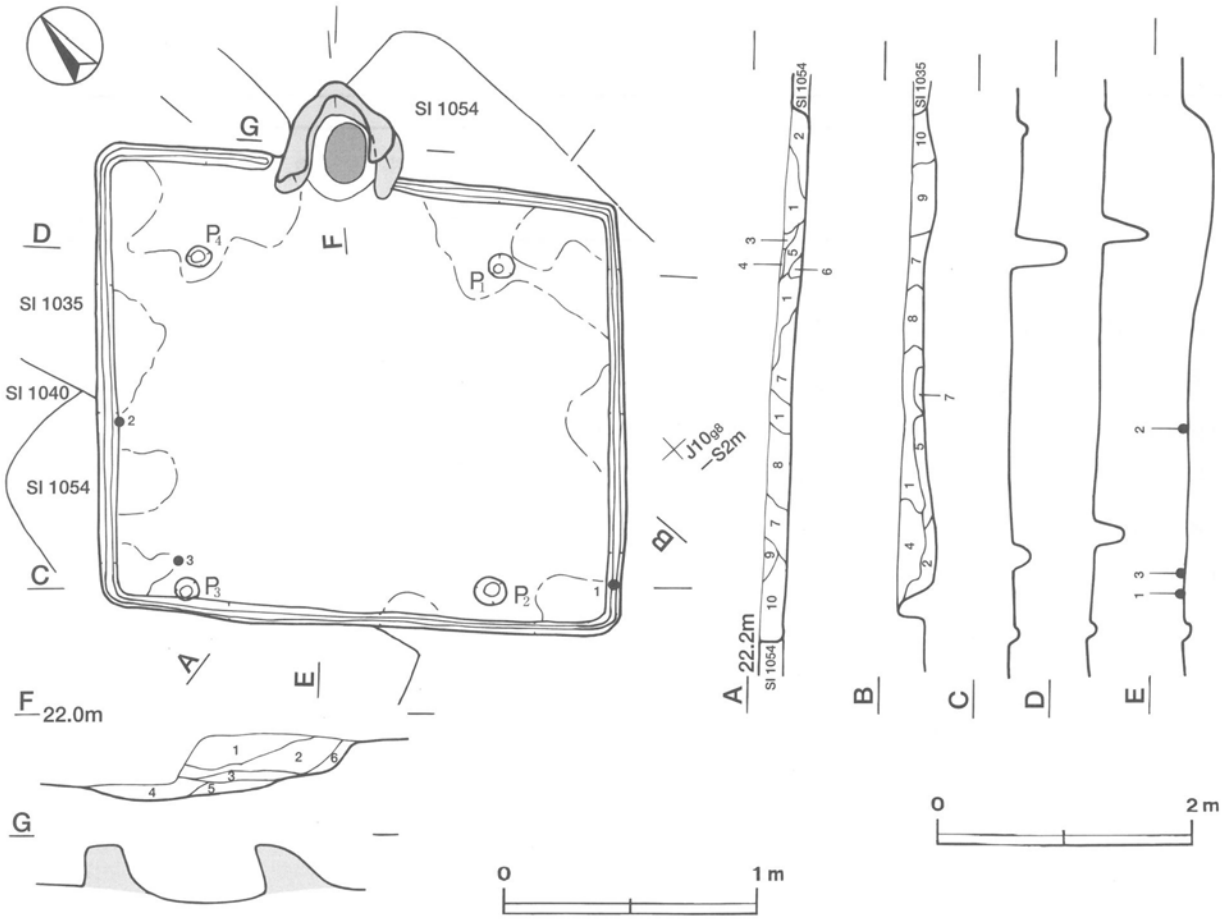
3　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子中量，砂粒・粘土粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒・灰少量
5　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子・灰少量，粘土粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量

ピット　4か所（P1～P4）。東コーナーと北コーナーからやや中央寄りに位置するP1・P4は，それぞれ径20cmと18cmの円形で，深さ39cmと23cmである。南西壁際の南コーナーと西コーナー寄りに位置するP2・P3は，それぞれ径24cmと20cmの円形で，深さ41cmと13cmである。P1～P4はいずれも，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

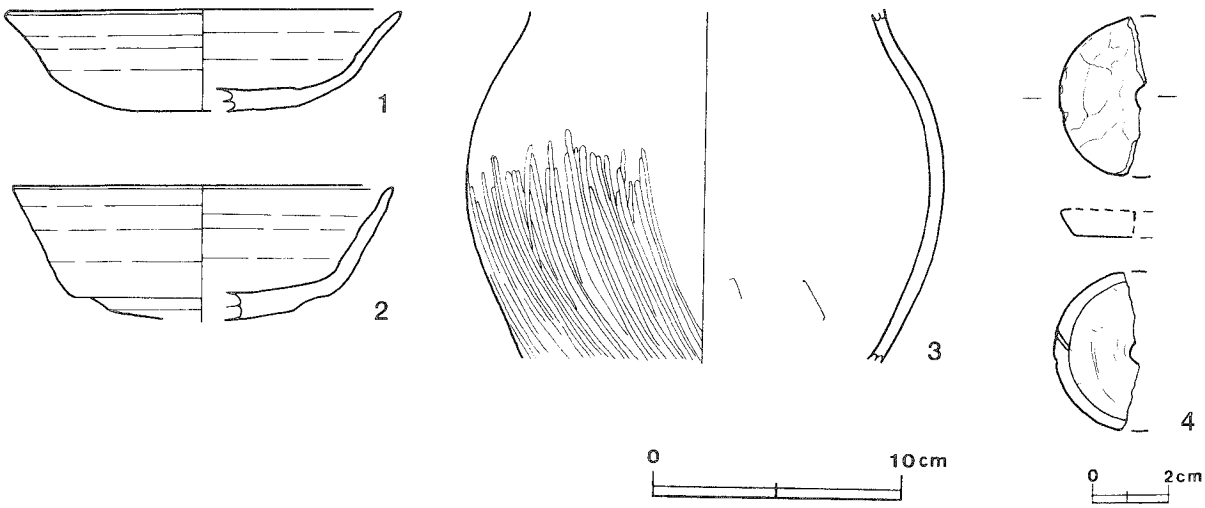
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
9　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物　土師器片738点，須恵器片61点，石製品1点（紡錘車）が出土している。第222図1の須恵器坏は，南コーナー部の南東壁際の床面から出土した破片が接合したものである。2の須恵器坏は，北西壁際の中央部の覆土下層から正位で出土している。3の土師器甕は，西コーナー部の覆土下層から出土している。4の紡錘車は，覆土中から出土している。本跡は覆土が比較的薄いにもかかわらず，出土した土器片が多い。その多くは細片であり，遺構確認面上からの出土であることから，耕作により撹乱されたものと考えられる。



第221図　第1031号住居跡実測図

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀末から8世紀前葉と考えられる。



第222図　第1031号住居跡出土遺物実測図

第1031号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 1	坏 須恵器	A [15.8] B 4.0 C [5.5]	底部から口縁部にかけての破片。丸みをおびた平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P41223 20%
2	坏 須恵器	A [15.0] B (5.8) C [10.2]	底部から口縁部にかけての破片。丸みをおびた平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P41224 20%
3	甕 土師器	B (13.9)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上位ナデ，下位縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色，普通	P41222　20%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第222図4	紡錘車	〔4.2〕	0.7	〔0.6〕	(7.1)	粘板岩	破片。薄い独楽形	Q41023　40%　PL239

第1033号住居跡（第223図）

位置　調査4区の中央部，J10i6区。

重複関係　第1032・1048号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　規模は長軸3.48m，短軸3.14mで，長方形である。

主軸方向　N－97°－E

壁　壁高は23～32cmで，外傾して立ち上がる。

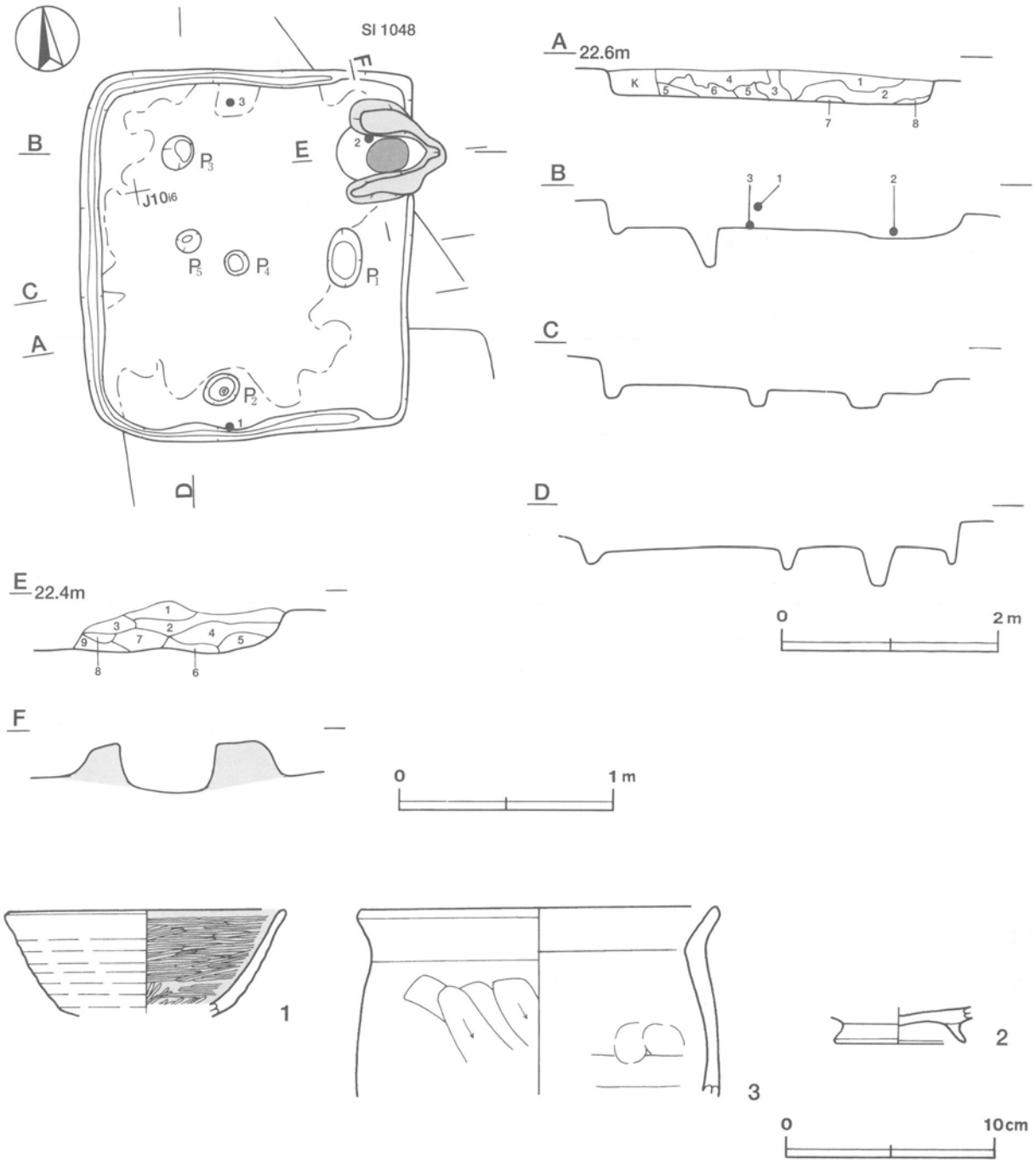
壁溝　南壁から北壁まで巡っている。上幅12～22cm，下幅5～7cm，深さ7～15cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　東壁の北東コーナー寄りを壁外へ32cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで102cm，両袖部幅96cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面中，第1～3層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第6・7層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
7　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化材・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量



第223図　第1033号住居跡・出土遺物実測図

ピット　5か所（P1～P5）。東部の中央に位置するP1は長径51cm，短径32cmの楕円形で，深さ18cmである。南壁際の中央部に位置するP2は，長径32cm，短径26cmの楕円形で，深さ26cmである。北西コーナー部に位置するP3は，径30cmの円形で，深さ37cmである。P1～P3は，規模と配置から主柱穴と考えられる。ほぼ中央部に位置するP4・P5は，それぞれ径22cm・19cmの円形で，深さ17cm・22cmである。規模と配置から，補助柱穴と考えられる。

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・白色粘土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片28点，須恵器片3点が出土している。第223図1～3は土師器である。1の坏は，南壁際中央部の覆土上層から破片で出土している。2の高台付坏は，焚口部から破片で出土している。3の甕は，北壁際の中央部の床面から破片で出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。

第1033号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第223図 1	坏 土師器	A [12.8] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面，体部外面ロクナデ。内面丁寧なヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・赤色粒子 明褐色 普通	P41230 10%
2	高台付坏 土師器	B (1.7) D 6.0 E 0.9	高台部から底部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開き，端部が開く。	底部ヘラ切り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41231 10%
3	甕 土師器	A [16.6] B (8.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41232 15%

第1035号住居跡（第224図）

位置　調査4区の中央部，J10f7区。

重複関係　第1031・1051・1054号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.00m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は15～26cmで，外傾して立ち上がる。

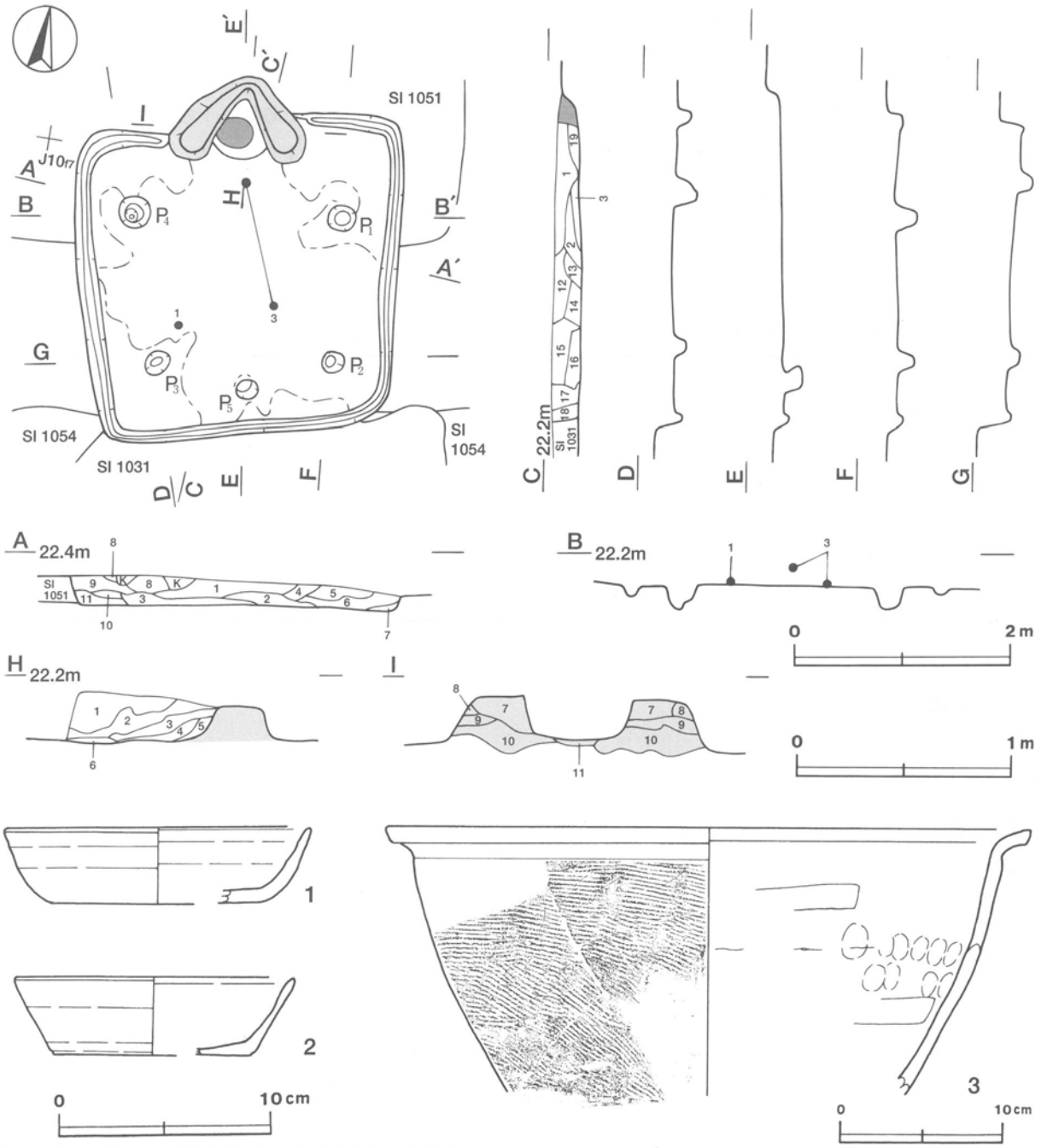
床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで78cm，両袖部幅125cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子を多量に含み赤変している第2・3層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第7～9層が袖部の土層と考えられる。第4・11層は焼土ブロック・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・灰微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
8　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
10　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量

ピット　5か所（P 1～P 5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP 1～P 4は，径20～29cmの円形で，



第224図　第1035号住居跡・出土遺物実測図

深さ13～24cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径20cmの円形で，深さ17cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　19層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
12　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
13　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
14　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
17　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
18　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
19　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片337点，須恵器片38点，鉄滓１点が出土している。第224図１～３は，須恵器である。１の坏は，中央部の覆土下層から逆位で出土している。２の坏は，竈の覆土中から破片で出土している。３の鉢は，竈の前から中央部にかけて床面から出土した破片が接合したものである。鉄滓は小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。

第1035号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第224図 1	坏 須恵器	A［14.2］ B　3.5 C［9.8］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄白色 普通	P41239 25%
2	坏 須恵器	A［12.8］ B　3.7 C［9.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P41240 10%
3	鉢 須恵器	A［39.2］ B（16.5）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位と斜位の平行叩き。内面ヘラナデ後，指頭押圧痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P41241 15% ＰＬ228

第1039号住居跡（第225・226図）

位置　調査４区の中央部，J10h6区。

重複関係　第1047・1048号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　北東コーナー部から南東コーナー部にかけて耕作による撹乱を受けている。長軸2.86m，短軸2.66mの方形である。

主軸方向　長軸を軸線としてＮ－12°－Ｗ

壁　確認された壁高は最大40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東部の東壁から北西コーナー部の西壁まで巡っており，上幅11～16cm，下幅４～７cmで，断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北東部から東部にかけての撹乱土から砂質粘土と焼土ブロック・焼土粒子が確認されたものの，掘り方等の竈の痕跡は検出されなかった。

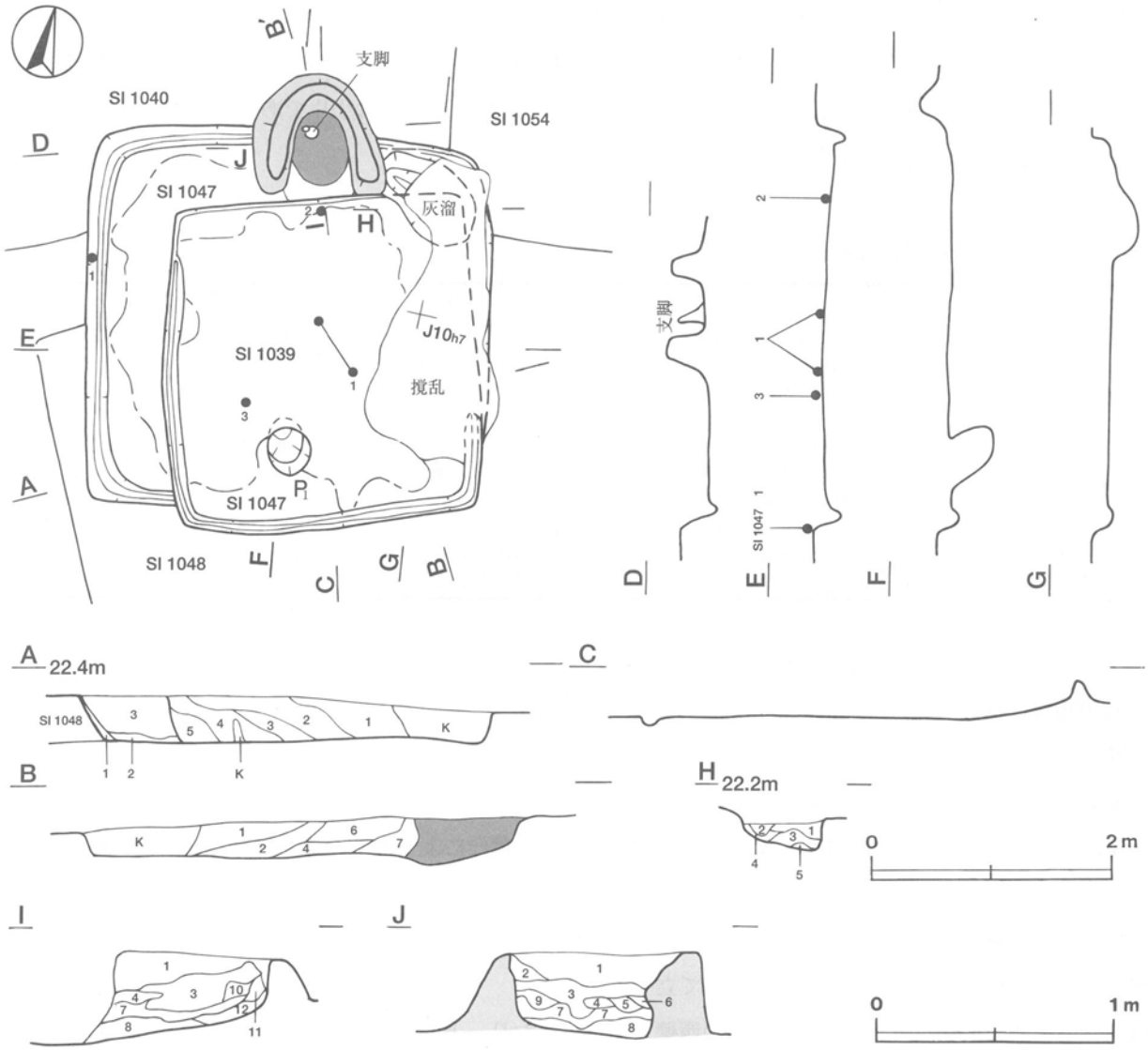
覆土　7層からなる。壁際からの堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

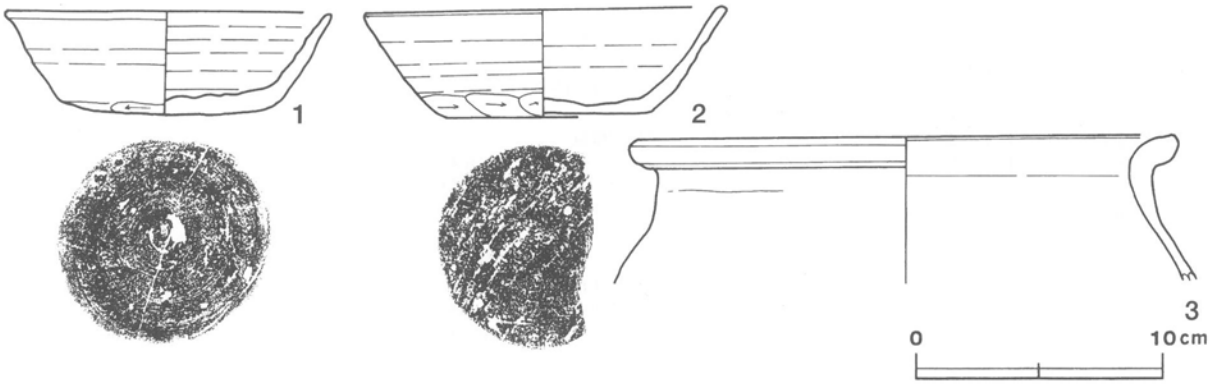
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物　土師器片255点，須恵器片47点が出土している。第226図1の須恵器坏は，中央部の床面から出土した破片が接合したものである。2の須恵器坏は，北壁際の中央部の床面から正位で出土している。3の土師器甕は，南西部の床面から破片で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第225図　第1039・1047号住居跡実測図



第226図　第1039号住居跡出土遺物実測図

第1039号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第226図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 4.1 C 8.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	P41243 90% ＰＬ227
2	坏 須恵器	A 14.4 B 4.2 C 8.1	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P41244 60% ＰＬ227
3	甕 土師器	A [21.6] B (5.8)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に屈曲し，端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41242 10%

第1042号住居跡（第227・228図）

位置　調査４区の中央部，K10b0区。

重複関係　北壁の中央部を第1416号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.62m，短軸3.58mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は25～54cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅17～31cm，下幅６～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に，構築材と考えられるわずかな砂質粘土が確認された。第1416号土坑の掘り込まれている部分に付設されていたものと考えられる。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径22～30cmの円形で，深さ21～29cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径32cmのほぼ円形で，深さ28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　18層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

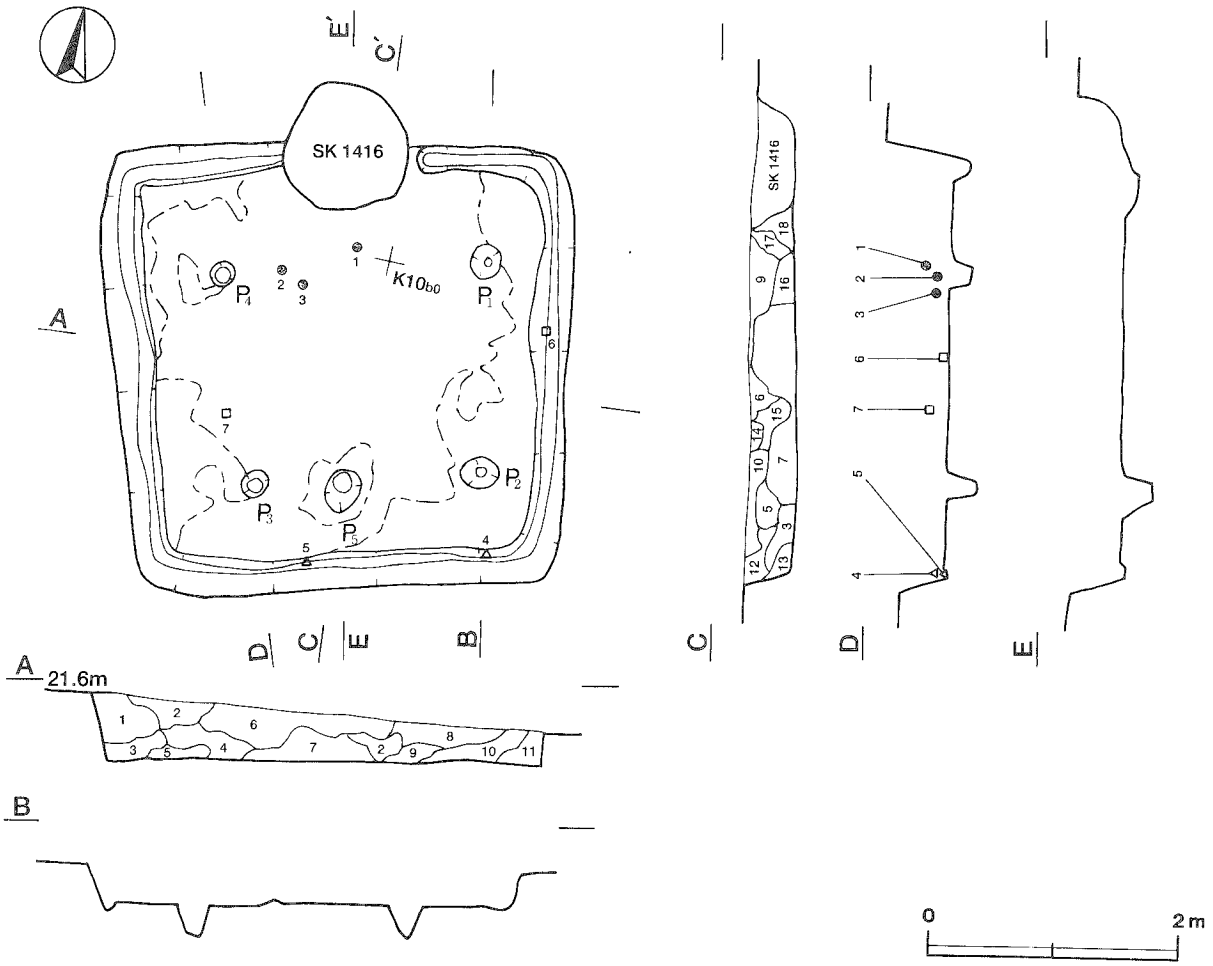
土層解説

1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

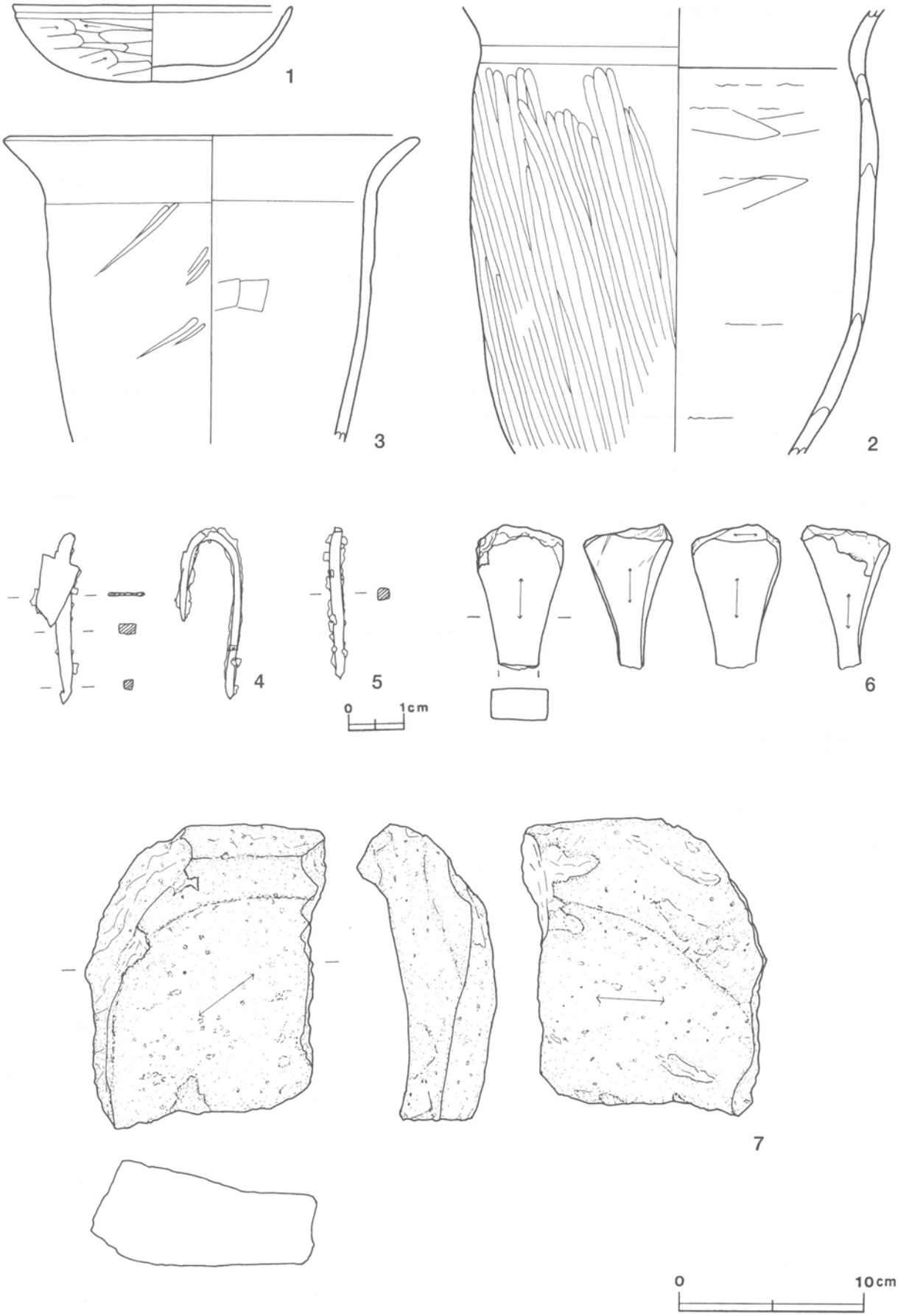
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
9　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
11　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
15　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
16　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
18　黒 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック・砂粒微量

遺物　土師器片413点，須恵器片10点，土製品１点（支脚），石器２点（砥石），鉄器・鉄製品３点（鏃，釘，不明鉄製品）が出土している。第228図１の土師器坏は，中央部の覆土下層から破片で出土している。２の土師器甕と３の土師器甑は，北西部からやや中央部寄りの覆土下層からまとまって出土している。４の鏃は，南東部の南壁際の覆土下層から出土している。５の釘は，南壁際の中央部の壁溝内から出土している。６の砥石は，東壁際の中央部の床面から出土している。７の砥石は，北西部からやや中央部寄りの覆土下層から出土している。不明鉄製品と支脚は破損した小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第227図　第1042号住居跡実測図



第228図　第1042号住居跡出土遺物実測図

第1042号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第228図 1	坏 土師器	A 15.1 B 4.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P41249 55% PL227
2	甕 土師器	B (24.1)	体部下位から頸部にかけての破片。体部は長胴形を呈し，頸部は緩やかに外反する。	頸部内・外面ナデ。体部外面ヘラナデ後，縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残す横位のナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色，普通	P41250 50% PL228 外面剥離
3	甑 土師器	A [22.0] B (16.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラナデ，一部斜位の磨き。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41251 20% PL229

図版番号	器種	計測値 全長(cm)	鏃身長(cm)	篦被部長(cm)	篦被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
第228図 4	鏃	(9.5)	(2.4)	5.3	0.6	(1.8)	0.3	0.1～0.4	(6.1)	鉄	茎部一部屈曲，端部欠損。三角形鏃	M41023 95% PL237

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
第228図 5	不明	(5.4)	0.4	0.4	(3.4)	鉄	端部欠損。棒状。釘又は紡錘の軸部の一部か	M41025 40% PL237

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
第228図 6	砥石	(7.7)	4.8	1.7	(134.4)	凝灰岩	砥面5面，中央部が薄くなっている。	Q41026 50% PL239
7	砥石	(16.3)	(13.2)	5.2	(1480.0)	安山岩	砥面2面。石皿の転用か	Q41025 40% PL239

第1043号住居跡（第229図）

位置　調査4区の中央部，J10c0区。

規模と平面形　長軸3.44m，短軸2.48mの長方形である。

主軸方向　N－108°－E

壁　傾斜地に立地しているため，東側は遺存していない。遺存している壁高は8～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は，上幅10～17cm，下幅5～9cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　粘土と焼土粒子・炭化粒子の分布が，東壁の中央部からやや南寄りで検出された。火床部の痕跡で，火床面は赤変している。

ピット　1か所。P1は南西コーナー部に位置し，径60cmの円形で，深さは40cmである。性格は不明である。

P1土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量

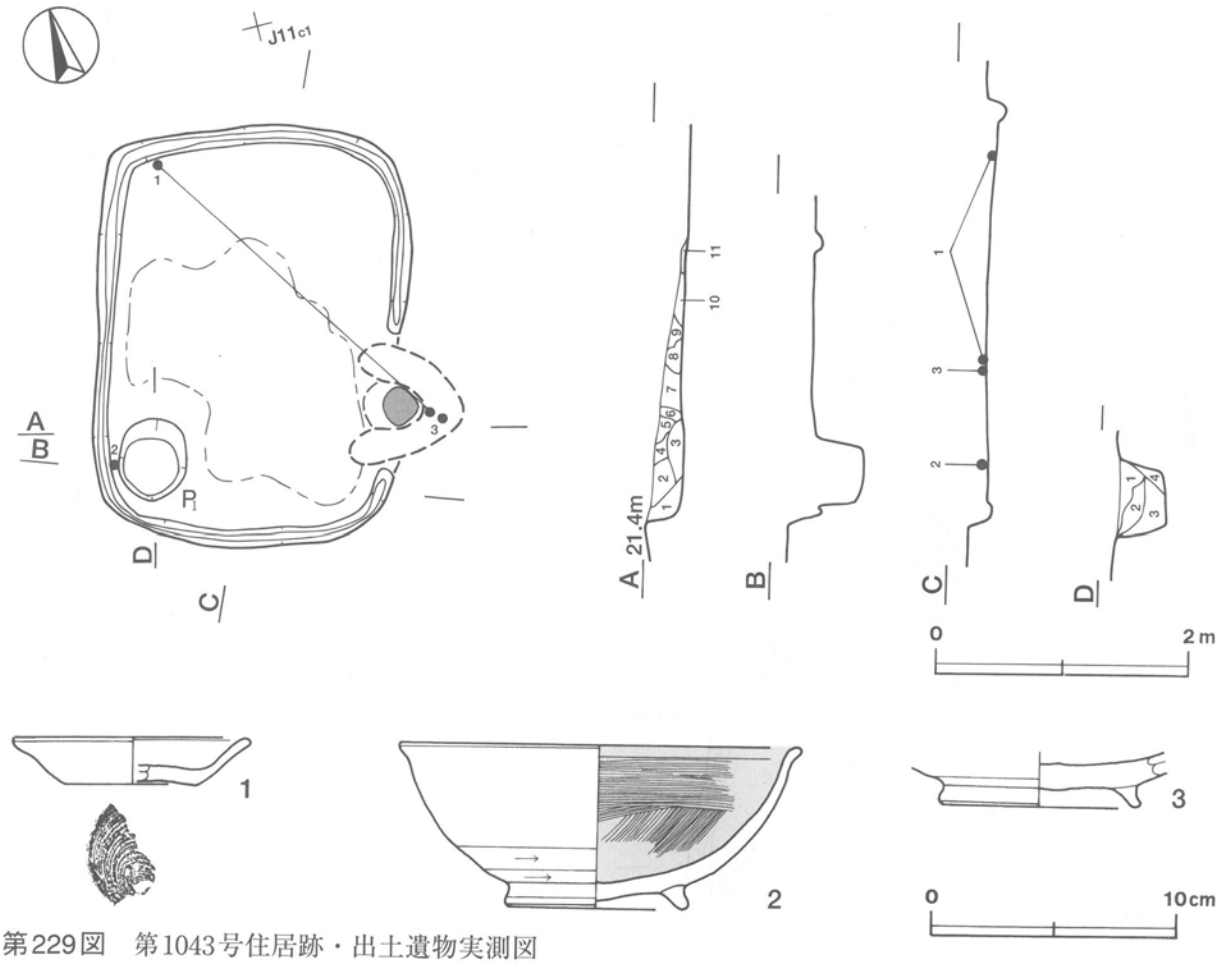
覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
11　暗 褐 色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片113点，混入したとみられる須恵器片６点が出土している。第229図１の土師器皿は，北西部の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。２の土師器高台付坏は，南西部の床面から正位で出土している。３の土師器高台付坏は，竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第229図　第1043号住居跡・出土遺物実測図

第 1043 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第229図 1	皿 土 師 器	A ［ 9.2］ B　1.9 C ［ 5.0］	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P 40532 25% P L 228
2	高 台 付 坏 土 師 器	A ［15.6］ B　6.6 D ［ 6.9］ E　1.0	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面横位のヘラ磨き。体部下端及び底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 40533 30% P L 228
3	高 台 付 坏 土 師 器	B （ 2.2） D ［ 7.6］ E　1.0	高台部から体部下端の破片。高台は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色，普通	P 40534 10% P L 228

第1046号住居跡（第230・231図）

位置　調査４区の中央部，J10d6区。

重複関係　第1045・1051号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.58m，短軸3.32mの方形である。

主軸方向　N－６°－W

壁　壁高は８～27cmで，外傾して立ち上がる。

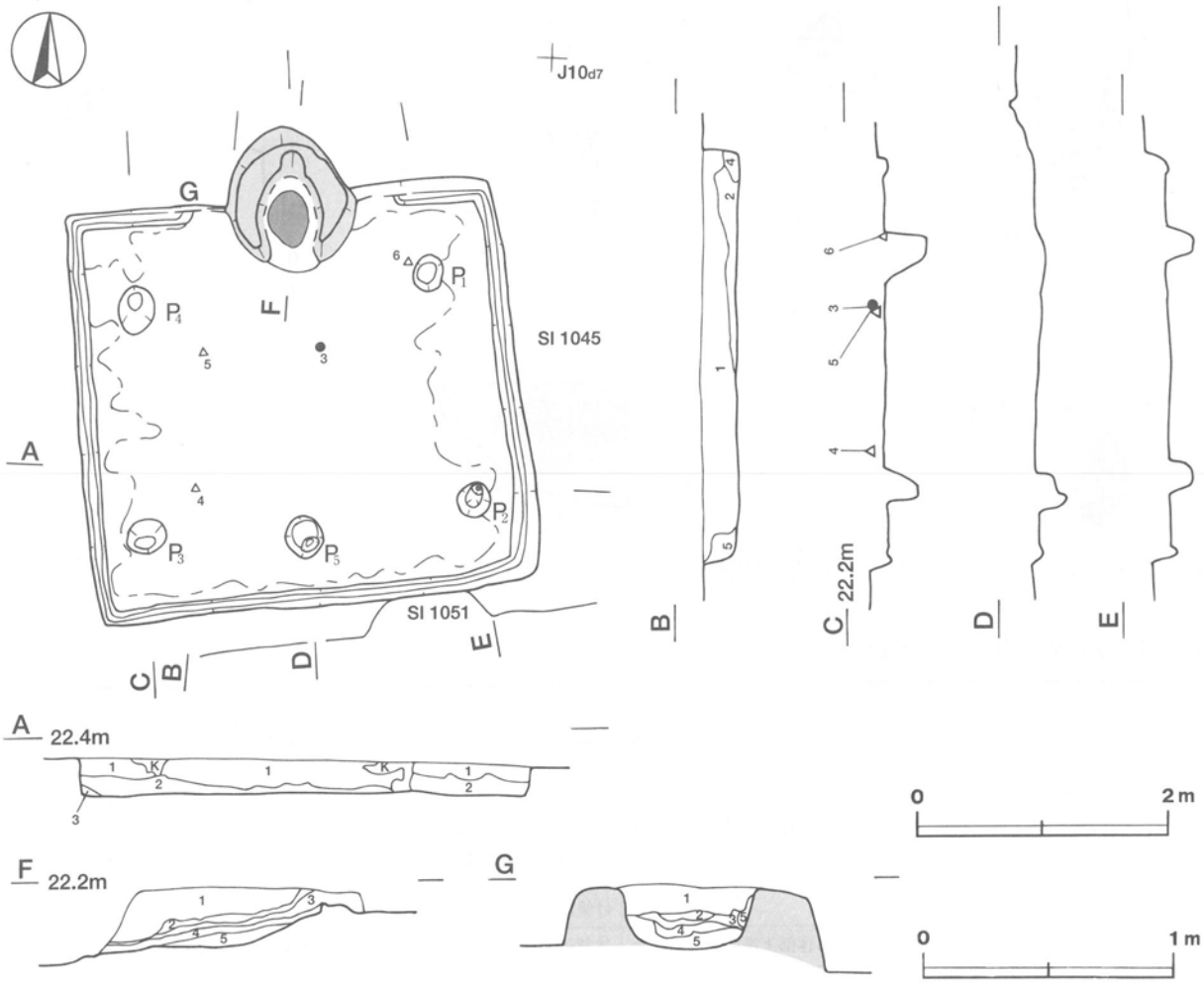
壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅11～23cm，下幅３～６cm，深さ２～４cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ58cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，両袖部幅107cmである。天井部は緩やかに押しつぶされたように崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～４層が崩落土層と考えられる。第５層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量



第230図　第1046号住居跡実測図

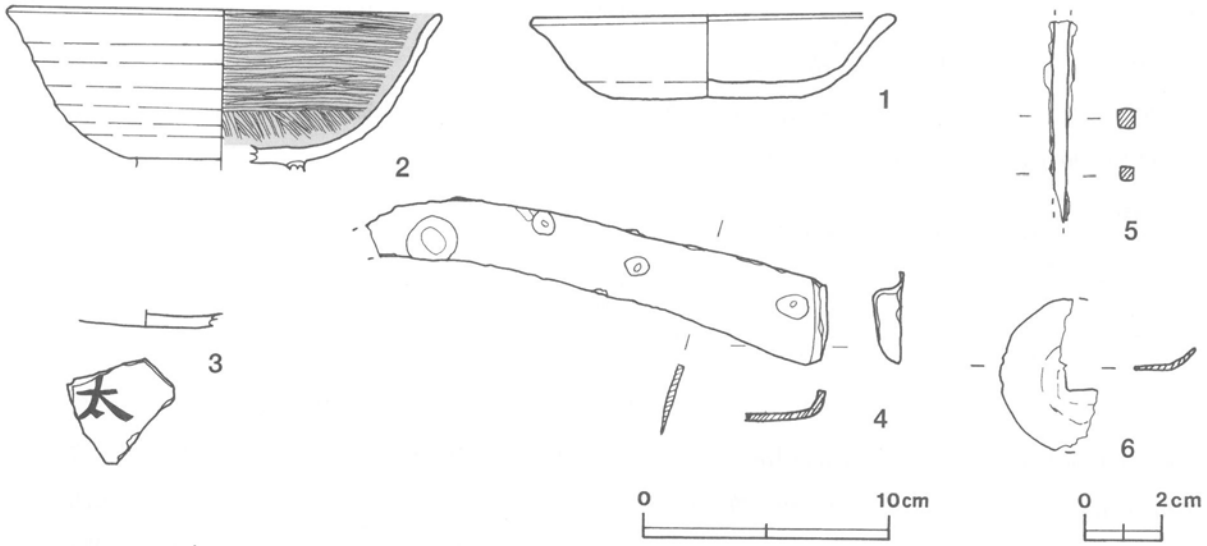
ピット　5か所（P 1～P 5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP 1～P 4は，径28～36cmのほぼ円形で，深さ20～36cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP 5は，径32cmの円形で，深さ24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
5　灰褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量

遺物　土師器片411点，須恵器片67点，鉄器・鉄製品3点（鎌，不明，紡錘車片），鉄滓1点が出土している。第231図1の土師器坏は，南東部と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。2の土師器高台付坏は，中央部の覆土中層から破片で出土している。体部外面に墨書されている3の土師器高台付皿は，中央部の床面から破片で出土している。4の鎌は，南西部の覆土下層から出土している。5の不明鉄製品は，中央部やや北西寄りの床面から出土している。6の紡錘車片は，北東部の床面から出土している。鉄滓は覆土下層から出土しているものの，極小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀末葉から10世紀前半にかけてと考えられる。



第231図　第1046号住居跡出土遺物実測図

第1046号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第231図 1	坏 土師器	A［14.2］ B　3.3 C　7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P41265 50% PL230
2	高台付坏 土師器	A［16.8］ B（6.2） E（0.4）	底部から口縁部にかけての破片。高台欠損。体部から内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41266 30% PL228
3	高台付皿 土師器	B（0.7）	底部の破片。	底部外面1方向ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石 橙色 普通	P41267　5% PL228 外面に墨書「太」

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重さ(g)			
第231図4	鎌	(18.0)	0.3	2.8	(55.6)	鉄	刃部一部欠損。着柄部全面が折り返されている。	M41028 90% PL237

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第231図5	不明	(5.3)	0.35～0.5	0.35～0.5	(3.7)	鉄	棒状。釘又は紡錘の軸部の一部カ	M41029 40%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第231図6	紡錘車	[4.0]	0.1	(0.7)	(3.8)	鉄	紡錘の破片。軸部欠損。板状	M41030 30%

第1047号住居跡（第225・232図）

位置　調査4区の中央部，J10h6区。

重複関係　第1040・1048・1054号住居跡を掘り込み，全体的に第1039号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.44m，短軸3.26mの方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　確認された壁高は6～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナーを除き，壁の下を巡っており，上幅16～21cm，下幅4～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。竈と北東コーナーの間に，長径95cm，短径56cmのほぼ楕円形で，深さ22cmの掘り込みが検出された。覆土の上層から，比較的多量の焼土が確認されていることから，一時的に焼土粒子や灰を溜めておいた灰溜と考えられる。

灰溜土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

竈　北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで128cm，両袖幅107cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第3～7層が崩落土層と考えられる。第8層は焼土粒子・灰を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。火床部には土製支脚が立位で出土しており，使用時の状態を保っていたものと思われる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量，炭化物・粘土粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
11　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
12　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・砂粒微量

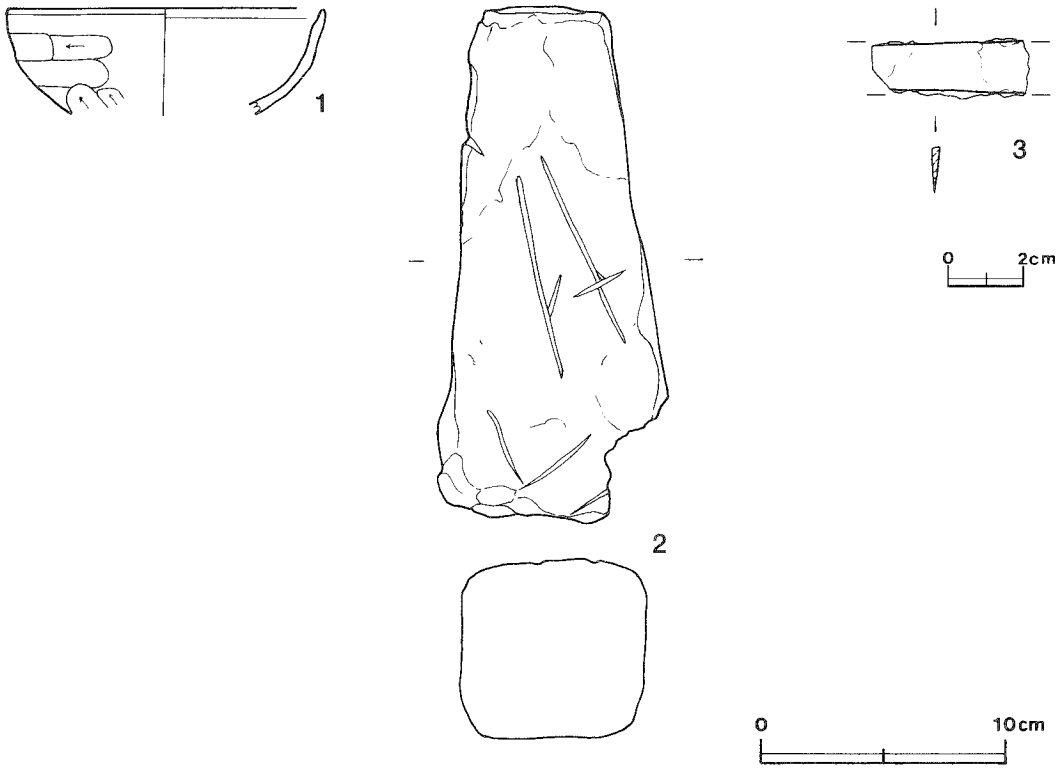
ピット　1か所。南壁際の中央部に位置するP1は，40cmのほぼ円形で，深さ40cmである。位置的に出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。全体的に第1039号住居に掘り込まれているため，堆積状況は確定できないものの，壁際の三角堆積から自然堆積と推定される。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片93点，須恵器片16点，土製品1点（支脚），鉄器1点（刀子）が出土している。第232図の1の土師器坏は，北西部の西壁際の覆土中層から破片で出土している。2の支脚は，火床面から立位で出土している。3の刀子は，竈の東側の灰溜の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第232図　第1047号住居跡出土遺物実測図

第1047号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図1	坏 土師器	A［12.6］ B（4.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	P41271 15%

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第232図2	土製支脚	20.4	5.4～9.0	1240.0	裾部一部欠損。裾部が開く角柱状。ナデ。	砂粒，にぶい赤褐色	DP41015　85%　PL236

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第232図3	刀子	(4.2)	(4.2)	1.2	0.2	－	(3.2)	鉄	刀身部の破片。	M41032　30%　PL237

第1052号住居跡（第233図）

位置　調査４区の中央部，J11h3区。

重複関係　第407・1080号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.25m，短軸3.69mの長方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は20～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～25cm，下幅４～７cm，深さ５～７cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで141cm，両袖部幅107cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～３・５～９層が崩落土層と考えられる。焼土粒子と灰を比較的多く含む第４・10・16層が，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰　褐　色	粘土粒子・砂粒・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子・灰中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5	灰　褐　色	ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6	灰　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土小ブロック微量
7	黒　褐　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	灰　褐　色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	にぶい褐色	砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・灰中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量
11	極暗赤褐色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子微量
13	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材微量
14	極暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量，砂粒微量
15	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
16	にぶい褐色	灰多量，焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
17	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・灰微量

ピット　７か所（Ｐ１～Ｐ７）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径22～30cmのほぼ円形で，深さ20～48cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径31cmの円形で，深さ37cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１の北側にあるＰ６は，径25cmのほぼ円形で，深さ20cmである。Ｐ２の北側にあるＰ７は，径16cmのほぼ円形で，深さ21cmである。Ｐ６・Ｐ７は，規模と配置から補助柱穴と考えられる。

覆土　20層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

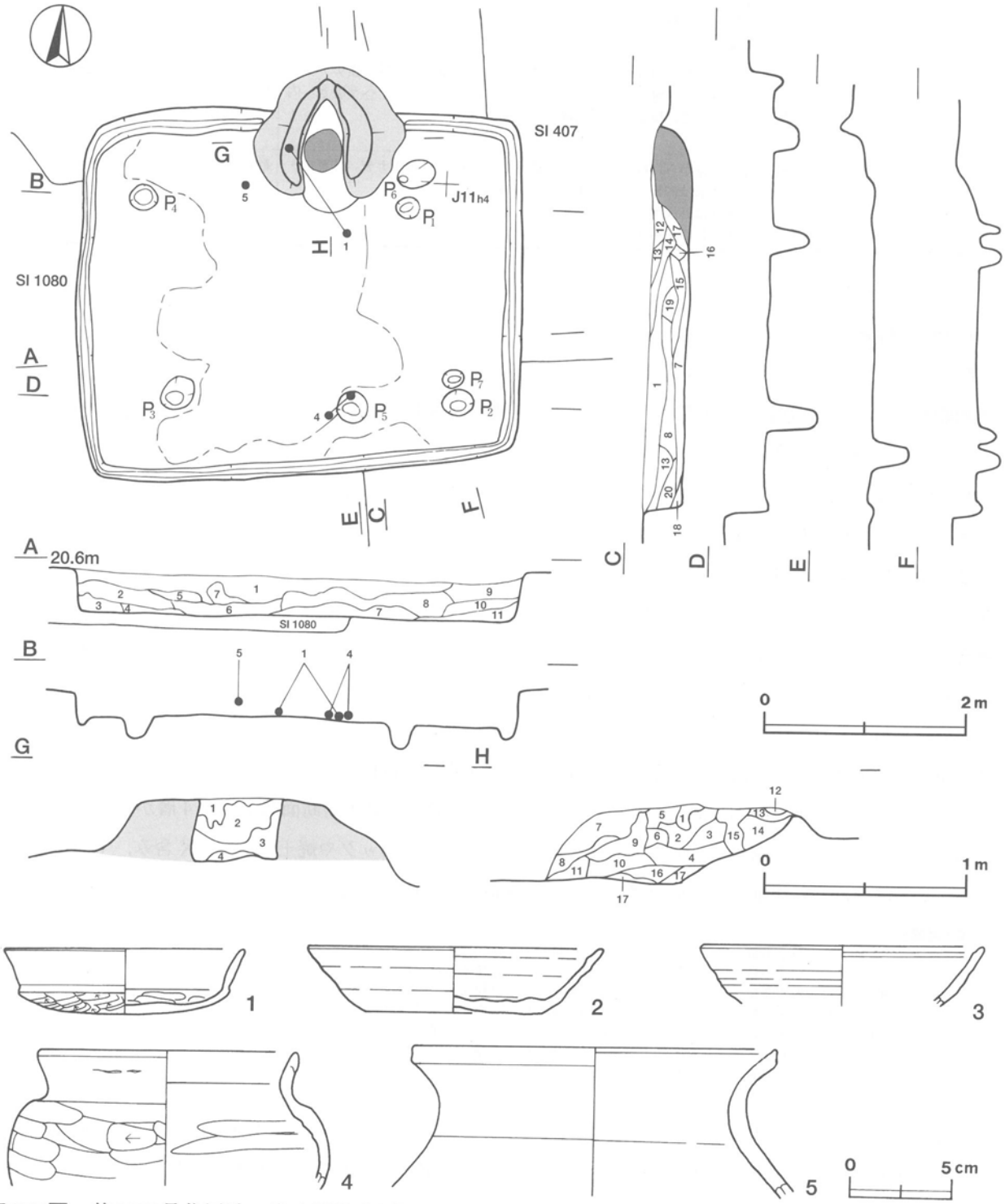
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化材・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
12	黒褐色	コーム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
13	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量
17	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

18　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
19　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
20　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片475点，須恵器片16点，鉄滓１点が出土している。第233図１の土師器坏は，竈手前の覆土下層と西袖部から出土した破片が接合したものである。２の須恵器坏は，北東部の覆土中から，３の須恵器坏は，南東部の覆土中から，５の土師器甕は北西部の覆土下層から，それぞれ破片で出土している。４の土師器甕は，Ｐ５付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第233図　第1052号住居跡・出土遺物実測図

第1052号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第233図 1	坏 土師器	A 11.8 B 3.2	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。底部と体部との境に稜をもつ。体部はゆるく外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部外面ヘラ削り，内面指頭痕を残すナデ。	砂粒 橙色 普通	P41280 60% PL228 煤付着
2	坏 須恵器	A [14.2] B 3.3 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P41284 15%
3	坏 須恵器	A [13.8] B (2.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部内面に弱い1条の沈線を巡らしている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 良好	P41285 10%
4	甕 土師器	A 12.5 B (6.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒 橙色 普通	P41281 20% PL229
5	甕 土師器	A [17.8] B (7.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41282 5%

第1053号住居跡（第234・235図）

位置　調査4区の中央部，J10e9区。

重複関係　第1049号住居跡の南西部と，第1059号住居跡の北西部をそれぞれ掘り込んでいる。また，南西部を第921号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　西部の壁の立ち上がりが確認できなかったが，ピットの配置や床面の広がりから，長軸3.00m，短軸2.90mの方形と推定される。

主軸方向　N－107°－E

壁　確認できた壁高は12～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部から北東・南東コーナー部にかけて確認できた。規模は上幅10～20cm，下幅5～9cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　東壁の中央部からやや南寄りを壁外に75cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口から煙道部まで100cm，両袖部幅75cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第4層が粘土粒子や砂粒を多く含むことから，崩落土層と考えられる。第3層は焼土小ブロックや焼土粒子を多く含み，下面が赤変硬化していることから，下面が火床面と考えられる。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
4　黒褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
6　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・灰少量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーからやや中央部寄りに位置し，径15～25cmの円形で，深さ27～40cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は西壁際の中央部に位置し，長径38cm，短径28cmの楕円形で，深さ53cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

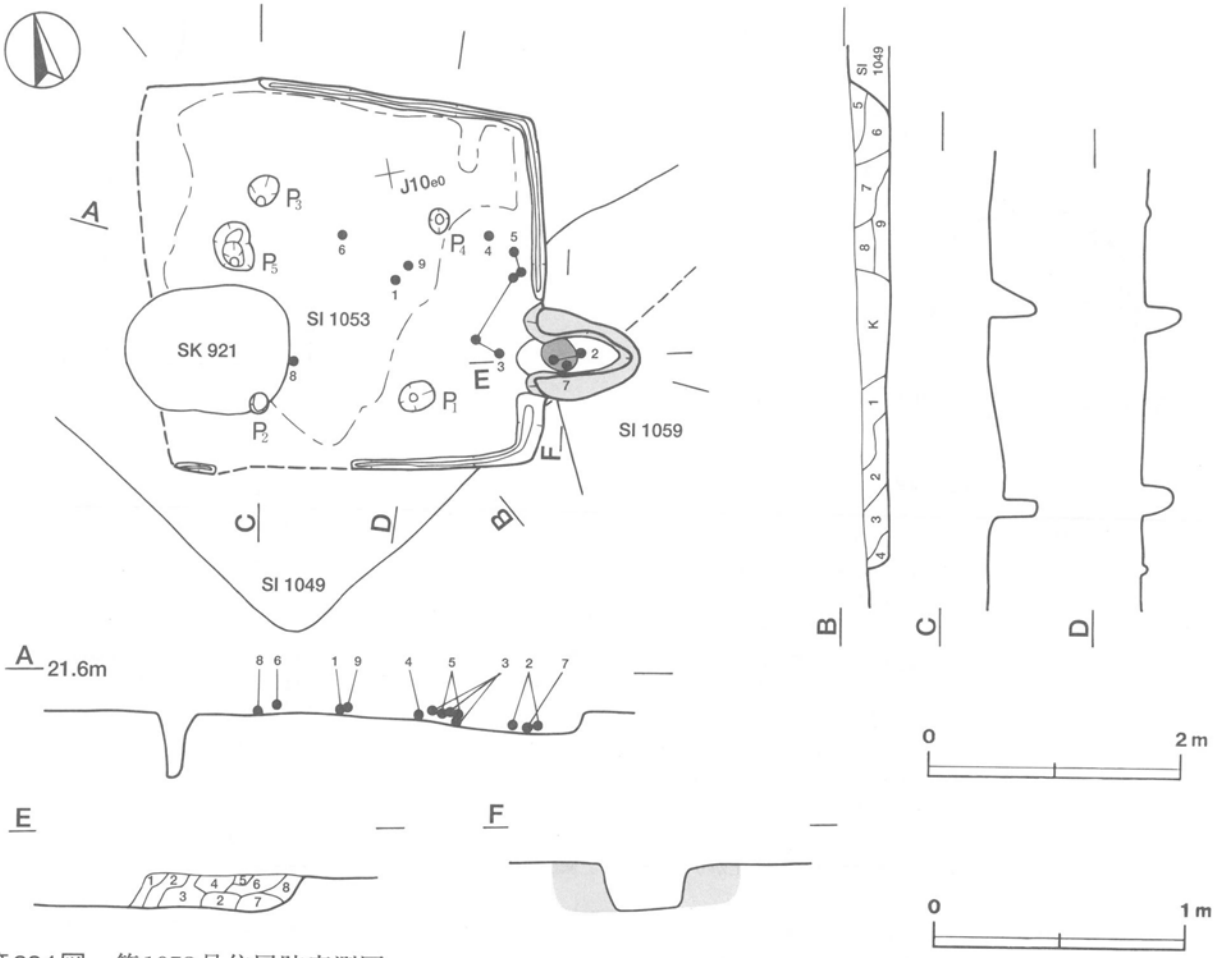
覆土　9層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

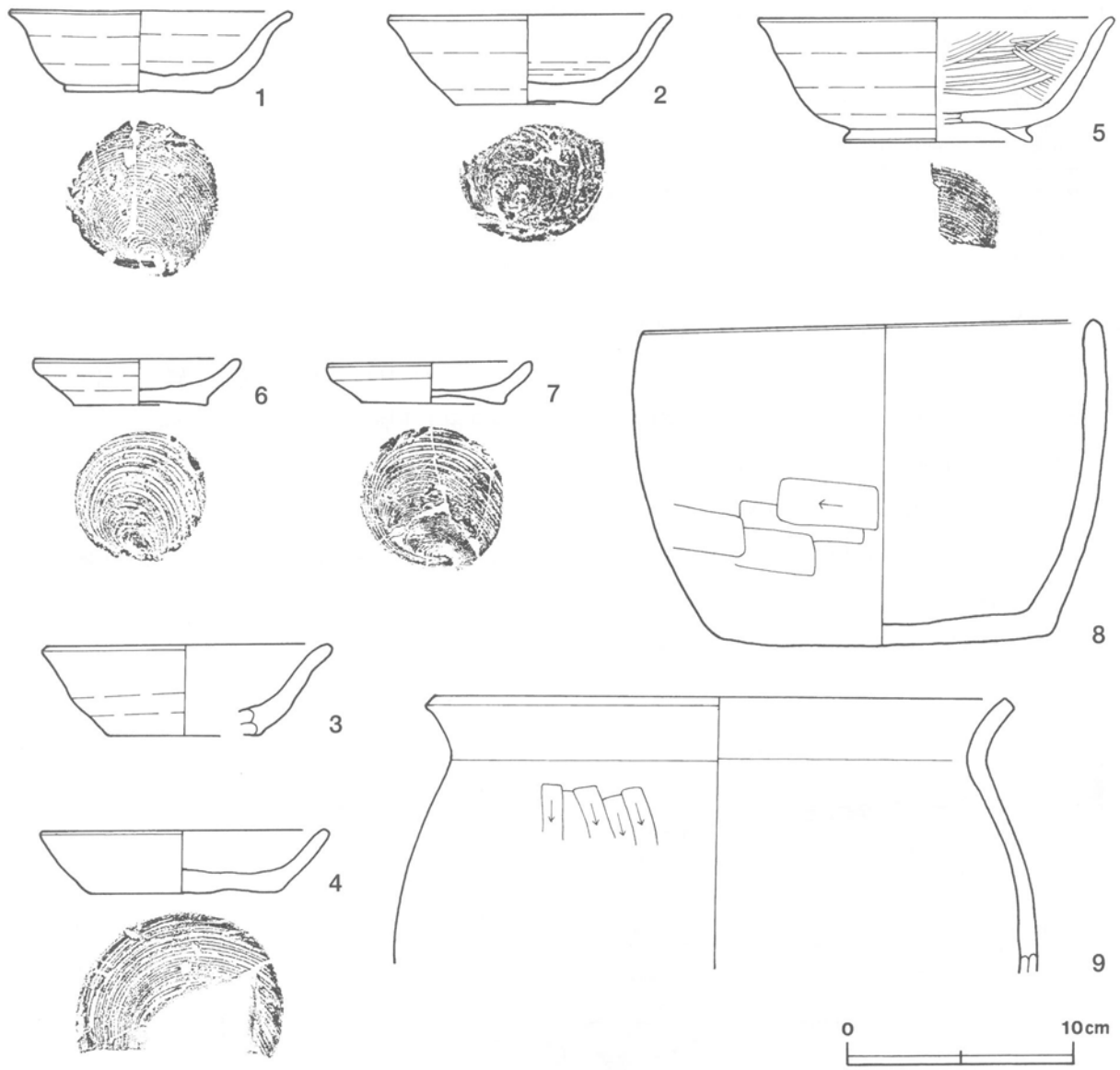
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子少量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
9　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片91点，混入したとみられる須恵器片7点が出土している。第235図に示した土器はすべて土師器である。1の坏は，中央部の覆土下層から正位で出土している。2の坏は，竈内の覆土下層から出土した2片が接合したものである。3の坏は，竈正面の覆土中層と北東部覆土下層から出土した破片が接合したものである。4の坏は，東部の覆土下層と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。5の高台付坏は，東部の覆土下層から出土した2片が接合したものである。6の皿は，中央部の覆土下層から横位で出土している。7の皿は，竈内の覆土下層から出土した数片が接合したものである。8の鉢は，南西部の覆土下層から出土した数片が接合したものである。9の甕片は，中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。



第234図　第1053号住居跡実測図



第235図　第1053号住居跡出土遺物実測図

第1053号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第235図 1	坏 土師器	A [11.9] B 3.4 C 6.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P.40545 80% PL228
2	坏 土師器	A [12.0] B 3.8 C 6.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 浅橙色，普通	P40546 40% PL228
3	坏 土師器	A 12.3 B 3.9 C [6.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40547 50% PL228
4	坏 土師器	A 12.2 B 2.7 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英 浅黄橙色 普通	P40548 40% PL228
5	高台付坏 土師器	A [15.1] B 5.3 D [8.0] E 0.6	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P40549 30% PL228

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第235図 6	皿 土師器	A 8.7 B 2.0 C 5.8	完形。平底。体部は大きく開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P40550 100% PL228
7	皿 土師器	A 8.6 B 1.9 C 6.0	底部一部欠損。平底。体部は大きく開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 浅橙色，普通	P40551 98% PL228
8	鉢 土師器	A 19.3 B 14.0 C 14.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面及び底部は摩滅により不明。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P40552 80% PL228
9	甕 土師器	A [24.6] B (11.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反気味に開く。端部を面取りして角張らせている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色 普通	P40553 5% PL229

第1056号住居跡（第236・237図）

位置　調査4区の北部，H10f8区。

重複関係　南部で第1119号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.09m，短軸4.04mの方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は16～32cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅11～16cm，下幅6～8cm，深さ6～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に12cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで76cm，両袖部幅109cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，両袖とも内側が火熱を受けて赤変している。また，第6層の下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。第6層からは，焼土ブロックや灰が検出されている。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　灰褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，灰中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
7　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・灰中量，炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量

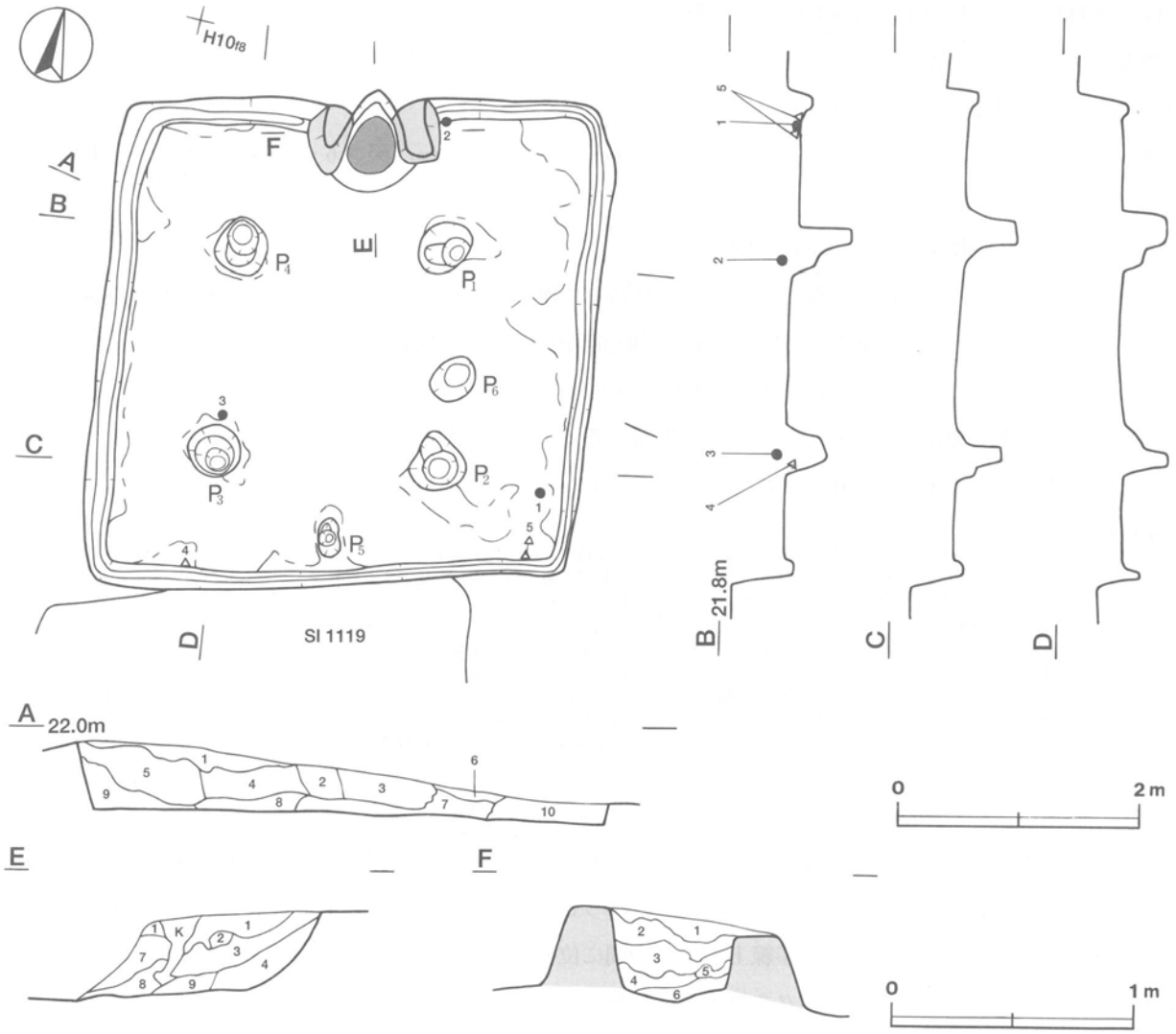
ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は径43～48cmのほぼ円形で，深さ35～48cmである。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P5は長径34cm，短径18cmの楕円形，深さ24cmで，南壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径42cm，短径34cmの楕円形，深さ20cmで，P1とP2を結ぶ線上のほぼ中間に位置することから，補助柱穴と考えられる。

覆土　10層からなる。ロームブロックや焼土・炭化物を含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

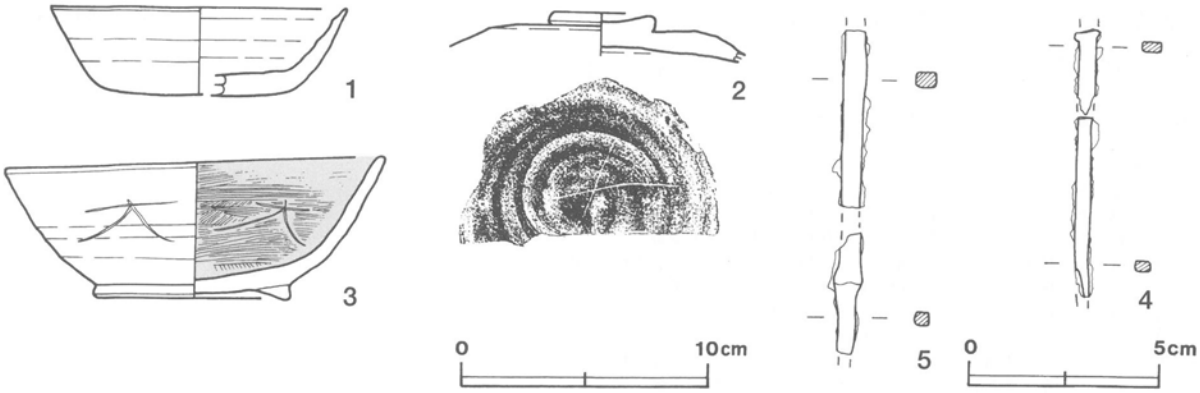
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片179点，須恵器片24点，鉄器２点（鏃），撹乱により混入した土師器片11点，陶器片１点が出土している。第237図１の須恵器坏は，南東コーナー部の床面から正位で出土している。２の須恵器蓋は，竈東袖脇の床面から斜位で出土している。４の不明鉄製品は南西コーナー部の床面から，５の不明鉄製品は南東コーナー部の床面から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。３の土師器高台付坏は，体部内面及び外面に，いずれも「大」と刻書きされている。Ｐ３の北側の覆土下層から出土しており，他の土器と時期差があることから，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土した須恵器の坏や蓋の形状から，８世紀前葉と考えられる。



第236図　第1056号住居跡実測図



第237図　第1056号住居跡出土遺物実測図

第1056号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第237図 1	坏 須恵器	A [12.0] B (3.5) C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，灰褐色 普通	P40011 50% PL228
2	蓋 須恵器	B (1.7) F 4.0 G 0.6	天井部の破片。平坦な頂部に，ボタン状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英，灰黄色 普通	P40013 60% 天井部内面刻書「×」カ PL229
3	高台付坏 土師器	A 15.0 B 5.8 D 7.6 E 0.6	口縁部一部欠損。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40012 90% 体部内・外面刻書「大」 PL229

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第237図4	不明	(7.2)	0.3	0.3	(3.8)	鉄	断面方形の棒状。一端に棘状の突出有り。鏃の茎部片ヵ。	M40001 PL237
5	不明	(8.7)	0.5	0.4	(6.5)	鉄	断面長方形の棒状。鏃の箆被部から茎部片ヵ。	M40002 PL237

第1059号住居跡（第238・239図）

位置　調査4区の中央部，J10e0区。

重複関係　中央部から北部で第1049号住居跡を，南部で第1061号住居跡を掘り込み，西部を第1053号住居と第12号方形竪穴状遺構に，南部を第951・965号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　北東コーナー寄りの東壁は，幅120cmにわたり，竈のすぐ北側の部分より36cmほど奥まで掘り込んでいる。確認された本跡の規模は，北側で東西長4.00m，竈際で東西長3.64m，南北長3.50mである。竈付近から南東コーナーにかけて棚状施設の存在が想定され，それを含めて平面形は長方形になると考えられる。

主軸方向　N－89°－E

壁　壁高は18～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部から西部にかけて確認できた。規模は上幅15～25cm，下幅6～12cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　東壁の中央部からやや南寄りを壁外に70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで101cmで，南袖の一部が第951号土坑に掘り込まれているが，両袖部幅は94cmと推定される。天井

部は崩落しており，竈土層断面図中，第４・５・９層が粘土粒子や砂粒を多く含むことから，崩落土層と考えられる。第６層は焼土ブロックや焼土粒子を多く含み，下部が赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，粘土大ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
7　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
8　極暗赤褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
9　灰　褐　色　粘土中ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ３は各コーナー寄りに位置し，径20～25cmの円形で，深さ26～31cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。Ｐ４～Ｐ６は径25～55cmの円形で，深さ９～40cmである。性格は不明である。

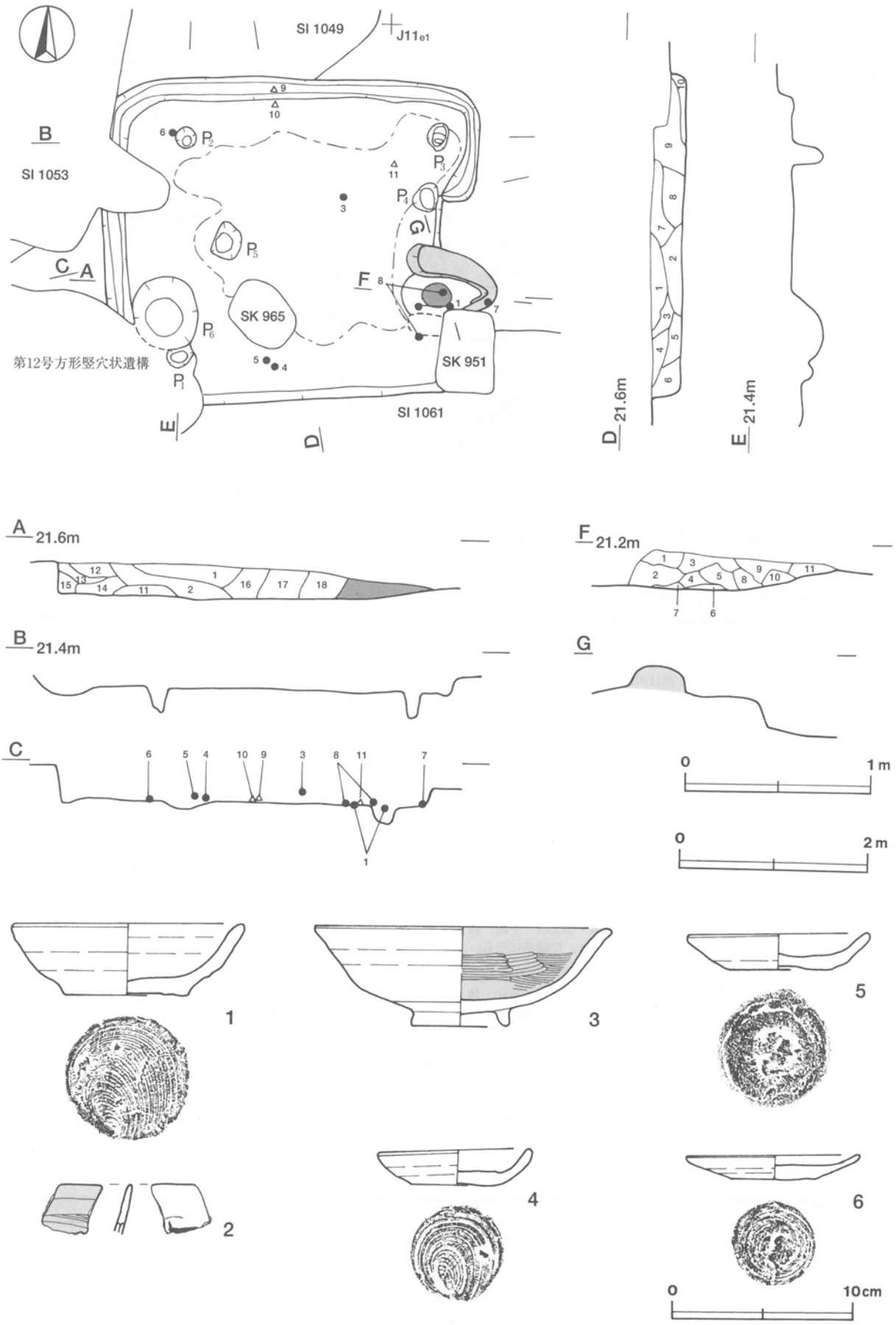
覆土　18層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

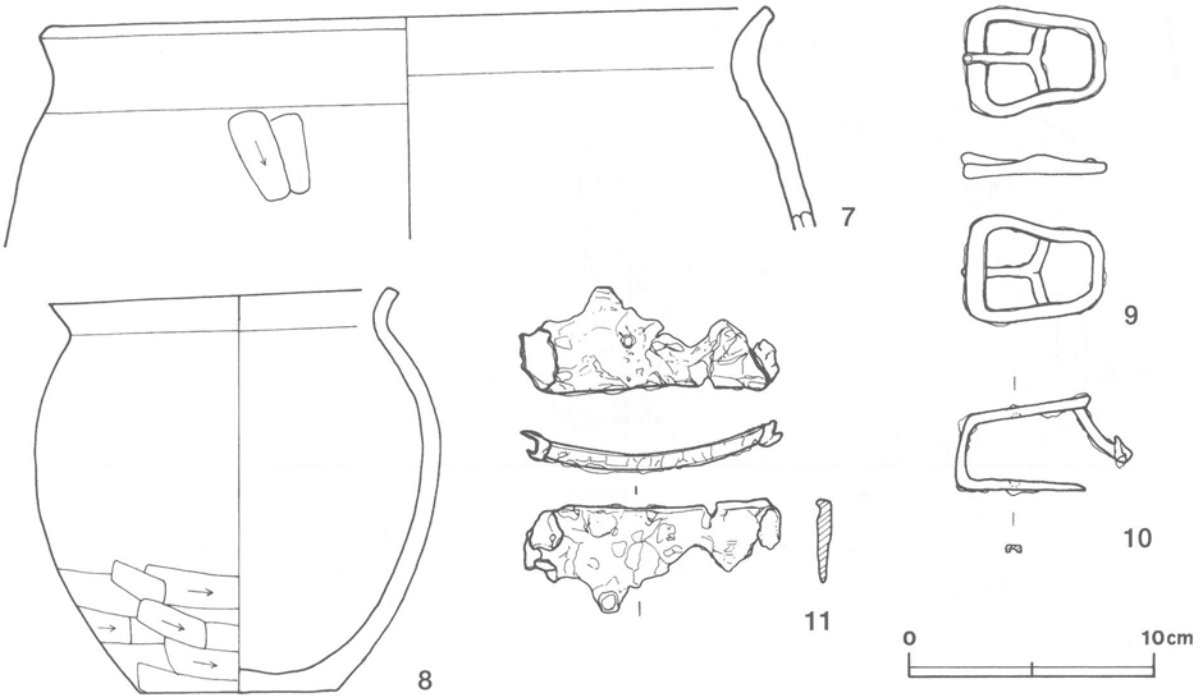
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
11　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
12　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　暗褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
15　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
16　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
17　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
18　黒褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片406点，混入とみられる須恵器片28点，鉄製品３点（鉸具２，不明鉄製品１）が出土している。第238・239図に示した土器はすべて土師器である。１の坏は，竈内の覆土下層から出土している。２の坏片は，北東部の覆土中から出土している。３の高台付坏は，中央部の覆土下層と北東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。４の皿は，南部の覆土下層から斜位で出土している。５の皿は，南部の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。６の皿は，北西部の床面直上から出土している。７の甕片は，竈内の覆土下層から出土している。８の甕は，竈内と南東部の床面から出土した破片が接合したものである。９の鉸具は北壁際の覆土下層から，10の鉸具は北壁際の覆土下層から，11の不明鉄製品は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の北東コーナー寄りの東壁が奥まで掘り込まれ，東壁の竈の北側は北東コーナー寄りの東壁よりも36cmほど手前で立ち上がっており，北側は東西長4.00m，竈際は東西長3.64mである。東壁の竈付近から南東コーナーにかけては棚状の施設が存在していたことが想定される。時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第238図　第1059号住居跡・出土遺物実測図



第239図　第1059号住居跡出土遺物実測図

第 1059 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第238図 1	坏 土師器	A［12.3］ B　3.8 C　6.4	体部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P 40554 50% P L 228
2	坏 土師器	B（2.6）	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色，普通	P 40555　5% 体部外面に墨痕有り
3	高台付坏 土師器	A［15.7］ B　5.3 D［5.0］ E　1.0	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P 40556 30% P L 229
4	皿 土師器	A　8.0 B　2.1 C　4.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・黒色粒子 にぶい黄橙色，普通	P 40557 98% P L 227
5	皿 土師器	A　9.6 B　2.0 C　5.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は大きく開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P 40558 70% P L 227
6	皿 土師器	A［9.2］ B　1.4 C　4.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は大きく開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P 40559 60% P L 227
第239図 7	甕 土師器	A［28.4］ B（8.8）	体部から口縁部片。体部は内傾し，頸部でくびれ，口縁部に至る。端部は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P 40560 5% P L 229
8	甕 土師器	A　12.8 B　15.9 C　7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は長胴形を呈し，頸部でくびれ，口縁部に至る。端部は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P 40625 90% P L 229

図版番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	備　考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第239図 9	鉸具	5.6	4.3	0.5	21.5	鉄	刺金による帯留め。帯巻き込みによる装着。	M40503，P L 237
10	鉸具	7.0	3.8	0.6	13.2	鉄	刺金留め穴痕有り。帯巻き込み部が折れ曲がる。	M40504，P L 237

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第239図 11	不明	10.3	(4.3)	0.6	(43.6)	鉄	彎曲し両端部に至る。端部に金銅の留め具有り。下部欠損。上部は屈曲し，面取りしている。	M40502

第1060号住居跡（第240～242図）

位置　調査4区の中央部，J10f0区。

重複関係　第1061号住居跡の中央部から南西部を掘り込み，本跡の南西部で第1076号住居跡を掘り込んでいる。また，北西コーナー部を第12号方形竪穴状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.92m，短軸3.84mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は上幅15～20cm，下幅5～11cm，深さ約10cmで，断面形はU字形である。

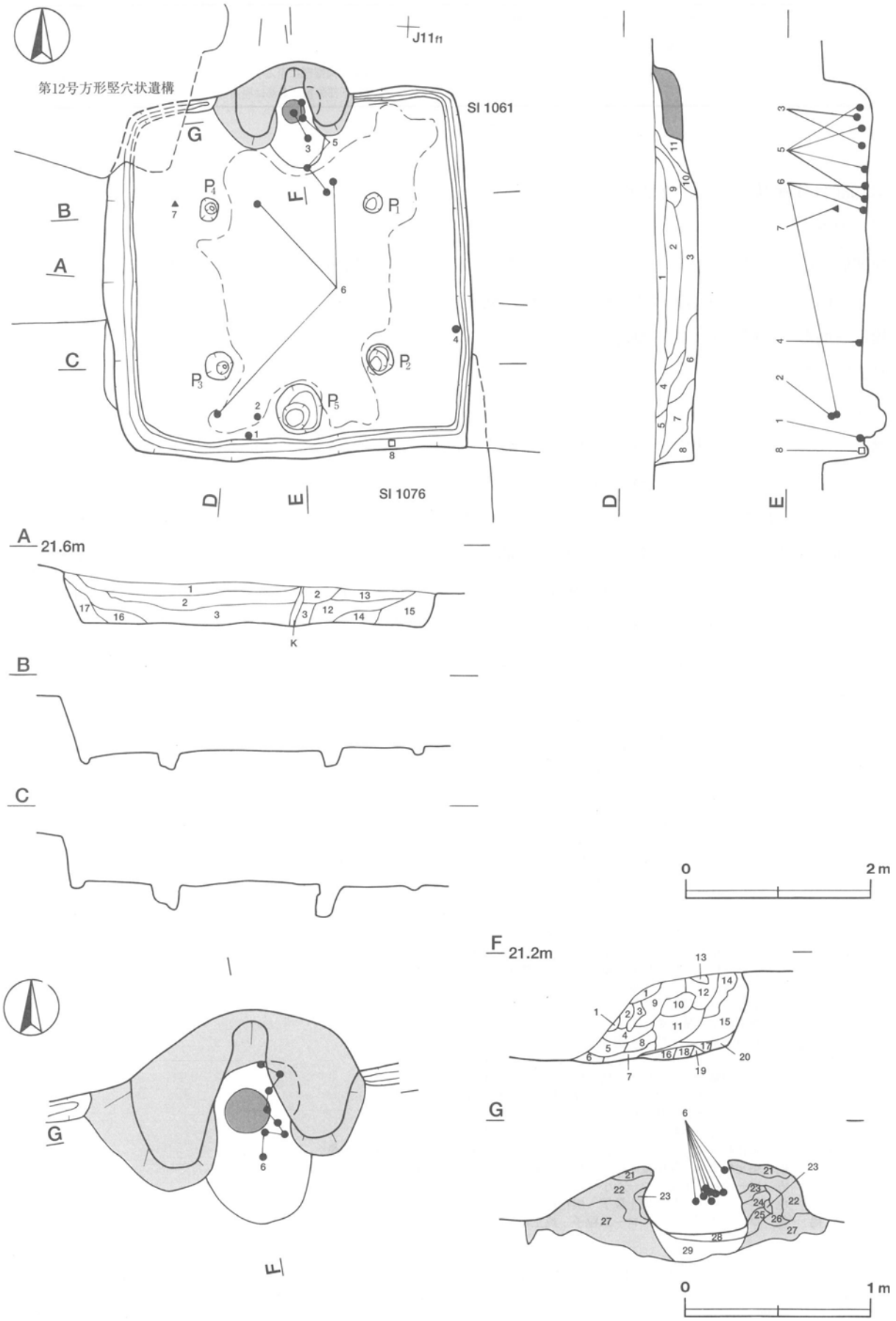
床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，両袖部幅135cmである。袖部は砂粒を多量に含んだ粘土で構築されている。内側は火熱を受け赤変している。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第4・9～11・14層が砂粒を多く含むことから，崩落土層と考えられる。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめた後，黒褐色土を貼り，造られている。火床面は，火熱を受け赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　砂粒少量，ローム粒子微量
4　灰褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
9　灰褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
10　灰褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム粒子微量
11　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
12　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
13　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
14　灰褐色　砂粒・粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
15　暗赤褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　褐灰色　灰多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・灰少量，炭化粒子微量
18　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量
19　灰褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
20　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
21　褐色　砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
22　褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
23　赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
24　暗褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
25　黒褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
26　褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
27　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・粘土粒子微量
28　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
29　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，径20～31cmで，深さ21～37cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し，径50cmの円形で，深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。



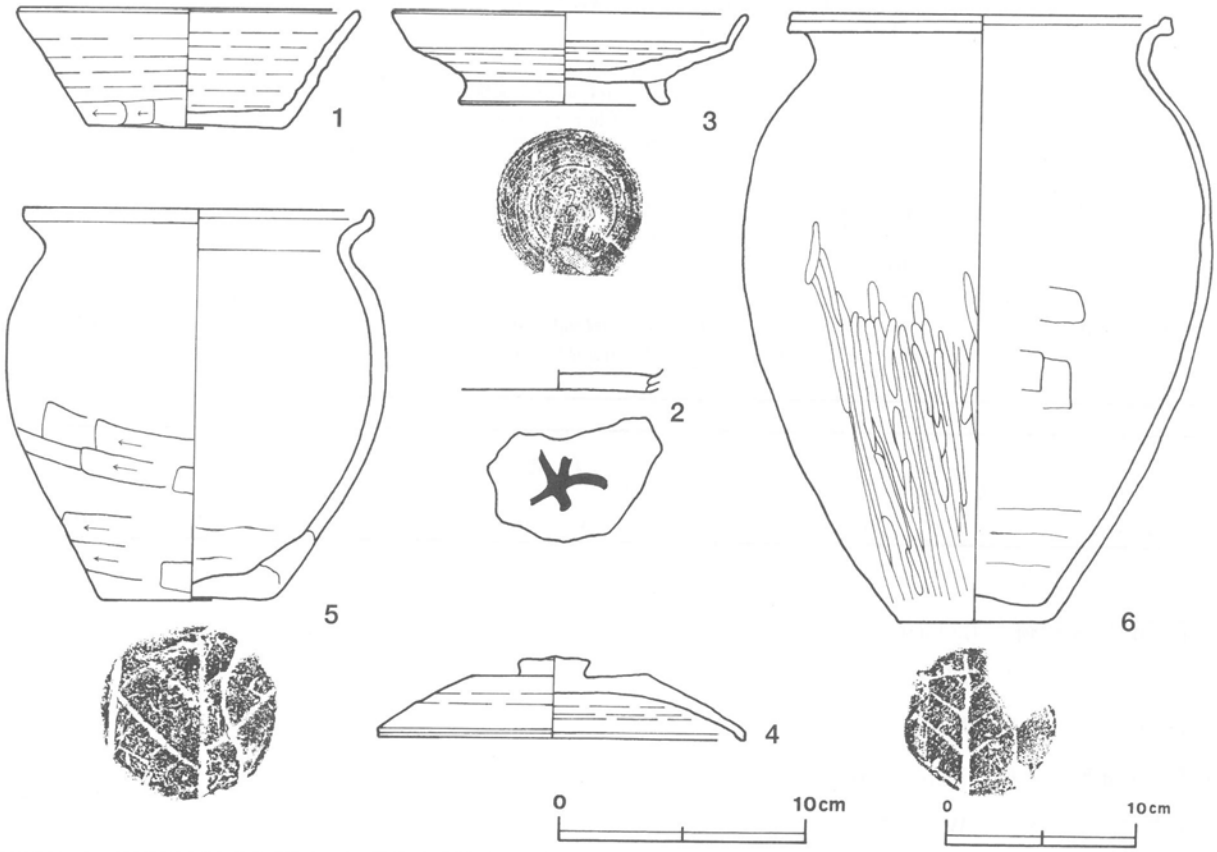
第240図　第1060号住居跡実測図

覆土　17層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

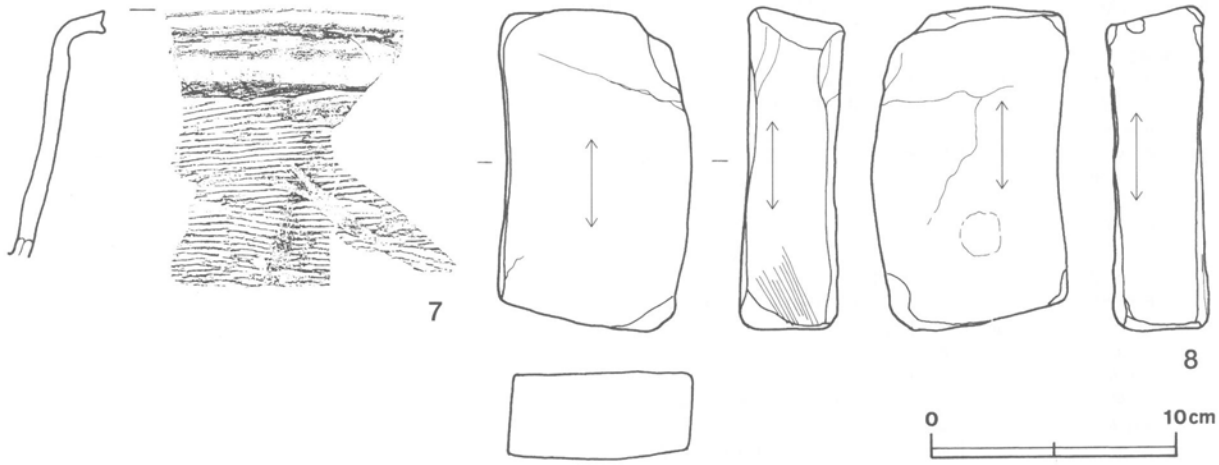
土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
10　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
11　灰 褐 色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量
13　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
14　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15　極暗褐色　ローム粒子少量
16　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
17　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物　土師器片786点，須恵器片177点，石器１点（砥石）が出土している。第241・242図１の須恵器坏は，南壁際の覆土下層から正位で出土している。２の須恵器坏の底部片は，南部の覆土中層から出土している。底部外面に「大」と墨書されている。３の須恵器盤は，竈内の覆土下層から出土した２片が接合したものである。４の須恵器蓋は，東部の覆土下層から正位で出土している。５の土師器甕は，竈内の覆土下層から逆位で出土したものと竈正面の床面から出土した破片が接合したものである。６の土師器甕は，竈内の覆土下層と竈正面の床面と南西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。７の須恵器鉢の体部片は，北西部の覆土中層から出土している。８の砥石は，南東部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から，８世紀後葉と考えられる。



第241図　第1060号住居跡出土遺物実測図（１）



第242図　第1060号住居跡出土遺物実測図（2）

第1060号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第241図 1	坏 須恵器	A 13.4 B 4.7 C 7.6	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P40563 100% PL229
2	坏 須恵器	B（0.7）	底部片。平底。	底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色，普通	P40564　10% 底部外面墨書「大」
3	盤 須恵器	A［13.9］ B 3.7 D 8.2 E 1.2	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P40565 60% PL229
4	蓋 須恵器	A 14.5 B 3.3 F 2.8 G 0.8	完形。天井部は笠形で，ボタン状のつまみが付く。口縁端部は1条の沈線が巡り，外下方に屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P40566 100% PL229
5	甕 土師器	A 13.7 B 15.5 C 6.5	体部・口縁部一部欠損。体部は長胴形を呈し，頸部でくびれ，口縁部はわずかに外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位横位のヘラ削り。内面輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P40561 70% PL229
6	甕 土師器	A［19.5］ B 31.4 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は長胴形を呈し，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P40562 70% PL230
第242図 7	鉢 須恵器	B（10.1）	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり口縁部で屈曲する。端部に1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色 普通	TP40503 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第242図8	砥石	16.8	10.0	5.0	1420	凝灰岩	砥面4面。	Q40503　PL239

第1062号住居跡（第243図）

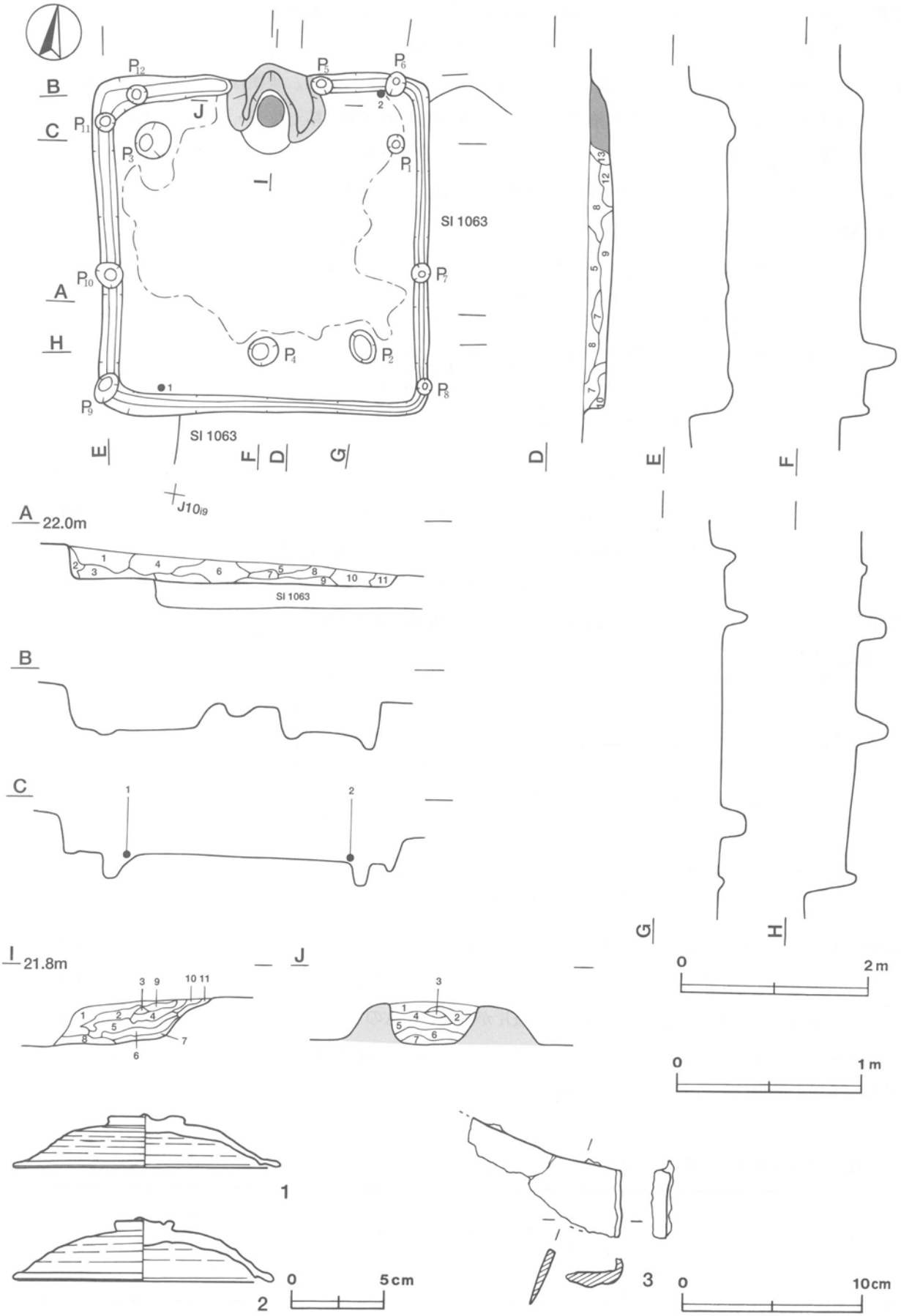
位置　調査4区の中央部，J10h9区。

重複関係　第1063号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.72m，短軸3.56mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は最大50cmで，外傾して立ち上がる。



第243図　第1062号住居跡・出土遺物実測図

壁溝　全周している。上幅14～25cm，下幅５～14cm，深さ４～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ15cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅103cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～４層が崩落土層と考えられる。第５・６層は焼土粒子・灰を比較的多く含み，その下面が赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・灰中量，炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・灰中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
8　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量

ピット　12か所（Ｐ１～Ｐ12）。南西コーナーを除く，各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ３は，径19～39cmのほぼ円形で，深さ27～31cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ４は，径31cmの円形で，深さ38cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。壁際または壁溝中に位置するＰ５～Ｐ12は，径17～25cmのほぼ円形で，深さ10～17cmであり，壁柱穴と考えられる。

覆土　13層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
9　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
10　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
11　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　極暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
13　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量

遺物　土師器片548点，須恵器片46点，鉄器１点（鎌）が出土している。第243図１の須恵器蓋は，南西部の南壁際の覆土下層から正位で出土している。２の須恵器蓋は，北東部の北壁際の覆土下層から逆位で出土している。３の鎌は，南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。出土した土器片の多くは，土師器甕の体部細片で，覆土上層から散在して出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。

第1062号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第243図 1	蓋 須恵器	A 16.0 B 2.8 F 4.6 G 0.6	口縁部の一部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部内面には退化したかえりがつく。つまみは扁平な擬宝珠状。	天井部外面回転ヘラ削り後，ナデ。外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P41292 80% PL229

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第243図2	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.6 F 3.5 G 0.7	口縁部の一部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部内面には退化したかえりがつく。つまみは扁平な擬宝珠状。	天井部外面回転ヘラ削り後，ナデ。外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・長石・石英 黄橙色 普通	P41293 90% PL229

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第243図3	鎌	(6.0)	0.4	2.1	(13.4)	鉄	刃部一部欠損。着柄部は全体的な折り返し。	M41036 50% PL238

第1065号住居跡（第244・245図）

位置　調査4区の中央部，J10i8区。

重複関係　第1066号住居跡を掘り込み，東壁から中央部にかけて第28号井戸に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.56mの長方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は25～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周していたと考えられる。上幅19～23cm，下幅4～11cm，深さ4～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P4付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。床面直上には，垂木と思われる棒状の炭化材が中央部から各コーナーに向かって放射状に遺存している。

竈　北壁の中央部を壁外へ61cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，両袖部幅148cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～5層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，第13～17層が袖部の土層である。比較的多くの砂粒と粘土粒子・粘土ブロックを含んだ第13層が袖部の中心部分で，中心部を包むように粘土・砂粒とローム土を混ぜ合わせた部材で袖部を構築している。火床部は，焼土粒子を比較的多く含み赤変していることから，第6・7層と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
6　黒褐色　炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化材・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　明赤褐色　焼土大ブロック多量
10　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　にぶい褐色　砂粒多量，粘土大ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
15　にぶい赤褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
16　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　灰褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　4か所（P1～P4）。北東コーナーを除く各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P3は，径15～25cmのほぼ円形で，深さ18cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP4は，径13cmの円形で，深さ32cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

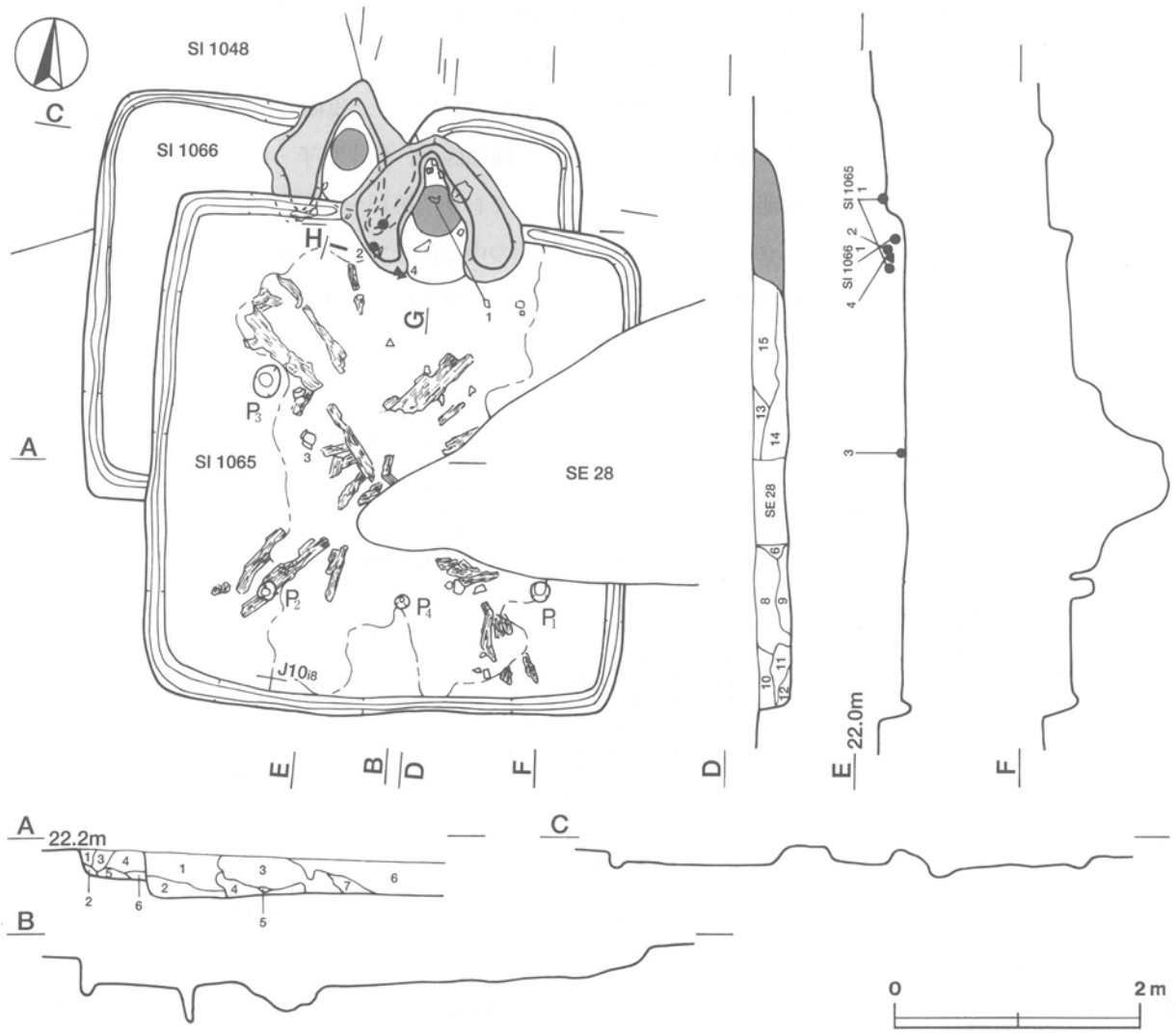
覆土　15層からなる。焼土・炭化物を多く含み，ブロック状の堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

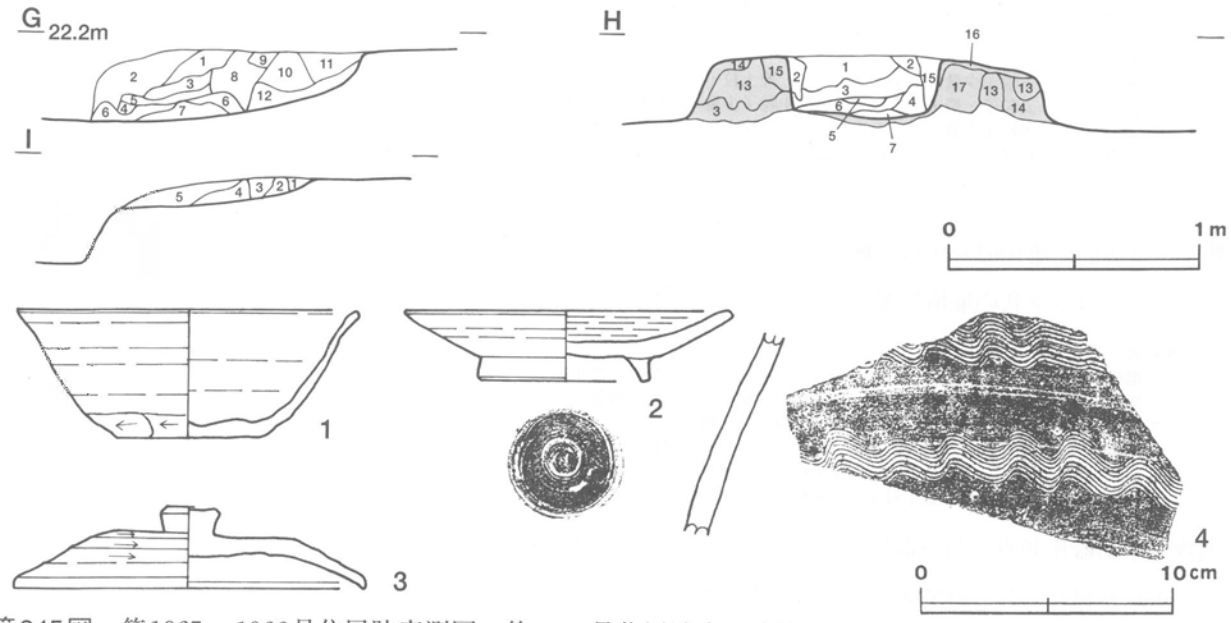
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材微量
4　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒 褐 色　炭化材中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
11　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
12　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化材微量
13　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
14　黒 褐 色　ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
15　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化材・炭化粒子微量

遺物　土師器片405点，須恵器片79点が出土している。第245図の1～4は，すべて須恵器である。1の坏は，焚口部と火床部から出土した破片が接合したものである。2の高台付皿は，西袖部上の覆土から出土している。3の蓋は，中央部の覆土下層からつぶれた状態で出土している。4の大甕片は，焚口部から出土している。

所見　本跡は，床面直上から出土している多量の炭化材と，覆土に多く含まれる焼土粒子・炭化物から焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から9世紀後半と考えられる。



第244図　第1065・1066号住居跡実測図



第245図　第1065・1066号住居跡実測図，第1065号住居跡出土遺物実測図

第1065号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第245図 1	坏 須恵器	A［13.8］ B　5.0 C　5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P41310　40% PL229 二次焼成
2	高台付皿 須恵器	A［13.0］ B　2.8 D　6.8 E　1.0	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は大きく開き，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P41312 45% PL230
3	蓋 須恵器	A［14.0］ B　3.2 F　2.4 G　1.1	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で外周はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部から外周部上位外面は回転ヘラ削り。天井部内面，外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P41313 70% PL230
4	甕 須恵器	B（8.2）	頸部の破片。	頸部内・外面ロクロナデ。頸部外面に11条2単位の櫛描波状文が施されている。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	TP41018 3% PL230

第1066号住居跡（第244～246図）

位置　調査4区の中央部，J10i7区。

重複関係　第1048号住居跡を掘り込み，全体的に第1065号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.97m，短軸3.36mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は6～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと考えられる。上幅9～22cm，下幅3～8cm，深さ3～5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁の中央部を壁外へ28cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。東袖端部は第1065号住居の西袖と重複し，焚口端部は第1065号住居に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで約110cm，両袖部幅122cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第5層が崩落土層と考えられる。第4層は焼土粒子を比

較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

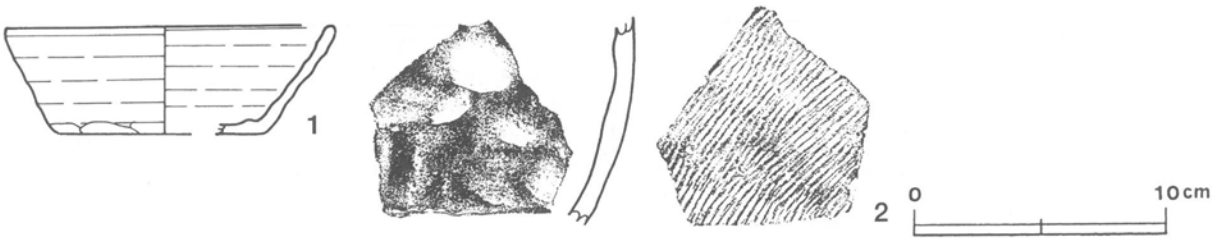
竈土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量

覆土　全体的に第1065号住居に掘り込まれているため，覆土の一部の堆積状況を確認しただけである。6層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量

遺物　土師器片39点，須恵器片9点が出土している。第246図1の須恵器坏は，東袖部上の覆土から出土している破片が接合したものである。2の須恵器甕片は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から8世紀後半と考えられる。



第246図　第1066号住居跡出土遺物実測図

第1066号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第246図 1	坏 須恵器	A　13.0 B　4.3 C［8.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P41311 30% PL230
2	甕 須恵器	B（8.6）	体部の破片。体部は内彎している。	体部外面斜位の平行叩き，内面無文の当て具痕。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色　普通	TP41019 40%

第1068号住居跡（第247・248図）

位置　調査4区の中央部，K11a4区。

規模と平面形　長軸3.58m，短軸3.32mの方形である。

主軸方向　N－4°－E

壁　壁高は44～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅21～31cm，下幅6～14cm，深さ8～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ75cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで160cm，両袖部幅145cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的

多く含む第２～６・15・16・19層が崩落土層と考えられる。袖部は，比較的多くの粘土粒子・砂粒を含む第10～13層が相当する。袖部の構築には，粘土と砂粒にローム土・黒色土を混ぜた部材を使用し，中心部の第11層は粘土大ブロックと多量の粘土粒子・砂粒を含み，しまりも強い。第５層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2	暗　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	灰　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	灰　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
5	灰　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子微量
6	暗　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
7	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
8	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
9	灰　褐　色	炭化粒子・灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化材・砂粒微量
10	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
11	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック微量
12	黒　褐　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
13	褐　　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック微量
14	黒　褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
16	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒・灰少量，焼土小ブロック微量
17	黒　褐　色	炭化粒子多量，ローム粒子・炭化材・灰少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
18	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子・灰中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
19	暗　褐　色	砂粒中量，ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
20	極暗赤褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，長径45～55cm，短径30～45cmの楕円形で，深さ24～32cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，長径58cm，短径26cmの楕円形で，中に深さ21cmと24cmの小ピットを有している。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　30層からなる。焼土・炭化物を多く含み，ブロック状の堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

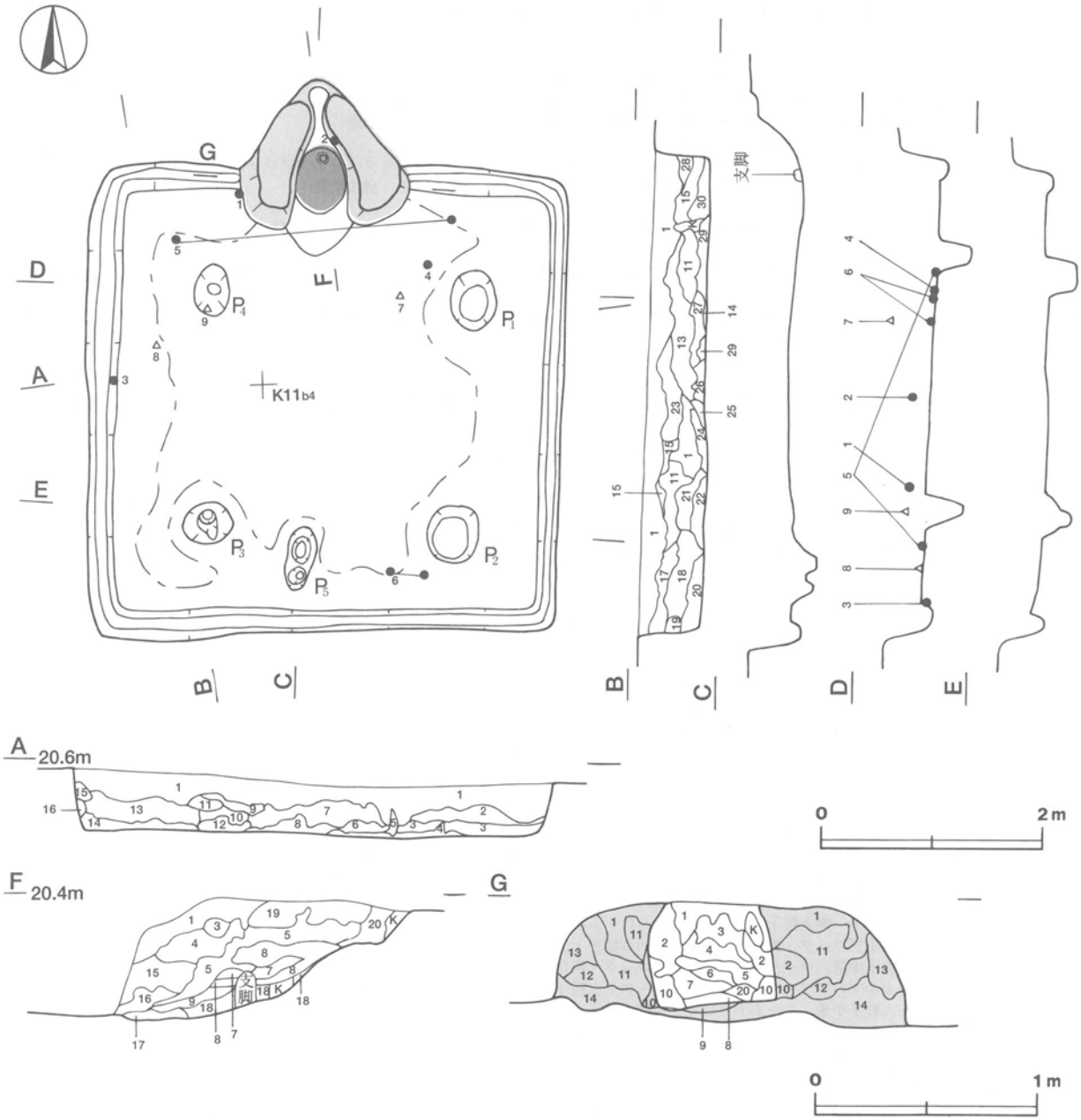
土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
4	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7	黒　褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
8	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
9	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
10	黒　褐　色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土大ブロック微量
11	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
12	極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
13	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
14	黒　褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
15	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
16	黒　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
17	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
18	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
19	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
20	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子微量
21	黒　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
22	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
23	黒　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
24	黒　褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
25	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
26	極暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
27	極暗褐色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
28	黒　褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
29	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
30	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量

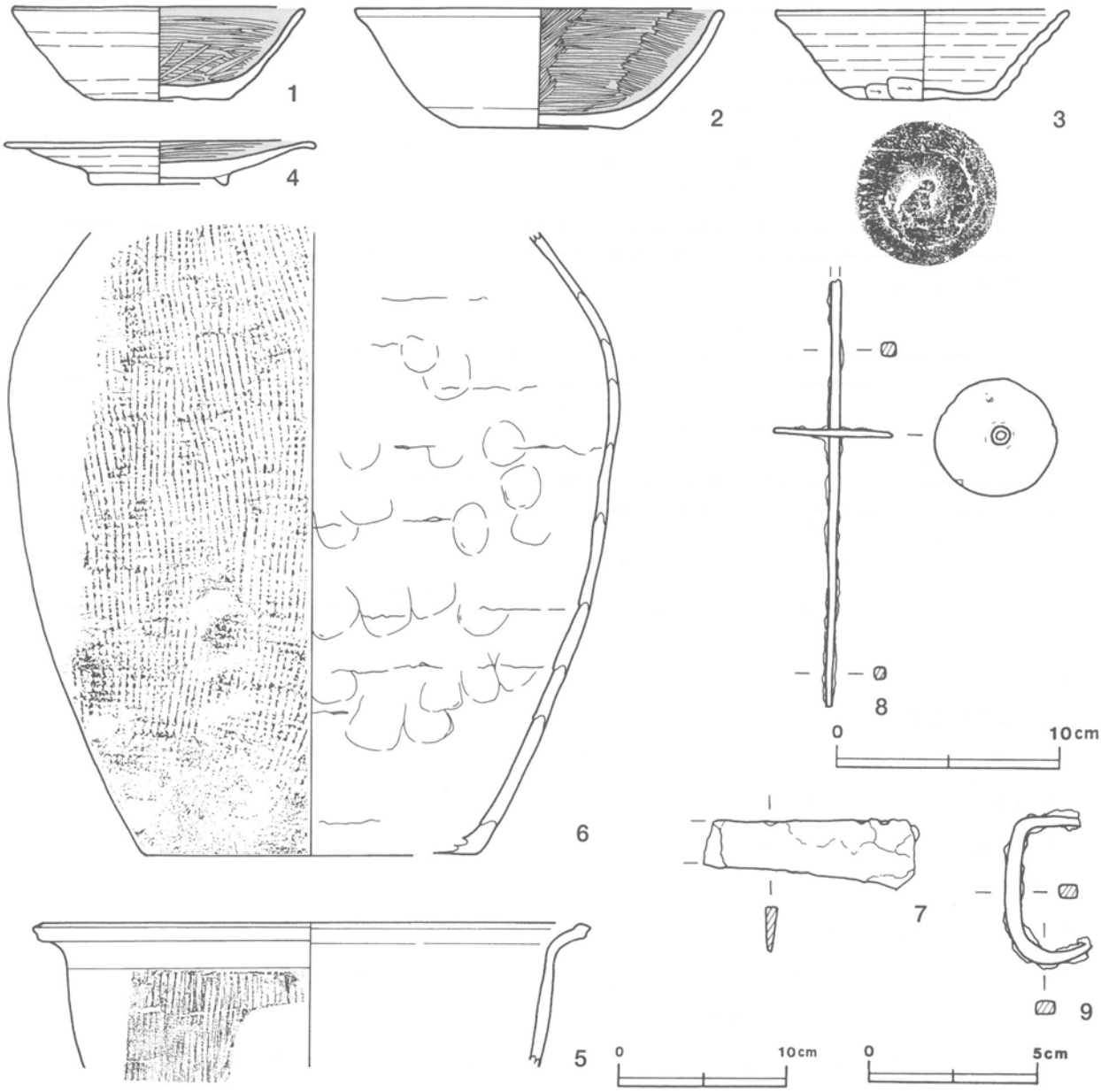
遺物　土師器片633点，須恵器片209点，土製品１点（支脚片），鉄器・鉄製品３点（刀子片，紡錘，不明）が

出土している。第248図1の土師器坏は，竈の前の覆土下層から正位で出土している。2の土師器坏は，竈内から破片で出土している。3の須恵器坏は，西壁際の中央部の覆土下層から逆位で出土している。4の土師器高台付皿は，北東部の覆土下層から破片で出土している。5の須恵器鉢片は，北東部と北西部の覆土下層から出土している。6の須恵器甕片は，南部の覆土下層から出土している。7の刀子片は，北東部の覆土中層から出土している。8の紡錘は，西壁際の床面から出土している。9の不明鉄製品は，北西部の覆土下層から出土している。支脚片は火床面直上から出土しているものの，小片となっている。出土した土器片の多くは細片ではあり，覆土上層からまとまって出土していることから，本跡廃絶時に埋土とともに投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀後半と考えられる。



第247図　第1068号住居跡実測図



第248図　第1068号住居跡出土遺物実測図

第1068号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第248図 1	坏 土師器	A [12.9] B 4.2 C 6.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ切り痕を残す1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P41317 80% PL230
2	坏 土師器	A [16.4] B 5.4 C 7.4	底部から口縁部の破片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41319 50% PL230
3	坏 須恵器	A 13.1 B 4.1 C 6.4	口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目が強い。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P41320 95% PL230
4	高台付皿 土師器	A [13.8] B 1.9 D 6.0 E 0.5	体部・口縁部・高台部の一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は大きく開き，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部・体部外面ロクロナデ。口縁部・体部内面横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P41318 50% PL230

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	鉢 須恵器	A [31.6] B (8.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。端部は上下に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 不良	P41321 5%
6	甕 須恵器	B (28.0) C [15.0]	底部から体部上位にかけての破片。体部は倒卵形を呈す。	体部外面格子目叩き，下端横位のヘラ削り。内面輪積み痕と指頭押圧痕を残す。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P41322 40% PL230

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第248図7	刀子	(6.5)	(6.5)	2.0	0.4	--	(12.2)	鉄	刀身部の破片。	M41038 40% PL237

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	軸断面径(cm)	紡錘車径(cm)	紡錘車厚さ(cm)	重量(g)			
第248図8	紡錘	(19.2)	0.4～0.6	5.4	0.3	(56.1)	鉄	軸部の端部欠損。	M41037 95% PL237

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第248図9	不明	4.8	2.6	0.4～0.6	8.4	鉄	C字形で，断面は長方形。鉸具カ。	M41039 95% PL238

第1069号住居跡（第249・250図）

位置　調査4区の中央部，K11b2区。

重複関係　第23号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.94mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は30～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～19cm，下幅3～6cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ55cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで106cm，両袖部幅135cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第2～4・9・11層が崩落土層と考えられる。第6・13層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2　にぶい褐色　砂粒中量，焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・灰少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒・灰少量
7　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
8　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9　にぶい褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
11　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
12　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，炭化材微量
13　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
14　にぶい褐色　砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
15　灰褐色　粘土粒子多量，砂粒・灰中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　1か所。南壁際の中央部に位置するP1は，径30cmの円形で，深さ21cmである。位置的に出入り口施

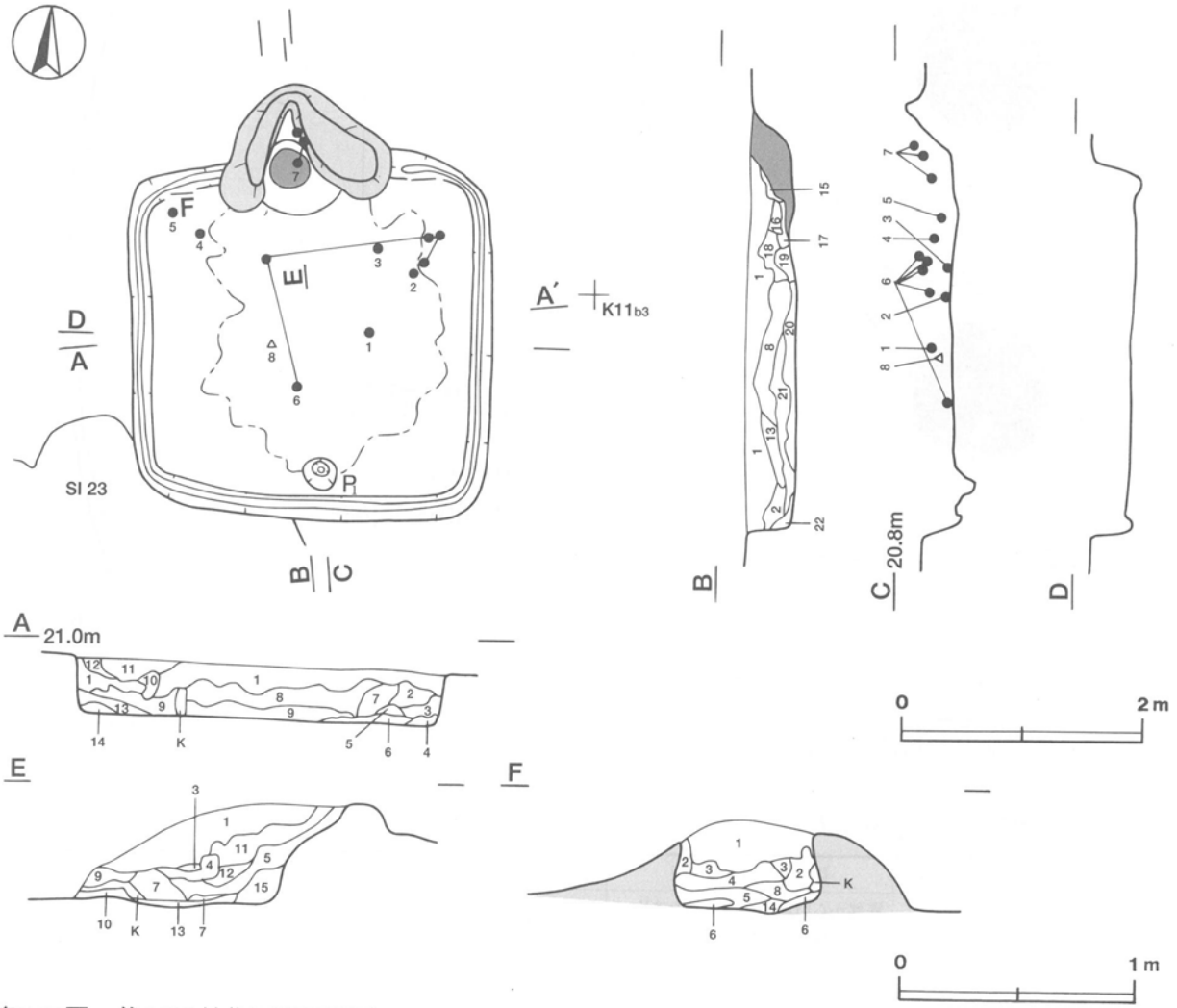
設に伴うピットと考えられる。

覆土　22層からなる。焼土・炭化物を多く含み，ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
14　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
16　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
17　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
18　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
19　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
20　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
21　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
22　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

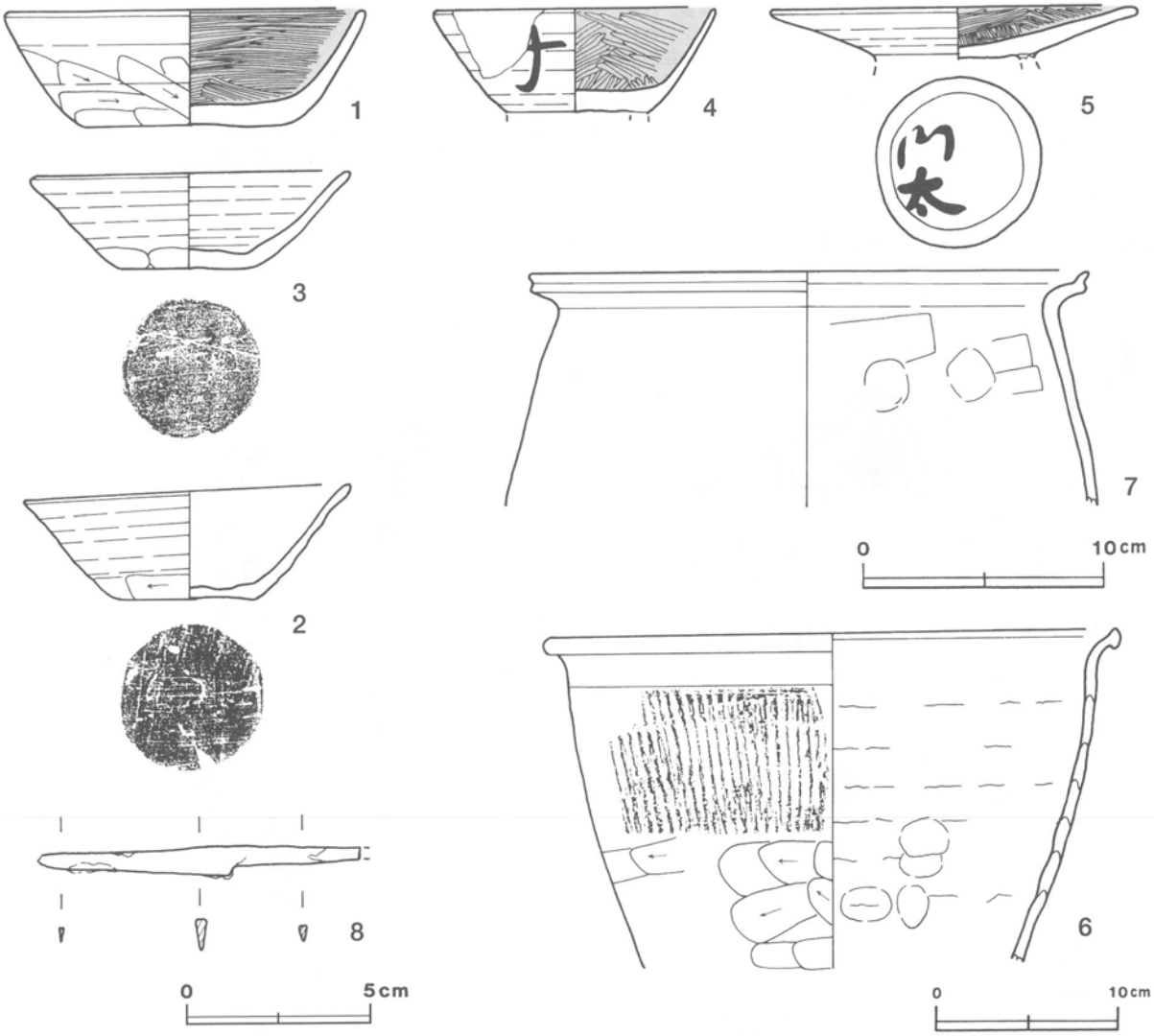
遺物　土師器片477点，須恵器片114点，鉄器1点（刀子），鉄滓1点が出土している。第250図1と2の須恵器



第249図　第1069号住居跡実測図

坏は，北東部の覆土下層からそれぞれ逆位と正位で出土している。3の須恵器坏は，中央部やや東壁寄りの覆土中層から破片で出土している。4の土師器高台付坏は，北西部の覆土中層から出土している。5の土師器高台付皿は，北西部の覆土下層から正位で出土している。6の須恵器鉢は，北東部から中央部にかけての覆土下層から破片で出土している。7の土師器甕は，竈内から破片で出土している。8の刀子は，中央部の覆土下層から出土している。鉄滓は小片で，覆土中から出土しており，混入したものと考えられる。出土した土器片の多くは細片ではあるが，時期的には図示で取り上げた土器と同様の傾向を示していることから，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第250図　第1069号住居跡出土遺物実測図

第1069号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第250図 1	坏 土師器	A［14.8］ B　4.7 C　8.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ後，下半斜位と横位のヘラ削り。内面ロクロナデ後，横位のヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41327 45% PL230

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 2	坏 須恵器	A 13.5 B 4.7 C 5.7	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P41326 90% PL230
3	坏 須恵器	A [13.4] B 3.9 C 5.6	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P41328 70% PL230
4	高台付坏 土師器	A 11.7 B (4.4)	高台部，体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ロクロナデ後，ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41323 95% PL230 体部外面に墨書「ナ」カ
5	高台付皿 土師器	A 15.2 B (2.2)	高台部欠損。体部は大きく開き，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ロクロナデ後，横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 黄橙色 普通	P41324 80% 底部外面に墨書「□太」カ
6	鉢 須恵器	A [31.0] B (18.0)	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。端部は上下に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面輪積み痕・指頭押圧痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 黄橙色 不良	P41329 30% PL231
7	甕 土師器	A [23.1] B (9.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P41325 20% PL231

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第250図 8	刀子	(13.3)	7.8	1.3	0.4	(5.5)	(11.9)	鉄	茎部一部欠損。刃区有り。	M41040 95% PL236

第1070号住居跡（第251・252図）

位置　調査4区の中央部，J11j2区。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.58mの長方形である。

主軸方向　N－8°－E

壁　壁高は20～28cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，南壁の中央部から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ22cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，両袖部幅135cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第2～10層が崩落土層と考えられる。第11層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は火床面から外傾し，その後ほぼ直立する。袖部の補強材及び支脚として，東袖端部と東袖の燃焼部側，火床面直上の3か所に雲母片岩が検出されている。燃焼部側と火床面直上で検出された雲母片岩は板状であり，火熱を受けた側は赤変し脆くなっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂粒微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
7　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
8　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック微量
9　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
10　黒　褐　色　焼土粒子・粘土中ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量

11　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・灰少量
12　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

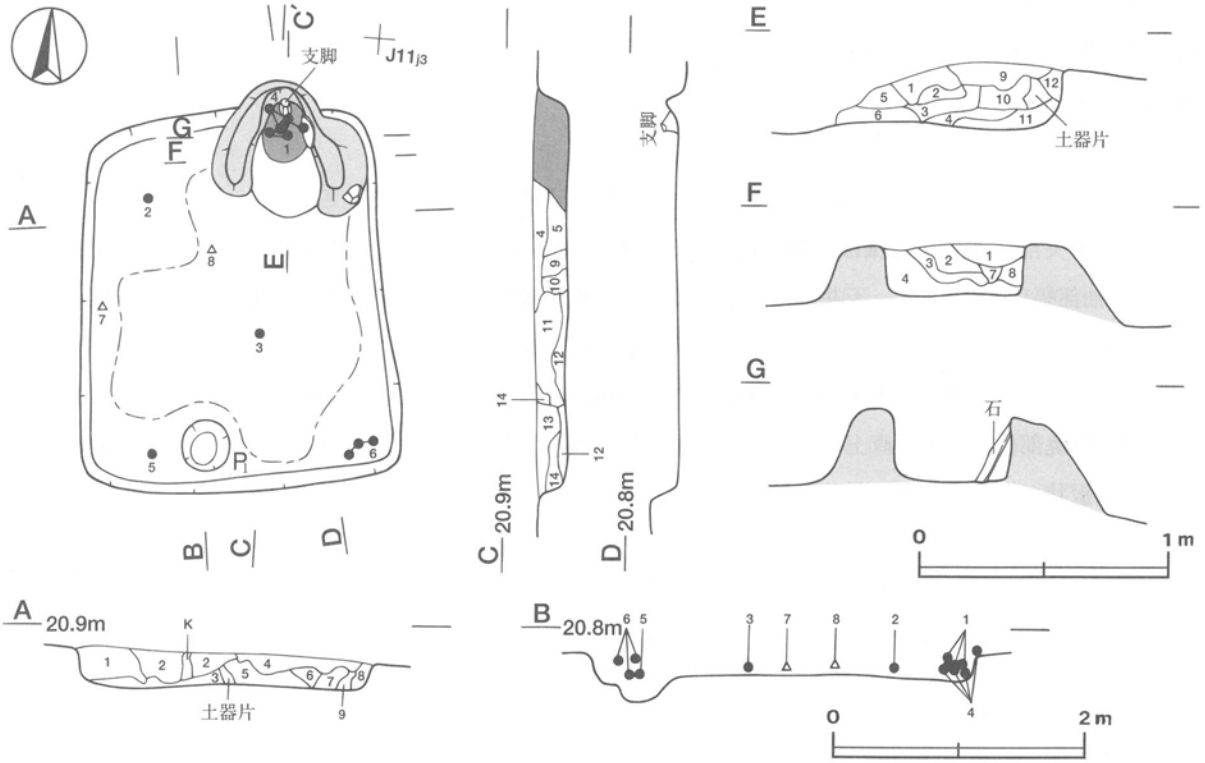
ピット　1か所。南壁際の中央部に位置するＰ１は，径38cmの円形で，深さ17cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

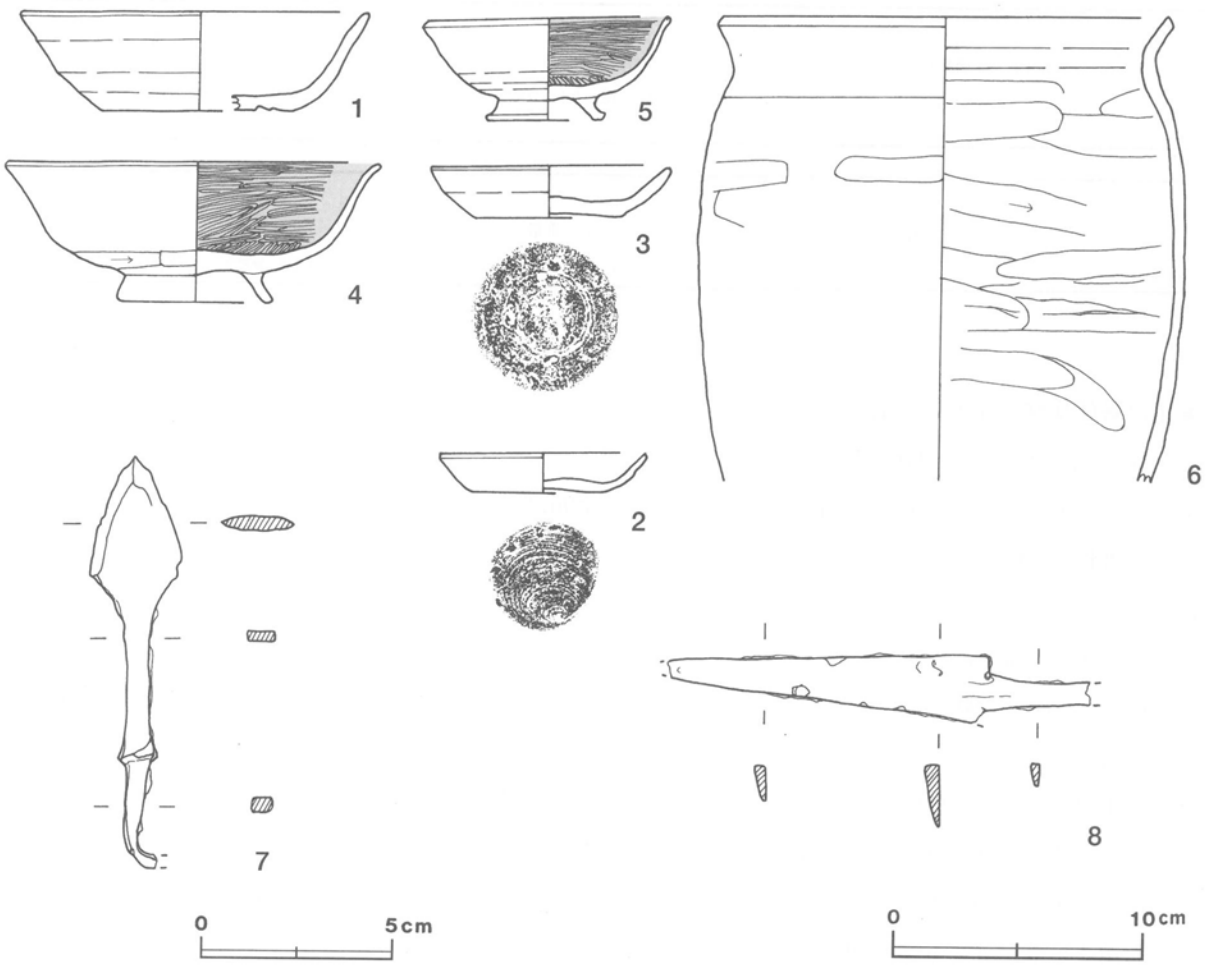
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　炭化材少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒褐色　焼土粒子・炭化材少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
11　黒褐色　粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
12　黒褐色　ローム粒子・炭化材少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
14　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック微量

遺物　土師器片158点，須恵器片４点，鉄器２点（鏃，刀子），雲母片岩３点が出土している。第252図１～６はすべて土師器である。１の坏と４の高台付坏は，竈の火床部から煙道部にかけて破片で出土している。２の皿は北西部の床面から斜位で，３の皿は中央部の床面から正位で，５の高台付坏は南西部の床面から斜位で，それぞれ出土している。６の甕は，南東コーナー部の床面から覆土下層にかけて破片で出土している。７の鏃は，西壁際の中央部の覆土下層から出土している。８の刀子は中央部の竈寄りの覆土下層から出土している。須恵器片は，混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第251図　第1070号住居跡実測図



第252図　第1070号住居跡出土遺物実測図

第1070号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第252図 1	坏 土師器	A [13.8] B 3.9 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 明褐色，普通	P41330 50% PL230
2	皿 土師器	A 8.2 B 1.6 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P41331 98% PL230
3	皿 土師器	A 9.7 B 2.0 C 5.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41332 85% PL230
4	高台付坏 土師器	A [14.9] B 5.5 D 6.2 E 1.2	底部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41333 50% PL230
5	高台付坏 土師器	A 9.6 B 4.1 D 4.5 E 1.0	体部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41334 80% PL231
6	甕 土師器	A [17.8] B (18.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部はゆるやかに内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半雑なナデ，下半横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	P41335 20% PL231

図版番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第252図7	鏃	(10.8)	4.5	3.4	0.7	(2.9)	0.4	0.3~0.4	(18.3)	鉄	茎端部屈曲。 三角形鏃	M41041 95% PL237

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第252図8	刀子	(17.0)	(12.9)	2.7	0.6	(4.1)	(55.2)	鉄	刀身・茎部一部欠損。両関有り。	M41042 85% PL236

第1071号住居跡（第253・254図）

位置　調査4区の中央部，J10h0区。

重複関係　第1075・1078号住居跡を掘り込み，北西部を第967号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.68m，短軸2.60mの方形である。

主軸方向　N－85°－E

壁　壁高は16～23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁の中央部を除き，壁の下を巡っている。上幅5～12cm，下幅2～6cm，深さ3～4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，南壁際の中央部から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁のほぼ中央部を壁外へ34cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅86cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～3・5・6層が崩落土層と考えられる。第4層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

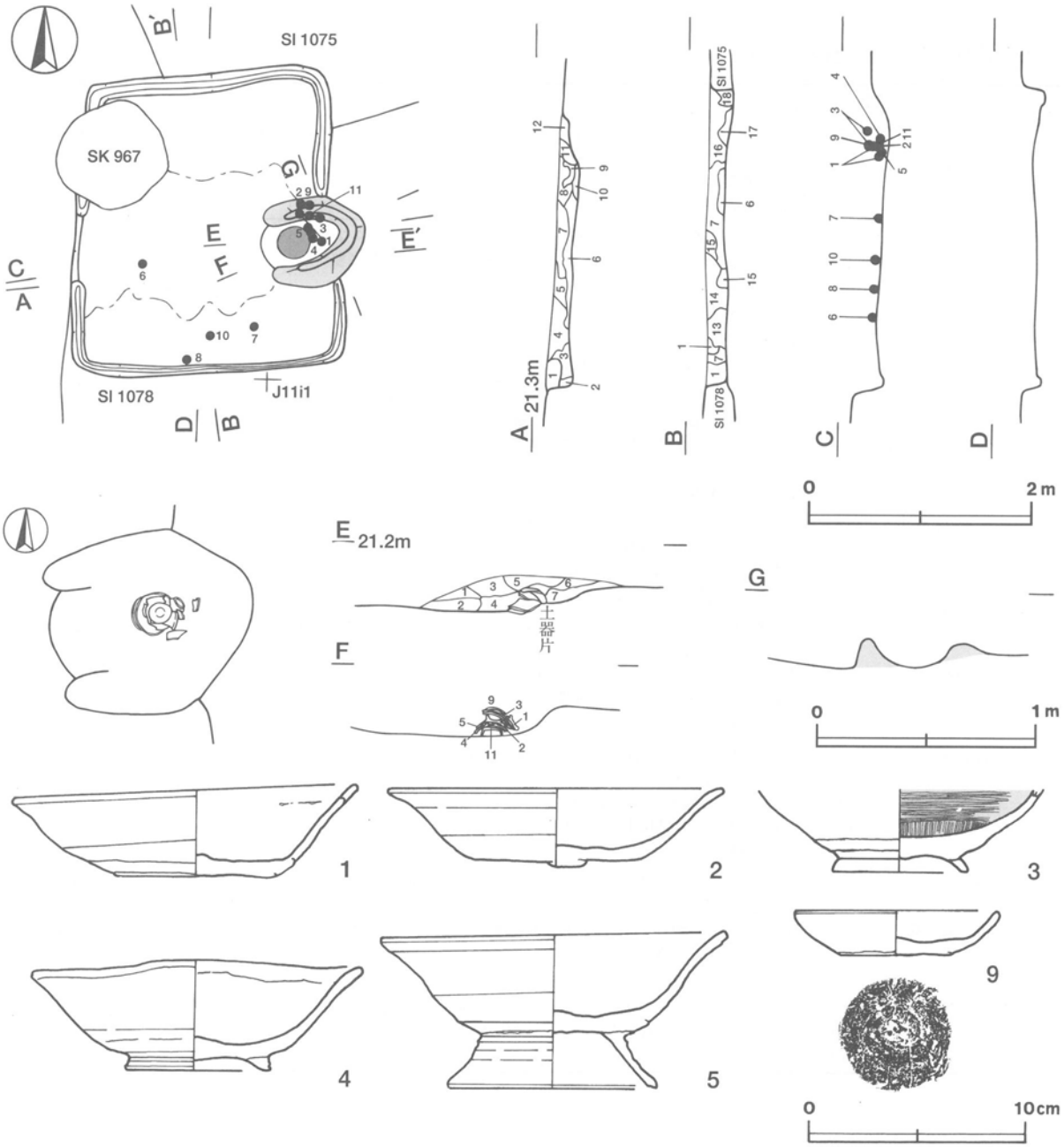
竈土層解説
1　にぶい褐色　粘土中ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　灰褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　黒褐色　炭化粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量

覆土　18層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

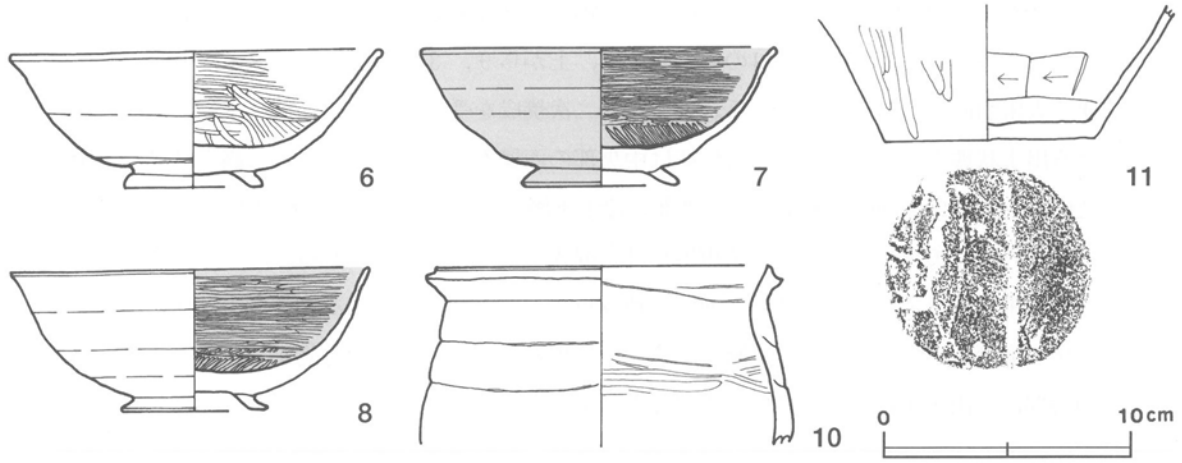
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　炭化材少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
9　黒褐色　粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
11　極赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
12　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
13　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
15　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
17　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材・粘土粒子微量
18　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物　土師器片298点，須恵器片２点が出土している。第253・254図１～11は，すべて土師器である。１・２の坏と３・４・５の高台付坏，９の皿，11の甕の底部は，上から９，３，１，２，５，４，11の順で逆位で重ねられた状態で火床面直上から出土している。いずれも二次焼成を受けておらず，転用支脚ではない。祭祀行為を想定させる出土状態といえる。６の高台付坏は中央部の西壁寄りから正位で，７の高台付坏は南東部の覆土下層から逆位で，８の高台付坏は南壁際の中央部の覆土下層から逆位で，それぞれ出土している。10の甕は，南部の覆土下層から破片で出土している。須恵器片は，混入したものと考えられる。

所見　竈内から本来供膳具である皿や坏が，逆位で積み重ねられた状態で，二次焼成を受けずに出土していることから，住居を廃棄するに当たって，供膳具を竈の中に埋納するという祭祀行為が行われた可能性が考えられる。本跡の時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第253図　第1071号住居跡・出土遺物実測図



第254図　第1071号住居跡出土遺物実測図

第1071号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第253図 1	坏 土師器	A 15.5 B 4.3 C 6.8	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，無調整。	砂粒・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P41338 50% PL231
2	坏 土師器	A 15.1 B 3.6 C 7.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，無調整。	砂粒 浅黄橙色 普通	P41339 70% PL231
3	高台付坏 土師器	B (3.7) D 6.1 E 0.6	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎ぎみに立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P41343 30% PL231
4	高台付坏 土師器	A 15.2 B 5.0 D 6.4 E 0.7	高台端部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。口縁部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41336 95% PL231
5	高台付坏 土師器	A 15.4 B 7.1 D 9.4 E 2.6	高台部の一部欠損。高台は足高で「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P41340 90% PL231
第254図 6	高台付坏 土師器	A [14.7] B 5.5 D 5.5 E 0.7	高台部・体部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41337 70% PL231
7	高台付坏 土師器	A [14.2] B 5.5 D [6.0] E 0.8	高台部・体部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41341 50% PL231
8	高台付坏 土師器	A [14.4] B 5.6 D 5.7 E 0.6	高台部・体部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41342 80% PL231
第253図 9	皿 土師器	A 9.2 B 2.0 C 5.2	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41344 98% PL231

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第254図 10	甕 土師器	A 13.3 B (7.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部はゆるやかに内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は短く外反し，端部は上方と外方に突出させている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す雑なナデ後，雑なヘラ磨き。内面横位のナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P41345 15% PL231
11	甕 土師器	B (5.3) C 8.3	底部から体部下位にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ後，縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母 明赤褐色，普通	P41443 10%

第1072号住居跡（第255・256図）

位置　調査4区の中央部，K11a1区。

重複関係　北西部から北東部にかけて第1073号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.35m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向　N－79°－E

壁　壁高は11～26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたものと考えられる。上幅14～25cm，下幅5～10cm，深さ3～4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　東壁の中央部を壁外へ41cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。北袖端部は，第1073号住居に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで122cm，両袖部幅126cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第2・4・7層が崩落土層と考えられる。焼土粒子を比較的多く含み赤変していることから，第5・6層が火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

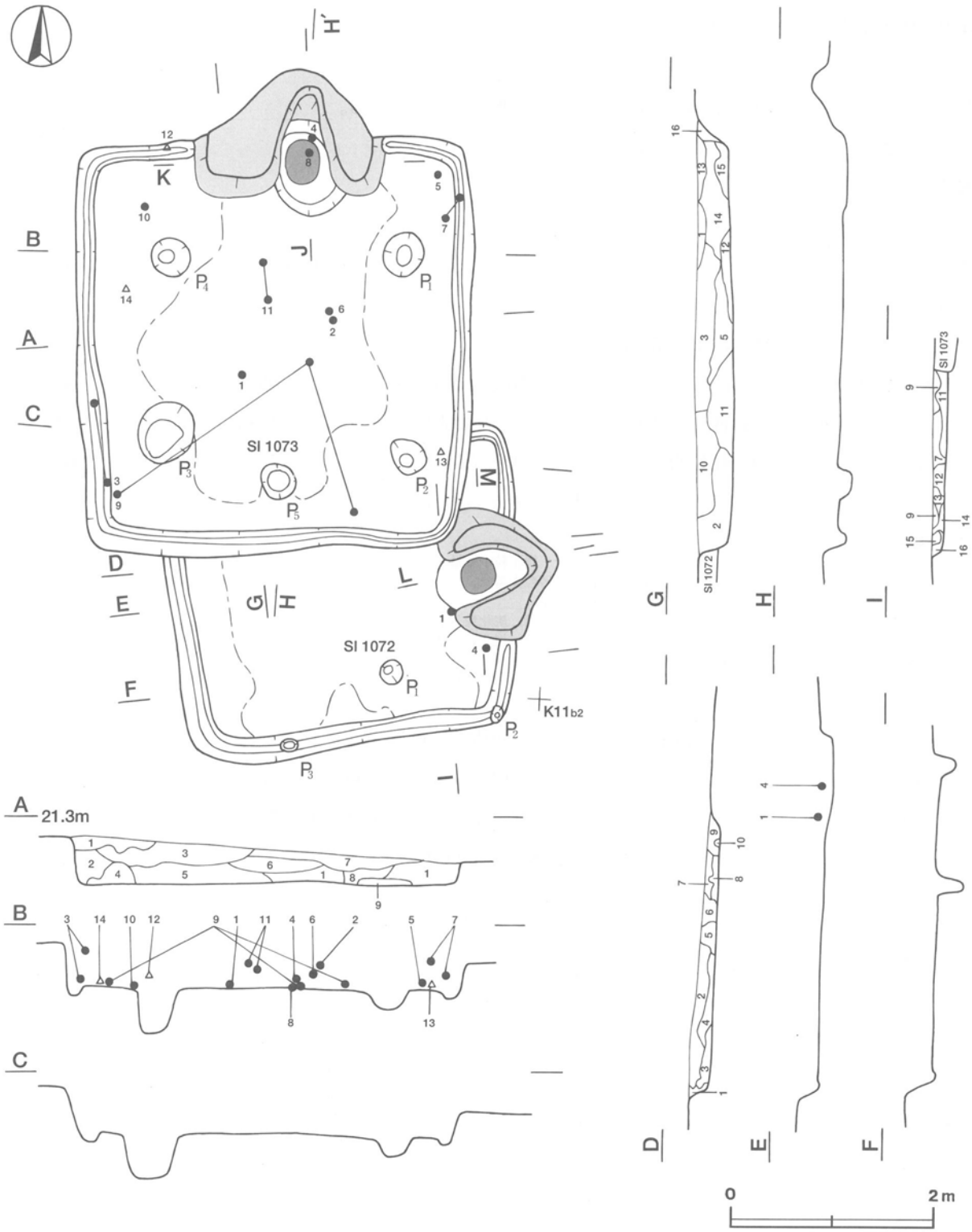
ピット　3か所（P1～P3）。南東コーナーから中央寄りに位置するP1は，径24cmの円形で，深さ27cmである。規模と位置から主柱穴の一つと考えられる。南東コーナー部の壁際に位置するP2は，長径16cm，短径11cmの楕円形で，深さ12cmである。南西コーナー寄りの南壁際に位置するP3は，長径17cm，短径12cmの楕円形で，深さ19cmである。P2・P3とも，規模と配置から壁柱穴と考えられる。

覆土　16層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

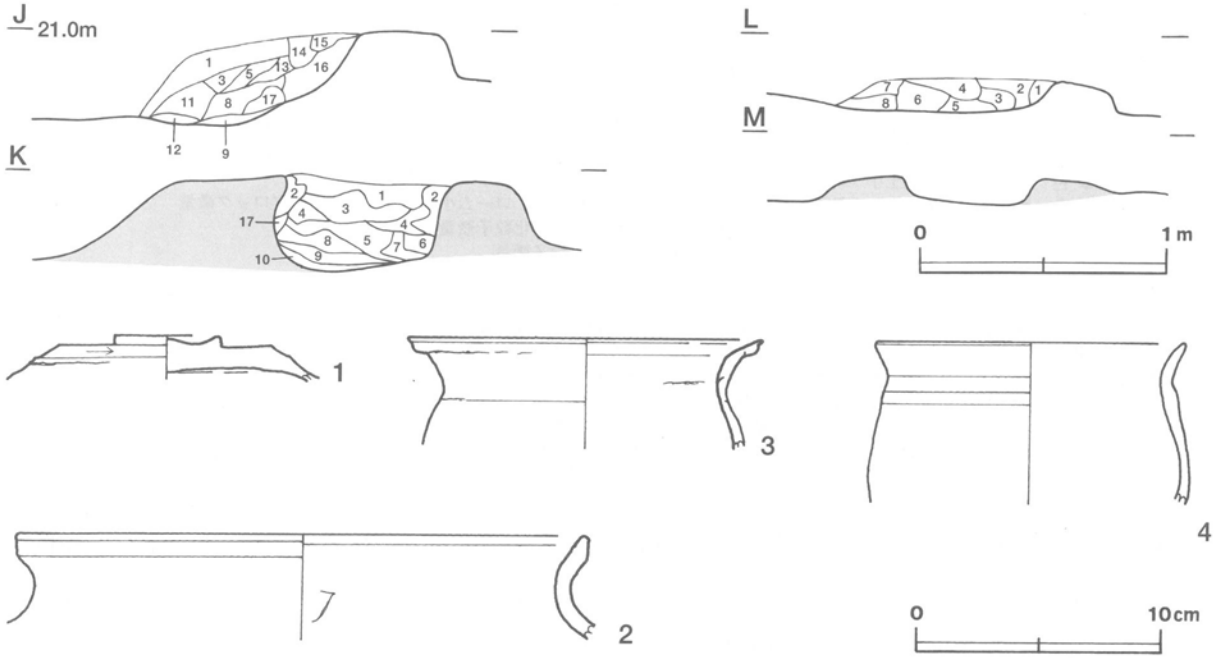
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
9　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
10　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
12　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片181点，須恵器片24点，土製品１点（支脚）が出土している。第256図１の須恵器蓋は，竈の南側の覆土中層から逆位で出土している。２と３の土師器甕は，南東部の覆土中から破片で出土している。４の土師器甕は，竈の南側の東壁際の覆土下層から破片で出土している。支脚は細片である。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から７世紀後葉ないし８世紀前葉と考えられる。



第255図　第1072・1073号住居跡実測図



第256図　第1072・1073号住居跡実測図，第1072号住居跡出土遺物実測図

第1072号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第256図 1	蓋 須恵器	B（1.8） F　4.2 G　0.4	天井部から外周部にかけての破片。天井部は平坦で，外周部はゆるやかに下降する。つまみは扁平なボタン状。	天井部外面回転ヘラ削り。外周部・口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P41349 60% PL231
2	甕 土師器	A［22.7］ B（4.1）	口縁部の破片。口縁部は外反し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色，普通	P41346 5%
3	甕 土師器	A［14.2］ B（4.3）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し，端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。頸部内面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色，普通	P41347 5%
4	甕 土師器	A［12.4］ B（6.4）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41348 5%

第1073号住居跡（第255～257図）

位置　調査4区の中央部，J11a1区。

重複関係　第1072号住居跡・第59号掘立柱建物跡のP3・P4を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.13m，短軸3.92mの方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は20～26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅16～28cm，下幅3～10cm，深さ6～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P5から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ55cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで144cm，両袖部幅176cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1・3・5・11・13層が崩落土層と考えられる。第9・10層は焼土粒子・灰を比較的多く含み赤変しているこ

とから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
4　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
5　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
6　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
7　暗　赤　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
8　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒・灰少量，焼土小ブロック微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量
11　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・粘土粒子・灰微量
12　にぶい赤褐色　灰中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
14　灰　褐　色　粘土粒子中量，粘土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
16　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
17　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化材・粘土粒子・砂粒・灰微量

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーから中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径38～64cmのほぼ円形で，深さ17～47cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径32cmの円形で，深さ14cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

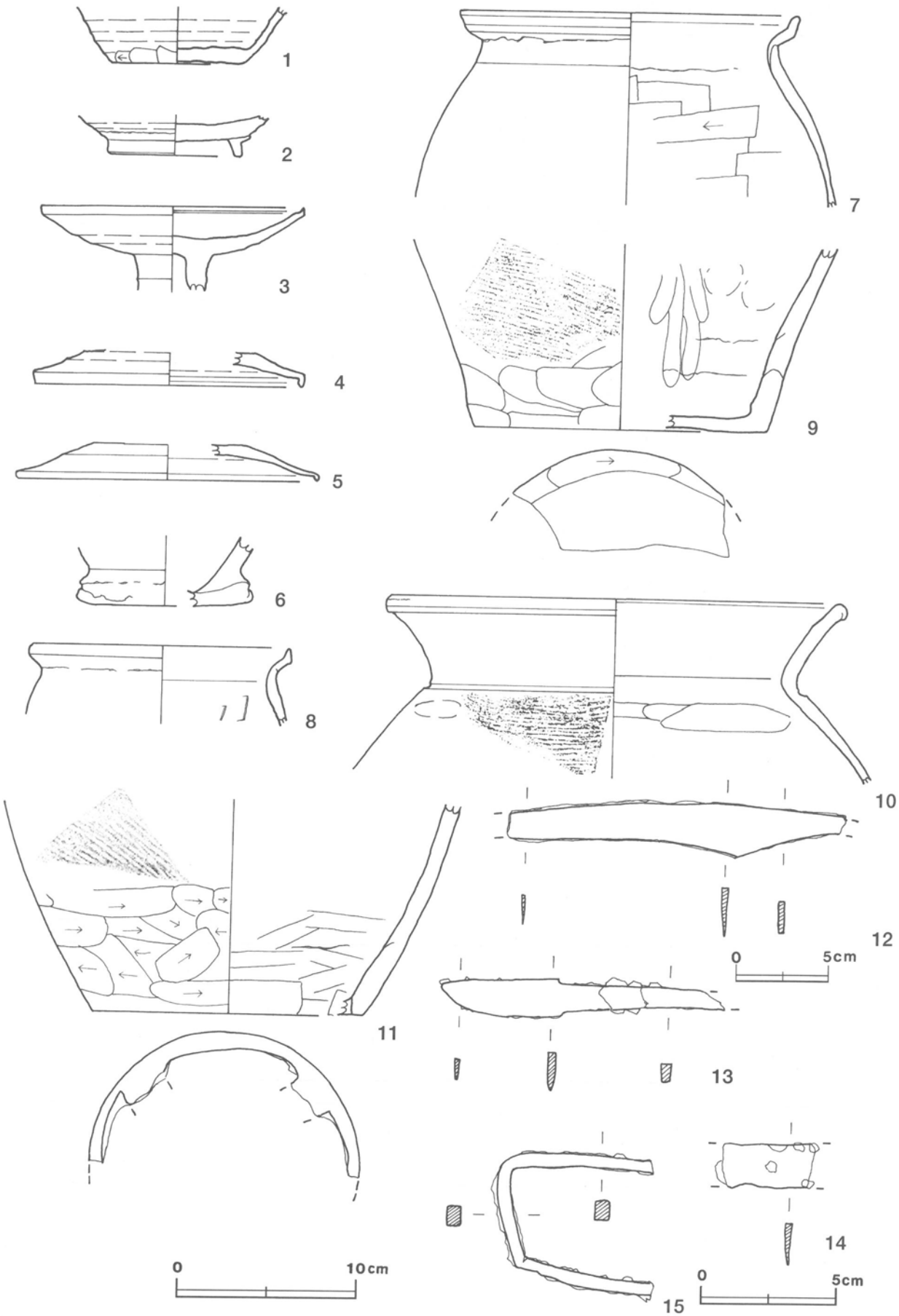
覆土　16層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
10　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
12　暗褐色　ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
14　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
15　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片488点，須恵器片152点，鉄器・鉄製品４点（刀子３，不明１），鉄滓１点が出土している。第257図の１～６・９～11は須恵器，７・８は土師器である。１の須恵器坏は，中央部の覆土下層から正位で出土している。２の高台付坏は，中央部の覆土中層から破片で出土している。３の高盤は，南西部の西壁際の覆土中層から出土した破片が接合したものである。４の蓋片と８の甕片は，竈の火床面からまとまって出土している。５の蓋は，北東コーナーの覆土下層から破片で出土している。６の捏鉢と11の甑は，中央部の覆土中層から破片で出土している。７の甕は，北東コーナーの東壁際の覆土中層と下層から破片で出土している。９の甕は，中央部から南西部にかけての覆土下層から破片で出土している。10の甕は，北西コーナー部の覆土下層から破片で出土している。12の刀子は，北西部の北壁際の覆土中層から出土している。13の刀子は，南東部の東壁際の覆土下層から出土している。14の刀子は，北西部の西壁際の床面から出土している。15の不明鉄製品は，北東部の覆土中から出土している。鉄滓は小片である。出土している土器片は多いものの，ほとんどが細片である。覆土中・上層からまとまって出土していることから，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第257図　第1073号住居跡出土遺物実測図

第1073号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	坏 須恵器	B (3.2) C 7.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・石英 黄灰色 普通	P41352 50% PL231
2	高台付坏 須恵器	B (2.2) D [7.2] E 0.9	高台部から底部にかけての破片。高台はわずかにハの字状に開く。	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P41353 30% PL231
3	高盤 須恵器	A [14.6] B (4.7)	脚部上位から口縁部にかけての破片。盤部は内彎気味に開き，口縁端部は上方に短く折れ曲げられている。	盤部内・外面，脚部上位外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 良好	P41354 30% PL231
4	蓋 須恵器	A [14.8] B (1.8)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で，外周部はゆるやかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井部・外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石 灰色 良好	P41355 20%
5	蓋 須恵器	A [16.6] B (1.9)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で，外周部はゆるやかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井部外面回転ヘラ削り。外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石 灰色 良好	P41356 10%
6	捏鉢 須恵器	B (3.8) C [9.8]	底部から体部下位にかけての破片。底部は丸みをおびた円盤状の平底で，体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好	P41357 5%
7	甕 土師器	A [18.6] B (10.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲する。口縁部は外反し，端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P41350 10% PL232
8	甕 土師器	A [14.3] B (4.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲する。口縁部は外反し，端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P41351 10% PL232
9	甕 須恵器	B (10.0) C [16.2]	底部から体部下位にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位外面斜位の平行叩き，下端横位のヘラ削り。内面に輪積み痕と指頭押圧痕を残すナデ。	砂粒・長石 灰色 良好	P41358 10%
10	甕 須恵器	A [24.8] B (9.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P41359 5% PL232 外面摩滅
11	瓶 須恵器	B (11.6) C [14.7]	底部から体部にかけての破片。底部は五孔式カ。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面中位以上斜位の平行叩き，下位斜位と横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P41360 10% PL232

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第257図12	刀子	(18.2)	(12.2)	2.7	0.35	(6.0)	(49.0)	鉄	刀身部・茎部一部欠損。	M41043 80% PL236
13	刀子	(10.4)	4.3	1.4	0.3	(6.1)	(16.6)	鉄	茎部一部欠損。両関有り。	M41044 90% PL236
14	刀子	(3.4)	(3.4)	1.6	0.3	—	(2.8)	鉄	刀身部の破片。	M41045 20% PL237

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第257図15	不明	16.1	0.5～0.6	0.7	15.0	鉄	「形で，断面は長方形。門片カ。	M41046 70%

第1077号住居跡（第258～260図）

位置　調査４区の中央部，J11g2区。

重複関係　第1075・1080号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.82m，短軸3.38mの長方形である。

主軸方向　N－22°－E

壁　壁高は16～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～24cm，下幅５～８cm，深さ４～７cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，Ｐ１付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで123cm，両袖部幅134cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～４・22層が崩落土層と考えられる。袖部は，比較的良好に遺存しており，粘土粒子・砂粒とローム土を比較的多く含む第20～26・30層が袖部の土層である。両袖の燃焼部側に須恵器甕が補強材として利用されている。甕は，割れた同一個体のものを東西袖に利用しており，二次焼成を受けて赤変している。第５・14・27層は焼土粒子・炭化粒子・灰を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。火床面の下層から，掘り方の埋土と考えられる灰を多量に含む第28層と焼土粒子・炭化粒子を比較的多く含む第29層が検出されている。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	粘土粒子多量，粘土小ブロック中量
4	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・灰少量
5	暗赤褐色	炭化粒子・灰多量，焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子少量
6	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
8	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
9	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
10	暗　褐　色	ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
13	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子・灰微量
14	にぶい赤褐色	焼土粒子・灰中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
15	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量
16	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17	灰　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
18	黒　褐　色	炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
19	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
20	褐　　色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
21	灰　褐　色	砂粒中量，粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
22	褐　　色	砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
23	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
24	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
25	褐　　色	粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
26	暗　褐　色	砂粒・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
27	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子・灰少量
28	暗　褐　色	灰多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
29	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
30	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
31	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

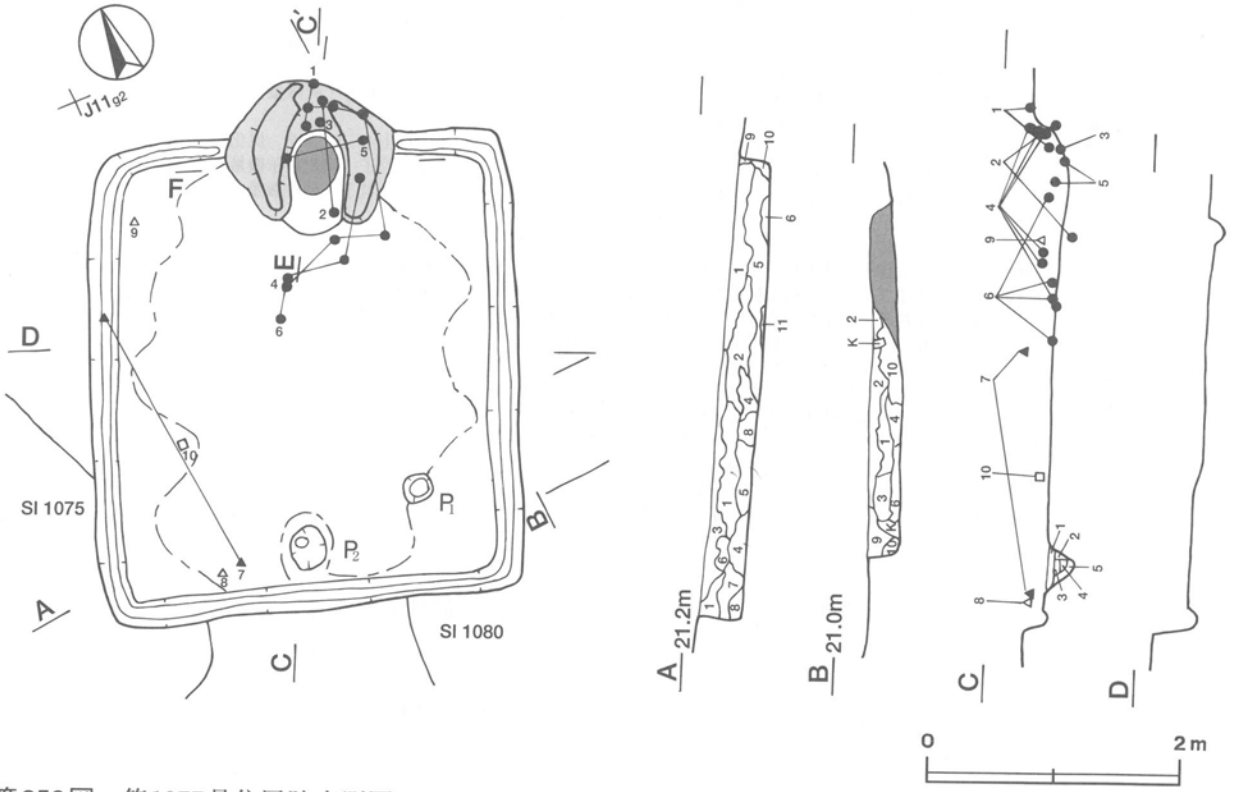
ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。南東コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１は，径24cmの円形で，深さ29cmである。規模と位置的に主柱穴の一つと考え調査したが，他に主柱穴が検出されず，性格不明である。南壁際の中央部に位置するＰ２は，長径37cm，短径28cmの楕円形で，深さ25cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

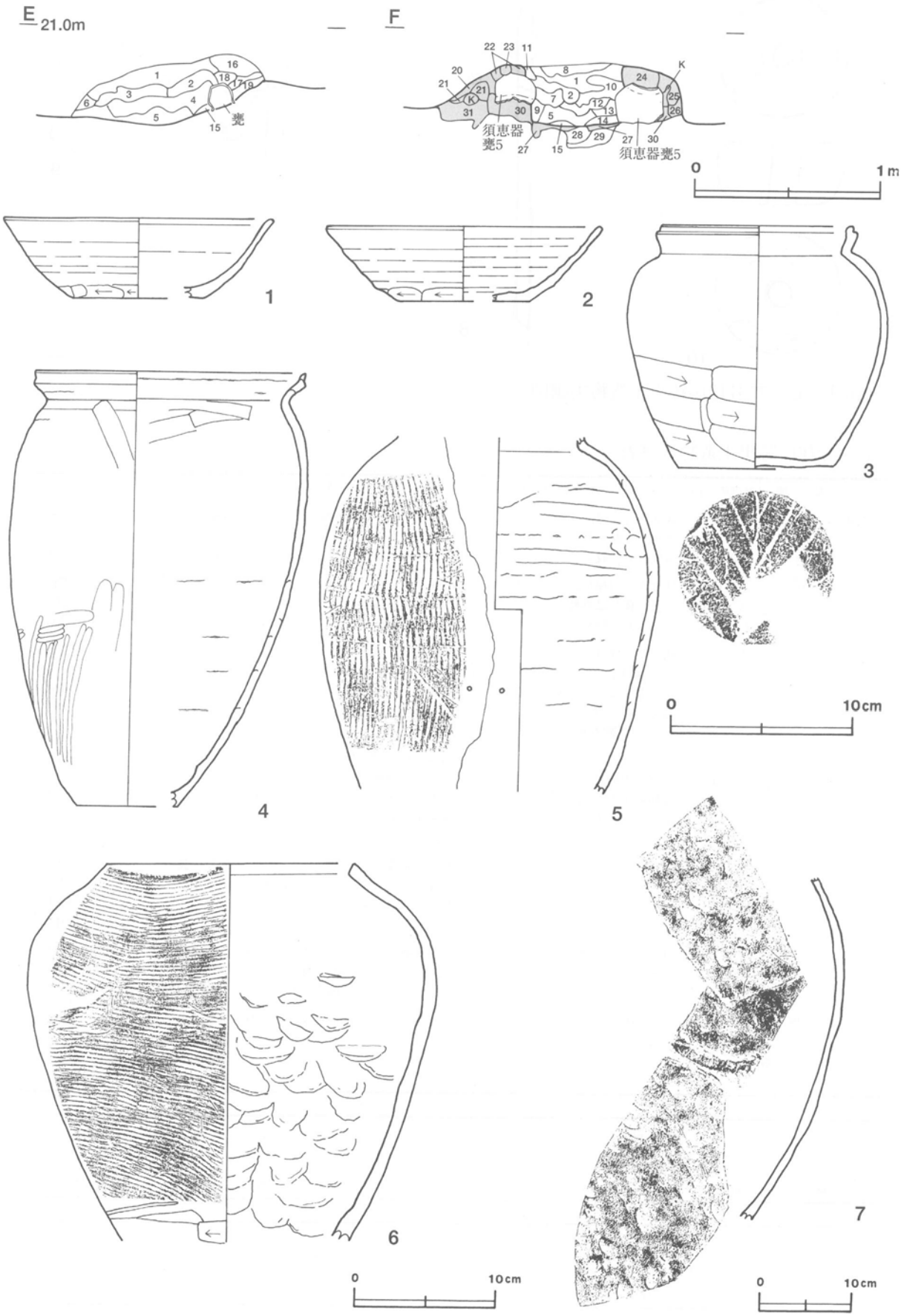
土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片455点，須恵器片81点，鉄製品２点（紡錘，鏃），石製品１点（紡錘車）が出土している。第259・260図１～２・５～７は須恵器，３・４は土師器である。１と２の坏は，竈内から破片で出土している。３の甕は，火床面直上から逆位で出土しており支脚転用されていたものである。４と６の甕は，竈の南側の床面と覆土下層及び竈内から出土した破片が接合したものである。５の甕は，竈の両袖部に補強材として使用されていたものを接合したものである。７の大甕片は，南壁際と西壁際の覆土下層から出土している。軸部が破損している８の鏃は，南西部の南壁際の覆土下層から出土している。９の紡錘は，北西コーナーの覆土中層から出土している。10の紡錘車は，南西部の覆土下層から出土している。出土している土器片は，ほとんどが破片である。住居跡全体から散在して出土していることから，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

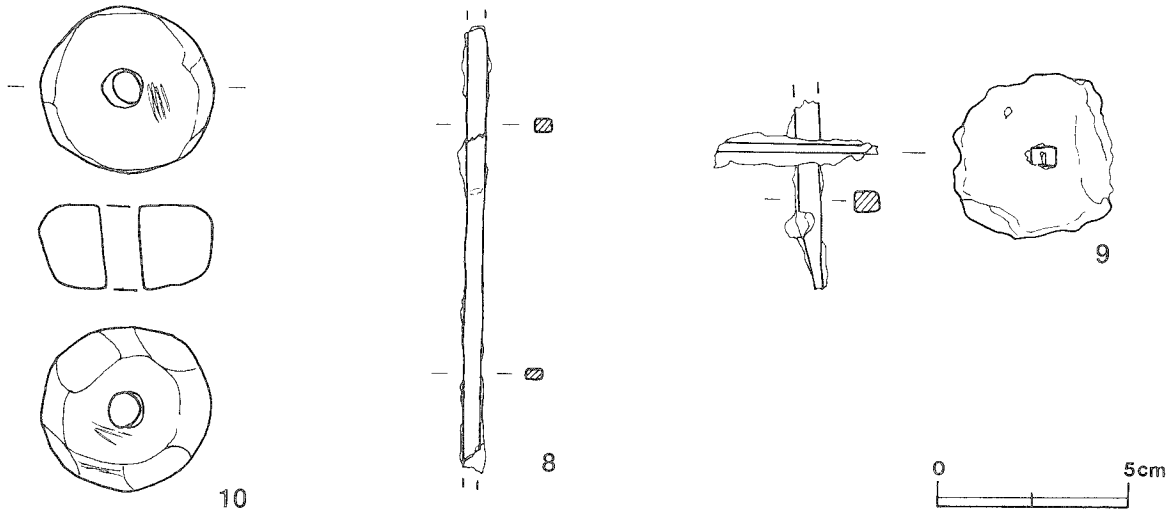
所見　竈から出土していた第259図５の須恵器甕は，同一個体の大破片を東西袖の補強材として利用しており，燃焼部側は二次焼成を受け赤変している。また，二つに割れた部分に対に２か所，直径3.5㎜ほどの円孔が穿孔された穴が確認されており，割れた後も補修して使用していたものと考えられる。６の甕も，頸部を丁寧に削りとり，無頸甕として使用している。口縁部が割れた甕を加工して使用していたのではないかと推測される。本跡の時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第258図　第1077号住居跡実測図



第259図　第1077号住居跡・出土遺物実測図



第260図　第1077号住居跡出土遺物実測図

第1077号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	坏 須恵器	A [14.6] B 4.2 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41378　20% PL232 二次焼成
2	坏 須恵器	A [14.8] B 4.1 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄色 普通	P41379　30% PL232 二次焼成
3	甕 土師器	A 10.3 B 13.0 C 8.4	底部から体部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲する。口縁部は短く外反し，端部は外上方につまみ上げられている。器壁は薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半横位のヘラ削り。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P41376 95% 二次焼成 PL232
4	甕 土師器	A [19.5] B 30.9 C [7.3]	底部から口縁部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲する。口縁部は短く外反し，端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位以上ヘラナデ後横ナデ，下位縦位のヘラ磨き。体部内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P41377 60% PL232
5	甕 須恵器	B (25.4)	底部・口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き，下位一部横位のヘラ削り。内面輪積み痕・無文の当て具痕を残すナデ。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P41380　80% PL232 体部下位に1対の補修孔，二次焼成
6	甕 須恵器	A 17.8 B (26.9)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。無頸。	体部外面横位の平行叩き，下端横位のヘラ削り。内面無文の当て具痕。体部上位端部削り痕。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P41381 40% PL232
7	甕 須恵器	B (36.8)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ，内面無文の当て具痕。	砂粒・長石 灰色，普通 体部外面上位に自然釉。	TP41021 5%

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第260図8	鏃カ	(11.5)	(9.5)	0.3～0.5	(2.0)	0.6	(0.3～0.6)	10.3	鉄	長頸鏃カ。断面長方形	M41049　50%　PL237

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	軸断面径(cm)	紡錘車径(cm)	紡錘車厚さ(cm)	重量(g)			
第260図9	紡錘	4.8	(0.5～0.6)	(4.2)	(0.3～0.6)	(26.2)	鉄	軸部・紡錘車の一部欠損。	M41051　50%　PL237

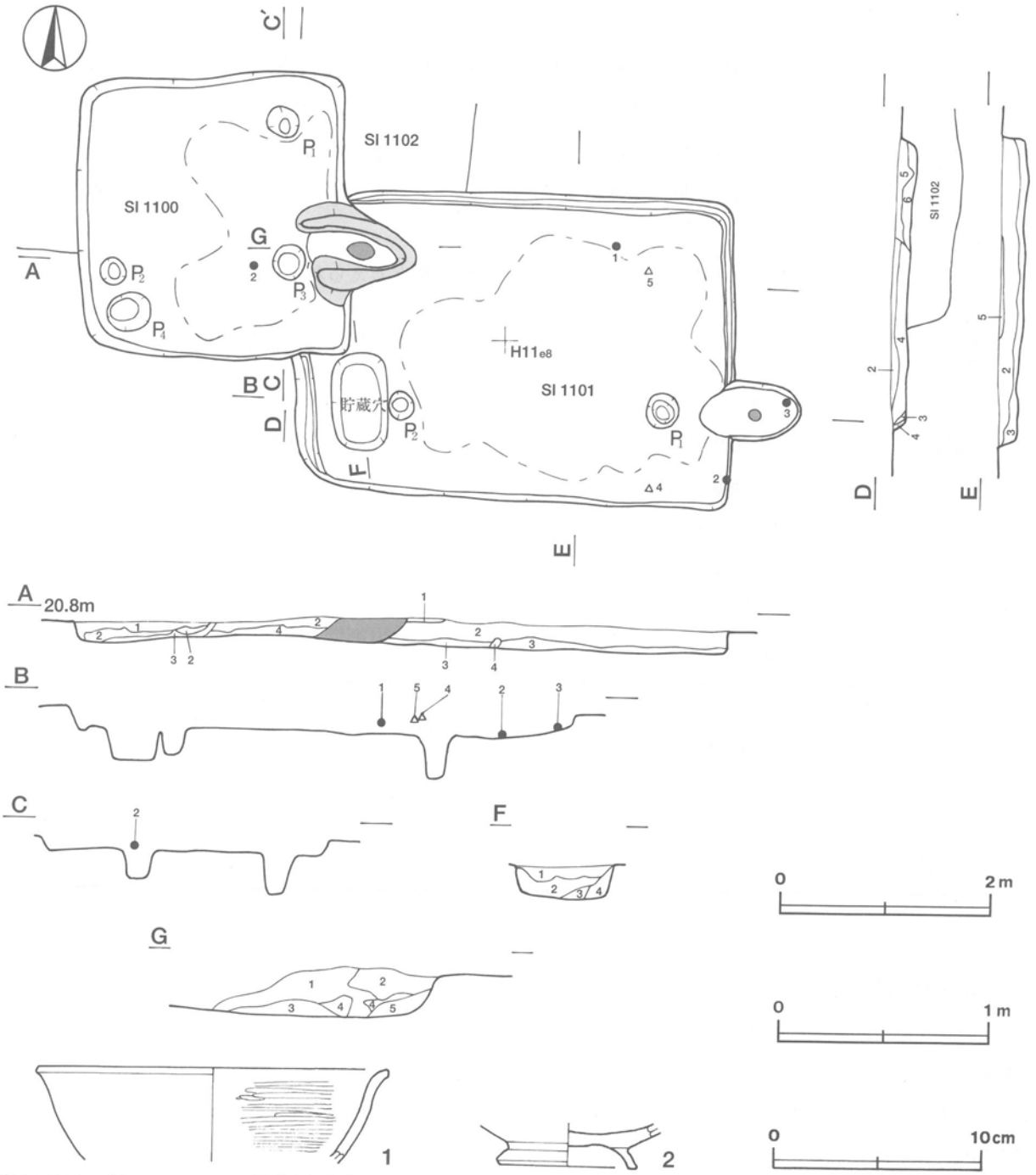
図版番号	器　種	計　測　値				石 質	特　　徴	備　　考
		径（cm）	厚さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第260図10	紡　錘　車	4.4～4.6	2.3	1.1	55.9	凝灰岩	丸みをおびた独楽形。外面に擦痕有り。	Q41034　95%　PL239

第1100号住居跡（第261図）

位置　調査4区の北東部，H11d7区。

重複関係　南東部で第1101号住居跡を，北部で第1102号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.68m，短軸2.53mの方形である。



第261図　第1100・1101号住居跡実測図，第1100号住居跡出土遺物実測図

主軸方向　N－88°－E

壁　壁高は12～14cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈の前面がよく踏み固められている。

竈　東壁の南寄りに，壁外へ67cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで86cm，両袖部幅94cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第２層が砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。また，第３層の下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。火床面は，床面から６cmほど掘りくぼめられ，浅い皿状を呈している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
5　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック少量

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は径28cmのほぼ円形，深さ40cmである。北東コーナー寄りに位置しており，規模や形状から主柱穴と考えられる。Ｐ２は径24cmの円形，深さ37cmで，西壁南寄りの壁際に位置し，竈と対する位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３は径33cmの円形，深さ26cmで，竈の前面に位置し，Ｐ４は径40cmの円形，深さ28cmで，南西コーナー部の壁際に位置している。規模から，柱穴の可能性が考えられる。

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器片74点，混入した須恵器片24点が出土している。第261図１の土師器坏の口縁部片は，竈内の覆土中から出土している。２の土師器高台付坏の底部片は，竈手前の床面から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。

第1100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第261図 1	坏 土師器	A［16.6］ B（4.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子，橙色 普通	P40014 50%
2	高台付坏 土師器	B（2.2） D　1.1 E　6.7	高台部の破片。高台はハの字状に開く。	高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40015 20%

第1101号住居跡（第261・262図）

位置　調査４区の北東部，H11e8区。

重複関係　北西部を第1100号住居に掘り込まれ，北西部で第1102号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.15m，短軸2.86mの長方形である。

主軸方向　N－91°－E

壁　壁高は15～23cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁南寄りに付設されている。焚口部から煙道部までの長さ95cmで，壁外への掘り込みは64cmである。天井部・袖部は遺存していない。付近の覆土の含有物から，砂質粘土で構築されていたものと考えられる。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに後，垂直に立ち上がる。

ピット　2か所（P1・P2）。P1は径33cmの円形，深さ43cmで，P2は径25cmの円形，深さ24cmである。それぞれ南東コーナー寄り，南西コーナー寄りに位置し，住居の主軸方向と同じ線上に並ぶことから，主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南西コーナー部に設けられている。長軸92cm，短軸53cmの南北に長い隅丸長方形である。深さは30cmで，断面は逆台形である。

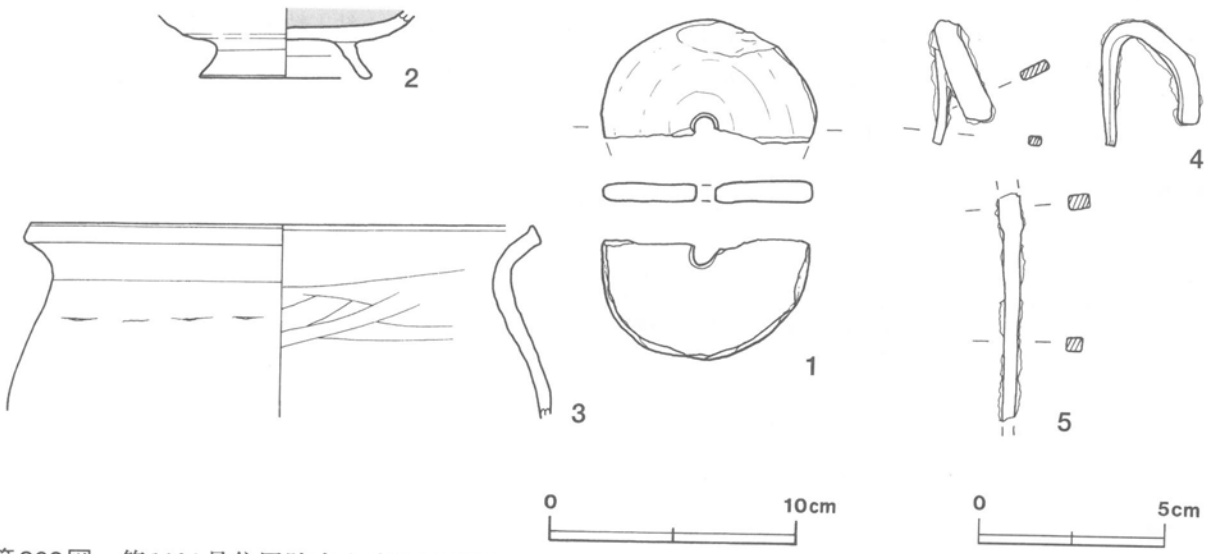
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　灰褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・粘土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片112点，須恵器片51点，土製品1点（紡錘車），鉄器2点（鏃）が出土している。第262図1の須恵器坏の底部片は，北壁際の覆土中層から出土している。底部中央が穿孔されており，紡錘車として転用された可能性がある。2の土師器高台付坏の底部片は，南東コーナー部の床面から出土している。3の土師器甕の口縁部片は，竈内の火床面から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。4の不明鉄製品は南壁際の覆土上層から，5の不明鉄製品は北東コーナー寄りの覆土上層から出土しており，混入の可能性が高い。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，9世紀末葉から10世紀前葉と考えられる。



第262図　第1101号住居跡出土遺物実測図

第1101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 須恵器	C 8.3	底部の破片。平底。	底部内面ロクロナデ，外面1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色 普通	P40266 10% 底部中央に径0.8cmの焼成後穿孔有り，紡錘車に転用ヵ PL232
2	高台付坏 土師器	B (2.7) D 7.0 E 1.5	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子，にぶい橙色 普通	P40016 15%
3	甕 土師器	A [20.0] B (7.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかに屈曲し，口縁部は外傾する。端部を面取りして，角張らせている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明褐色 普通	P40017 5%

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第262図4	不明	(8.2)	0.8	0.3	(5.9)	鉄	一端が尖る断面長方形の棒状，頭部欠損の角釘ヵ	M40003 PL237
5	不明	(6.0)	0.6	0.4	(3.6)	鉄	断面長方形の棒状，鉄鏃の箆被部片ヵ	M40004 PL237

第1104号住居跡（第263図）

位置　調査4区の北東部，H11e4区。

重複関係　南東部で第931号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.43m，短軸3.28mの方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は36～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈を除き，壁際を巡っている。上幅11～13cm，下幅5～8cm，深さ6～9cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。南壁西寄りの壁際から中央部にかけて，住居の主軸方向と同じ方向に溝1条が検出された。長さ134cm，上幅13～17cm，下幅5～7cm，深さ13cmで，断面はU字形である。

竈　北壁中央部を壁外に72cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで84cm，両袖部幅114cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第5層が砂粒や粘土粒子を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。火床面は，床面から5cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

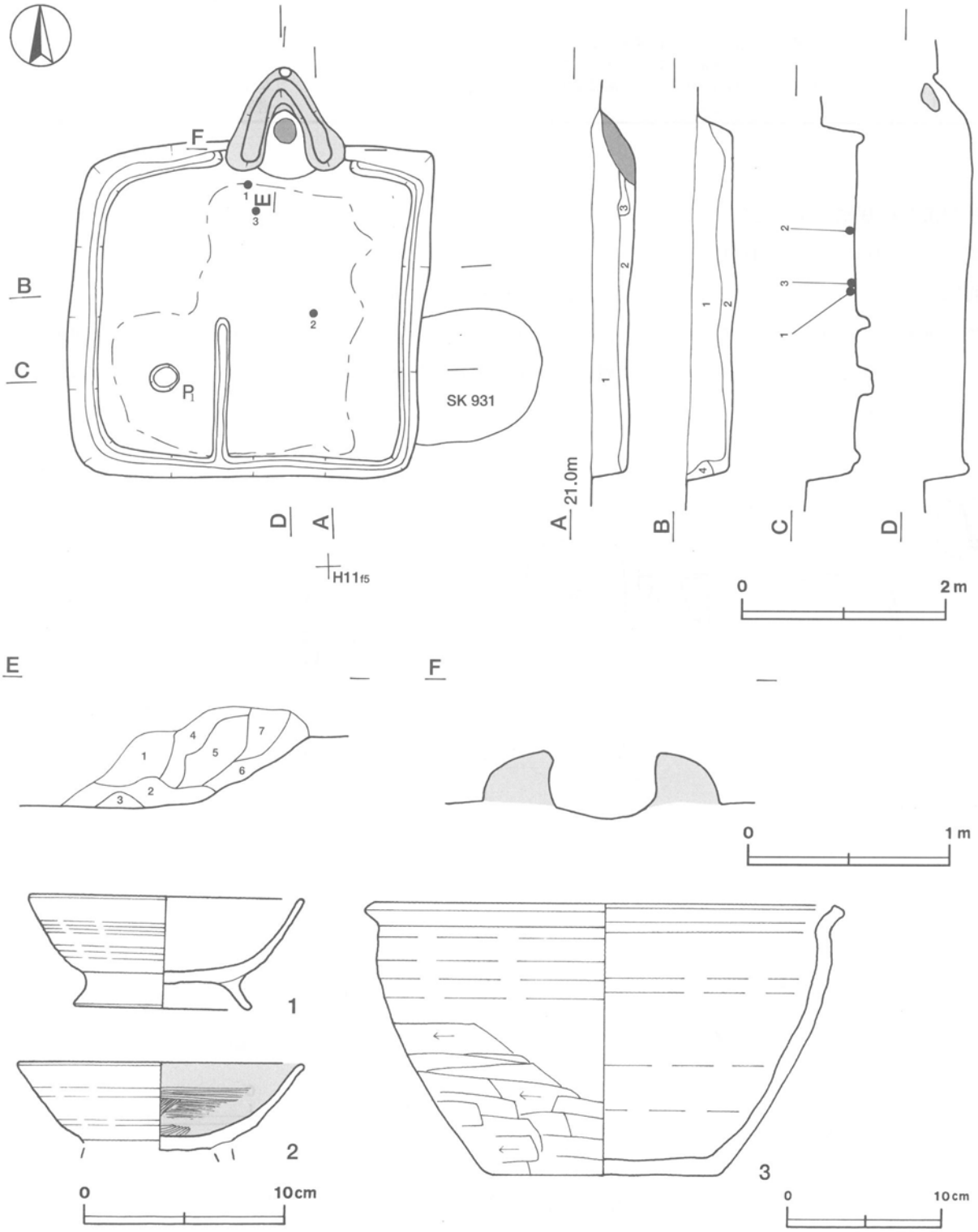
ピット　1か所。P1は径30cmのほぼ円形，深さ18cmで，南西コーナー寄りに位置する。性格は，不明である。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片54点，須恵器片40点，鉄器１点（鏃），撹乱により混入した陶器片１点が出土している。第263図１の土師器高台付坏は，竈の西袖手前の床面から正位で出土している。２の土師器坏は，中央部の床面から正位で出土している。３の土師器鉢は，竈手前の床面と竈内の覆土中から出土した破片が接合したものである。図示した土器は，出土位置から，いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，９世紀後葉と考えられる。



第263図　第1104号住居跡・出土遺物実測図

第1104号住居跡出土遺物観察表

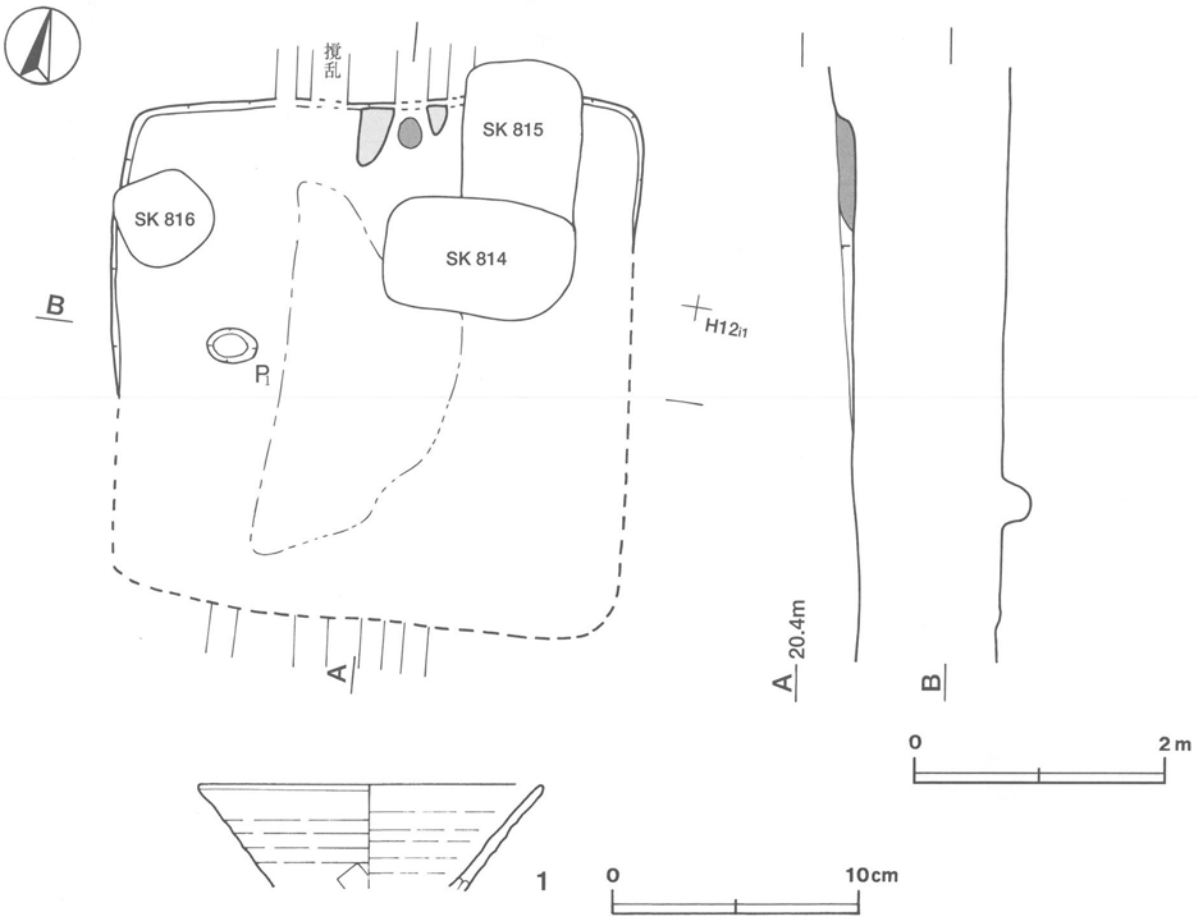
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第263図 1	高台付坏 土師器	A 13.6 B 5.4 D 8.5 E 1.7	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40026 70% PL232
2	高台付坏 土師器	A [14.0] B (4.3)	高台部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40027 60%
3	鉢 土師器	A [30.8] B 17.5 C 14.8	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は面取りされている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部上半ナデ，下半横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P40028 50% PL233

第1107号住居跡（第264図）

位置　調査4区の北東部，H11i0区。

重複関係　北東部を第814・815号土坑に，北西部を第816号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　南側へ傾斜している地形のため，南壁の立ち上がりが確認できず，床面の広がりから規模を推定した。東西軸は4.10m，推定される南北軸は4.18mであり，北東コーナ及び北西コーナーが直角であることから，方形と推定される。



第264図　第1107号住居跡・出土遺物実測図

主軸方向　N－7°－W

壁　確認できた壁高は6cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。中央部が南北にトレンチャーによる撹乱を受けているために，遺存状態が悪く，両袖部の基部だけを確認した。袖部は砂質粘土で構築されており，確認できた両袖部幅は69cmである。

ピット　1か所。P1は長径39cm，短径28cmの楕円形，深さ24cmで，中央部西寄りに位置し，規模と位置から主柱穴の可能性がある。

覆土　単一層である。含有物から，自然堆積の可能性が高い。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片19点，須恵器片11点が出土している。第264図1の須恵器坏の口縁部片は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，9世紀と考えられる。

第1107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第264図 1	坏 須恵器	A［13.8］ B（4.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P40030 10%

第1108号住居跡（第265・266図）

位置　調査4区の北東部，H11f0区。

重複関係　南東部を第1111号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東部が調査区域外に延びているために，全容は不明である。南北軸は4.93mで，東西軸は5.46mが確認できただけである。北西コーナー・南西コーナーが直角であることから，東西に長い長方形と推定される。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は9～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。竈の前面がよく踏み固められている。

竈　北壁に付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ76cm，両袖部幅96cmで，壁外へは掘り込まれていない。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3層が粘土粒子や砂粒を含むことから，崩落土と考えられる。また，第4層の下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。火床部は床面から7cmほど掘りくぼめられて，浅い皿状を呈している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

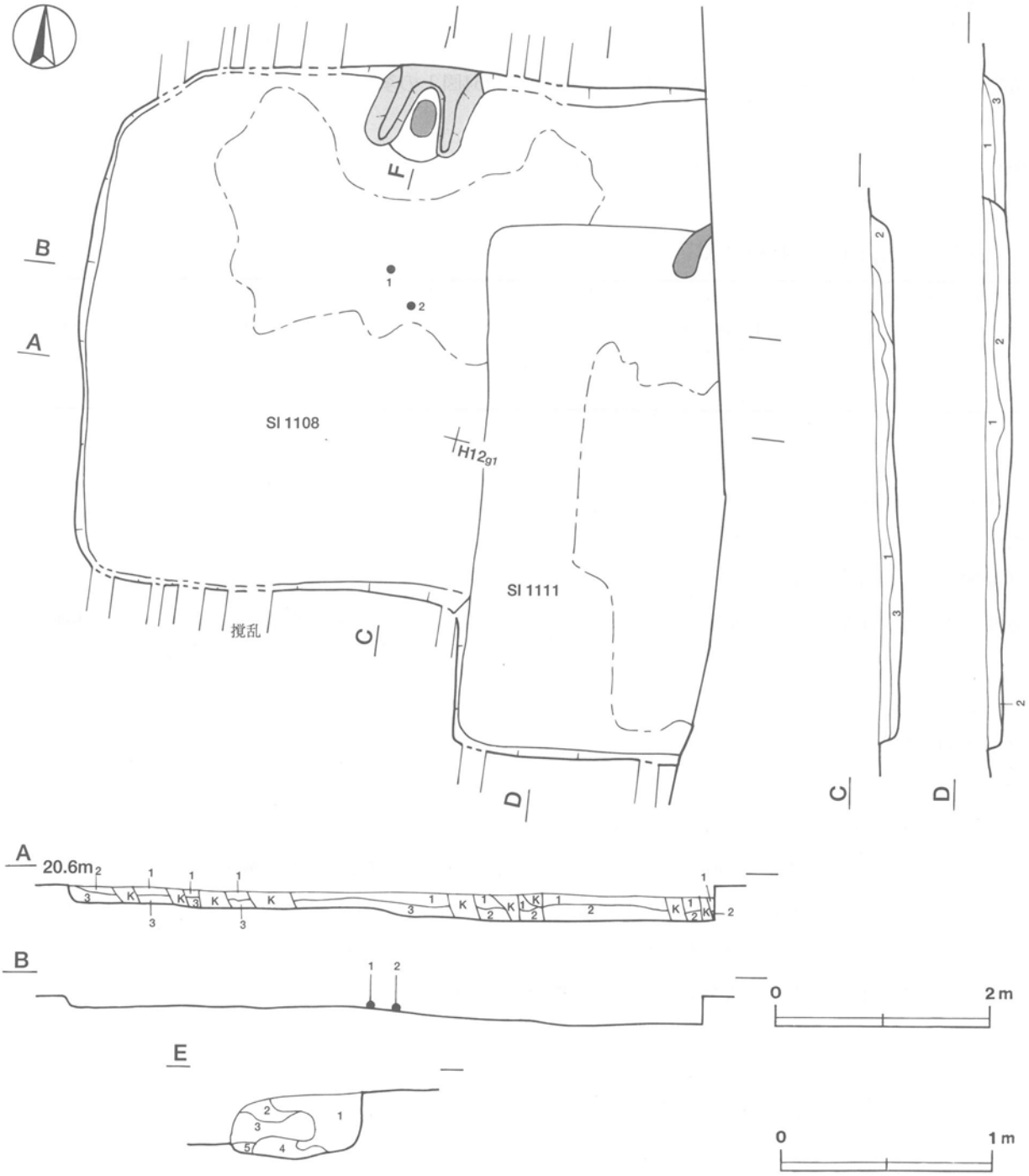
竈土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

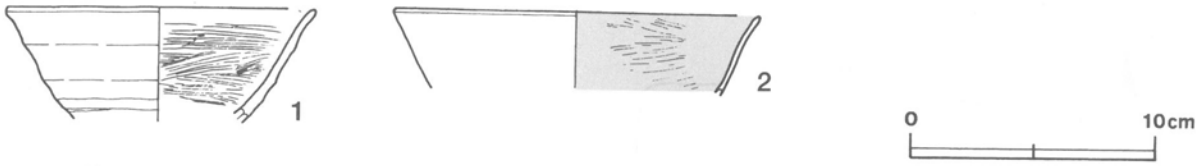
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片144点，須恵器片33点，撹乱により混入した陶器片２点が出土している。出土した土器は，いずれも細片である。第266図１の土師器坏の口縁部片と２の土師器坏の口縁部片は，いずれも中央部の床面から出土している。出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土した須恵器片が少量であることや土師器坏の形状から，９世紀後葉と考えられる。



第265図　第1108・1111号住居跡実測図



第266図　第1108号住居跡出土遺物実測図

第1108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第266図 1	坏 土師器	A［12.4］ B（4.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40031 10%
2	坏 土師器	A［14.6］ B（3.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英・赤色粒子，灰褐色 普通	P40032 5%

第1109号住居跡（第267図）

位置　調査4区の北東部，H11h7区。

重複関係　南西部を第810・811号土坑に，北西部を第804・813・828号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.46m，短軸3.20mの方形である。

主軸方向　N－93°－E

壁　壁高は8～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁の南寄りに付設されている。中央部が東西にトレンチャーによる撹乱を受けているために，遺存状態が悪く，両袖部を確認しただけである。袖部は砂質粘土で構築されており，両袖部幅は75cmである。

ピット　4か所（P1～P4）。P1は径26cmの円形，深さ36cmで，P2は径39cmの円形，深さ40cmである。P1は竈南袖の西側に，P2は中央部の南寄りに位置し，規模から主柱穴の可能性がある。P3は，径31cmの円形，深さ12cmで，中央部東寄りに位置する。P4は，長径68cm，短径58cmの南北に長い楕円形，深さ31cmで，中央部南西寄りに位置する。いずれも性格は不明である。

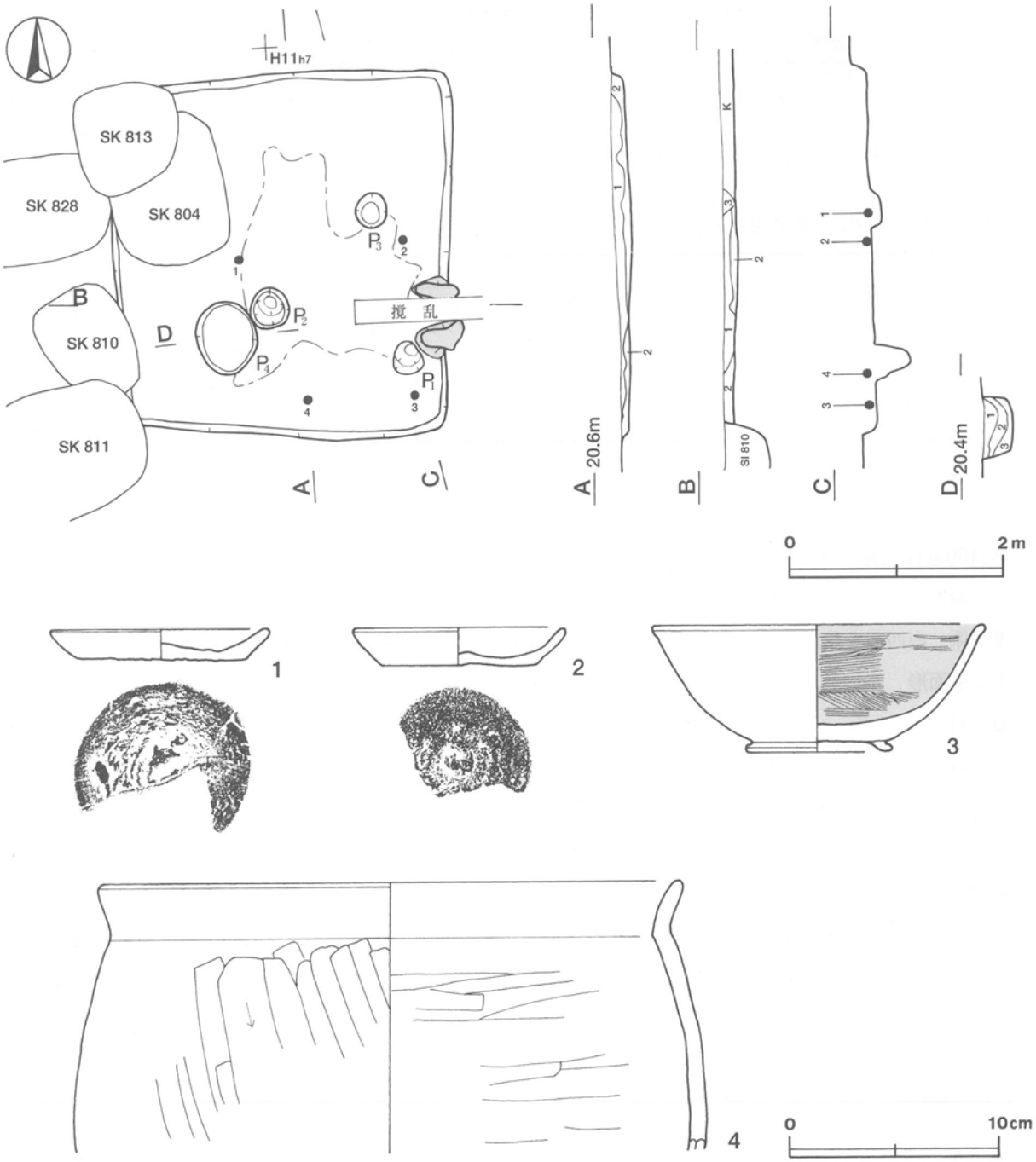
ピット土層解説
1　黒褐色　焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片89点が出土している。図示した土器は，床面や覆土下層から出土したものであり，本跡に伴うものと考えられる。第267図1の土師器皿は，中央部の床面から正位で出土している。2の土師器皿は，竈の北袖脇の床面から逆位で出土している。3の土師器高台付坏は，南東コーナー部の覆土下層から逆位で出土している。4の土師器甕の口縁部片は，南壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。



第267図　第1109号住居跡・出土遺物実測図

第1109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第267図 1	皿 土師器	A 10.3 B 1.5 C 8.1	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40033 60% PL232
2	皿 土師器	A [10.0] B 1.8 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色，普通	P40034 40% PL232
3	高台付坏 土師器	A [15.5] B 5.9 D 6.6 E 0.5	体部・口縁部一部欠損。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P40035 60% PL232

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
4	甕 土師器	A［27.4］ B（12.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾する。端部は丸くおさめている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P40036 15%

第1111号住居跡（第265・268図）

位置　調査4区の北東部，H12f1区。

重複関係　北西部で第1108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　東部が調査区域外に延びているために，全容は不明である。南北軸は5.04mで，東西軸は2.06mだけが確認できただけである。北西コーナー，南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は20～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いてよく踏み固められている。

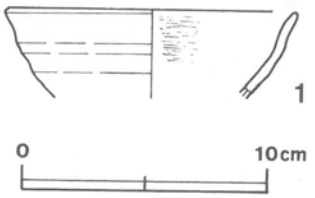
竈　北壁際の調査区域外との境の床面に粘土粒子や砂粒の広がりが確認されていることから，北壁に砂質粘土で構築されていたものと考えられる。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片77点，須恵器片4点，撹乱により混入した陶器片1点が出土しており，いずれも細片である。第268図1の土師器坏の口縁部片は，南東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，9世紀後葉と考えられる第1108号住居跡を掘り込んでいることや坏の口縁部の形状から，10世紀と考えられる。



第268図　第1111号住居跡出土遺物実測図

第1111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第268図 1	坏 土師器	A［11.6］ B（3.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P40054 5%

第1112号住居跡（第269・270図）

位置　調査4区の北東部，I11a1区。

重複関係　南西部で第130号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　東側へ傾斜している地形のため，東壁の立ち上がりが確認できず，床面の広がりから規模と平面形を推定した。南北軸は3.29m，推定される東西軸は4.66mで，東西に長い長方形と推定される。

主軸方向　N－2°－E

壁　確認できた壁高は15～26cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，南西部がよく踏み固められている。東部は，硬化面が削平されている可能性が考えられる。

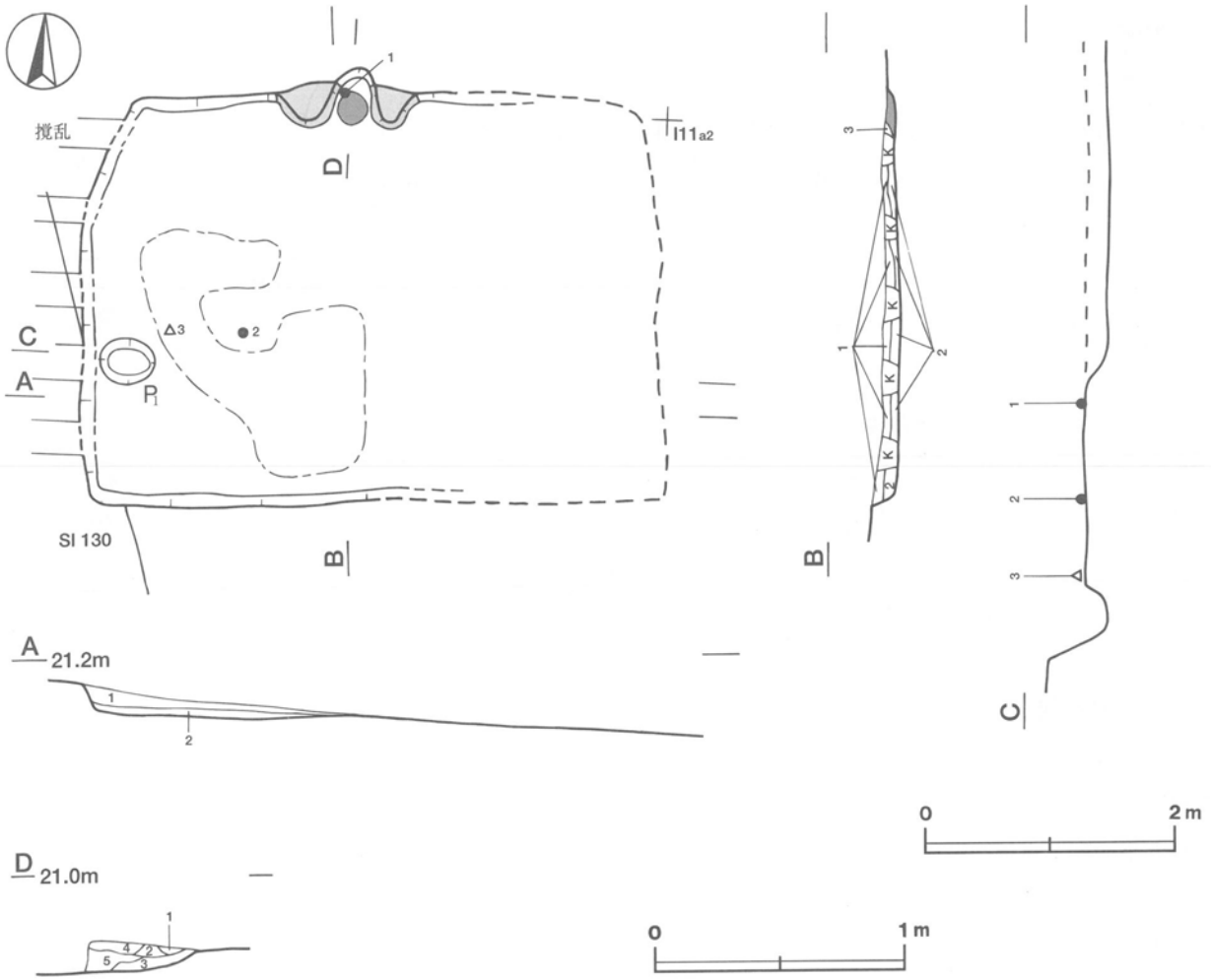
竈　北壁を壁外へ21cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，両袖部幅が108cmである。焚口部はトレンチャーによる撹乱を受けているため遺存せず，確認できた火床部から煙道部までの長さが46cmである。火床部は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

ピット　1か所。P 1は，長径45cm，短径37cmの楕円形，深さ22cmである。西壁中央部の壁際に位置し，性格は不明である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第3層は，竈から流出したと考えられる焼土や砂粒を含んでいる。

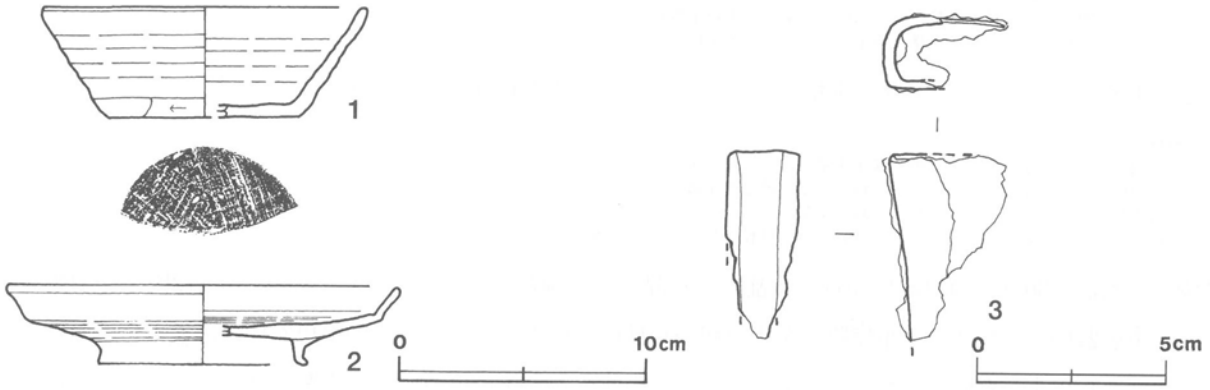
土層解説
1　黒 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量



第269図　第1112号住居跡実測図

遺物　土師器片53点，須恵器片４点，鉄器１点（斧）が出土している。第270図１の須恵器坏は，竈の火床面から正位で出土している。２の須恵器盤片は，中央部西寄りの床面から出土している。３の鉄斧は，西壁寄りの床面から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，８世紀後葉ないし９世紀前葉と考えられる。



第270図　第1112号住居跡出土遺物実測図

第1112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第270図 1	坏 須恵器	A［12.8］ B　4.4 C［7.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P40055 40% PL233
2	盤 須恵器	A［15.6］ B　3.1 D［8.4］ E　0.9	高台部から口縁部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。端部は丸くおさめている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 灰色 良好	P40056 20%

図版番号	器　種	計測値				材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
第270図3	斧	(4.9)	(3.3)	(2.0)	(23.5)	鉄	袋状鉄斧，袋部の破片	M40007　30%　PL238

第1113号住居跡（第271・272図）

位置　調査４区の北東部，H11e9区。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.25mの南北に長い長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は36～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁際を巡っている。上幅12cm，下幅８cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に44cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，両袖部幅が128cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第４層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。火床部は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から階段状に立ち上がる。

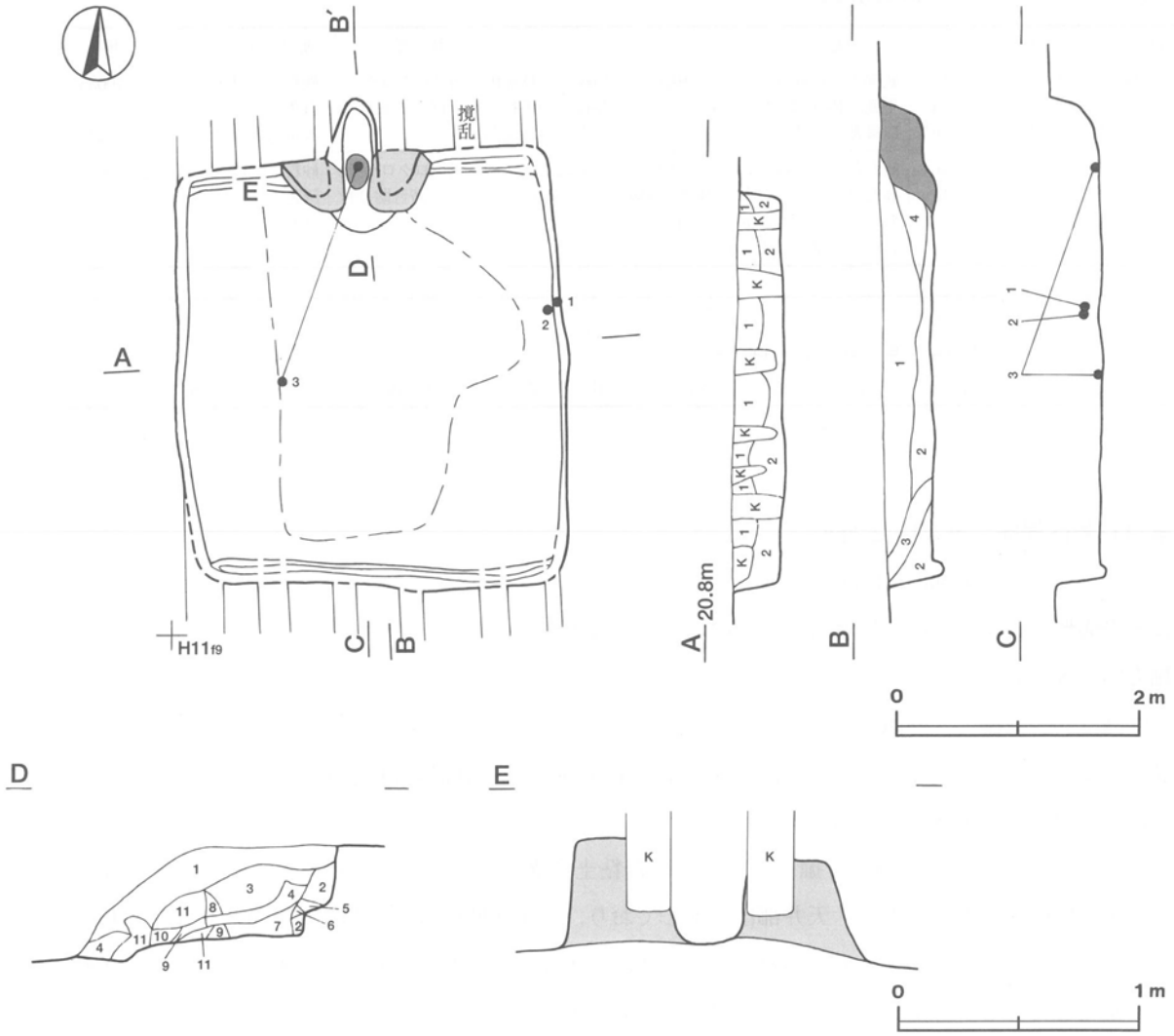
竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，砂粒少量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
8　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
9　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
10　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

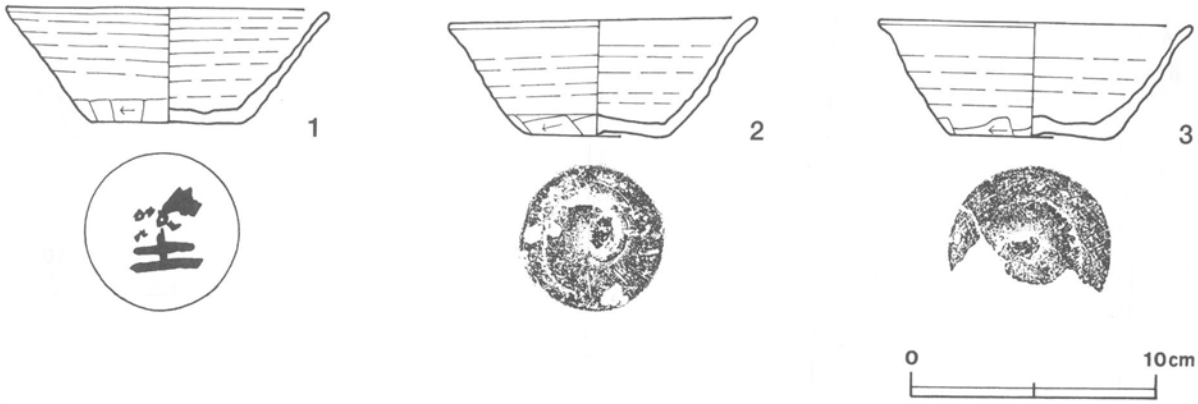
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片30点，須恵器片66点，撹乱により混入した陶器片5点が出土している。第272図1の須恵器坏と2の須恵器坏は，いずれも東壁際の覆土下層から横位で出土している。3の須恵器坏は，竈の火床面と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，9世紀中葉と考えられる。



第271図　第1113号住居跡実測図



第272図　第1113号住居跡出土遺物実測図

第1113号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第272図 1	坏 須恵器	A 13.1 B 4.6 C 6.2	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英，黄灰色 普通	P40057 100%，PL232 底部外面墨書「至」
2	坏 須恵器	A 12.3 B 4.8 C 5.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸くおさめている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，灰色 普通	P40058 95% PL232
3	坏 須恵器	A [12.6] B 4.5 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸くおさめている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P40059 50% 二次焼成

第1114号住居跡（第273図）

位置　調査4区の北東部，I12a1区。

規模と平面形　東部が調査区域外に延びているために，全容は不明である。南北軸は3.27mで，東西軸は2.56mが確認できただけである。南西コーナー・北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　竈やピットが検出されなかったため，主軸方向は確認できなかった。南壁の直交方向は，N－5°－Wを指している。

壁　壁高は5cmで，外傾して立ち上がる。

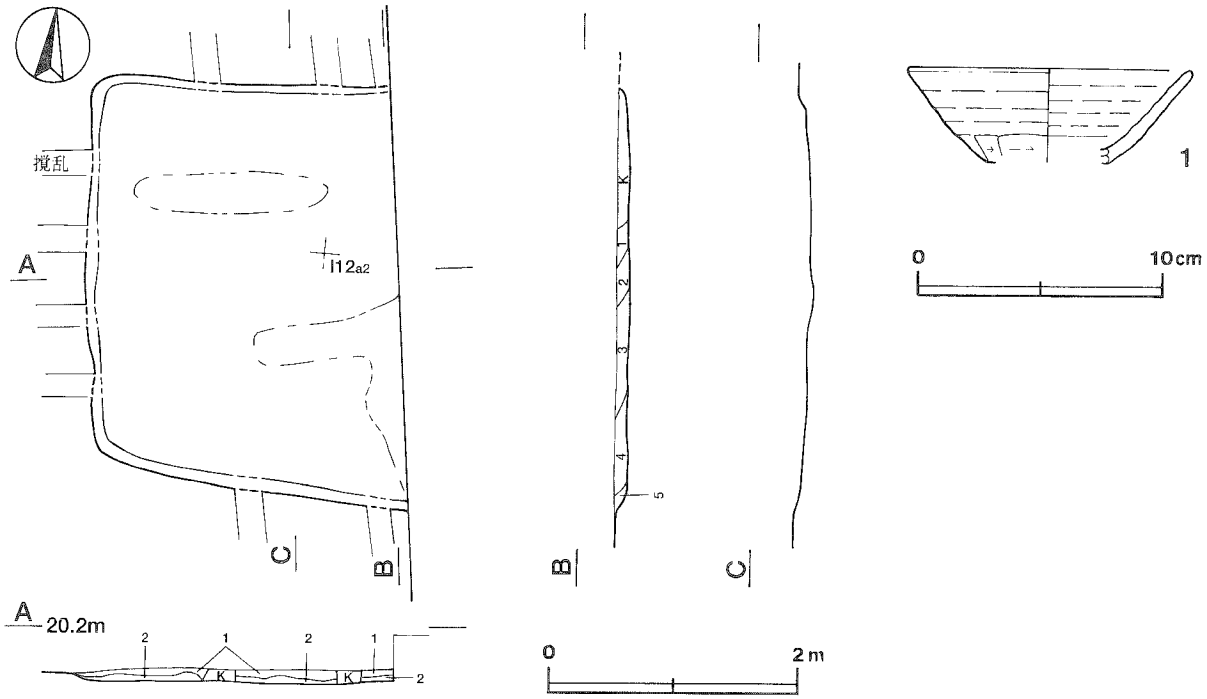
床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片39点，須恵器片15点が出土している。いずれも細片である。第273図1の須恵器坏は，体部から口縁部にかけての破片で，南東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，9世紀中葉から後葉と考えられる。



第273図　第1114号住居跡・出土遺物実測図

第1114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第273図 1	坏 須恵器	A [11.5] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，黄灰色 普通	P40060 5%

第1116号住居跡（第274図）

位置　調査4区の北部，H10b5区。

重複関係　南東部で第1122号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　北部が調査区域外に延びているため，全容は不明である。東西軸は4.48mで，南北軸は2.28mだけが確認できた。南東コーナーと南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は4～7cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁際を巡っている。上幅12cm，下幅4cm，深さ2～5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

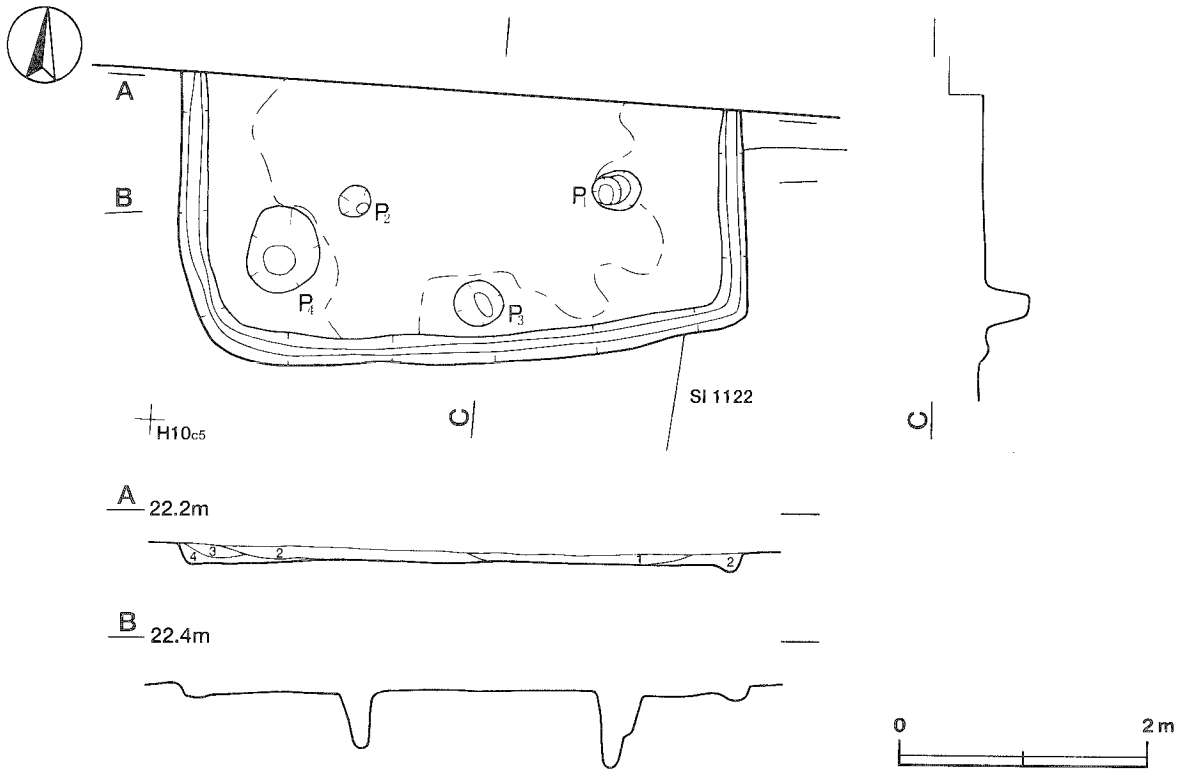
ピット　4か所（P1～P4）。P1は長径39cm，短径32cmの楕円形，深さ59cmで，P2は径26cmの円形，深さ44cmである。それぞれ南東コーナー寄り，南西コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P3は径48cmの円形，深さ34cmで，南壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は長径71cm，短径58cmの楕円形，深さ27cmで，南西コーナー部に位置することから，貯蔵穴の可能性がある。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片７点が出土している。いずれも細片であり，時期を判断できる遺物は出土していない。

所見　時期は，主軸方向や住居の形態が第1120号住居跡と近似することから，８世紀代の可能性が高い。



第274図　第1116号住居跡実測図

第1120号住居跡（第275図）

位置　調査４区の北部，H10f4区。

規模と平面形　長軸4.15m，短軸3.70mの長方形である。

主軸方向　N－７°－E

壁　床面がほぼ露出した状態で検出されたため，壁の立ち上がりは確認できなかった。

壁溝　竈部分を除き，巡っている。上幅10～14cm，下幅６～８cm，深さ４～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。上部が削平されており，袖部の基部や火床部だけが確認できた。規模は，両袖部幅88cmで，焚口部から火床部まで79cmである。壁外へ掘り込んで構築されていることが予想されるが，壁の立ち上がりがないために確認できなかった。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は，床面から９cmほど掘り下げられており，火熱を受けて赤変硬化している。

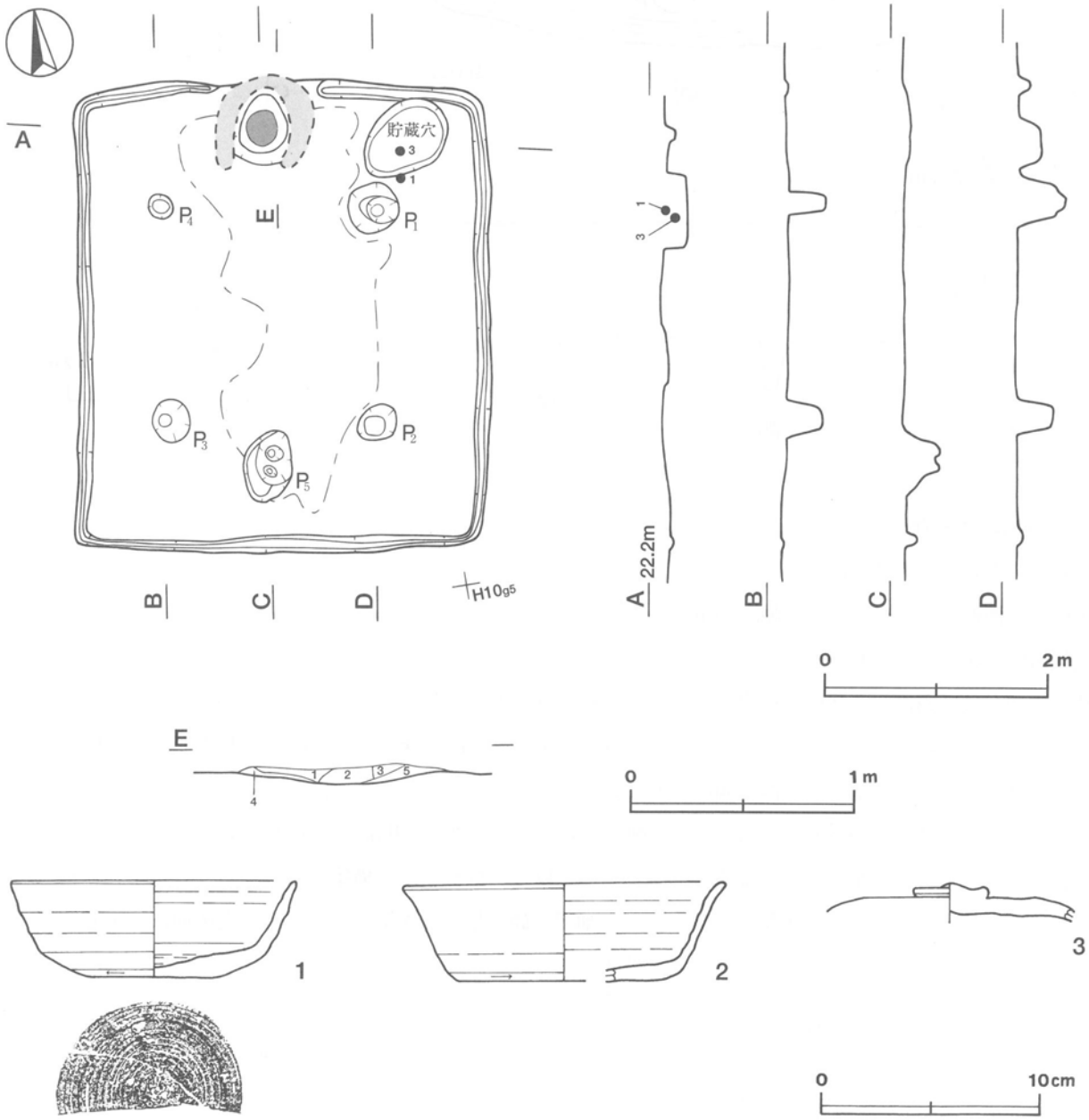
竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，径24～44cmのほぼ円形で，深さ35～45cmである。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P5は，長径54cm，短径46cmの楕円形，深さ32cmで，南壁中央部の壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長径86cm，短径64cmの東西に長い楕円形である。深さは21cmで，壁は直立する。

遺物　土師器片34点，須恵器片18点，撹乱により混入した陶器片6点が出土している。第275図1の須恵器坏は，竈の覆土中とP1の覆土中及びP1の北側の床面から出土した破片が接合したものである。2の須恵器坏片は，北東部の覆土中から出土している。3の須恵器蓋片は，貯蔵穴の覆土中層から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，8世紀前葉と考えられる。



第275図　第1120号住居跡・出土遺物実測図

第1120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第275図 1	坏 須恵器	A [12.8] B 4.3 C [5.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下端は丸みを帯びる。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P40076 45% PL233
2	坏 須恵器	A [14.5] B 4.5 C [9.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下端は丸みを帯びる。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色 普通	P40077 45% PL233
3	蓋 須恵器	B (1.8) F 3.2 G 0.7	天井部の破片。天井頂部は平坦で，扁平な擬宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰黄褐色，普通	P40078 45%

第1124号住居跡（第276図）

位置　調査4区の北部，H10c7区。

重複関係　西部で第1122・1123号住居跡を掘り込み，北東部を第1125号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.67m，短軸1.60mの長方形である。

主軸方向　N－94°－E

壁　壁高は5～15cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁の南寄りを壁外に59cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ98cm，両袖部幅93cmである。天井部は遺存しておらず，竈内の覆土中からも粘土粒子や砂粒がほとんど検出されていない。袖部は遺存しており，両袖部とも内側が赤変している。火床面は，床面から8cmほど掘りくぼめられて皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　赤褐色　焼土粒子多量
9　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は，径68cmほどの円形，深さ30cmで，南壁際の中央部に位置している。性格は不明である。P2は，径48cmの円形，深さ42cmで，南東コーナー部に位置している。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。位置や形態から，貯蔵穴の可能性がある。

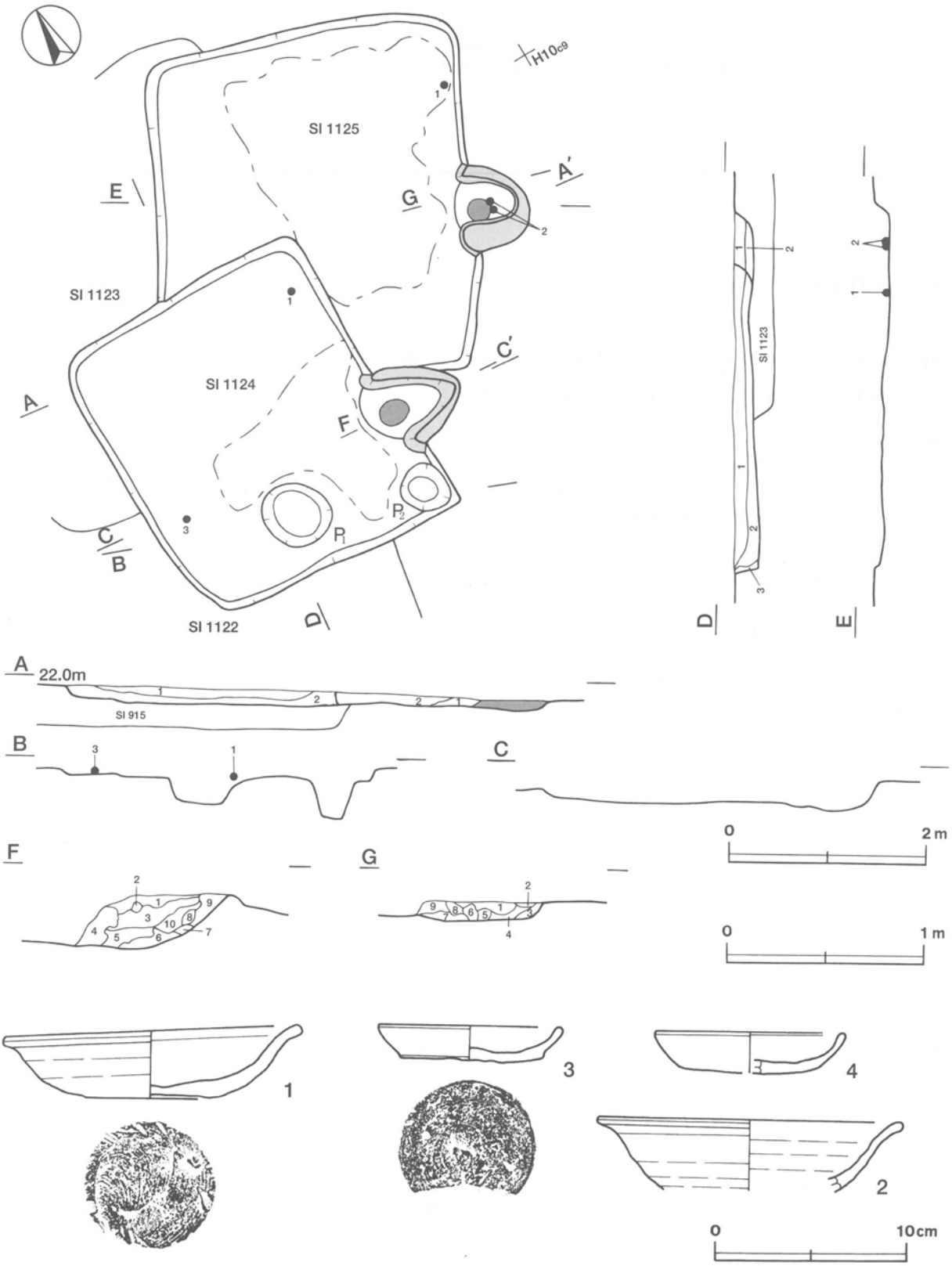
覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片199点，須恵器片9点，撹乱により混入した陶磁器片2点が出土している。第276図1の土師器坏は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。2の土師器坏片は，竈の覆土中から出土している。3の土師器皿は，中央部西寄りの床面から正位で出土している。1～3は，出土位置から，本跡に伴うものと考

えられる。4の土師器皿片は，覆土中から出土している。他の土器と時期差がないことから，本跡に伴う可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から，10世紀後半と考えられる。



第276図　第1124・1125号住居跡実測図，第1124号住居跡出土遺物実測図

第1124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第276図 1	坏 土師器	A 14.7 B 3.8 C 6.6	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P40098 100% PL233
2	坏 土師器	A [15.4] B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40100 10% PL233
3	皿 土師器	A 9.2 B 1.8 C 7.2	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40099 70% PL233
4	皿 土師器	A [9.5] B 2.1 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40268 45%

第1125号住居跡（第276・277図）

位置　調査4区の北部，H10c8区。

重複関係　西部で第1123号住居跡を，南西部で第1124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.40m，短軸3.15mの方形である。

主軸方向　N－110°－E

壁　壁高は8～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁の中央部を壁外に46cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ64cm，両袖部幅89cmである。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

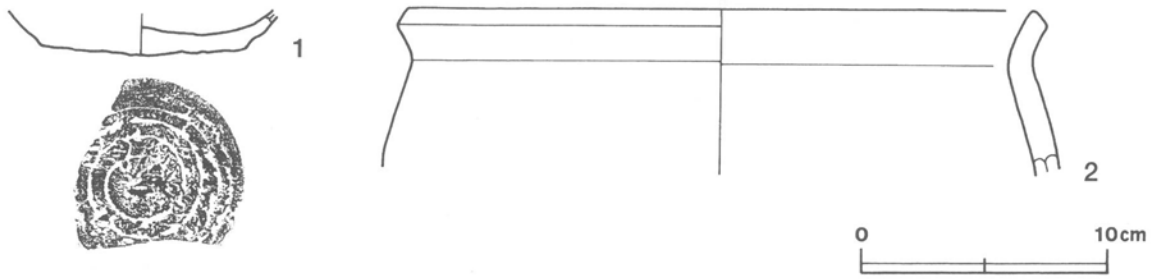
竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片26点が出土している。第277図1の土師器坏片は，北東コーナー部の床面から出土している。2の土師器甕片は，竈の火床面から出土した破片2点が接合したものである。

所見　時期は，重複関係や出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。



第277図　第1125号住居跡出土遺物実測図

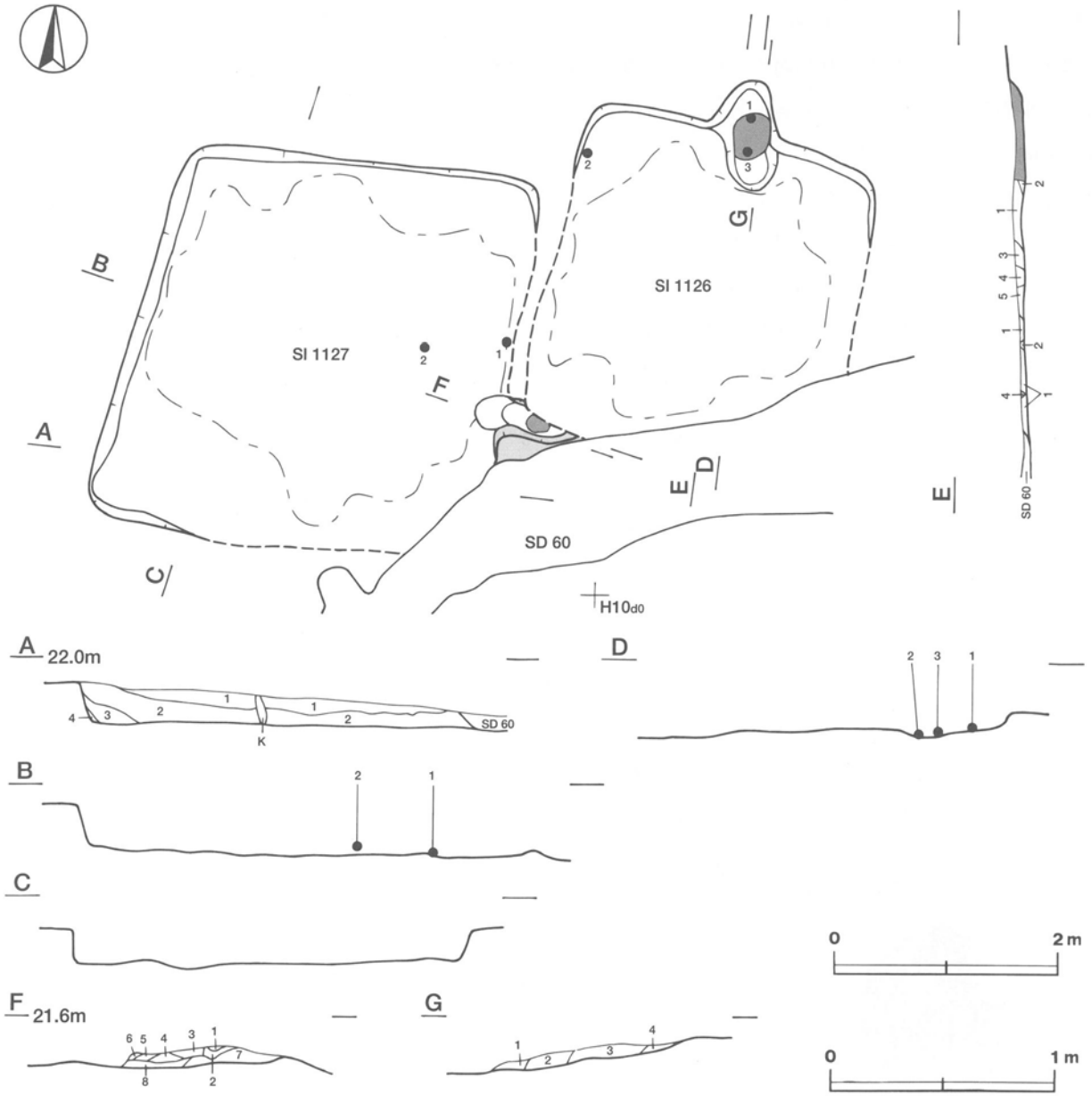
第 1125 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第277図 1	坏 土師器	B (1.9) C [8.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P 40102 5 %
2	甕 土師器	A [24.8] B (6.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。端部を面取りして角張らせている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 40101 5 %

第1126号住居跡（第278・279図）

位置　調査 4 区の北部，H10c0区。

重複関係　南西部で第1127号住居跡を掘り込み，南西部から南東部にかけてを第60号溝に掘り込まれている。



第278図　第1126・1127号住居跡実測図

規模と平面形　南壁を第60号溝に掘り込まれているために，全容は不明である。東西軸は3.05mで，南北軸は2.70mだけが確認できた。北西コーナーと北東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は5㎝で，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に53㎝ほど掘り込んで構築されている。天井部や袖部は遺存しておらず，覆土の含有物の状況から，砂質粘土で構築されていたと考えられる。規模は，焚口部から煙道部までの長さ98㎝，壁外に掘り込んだ部分の燃焼部幅64㎝である。火床面は，床面から10㎝ほど掘りくぼめられて浅い皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　灰褐色　ローム粒子中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

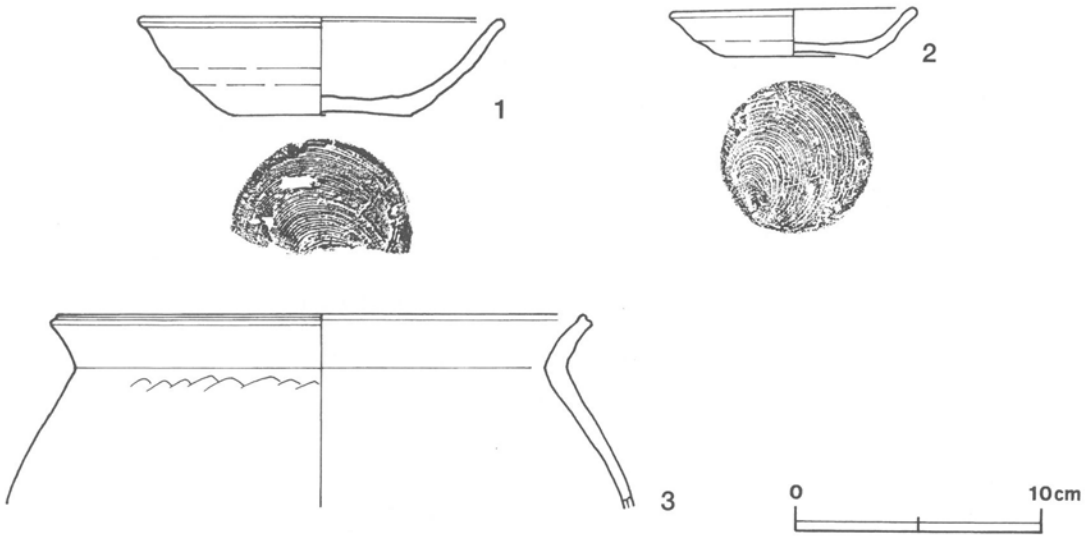
覆土　5層からなる。各層とも焼土や炭化物・砂粒を含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，炭化物微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

遺物　土師器片84点，須恵器片3点が出土している。第279図1の土師器坏片は，竈の火床面から出土している。二次焼成を受けた痕跡はない。2の土師器皿は，北西コーナー部の床面から正位で出土している。3の土師器甕片は，竈の覆土下層から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。



第279図　第1126号住居跡出土遺物実測図

第1126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第279図 1	坏 土師器	A［14.2］ B 3.8 C 7.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40103 30%
2	皿 土師器	A 9.5 B 2.0 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40104 95% PL233
3	甕 土師器	A［20.8］ B（7.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。端部を面取りして角張らせている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P40105 5%

第1127号住居跡（第278・280図）

位置　調査4区の北部，H10c9区。

重複関係　東部を第1126号住居に，南東部を第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.45m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－95°－E

壁　南東部を第60号溝に掘り込まれていることから，南東コーナー付近の壁の立ち上がりは確認できなかった。それ以外の壁高は26～31cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁の南寄りに，壁外に72cmほど掘り込んで構築されている。北部を第1126号住居に掘り込まれているため，北袖は遺存していない。南袖は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面からわずかに掘りくぼめられて浅い皿状を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片84点，須恵器片3点が出土している。第280図1の土師器坏片は，東壁際の床面から出土している。2の土師器高台付坏片は，中央部東寄りの覆土下層から出土している。須恵器片は，混入したものと考えられる。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，10世紀後半と考えられる。

第280図　第1127号住居跡出土遺物実測図

第1127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第280図 1	坏 土師器	A [17.8] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40106 10%
2	高台付坏 土師器	B (1.5) D 7.4 E 0.7	高台部の破片。高台は短くハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面1方向のヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40107 20%

第1128号住居跡（第281図）

位置　調査4区の北部，H10d0区。南東部へ下る緩斜面上に立地している。

重複関係　南西部を第1130号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.13m，短軸3.25mの長方形である。

主軸方向　N－100°－E

壁　南東部へ傾斜した地形のため，南東部の壁の立ち上がりは確認できなかった。それ以外の壁高は8～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅14～16cm，下幅6～8cm，深さ7～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁の中央部を壁外に32cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。住居跡の南東部が床面近くまで削平されているため，南袖は基部が残存しているだけである。規模は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，両袖部幅113cmである。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。

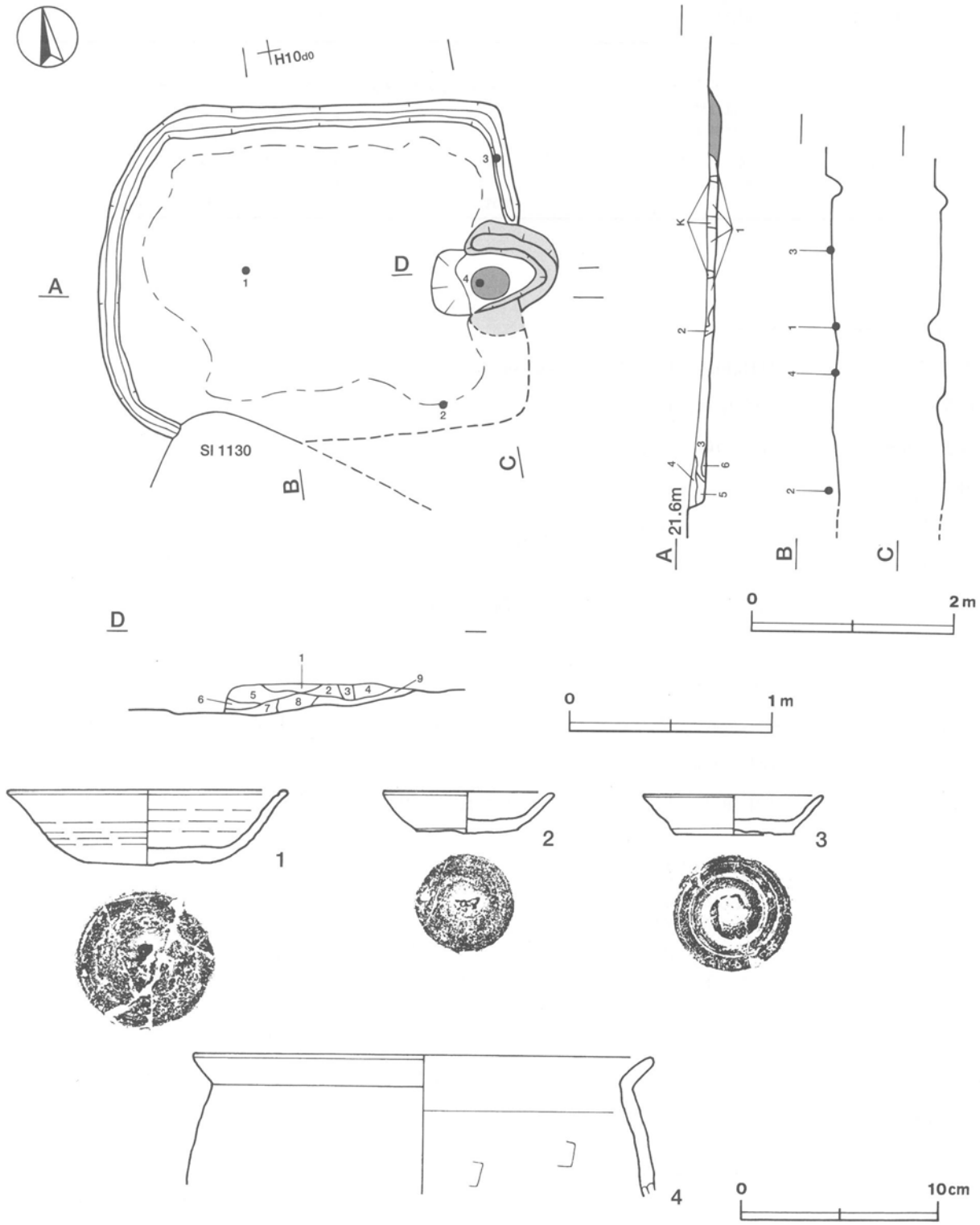
竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

覆土　6層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片142点が出土している。第281図1の土師器坏は中央部西寄りの床面から逆位で，2の土師器皿は南東部の床面から逆位で出土している。3の土師器皿片は，北東コーナー部の壁溝から出土している。4の土師器甕片は，竈の火床面から出土しており，二次焼成を受けた痕跡はみられない。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，10世紀後半と考えられる。



第281図　第1128号住居跡・出土遺物実測図

第1128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第281図 1	坏 土師器	A 13.8 B 3.7 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40108 95% PL233

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第281図 2	皿 土師器	A 8.4 B 2.1 C 4.8	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40109 100% PL233
3	皿 土師器	A 8.9 B 1.9 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40110 75%
4	甕 土師器	A [22.4] B (6.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P40111 5%

第1129号住居跡（第282図）

位置　調査4区の北部，H10e2区。第1120号住居跡から西へ4.0mの距離に位置する。

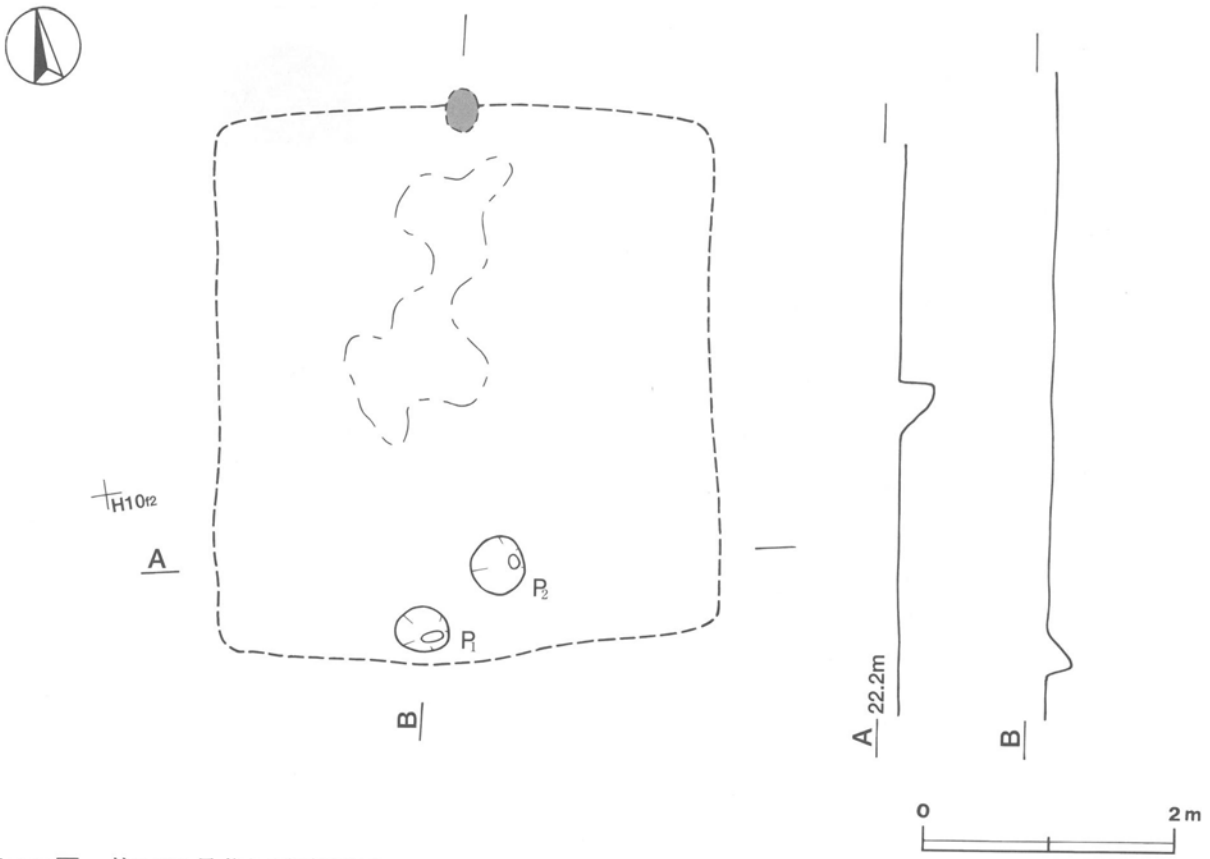
規模と平面形　床面が露出した状態で検出されたため，床面の広がりや竈，ピットの位置から，長軸4.47m，短軸3.87mの長方形と推定した。

主軸方向　N－13°－E

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　住居跡の北部中央から赤変硬化した部分が検出され，火床面と判断した。火床面は，長径32cm，短径23cmの住居跡の主軸と方向を同じくする楕円形で，床面と同じ高さの平坦面を使用していたと考えられる。

ピット　2か所（P1・P2）。P1は，径42cmの円形，深さ22cmである。南壁中央部と推定される付近の壁際に位置し，竈と対する位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は径42cmの円形，深さ29cmで，P1の北東側40cmの距離に位置している。断面が逆三角形を呈しており，性格は不明である。



第282図　第1129号住居跡実測図

遺物　出土していない。

所見　時期は，第1120号住居跡と主軸方向や規模を同じくすることから，８世紀代の可能性がある。

第1130号住居跡（第283図）

位置　調査４区の北部，H10e9区。

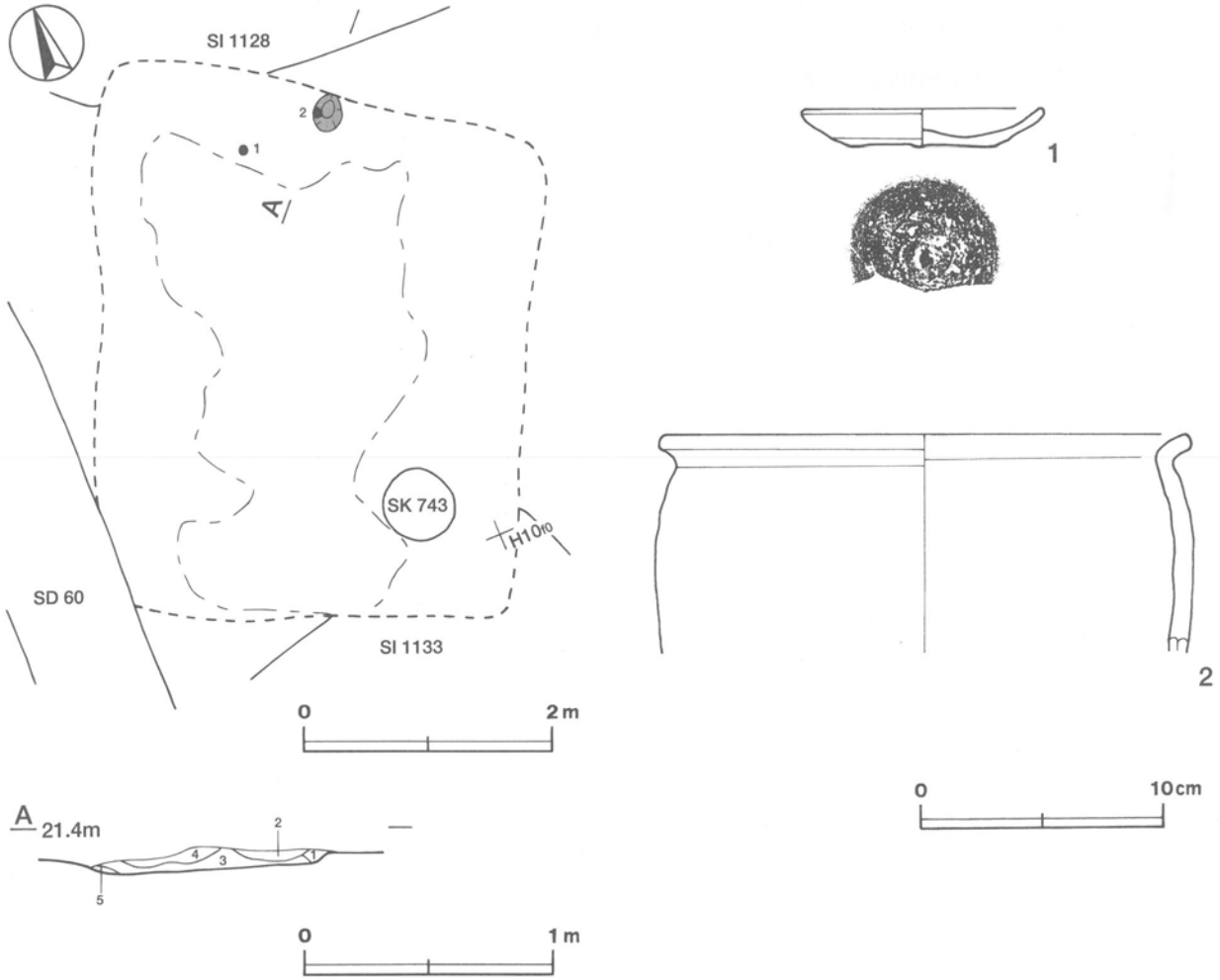
重複関係　北部で第1128号住居跡を，南部で第1133号住居跡の覆土を掘り込んでいる。南東部を第743号土坑に，西部を第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　床面がほぼ露出した状態で検出され，壁の立ち上がりを確認できなかったため，竈の位置と床面の広がりから長軸4.26m，短軸3.55mの長方形と推定した。

主軸方向　N－25°－E

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　遺存状態が悪く，北東壁中央部の壁際から火床部が確認できただけである。火床部の土層は５層からなり，第３層の下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。火床面は，床面から８cmほど掘りくぼめられて，浅い皿状を呈している。竈土層断面図中の第２・４層から粘土粒子や砂粒が検出されており，竈材の一部と考えられる。



第283図　第1130号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒　　色　炭化粒子多量，焼土粒子少量

遺物　土師器片34点が出土している。第283図1はほぼ完形の土師器皿で，竈の西側の床面から正位で出土している。2の土師器甕片は，火床面から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。

第1130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第283図 1	皿 土師器	A 9.6 B 1.5 C 5.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40112 60%
2	甕 土師器	A [21.0] B (8.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。端部を面取りして角張らせている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 赤褐色 普通	P40113 5%

第1131号住居跡（第284図）

位置　調査4区の北部，H10h5区。第1120号住居跡から南東へ3.5mの距離に位置する。

重複関係　全体が第1139号住居跡の北西部を掘り込み，北東部を第1136号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.71m，短軸3.65mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は6～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅10～12cm，下幅6～8cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　遺存状態が悪く，北壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。付近の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており，竈材の一部と考えられる。火床面は，長径方向を住居の主軸と同じくする長径38cm，短径28cmの楕円形で，床面と同じ高さの平坦面を使用している。

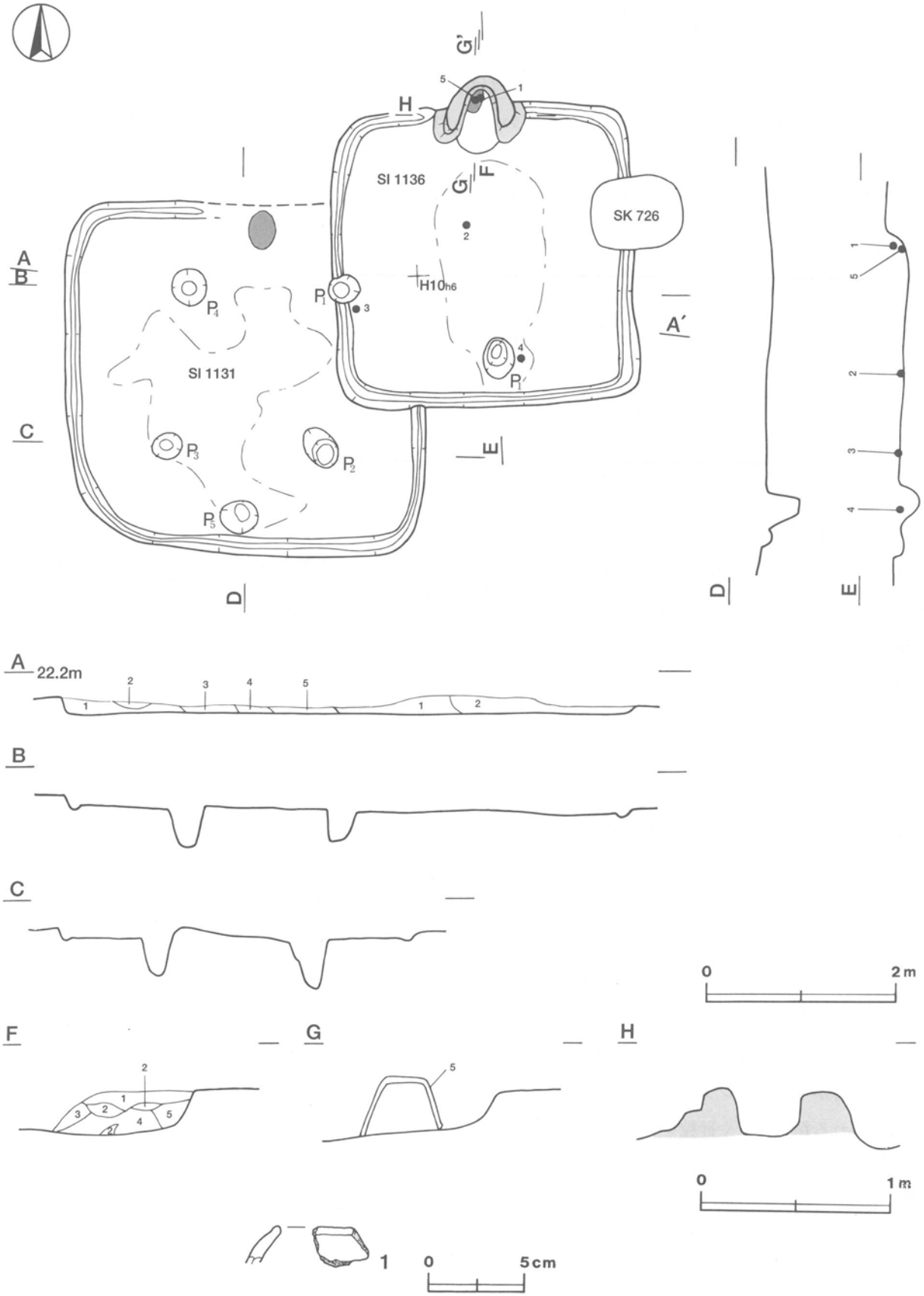
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，径27～38cmの円形で，深さ36～52cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。P5は，径40cmほどの円形で，深さ38cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第4層は，竈から流出したと考えられる粘土粒子や砂粒を含んでいる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片46点が出土している。第284図1の土師器甕の口縁部片は，P4の覆土中から出土している。

所見　時期は，第1120号住居跡と主軸方向や住居の形態が近似することや重複関係，出土土器から，８世紀代と考えられる。



第284図　第1131・1136号住居跡実測図，第1131号住居跡出土遺物実測図

第1131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第284図1	甕 土師器	B（2.0）	口縁部の破片。口縁部は外傾し，端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40114 5%

第1135号住居跡（第285図）

位置　調査4区の北部，H10f0区。

重複関係　第1134・1144号住居跡の覆土を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部へ傾斜した地形のため，南壁の立ち上がりが確認できず，床面の広がりから規模を推定した。東西軸は2.94m，推定される南北軸は3.30mで，北西コーナー・北東コーナーが直角であることから，長方形と推定される。

主軸方向　N－13°－E

壁　北壁・西壁北部・東壁北部で壁の立ち上がりを確認でき，壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に38cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ68cm，両袖部幅108cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3・4層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，崩落土と考えられる。特に，第3層の下位から検出された第4層は，火熱を受けた痕跡があることから，天井部の内側の部分と考えられる。火床面は，床面から10cmほど掘りくぼめられて，浅い皿状を呈している。袖部の内側及び火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

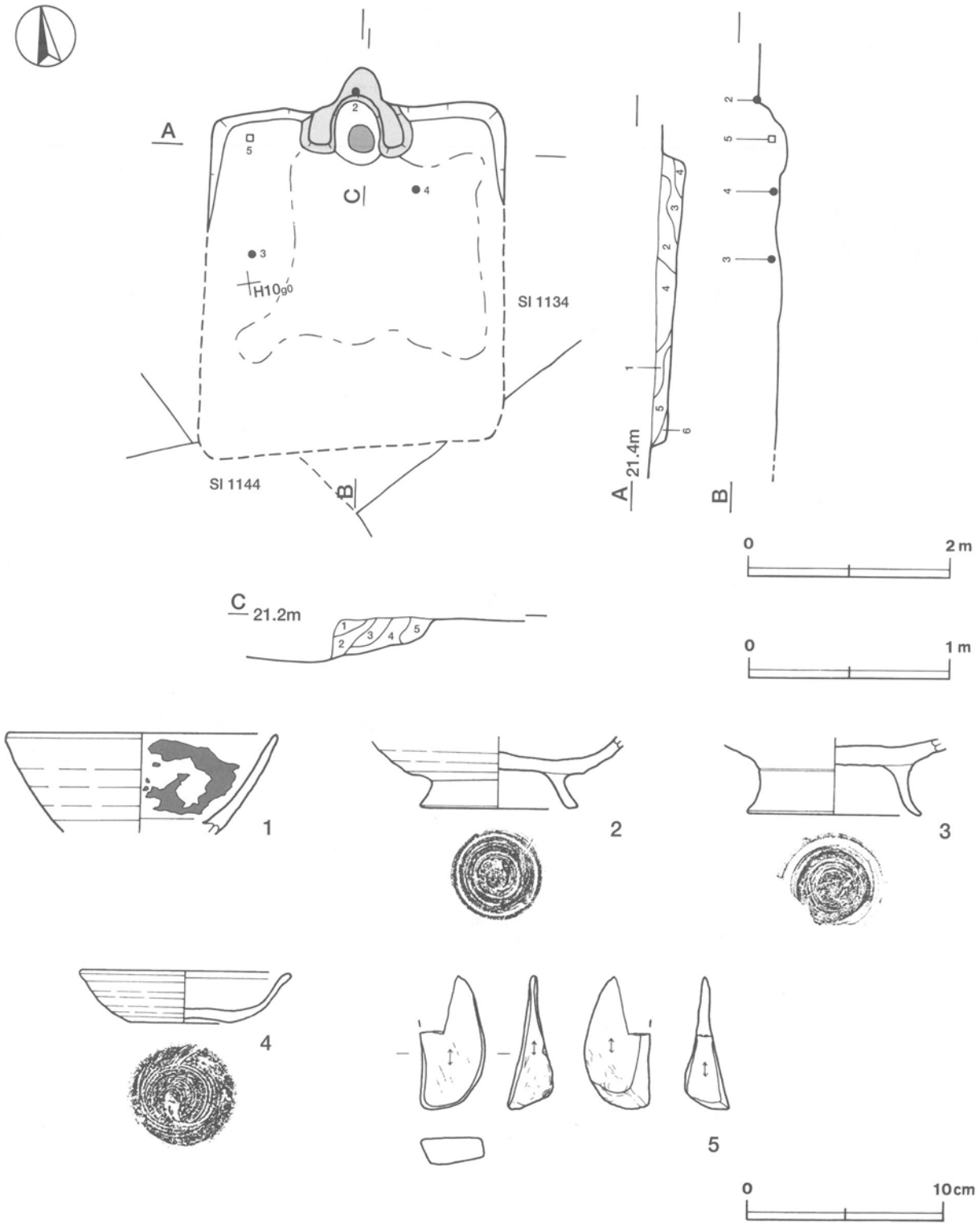
竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第1・2・5層は，竈から流出したと考えられる焼土や砂粒を含んでいる。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片63点，石器1点（砥石），混入した須恵器片13点が出土している。第285図1の須恵器坏片は，内面に漆が付着している。覆土中から出土しており，他の土器と時期差があることから，混入したものと考えられる。2の土師器高台付坏片は，竈の煙道部から逆位で出土している。二次焼成を受けていないことから，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。3の土師器高台付坏片は，西部の床面から出土している。4の土師器皿は，竈東袖手前の床面から正位で出土している。5の砥石は，北西コーナー部の床面から出土している。2～5は，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。



第285図　第1135号住居跡・出土遺物実測図

第 1135 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第285図 1	坏 須恵器	A［12.6］ B（5.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P 40122 10% 体部内面漆付着

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第285図 2	高台付坏 土師器	B (3.5) D 7.8 E 1.7	高台部から体部にかけての破片。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40123 30%
3	高台付坏 土師器	B (3.7) D [8.6] E 2.5	高台部の破片。高台は長くハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40124 20%
4	皿 土師器	A 10.4 B 2.5 C 4.9	完形。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40125 100% PL233

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第285図 5	砥石	(6.6)	(3.2)	(2.3)	(37.2)	凝灰岩	砥面4面。中央部が極端に薄い。	Q40008

第1136号住居跡（第284・286図）

位置　調査4区の北部，H10g6区。

重複関係　第1131・1139号住居跡を掘り込んでおり，東部を第726号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　1辺3.10mの方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅12～14cm，下幅4～6cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に38cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで82cm，両袖部幅96cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2層が粘土粒子や砂粒を多量含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は，内側が火熱を受けて赤変している。火床面は，床面から5cmほど掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変硬化している。また，火床面から逆位で出土した土師器甕は二次焼成を受けており，支脚として使用されたと考えられる。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
2　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　1か所。P1は，長径40cm，短径31cmの楕円形で，深さ22cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

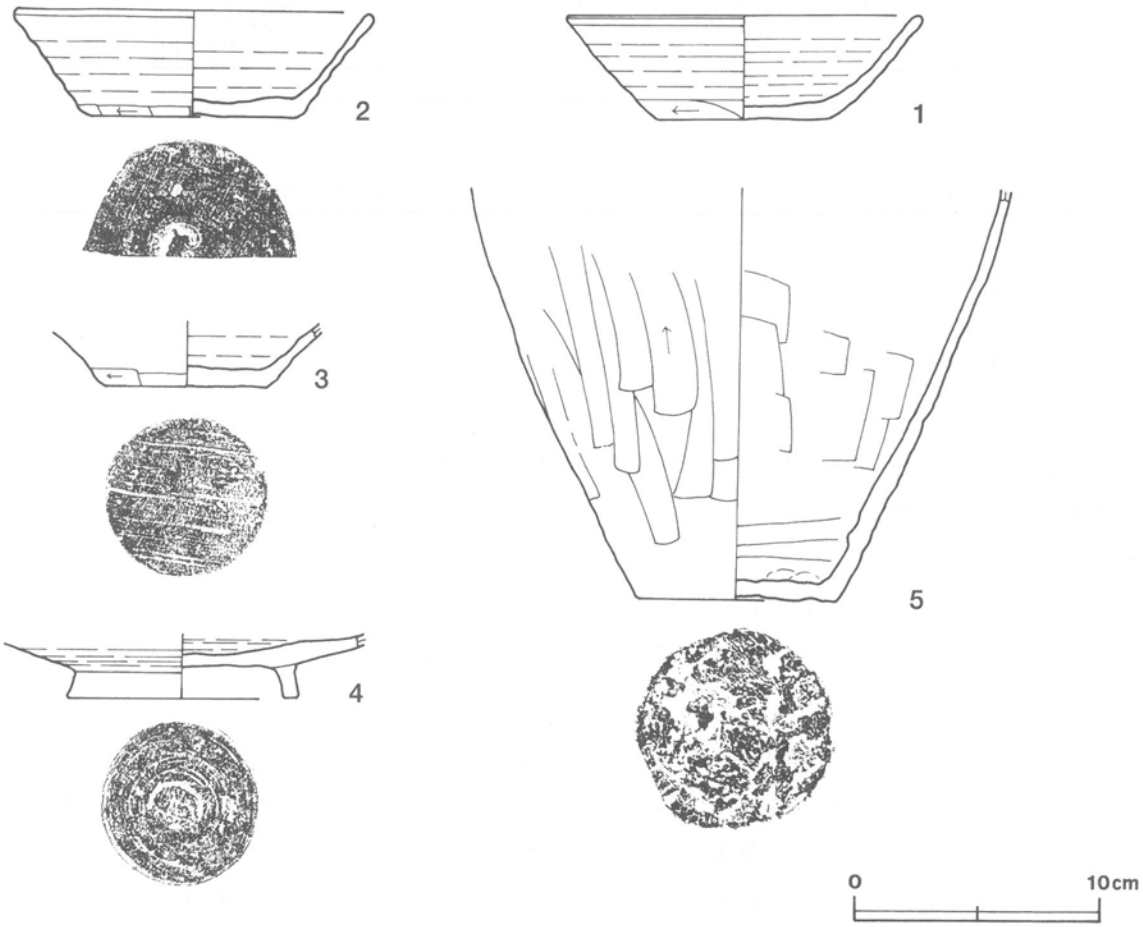
覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片136点，須恵器片41点，撹乱により混入した陶器片2点が出土している。第286図1の須恵器坏は，竈の覆土中層から出土した破片が接合したものであり，二次焼成を受けている。2の須恵器坏片は，中央部の床面から出土している。3の須恵器坏は，西壁際の床面から逆位で出土している。4の須恵器盤片は，P

1の東側の床面から出土している。5の土師器甕の底部から体部にかけての破片は，火床面に伏せられたように逆位で出土している。二次焼成を受けており，支脚として使用されたものと考えられる。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から，9世紀前葉と考えられる。



第286図　第1136号住居跡出土遺物実測図

第1136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第286図 1	坏 須恵器	A [13.9] B 4.2 C 6.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，不良	P40126 70% PL233
2	坏 須恵器	A [13.8] B 4.2 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P40127 35%
3	坏 須恵器	B (2.6) C 6.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P40128 40%
4	盤 須恵器	B (2.0) D 9.0 E 1.5	底部の破片。平底。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英　にぶい褐色，やや不良	P40129 50%
5	甕 土師器	B (16.3) C 7.9	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子，橙色，普通	P40130 45% PL233

第1138号住居跡（第287図）

位置　調査４区の北部，H10g5区。

重複関係　南部で第1139号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　１辺2.50mの方形である。

主軸方向　N－83°－E

壁　床面がほぼ露出した状態で検出されたため，壁の立ち上がりは確認できなかった。

壁溝　竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅８～12cm，下幅４～６cm，深さ４～６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁の中央部を壁外に32cmほど掘り込んで，構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで52cm，壁外に掘り込んだ部分の燃焼部幅50cmである。天井部や袖部は遺存してなく，竈土層断面図中の第３層に粘土粒子や砂粒が多量に含まれていることから，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は，床面から５cmほど掘りくぼめられて浅い皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化している。

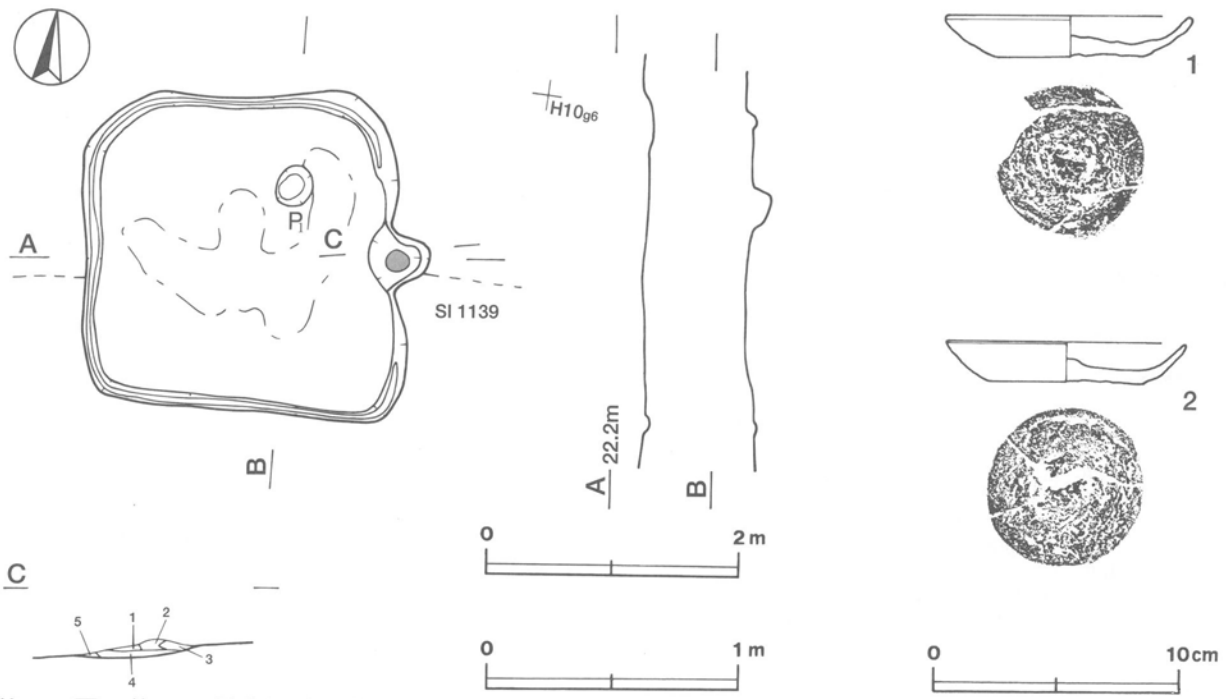
竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　灰 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量
5　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　１か所。Ｐ１は，径28cmの円形で，深さ16cmである。中央部の北寄りに位置しており，性格は不明である。

遺物　土師器片９点が出土している。第287図１・２の土師器皿片は，いずれも竈の火床部から出土している。火熱を受けた痕跡はない。本跡の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，住居の形態や出土土器から，10世紀後半以降と考えられる。



第287図　第1138号住居跡・出土遺物実測図

第1138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第287図 1	皿 土師器	A 9.5 B 1.6 C 6.0	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色，普通	P40131 80% PL233
2	皿 土師器	A [9.5] B 1.6 C 6.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P40132 70% PL233

第1140号住居跡（第288・289図）

位置　調査4区の北部，H10h8区。

重複関係　南東部で第1142号住居跡を，北東部で第1144号住居跡を，西部で第1147号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸4.12mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は28～52cmで，ほぼ直立する。

壁溝　西壁から北壁にかけての壁際を巡っている。上幅12～18cm，下幅6～10cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の東寄りを壁外に32cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ86cm，両袖部幅108cmである。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。赤変硬化した部分は確認できなかった。煙道は，火床部から直立する。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
6　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

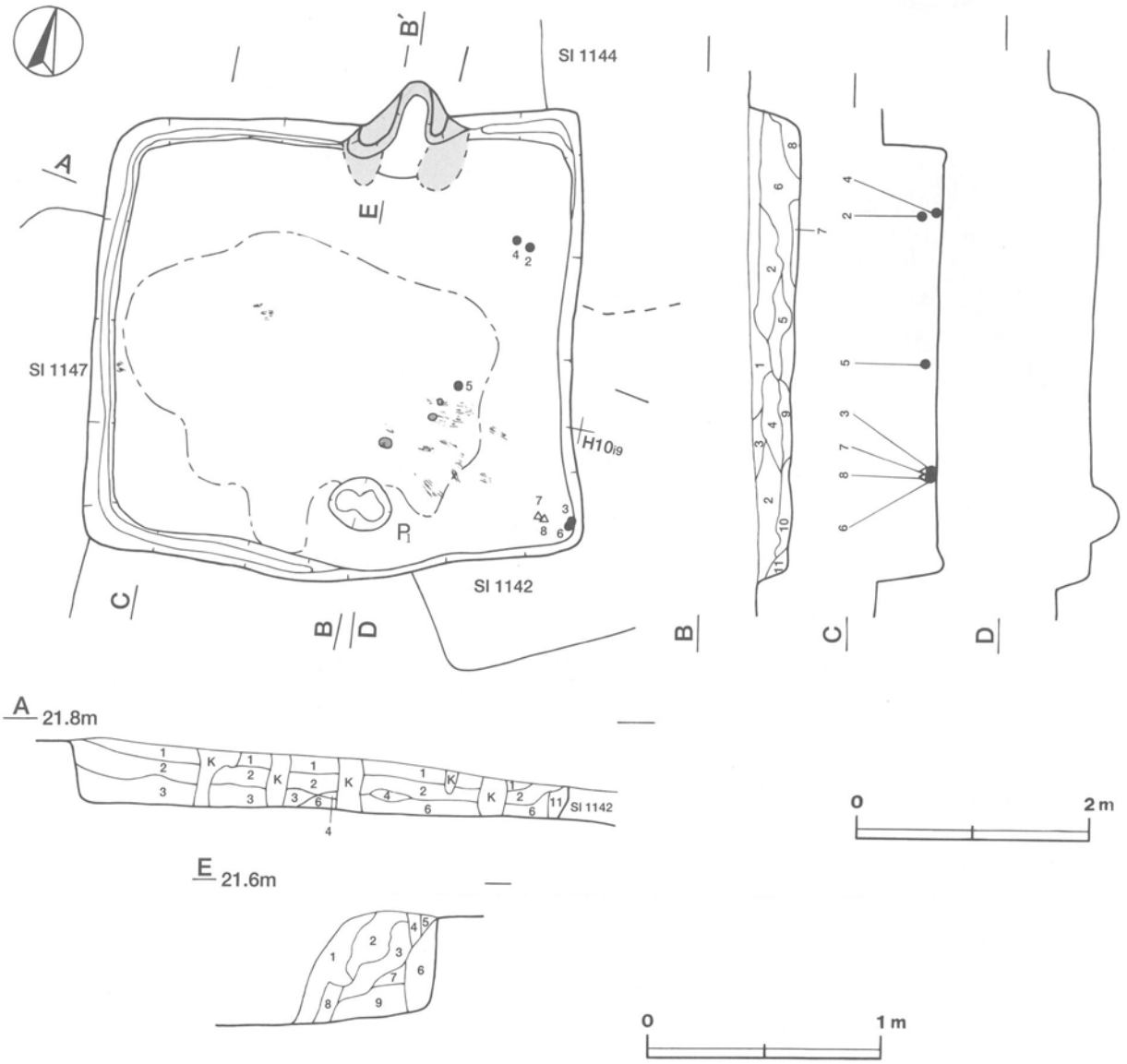
ピット　1か所。P1は，径49cmの円形，深さ26cmで，南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物を含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

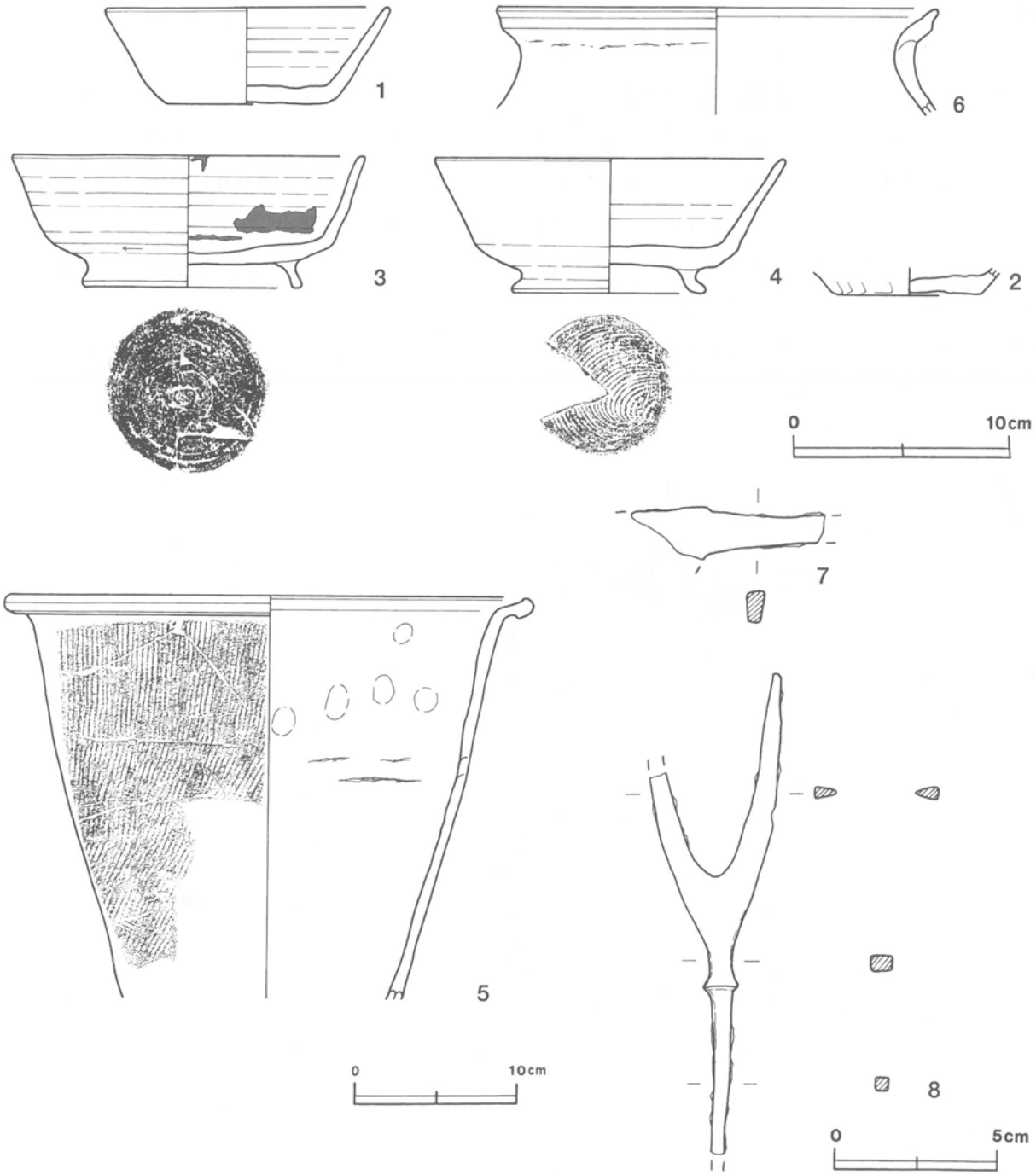
土層解説
1　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　灰褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　極暗赤褐色　炭化物中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
10　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

遺物　土師器片146点，須恵器片131点，鉄器２点（刀子・鏃），炭化材が出土している。第289図１の須恵器坏は，南東部と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の須恵器坏片は，東壁際の覆土中層から出土している。３の須恵器高台付坏は南東コーナー部の床面から逆位で出土しており，内面に漆が付着している。４の須恵器高台付坏は北東コーナー寄りの床面から正位で出土している。５の須恵器鉢は，中央部東寄りの床面と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。６の土師器甕片は，南東壁際の床面から出土している。７の刀子と８の鉄鏃は，ともに南東コーナー部の床面から出土している。炭化材は，各壁際の床面から散在した状態で検出されている。１は他の土器と時期差がないことから，他の遺物は出土位置から，いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見　本跡は，焼土や炭化物の堆積状況や炭化材の広がりから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から，９世紀前葉と考えられる。



第288図　第1140号住居跡実測図



第289図　第1140号住居跡出土遺物実測図

第1140号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第289図 1	坏 須恵器	A 13.3 B 4.5 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色，普通	P40136　50% PL233 外面摩滅
2	坏 須恵器	B (1.2) C 6.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，黄灰色，普通	P40137 20%
3	高台付坏 須恵器	A [16.4] B 6.1 D 10.2 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P40138 70% PL234 体部内面漆付着

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第289図 4	高台付坏 須恵器	A 16.2 B 6.3 D [8.8] E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台はハの字状に開く。体部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P40139 60% PL234 外面摩滅
5	鉢 須恵器	A 32.0 B (24.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き,内面指頭痕・輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P40140 50% PL233
6	甕 土師器	A [20.4] B (5.0)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P40141 10%

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第289図 7	刀子	(6.0)	(2.4)	(1.7)	0.6	(3.6)	(9.5)	鉄	刃部から茎部片。両関有り。	M40013 PL236

図版番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	篦被部長(cm)	篦被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第289図 8	鏃	(14.9)	(8.2)	(3.9)	1.7	0.7	(5.0)	0.5	(18.5)	鉄	雁又鏃，刃先欠損	M40014

第1141号住居跡（第290・291図）

位置　調査4区の北部，H10f0区。

重複関係　北西部で第1133号住居跡の覆土を，南西部で第1134号住居跡の覆土を掘り込んでいる。

規模と平面形　西部の床面がほぼ露出した状態で検出され，西壁の立ち上がりを確認できなかったため，床面の広がりから規模を推定した。南北軸は3.82mで，東西軸は3.54mと推定される。南東コーナー及び北東コーナーが直角であることから，方形と推定される。

主軸方向　N－95°－E

壁　確認できた壁高は6cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈の前面がよく踏み固められている。西部の床面からは硬化面が検出されていない。後世の耕作等で削平された可能性も考えられる。

竈　東壁の中央部を壁外に58cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，両袖部幅98cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2層が粘土粒子や砂粒を含んでいることから崩落土と考えられる。また，第5層の下面は赤変硬化していることから，火床面と考えられる。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

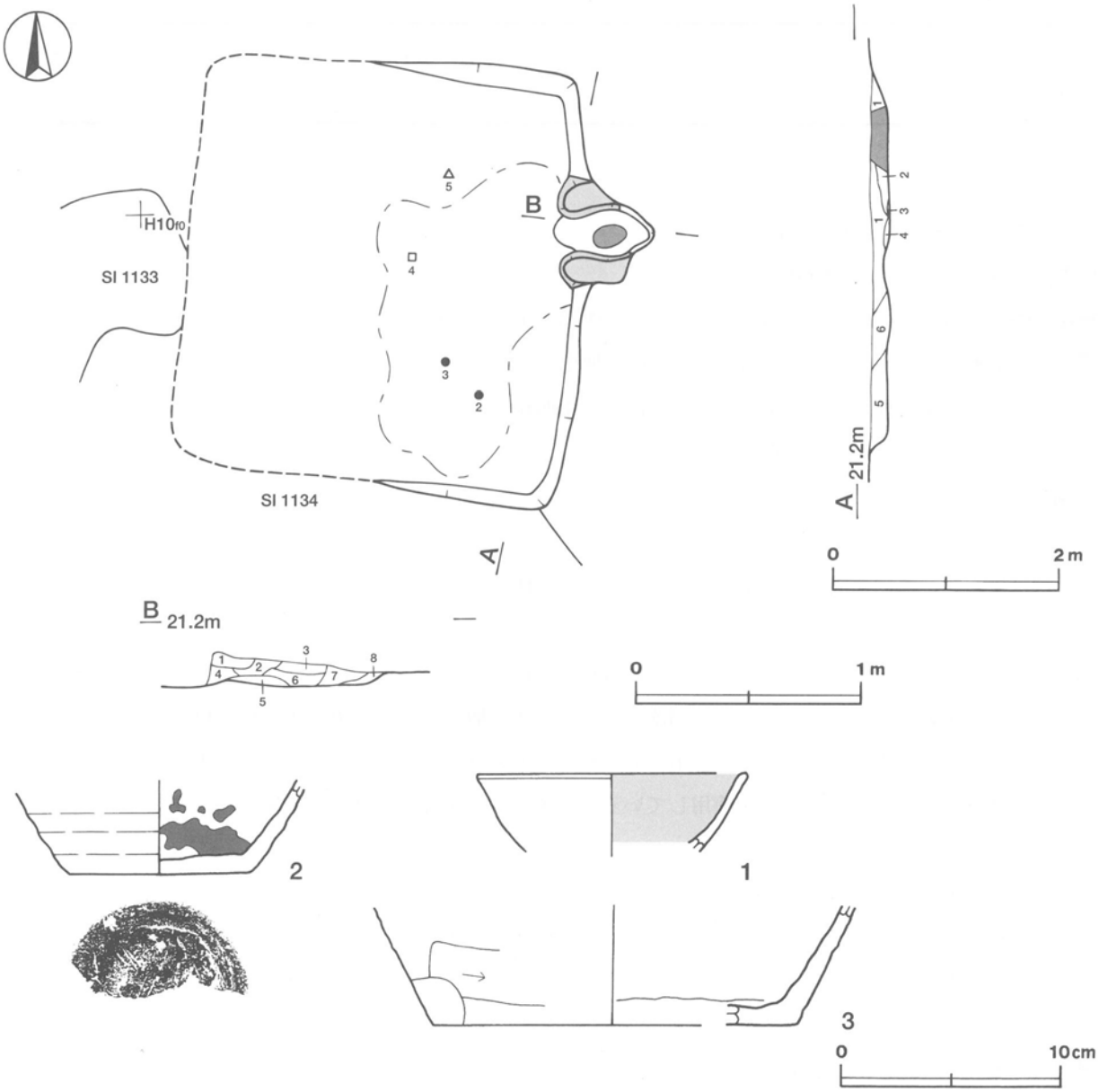
竈土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。土層断面図中，第2～4層は，竈から流出したと考えられる焼土や砂粒，粘土粒子を含んでいる。

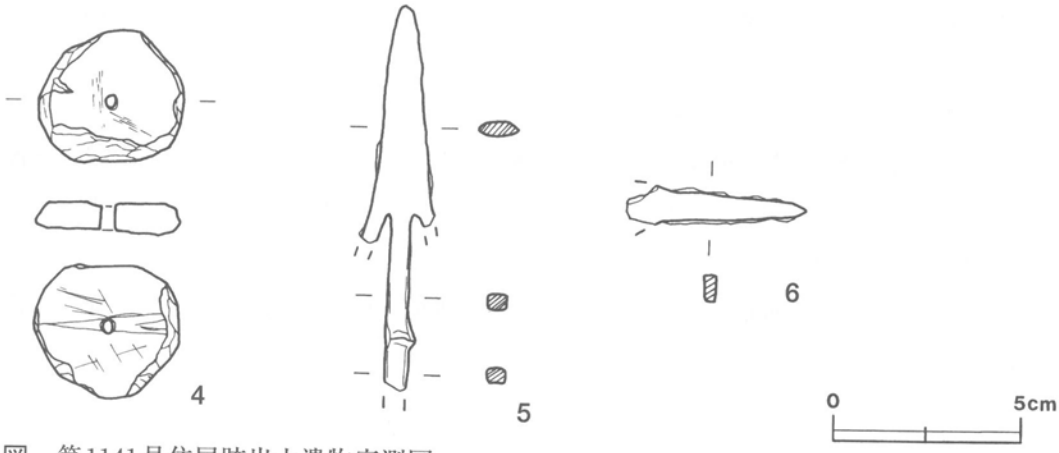
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
3　黒褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片40点，須恵器片21点，鉄器２点（刀子・鏃），石器１点（有孔円盤）が出土している。第290・291図１の土師器坏片は，竈の覆土中から出土している。２の須恵器坏は，南東コーナー寄りの覆土上層から出土しており，内面に漆が付着している。他の土器と時期差があることや出土位置から，混入したものと考えられる。３の須恵器甕片は，南東コーナー寄りの床面から出土している。４の有孔円盤は，覆土中層から出土している。５の鉄鏃は，中央部の床面から出土している。６の刀子片は，北東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，９世紀後葉と考えられる。



第290図　第1141号住居跡・出土遺物実測図



第291図　第1141号住居跡出土遺物実測図

第1141号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第290図 1	坏 土師器	A［11.8］ B（3.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰黄色，普通	P40143 5％
2	坏 須恵器	B（4.1） C［7.8］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 暗灰黄色，普通	P40142 30%，PL233 体部内面漆付着
3	甕 須恵器	B（5.3） C［16.2］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して，直線的に立ち上がる。	体部下端横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色，普通	P40144 5％

図版番号	器　種	計測値				石質	特　徴	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第291図4	有孔円板	3.8	0.9	0.4	18.5	滑石	中央に片側穿孔1か所。作り雑。	Q40009　PL239

図版番号	器　種	計測値								材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第291図5	鏃	(10.1)	(6.3)	(1.9)	3.3	0.6	(1.1)	0.5	(13.2)	鉄	柳葉鏃。腸抉有り。	M40015　PL237

図版番号	器　種	計測値						材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第291図6	刀子	(4.9)	(1.2)	(1.1)	0.4	(3.7)	(2.9)	鉄	刃部から茎部片。両関有り。	M40016　PL238

第1142号住居跡（第292図）

位置　調査4区の北部，H10i9区。東に下る緩斜面状に立地している。

重複関係　北東部で第1144号住居跡の覆土を，南東部で第1155号住居跡の覆土を掘り込んでいる。北西部を第1140号住居に，東部を第23号地下式壙に掘り込まれている。

規模と平面形　東に傾斜した地形のため，北東壁の立ち上がりを確認できず，床面の広がりから，規模を推定した。南東－北西軸は3.20mで，南西－北東軸は3.90mと推定される。南コーナー及び西コーナーが直角であることから，長方形と推定される。

主軸方向　N－24°－W

壁　南コーナー部から西コーナー部にかけて確認できた壁高は7cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西壁から北西壁にかけての壁際を巡っている。上幅12cm，下幅８cm，深さ６cmで，断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

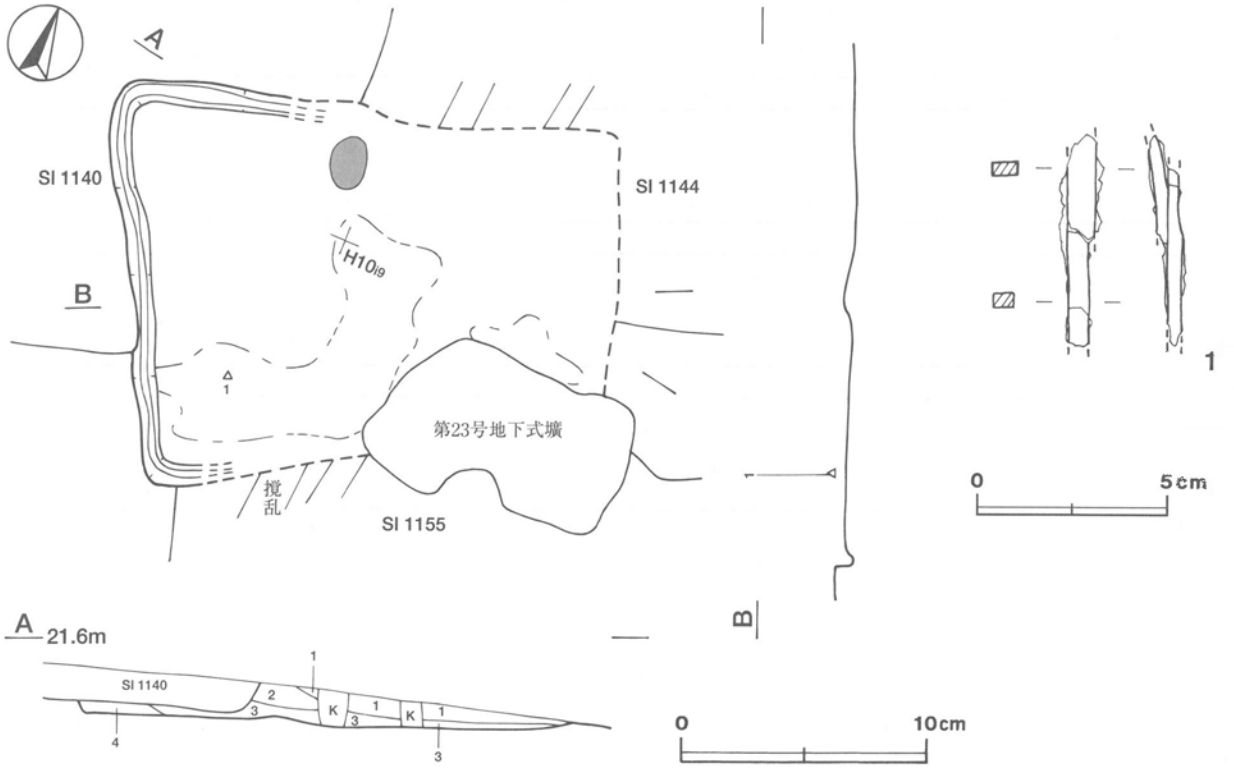
竈　遺存状態が悪く，北西壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。付近の覆土の含有状況から，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は，長径方向を住居の主軸と同じくする長径41cm，短径30cmの楕円形で，火熱を受けて赤変している。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第２層は，竈から流出したと考えられる焼土や砂粒，粘土粒子を含んでいる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器細片22点，須恵器細片５点，鉄器１点（鏃）が出土している。第292図１の鉄鏃は，南西コーナー部の覆土中層から出土している。時期を判断できる土器は出土していない。

所見　時期は，８世紀前葉に比定される第1144号住居跡を掘り込み，９世紀前葉に比定される第1140号住居に掘り込まれていることから，８世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第292図　第1142号住居跡・出土遺物実測図

第1142号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値							材質	特　徴	備　考
		全長（cm）	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長（cm）	茎幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第292図１	鏃	(7.0)	(2.8)	0.7	(4.2)	0.4	0.4	(5.0)	鉄	箆被部から茎部片	M40017　ＰＬ237

第1143号住居跡（第293図）

位置　調査４区の北東部，H11g1区。

重複関係　北部で第58号掘立柱建物跡のＰ３を掘り込んでいる。

規模と平面形　床面がほぼ露出した状態で検出され，壁の立ち上がりを確認できなかったため，竈の位置と床面の広がりから規模を推定した。南北軸・東西軸ともに3.10mの方形と推定される。

主軸方向　N－66°－E

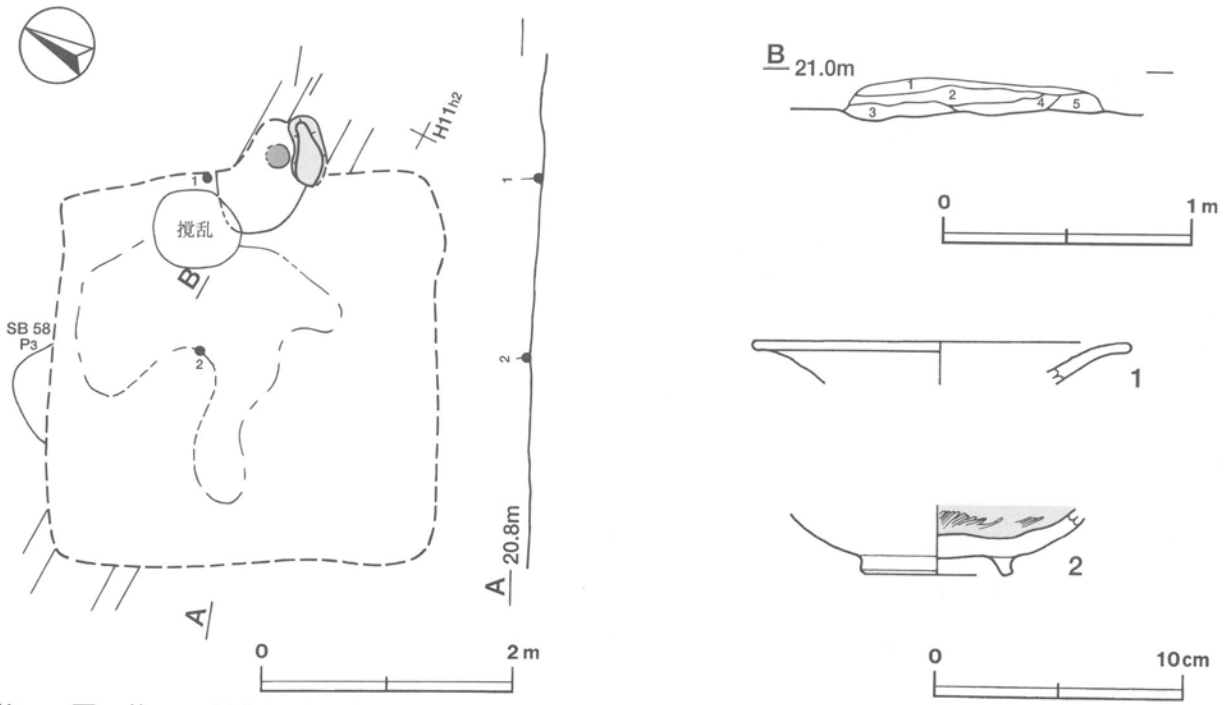
床　ほぼ平坦で，竈の前面がよく踏み固められている。

竈　東壁の中央部に付設されている。北部がトレンチャーによる撹乱を受けているため，火床部の北部，煙道部，北袖部は，遺存していない。南袖の一部が残存し，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面から６㎝ほど掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒中量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片33点，混入した須恵器片11点が出土している。第293図１の土師器坏片は，竈の北側の床面から出土している。２の土師器高台付坏片は，中央部の床面から出土している。

所見　時期は，東に竈を有する住居形態や出土土器から，10世紀後半と考えられる。



第293図　第1143号住居跡・出土遺物実測図

第1143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第293図 1	坏 土師器	A［14.8］ B（1.7）	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子，橙色，普通	P40146 5％

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第293図 2	高台付坏 土師器	B (2.7) D 6.1 E 0.8	高台部から体部にかけての破片。高台は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P40147 20%

第1146号住居跡（第294・295図）

位置　調査4区の北部，H11d3区。

重複関係　中央部を第727号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.70m，短軸3.80mの南北に長い長方形である。

主軸方向　N－87°－E

壁　壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　遺存状態が悪く，東壁中央部の壁際で火床面が確認できただけである。粘土粒子や砂粒が東壁際の床面に散在しており，竈材の一部と考えられる。火床面は，長径方向を住居の主軸と同じくする長径41cm，短径32cmの楕円形で，火熱を受けて赤変硬化している。

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は，径28～34cmのほぼ円形で，深さ18～32cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。

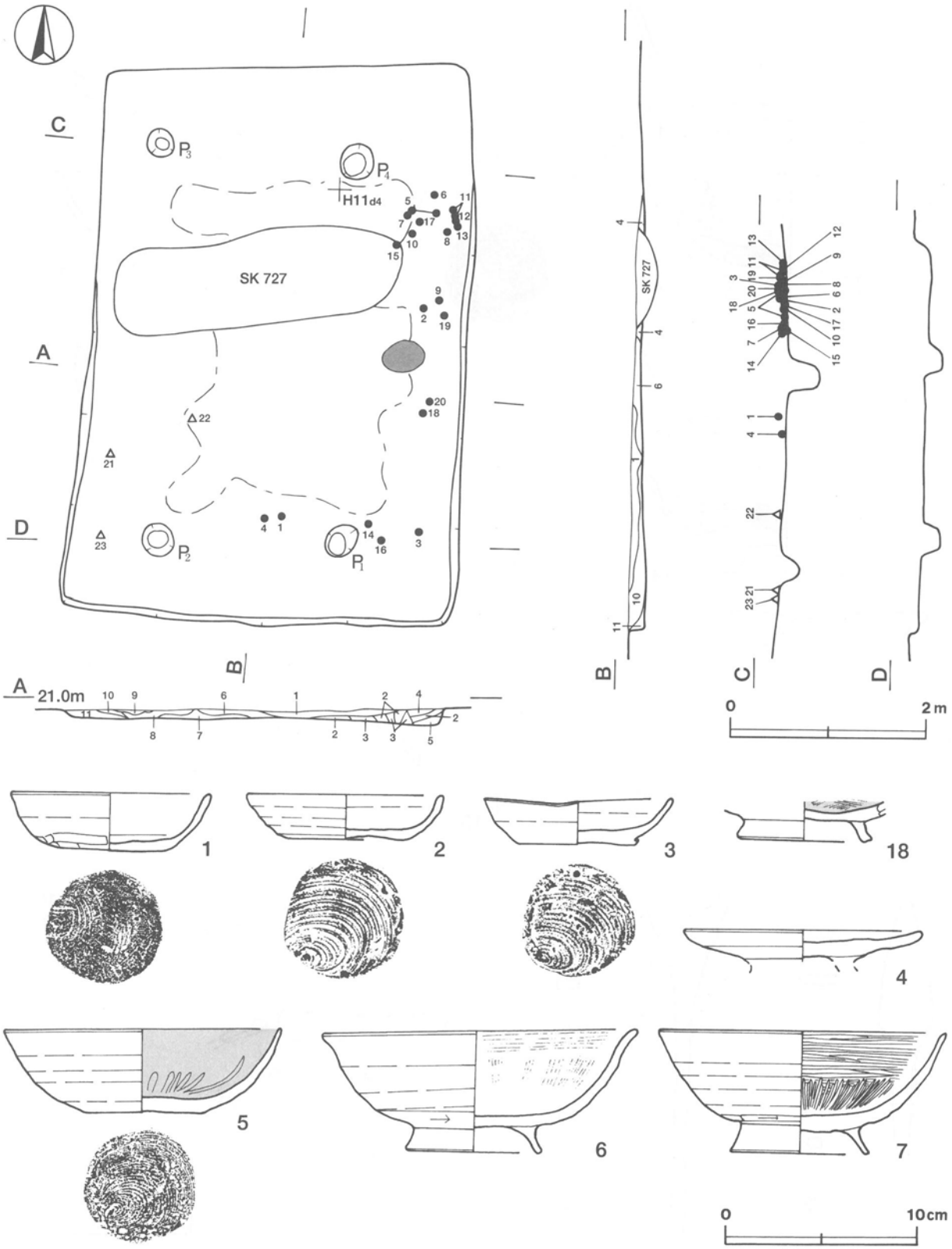
覆土　11層からなる。焼土や炭化物の含有状況やブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

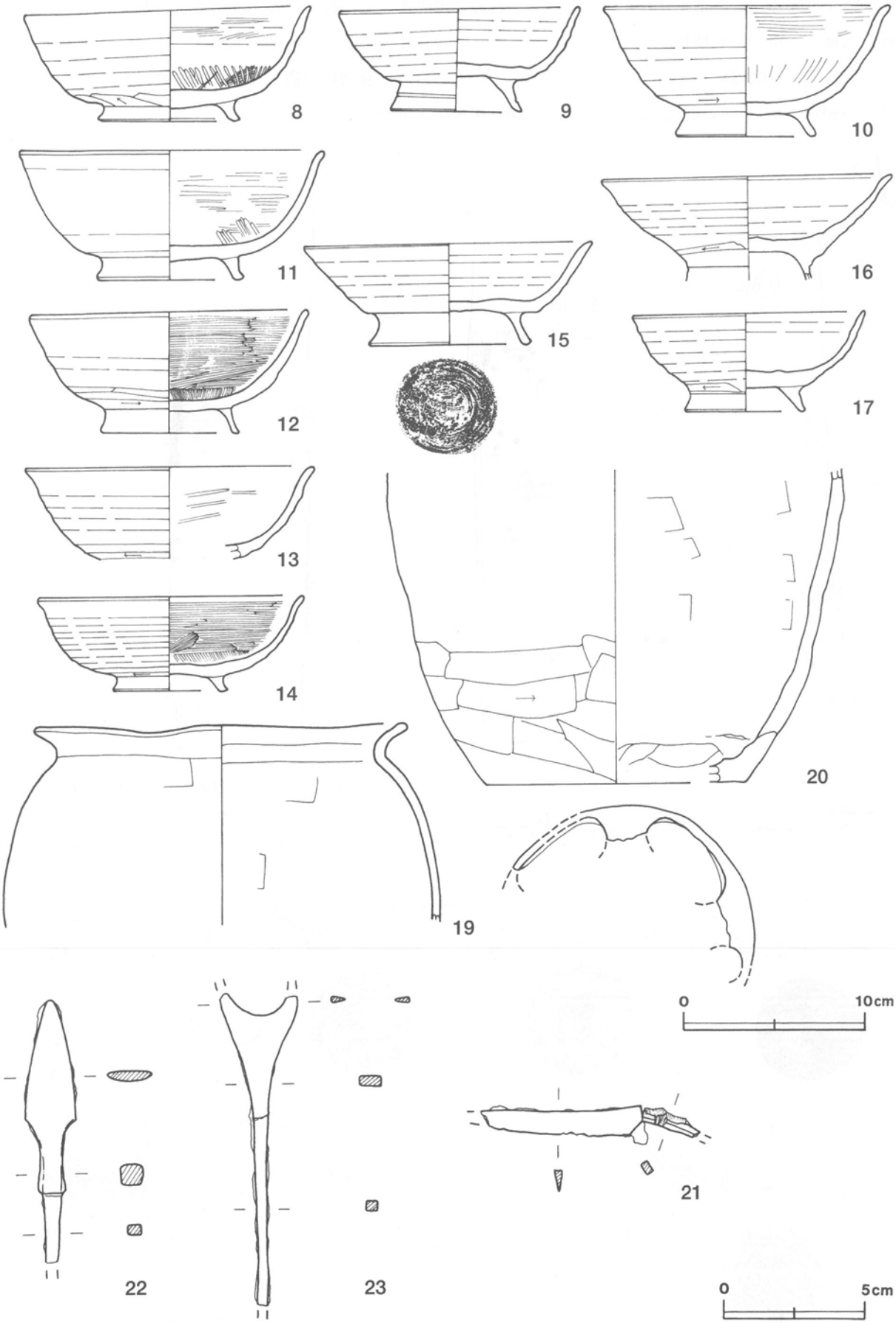
遺物　土師器片381点，須恵器片24点，鉄器3点（刀子1・鏃2），炭化材が出土している。土器は，竈の所在する東壁際から集中して出土している。第294・295図1の土師器皿は南部の覆土下層から逆位で，2の土師器皿は竈の北側の覆土下層から逆位で，3の土師器皿は南東コーナー部の床面から逆位で，4の土師器高台付皿は南部の床面から逆位でそれぞれ出土している。5の土師器坏は，北東コーナー部の床面から破片の状態で出土している。6～8の土師器高台付坏は，いずれも北東コーナー部の床面から正位で出土している。9の土師器高台付坏は竈の北側の覆土下層から正位で，10の土師器高台付坏は北東コーナー部の床面から破片の状態で出土している。11・12の土師器高台付坏と13の土師器坏は，いずれも北東コーナー部の床面から逆位で出土している。14の土師器高台付坏は南東コーナー部の覆土下層から正位で，16の土師器高台付坏は南東コーナー部の床面から正位で，15と17の土師器高台付坏はいずれも北東コーナー部の床面から正位で，18の土師器高台付坏片は竈の南側の床面からそれぞれ出土している。19の土師器甕片は竈の北側の覆土下層から，20の土師器甑片は竈の南側の床面からそれぞれ出土している。21の刀子は西壁際の床面から，22の鉄鏃は中央部の床面から，23の鉄鏃は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。炭化材は，各壁際の覆土下層及び床面から散在した状態で検出されている。図示した遺物は，焼土や炭化材とともに覆土下層や床面から出土していることか

ら，本跡が焼失した際に遺棄されたものと考えられる。須恵器片は，混入したものと考えられる。

所見　本跡は，覆土の堆積状況や炭化材の広がりから，焼失住居と考えられる。北東コーナー部から完形あるいは完形に近い土師器坏がまとまって出土しており，その付近に食器類を置いておく保管施設が付設されていたことが想定される。時期は，出土土器から，10世紀後半と考えられる。



第294図　第1146号住居跡・出土遺物実測図



第295図　第1146号住居跡出土遺物実測図

第1146号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第294図 1	皿 土師器	A 10.1 B 3.0 C 5.5	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40174 100% PL234
2	皿 土師器	A 9.9 B 2.3 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40175 95% PL234
3	皿 土師器	A 9.6 B 2.5 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40176 95% PL234
4	高台付皿 土師器	A 12.0 B (1.6)	高台部欠損。平底。体部は外方へ大きく開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40177 60% PL235
5	坏 土師器	A 14.2 B 4.3 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面放射状のヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40178 90% PL234
6	高台付坏 土師器	A 15.9 B 6.5 D 6.8 E 1.4	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面放射状のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40179 80% PL234
7	高台付坏 土師器	A 14.7 B 6.3 D 7.2 E 1.5	高台部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。体部外面ロクロナデ，内面放射状のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P40180 70% PL234
第295図 8	高台付坏 土師器	A 15.4 B 6.2 D 7.8 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P40181 55% PL234
9	高台付坏 土師器	A 12.8 B 5.7 D 7.2 E 1.7	高台部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P40182 90% PL234
10	高台付坏 土師器	A 15.3 B 7.9 D 7.5 E 1.5	口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。体部外面ロクロナデ，内面放射状のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P40251 90% PL235
11	高台付坏 土師器	A 16.2 B 6.8 D 7.6 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	P40252 75% PL235
12	高台付坏 土師器	A 14.9 B 6.6 D 7.4 E 1.4	高台部・体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P40253 65%
13	坏 土師器	A 15.4 B (4.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P40254 40%
14	高台付坏 土師器	A 14.2 B 5.1 D 5.9 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明褐色 普通	P40255 90% PL234
15	高台付坏 土師器	A [15.6] B 5.4 D 8.8 E 1.7	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40256 75% PL234

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第295図 16	高台付坏 土師器	A [15.6] B (5.6) E (1.4)	高台部下端，口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P40257 70% PL234
17	高台付坏 土師器	A 12.5 B 5.4 D 6.6 E 1.5	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P40258 70% PL234
第294図 18	高台付坏 土師器	B (2.0) D 6.9 E 1.0	底部と高台部の破片。高台はハの字状に開く。	底部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P40259 20%
第295図 19	甕 土師器	A [19.4] B (10.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P40183 10%
20	甑 土師器	B (16.8) C [14.0]	底部から体部にかけての破片。底部は五孔式ヵ。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ，下端横位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P40184 20%

図版番号	器　種	計測値						材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第295図21	刀　子	(7.8)	(5.8)	(1.1)	0.3	(2.0)	(5.7)	鉄	刃先欠損。両関有り。茎部屈曲。	M40021 PL237

図版番号	器　種	計測値								材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	鏃身部長(cm)	鏃幅部幅(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第295図22	鏃	(9.4)	(4.8)	(1.8)	(2.2)	1.0	(2.4)	0.8	(16.3)	鉄	柳葉鏃，無腸抉	M40022
23	鏃	(11.3)	(2.6)	(2.8)	(1.9)	0.6	(6.8)	0.4	(15.7)	鉄	雁又鏃	M40023

第1147号住居跡（第296・297図）

位置　調査4区の北部，H10i7区。

重複関係　南西部で第1465号住居跡を掘り込んでいる。北東部を第1140号住居に，南東部を第1149号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.72m，短軸4.48mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は30～52cmで，ほぼ直立する。

壁溝　壁際を巡っている。上幅12～14cm，下幅6～8cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。

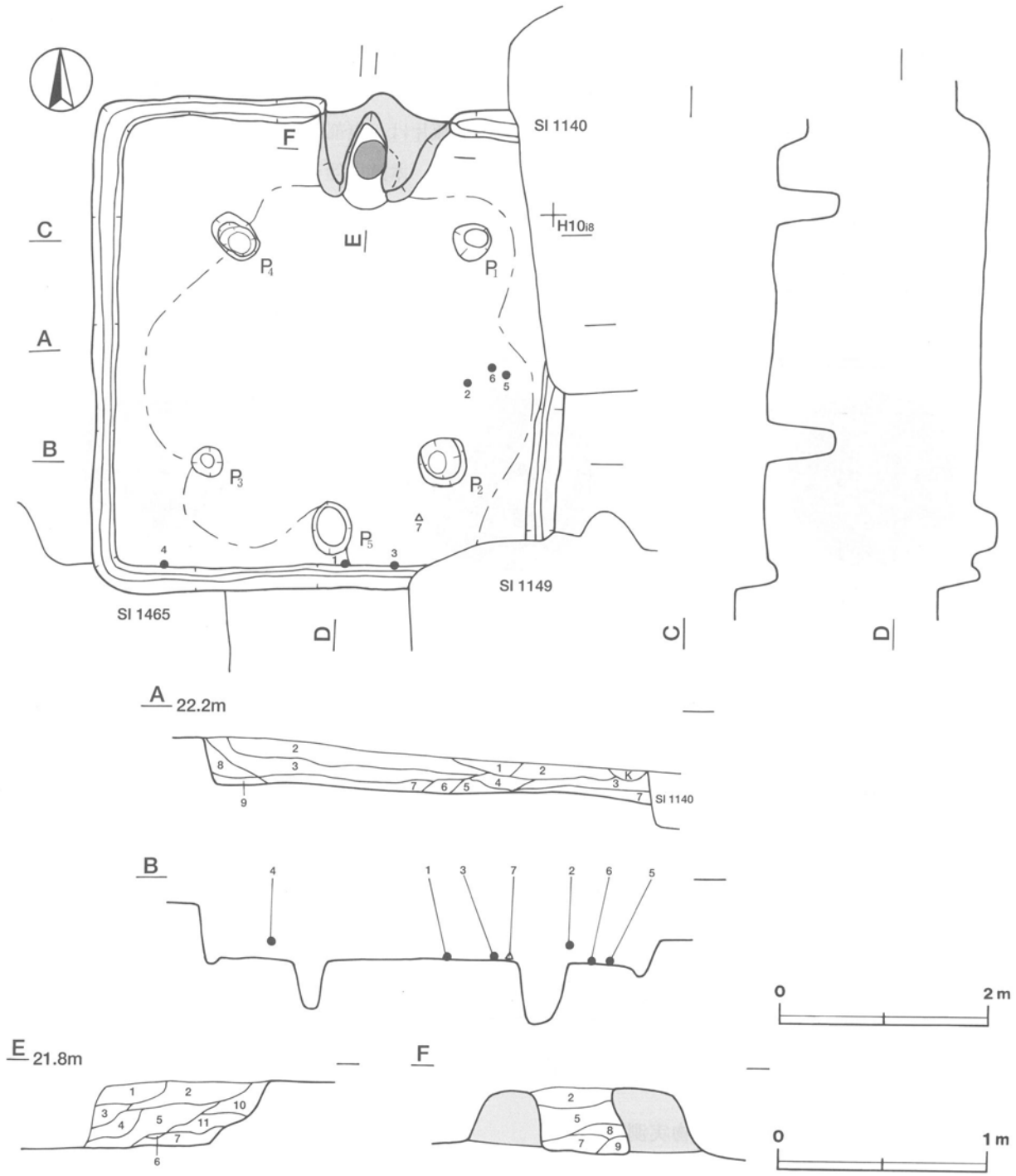
床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ94cm，両袖部幅126cmである。壁外への掘り込みは，ほとんどない。袖部は砂質粘土で構築されており，内側が火熱を受けて赤変している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，炭化粒子少量
7　赤　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

9　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量
10　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ３は径28～48cmのほぼ円形，深さ50～61cm，Ｐ４は長径50cm，短径35cmの楕円形，深さ62cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径49cm，短径40cmの楕円形，深さ25cmで，南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



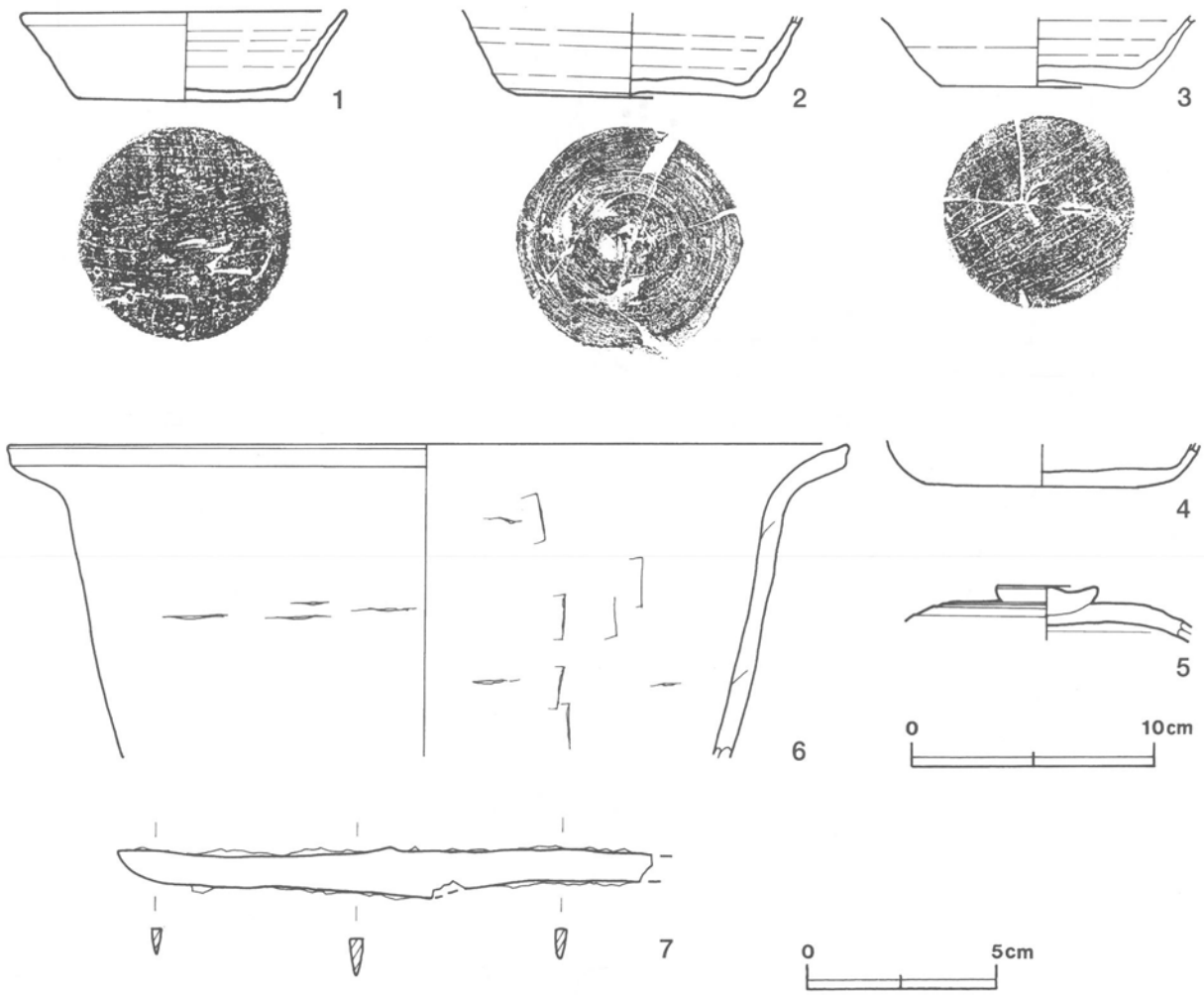
第296図　第1147号住居跡実測図

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
6　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片148点，須恵器片58点，鉄器1点（刀子），撹乱により混入した陶器片3点が出土している。第297図1の須恵器坏は，P5の南側の床面から逆位で出土している。2の須恵器坏は，東壁際の覆土中層と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。3の須恵器坏は，P5の東側の床面と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。4の須恵器坏片は南西コーナー部の覆土下層から，5の須恵器蓋片は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。6の土師器甑片は，東部の床面から出土している。7の刀子は，南東部の床面から出土している。いずれも，出土位置から，本跡に伴うものと考えられる。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から，8世紀前葉から中葉と考えられる。



第297図　第1147号住居跡出土遺物実測図

第1147号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第297図 1	坏 須恵器	A 13.1 B 3.7 C 8.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P40185 95% PL234
2	坏 須恵器	B (3.3) C 9.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色，普通	P40186 60%
3	坏 須恵器	B (2.8) C 7.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。上位でわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P40187 55%
4	坏 須恵器	B (1.7) C 10.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部下端は丸みを帯び，外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P40270 25%
5	蓋 須恵器	B (2.2) F 4.0 G 0.7	天井部の破片。天井頂部にボタン状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色，普通	P40271 20%
6	甑 土師器	A [34.0] B (12.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面輪積み痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40188 10%

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第297図7	刀子	(14.4)	8.3	1.4	0.3	(6.1)	(15.7)	鉄	茎尻欠損。両関有り。	M40024 PL236

第1148号住居跡（第298・299図）

位置　調査4区の北部，H10j8区。

重複関係　第1160号住居跡の覆土全体を掘り込んでいる。北東部を第1156号住居・第1415号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.20m，短軸2.90mの方形である。

主軸方向　N－81°－E

壁　壁高は20～54cmで，ほぼ直立する。

壁溝　西壁から北壁にかけての壁際を巡っている。上幅6～8cm，下幅2cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

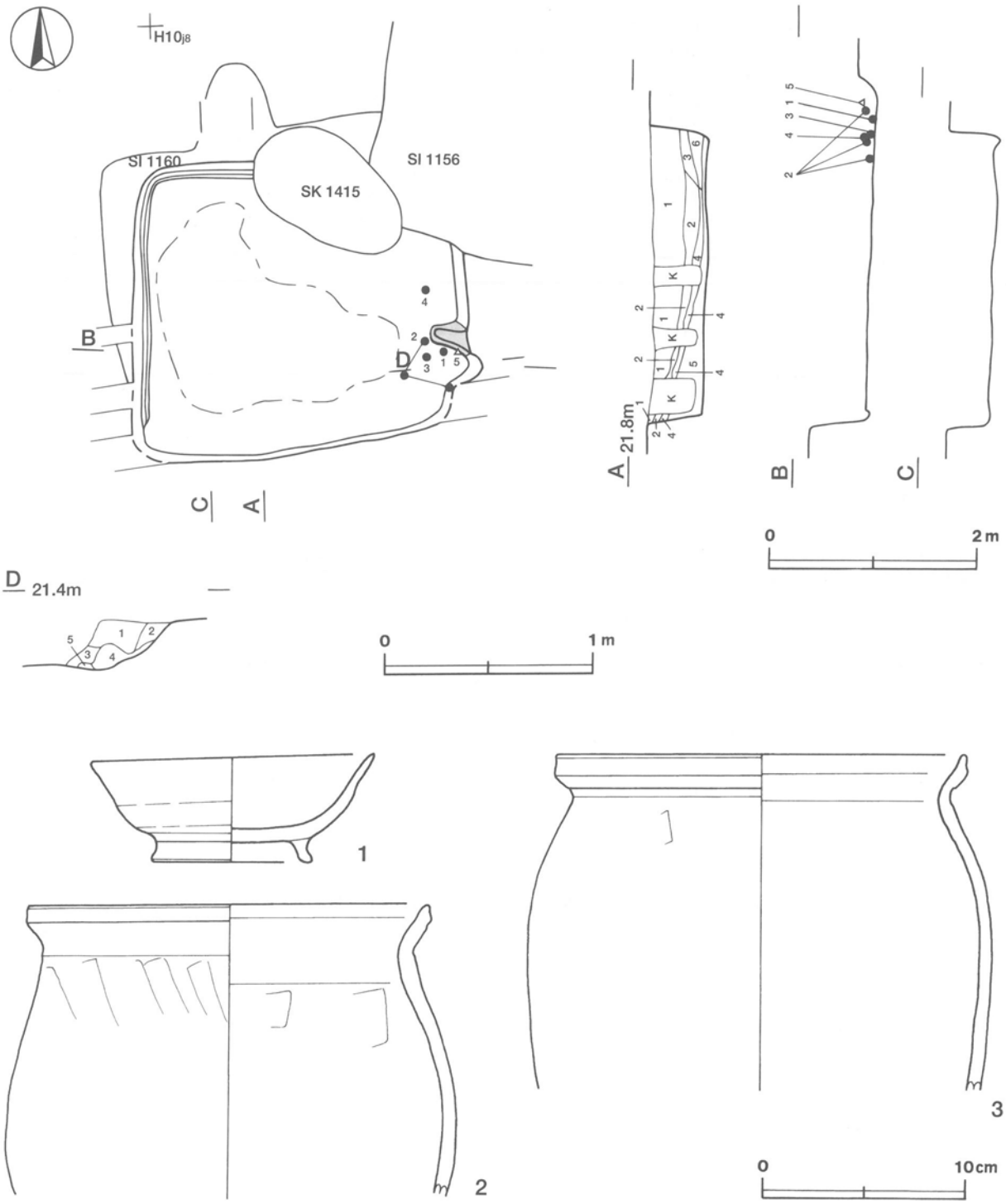
竈　東壁の南寄りに，壁外に14cm掘り込んで構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ53cmである。北袖は，砂質粘土で構築されている。南袖は，トレンチャーによる撹乱を受けており，遺存していない。火床部は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。赤変硬化した部分は確認できなかった。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子・焼土中ブロック少量

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

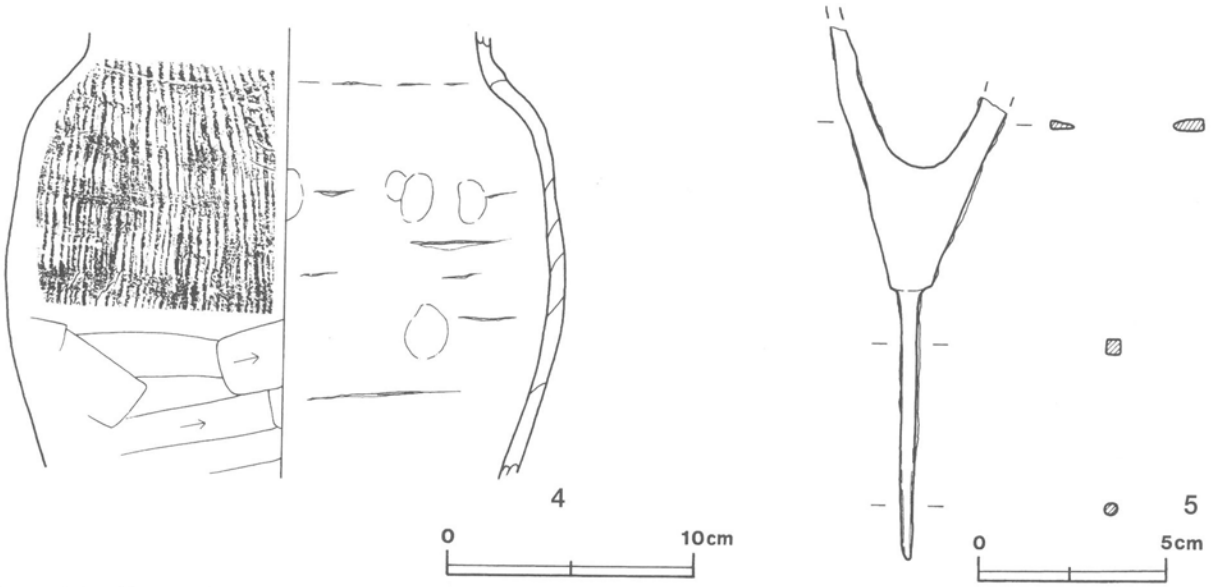
遺物　土師器片286点，須恵器片64点，鉄器１点（鏃）が出土している。遺物は竈付近の床面と覆土下層に集中しており，本跡の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。第298・299図１の土師器高台付坏は，火床面から



第298図　第1148号住居跡・出土遺物実測図

逆位で出土している。二次焼成を受けてなく，祭祀に関わる遺物である可能性が考えられる。2の土師器甕片は，竈手前の床面や覆土下層から散乱した状態で出土した破片が接合したものである。3の土師器甕片は，竈手前の床面から出土している。4の須恵器甕片は，竈北袖脇の覆土下層から出土している。5の鉄鏃は，竈の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から，9世紀後葉と考えられる。



第299図　第1148号住居跡出土遺物実測図

第1148号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298図 1	高台付坏 土師器	A 13.6 B 5.2 D 7.8 E 1.2	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40189 95% PL235
2	甕 土師器	A [19.1] B (14.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，口縁部は外傾する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P40190 25%
3	甕 土師器	A [19.8] B (16.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は長胴形を呈し，最大径を上位にもつ。口縁部は外傾し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P40191 25%
第299図 4	甕 須恵器	B (17.7)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上半縦位の平行叩き，下半横位のヘラ削り,内面輪積み痕・指頭痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，不良	P40192 10%

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第299図5	鏃	(14.0)	(6.9)	(4.8)	(7.1)	0.3	(17.4)	鉄	刃先・茎尻欠損，雁又鏃	M40025　PL237

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

熊の山遺跡
（上巻）

平成13（2001）年3月15日 印刷
平成13（2001）年3月21日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310－0911 水戸市見和1丁目356番2号
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029－225－6587

印刷 ㈲平電子印刷所
〒970－8024 いわき市平北白土字西ノ内13
TEL 0246－23－9051